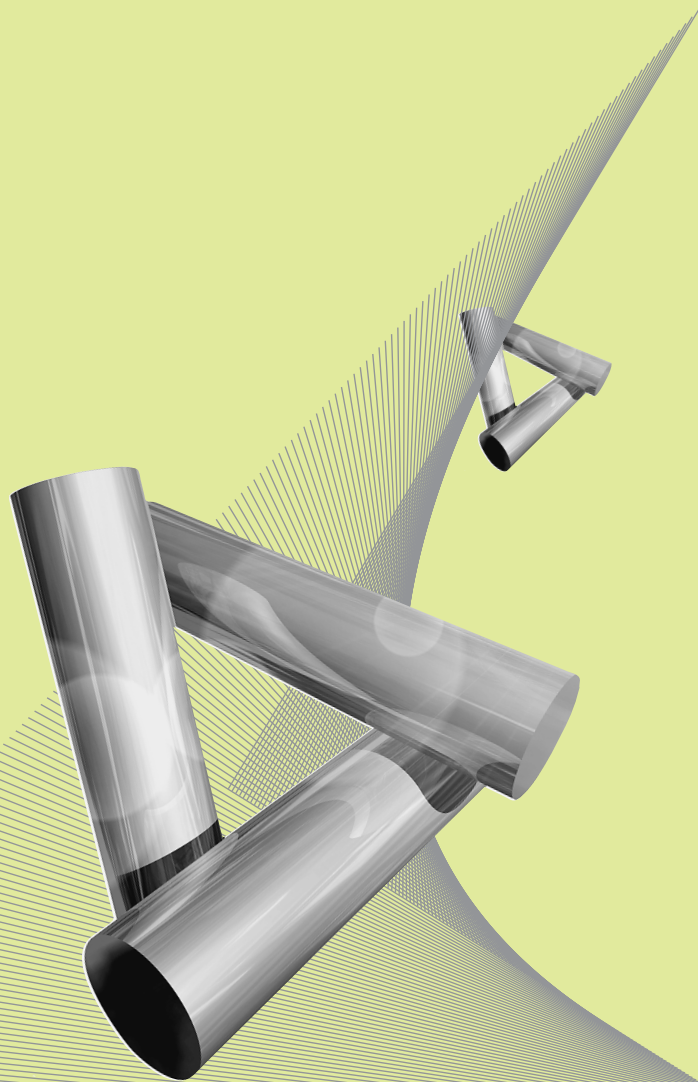


2006年度

シラバス 英語学科



獨協大学

英語学科 シラバス

【総合目次一覧】

◆ 【2006年度】入学生用

学則別表…………… I - 1~2

学則別表の見方…………… I - 3

授業科目目次…………… I - 4

外国語学部共通科目…P.211以降に掲載

◆ 【2003~2005年度】入学生用

学則別表…………… II - 1~2

学則別表の見方…………… II - 3

授業科目目次…………… II - 4~13

外国語学部共通科目…P.211以降に掲載

◆ 【2002年度】入学生用

学則別表…………… III - 1

授業科目目次…………… III - 2~8

外国語学部共通科目…全学共通授業科目のシラバスに掲載

◆ 【2001年度以前】入学生用

学則別表…………… IV - 1

授業科目目次…………… IV - 2~8

外国語学部共通科目…全学共通授業科目のシラバスに掲載

◆ 外国語学部共通科目 ◆

【2003年度以降】入学生用…本冊子P. 211以降に掲載

【2002年度以前】入学生用…全学共通授業科目(全カリ)のシラバスに掲載

【シラバスの見方】

「シラバス」は、科目の担当教員が、学期ごとの授業計画、講義概要、評価方法などを学生に周知することにより、受講する際の指針とし、授業の理解を深めることを目的に作成されたものです。学生諸君は、シラバスを良く読み、計画的な履修登録をしてください。

本シラバスは、2006年度入学生・2003年度～2005年度入学生用の「英語学科」授業科目及び「外国語学部共通科目」と、2002年度入学生用の「英語学科」授業科目、2001年度以前入学生用の「英語学科」授業科目のシラバスです。各自の入学年度に従い、以下の点に注意し目次を確認してください。

*履修不可学科の表記

外：外国語学部
 独：ドイツ語学科
 英：英語学科
 仏：フランス語学科
 言：言語文化学科
 言（*1）：言語文化学科、スペイン語履修者
 言（*2）：言語文化学科、中国語履修者
 全：英語学科以外

経：経済学部
 済：経済学科
 営：経営学科

法：法学部
 律：法律学科
 国：国際関係法学科

①適用年度	② 科目名	③ 担当者	
④ 講義目的、講義概要	⑤ 授業計画 第1週 第2週 第3週 第4週 第5週 第6週 第7週 第8週 第9週 第10週 第11週 第12週	⑦ 評価方法	
			⑥ テキスト、参考文献
①適用年度	② 科目名	③ 担当者	
④ 講義目的、講義概要	⑤ 授業計画 第1週 第2週 第3週 第4週 第5週 第6週 第7週 第8週 第9週 第10週 第11週 第12週	⑦ 評価方法	
			⑥ テキスト、参考文献

*上段は、春学期科目です。

- ①②2003～2005年度入学生用カリキュラムの科目名で表記しています。入学年度で科目が異なりますので各自の目次で確認してください。但し①は上記以外の年度対象の場合は明記しました。
- ③ 担当教員氏名
 ④ 授業の目的や講義全体の説明、学生への要望が記載してあります。
 ⑤ 学期の授業計画についての欄です。各週ごとに講義するテーマが記載してあります。
 ⑥ 授業で使用するテキストや参考となる文献が記載してあります。
 ⑦ 春学期完結科目は春学期終了時に成績評価が出ます。秋学期完結科目と通年科目は秋学期終了時に成績評価が出ます。

*下段は、秋学期科目です。

各項目については、春学期と同一です。

[注意]

1. 定員
 科目の中には定員制のものがあります。それぞれ適用年度の「授業時間割表」を参照してください。

学則別表 学科基礎科目（2006年度入学者用）

科目群	部門	科目	単位	Aグループ°		Bグループ°		Cグループ°	
				必修	選択	必修	選択	必修	選択
学科基礎科目	英語	英語学入門	2	2		2		2	
		英語圏の文学・文化入門	2	2		2		2	
		文化コミュニケーション入門	2	2		2		2	
		国際コミュニケーション入門	2	2		2		2	
		英語音声学	2	2		2		2	
		Lecture Workshop I	2	2		2		2	
		Lecture Workshop II	2	2		2		2	
		Comprehensive English I	2	2		2		2	
		Comprehensive English II	2	2		2		2	
		Comprehensive English III	1	1		1		1	
		Comprehensive English IV	1	1		1		1	
		Reading Strategies I	1	1		1		1	
		Reading Strategies II	1	1		1		1	
		Reading Strategies III	1	1		1		1	
		Reading Strategies IV	1	1		1		1	
		Writing Strategies	1					1	
		Paragraph Writing	1	1		1		1	
		Basic Essay Writing	1	1		1			*
		E-learning I	1	1		1		1	
		E-learning II	1	1		1		1	
Pronunciation Practice	1					1			
Introductory Grammar	1					1			
卒業に必要な単位数				28		28		30	*
				28		28		30	

備考

(1) * の修得単位は、別表 I -2-2の各コース選択科目に算入する。

(2) A、B、Cの各グループは、習熟度によりレベル分けをする。

○ 本表は、2006年度入学者から適用する。

学則別表 学科共通科目・学科専門科目（2006年度入学者用）

科目群	部門	科目	単位	言語コミュニケーション・コース			文学コミュニケーション・コース			異文化コミュニケーション・コース			国際コミュニケーション・コース			
				必修	選択必修	選択	必修	選択必修	選択	必修	選択必修	選択	必修	選択必修	選択	
学科共通科目	英語	英語専門講読 I	2	12			12			12			12			
		英語専門講読 II	2													
		Academic Writing	2													
		翻訳	2		4			4			4			4		
		College Grammar	2													
		Communicative English	2													
		Discussion	2													
		Public Speaking I	2													
		Public Speaking II	2													
		Debate I	2													
		Debate II	2													
		通訳 I	2		4			4				4			4	
		通訳 II	2													
		英語ビジネス・コミュニケーション	2													
		英語ビジネス・コミュニケーション実務	2													
		メディア英語 I	2													
		メディア英語 II	2													
		シネマ英語	2													
学科専門科目	言語コミュニケーション	英語学の世界	2	2												
		言語情報処理 I a	2													
		言語情報処理 I b	2		4											
		言語情報処理 II a	2													
		言語情報処理 II b	2													
		英語発音教授法	2													
		音声・音韻論a	2													
		音声・音韻論b	2													
		シンタクスa	2													
		シンタクスb	2													
		意味論a	2													
		意味論b	2													
		英語学特殊講義a	2													
		英語学特殊講義b	2													
		英語学文献研究a	2													
		英語学文献研究b	2													
		学科専門科目	文学コミュニケーション	英語圏の文学・文化	2				2							
				英語圏の小説a	2											
英語圏の小説b	2															
英語圏の詩a	2															
英語圏の詩b	2															
英語圏の演劇a	2															
英語圏の演劇b	2															
英語圏の社会と思想a	2															
英語圏の社会と思想b	2															
英語圏の歴史a	2															
英語圏の歴史b	2															
英語圏のエリア・スタディーズa	2															
英語圏のエリア・スタディーズb	2															
英語圏の文学・文化特殊講義a	2															
英語圏の文学・文化特殊講義b	2															
英語圏の文学・文化文献研究a	2															
英語圏の文学・文化文献研究b	2															
学科専門科目	異文化コミュニケーション			異文化間コミュニケーション論a	2							2			2	
		異文化間コミュニケーション論b	2							2			2			
		メディア・コミュニケーション論a	2													
		メディア・コミュニケーション論b	2													
		スピーチ・コミュニケーション論a	2													
		スピーチ・コミュニケーション論b	2													
		コミュニケーション論特殊講義a	2								8			4		
		コミュニケーション論特殊講義b	2													
		コミュニケーション論文献研究a	2													
		コミュニケーション論文献研究b	2													
		学科専門科目	国際コミュニケーション	グローバル社会論a	2							2			2	
				グローバル社会論b	2							2			2	
				英語圏の国際関係a	2											
				英語圏の国際関係b	2											
				国際開発論	2											
				国際協力論	2											
				国際交流論	2											
				国際ツーリズム論	2											
国際NGO・ボランティア論	2															
国際関係特殊講義a	2															
国際関係特殊講義b	2															
国際関係文献研究a	2															
国際関係文献研究b	2															
特別セミナー	2															
卒業論文	4															
外国語学部共通科目(別表 I-5)	金学総合科目 (卒業要件科目)			カテゴリー I	4				4				4			4
				カテゴリー II		8				8				8		
				カテゴリー III		4				4				4		
		カテゴリー IV		4	4			4	4			4	4			
		カテゴリー V														
		英語以外の外国語科目*		8				8				8				
古典語科目																
演習	2	8				8				8						
卒業に必要な単位数				26	52	22(20)	26	52	22(20)	32	44	24(22)	32	44	24(22)	
卒業に必要な単位数の合計				100(98)			100(98)			100(98)			100(98)			
				128			128			128			128			

備考

(1) 卒業に必要な選択科目のうち16単位までは、他学部または他学科および教職課程授業科目の単位をもって代用できる。ただし、他学部科目の単位は、8単位以内(教職課程授業科目の4単位を含む)とする。

なお、教職課程授業科目の単位の代用については別に定める。

(2)*英語以外の外国語は、ドイツ語、フランス語、スペイン語、中国語のうちいずれか一か国語とし、1学年(1,2学期)に4単位、2学年(3,4学期)に4単位を履修するものとする。

(3)各コース選択科目の()内の数字は、「別表 I-2-1 学科基礎科目」でCグループの場合の卒業要件単位数である。

○ 本表は、2006年度入学者から適用する。

学則別表の見方(2006年度入学英語学科生用)

入学時のTOEICによりグループ分けされます。

単位数：その科目を修得した時に得られる数字。各学期ごとの上限計算や卒業のための計算等で必要です。

科目	単位数	Aグループ		Bグループ		Cグループ	
		必修	選択	必修	選択	必修	選択
英語学入門	2	2		2		2	
英語圏の文学・文化入門	2	2		2		2	
文化コミュニケーション入門	2	2		2		2	
国際コミュニケーション入門	2	2		2		2	
英語音声学	2	2		2		2	
Lecture Workshop I	2	2		2		2	
Lecture Workshop II	2	2		2		2	
Comprehensive English I	2	2		2		2	
Comprehensive English II	2	2		2		2	
Comprehensive English III	1	1		1		1	
Comprehensive English IV	1	1		1		1	
Reading Strategies I	1	1		1		1	
Reading Strategies II	1	1		1		1	
Reading Strategies III	1	1		1		1	
Reading Strategies IV	1	1		1		1	
Writing Strategies	1	1		1		1	
Paragraph Writing	1	1		1		1	
Basic Essay Writing	1	1		1		1	*
E-learning I	1	1		1		1	
E-learning II	1	1		1		1	
Pronunciation Practice	1	1		1		1	
Introductory Grammar	1	1		1		1	
卒業に必要な単位数		28		28		30	*

Ⅲ・Ⅳは2年生で履修する

Ⅲ・Ⅳ以外のすべての科目は1年生で履修する。すべて自動登録されます。

Ⅲ・Ⅳは2年生で履修する

必修科目：必修のところに数字がある科目は必ずその科目の単位数を卒業までに修得しなければならない。

備考
(1) *の修得単位数は、別表 I-2-2の各コース選択科目に算入する。
(2) A、B、Cの各グループは、習熟度によりレベル分けをする。

○本表は、2006年度入学者から適用する。

コース選択は2年生の春学期履修登録期間に申請書を提出し、決定する。(一度決めたら変更できない)コース決定用紙は履修相談会場で配付しています。

選択必修科目：この範囲にある科目の中からその数字の単位数を修得する。(例：Debate I、II (2単位×2科目)の合計4単位修得)4単位以上修得した場合は選択の単位数に加算される。

科目	単位数	言語コミュニケーション・コース		文学コミュニケーション・コース		異文化コミュニケーション・コース		国際コミュニケーション・コース			
		必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択		
英語専門講義 I	2	12		12		12		12			
英語専門講義 II	2										
Academic Writing	2		4		4		4		4		
翻訳	2										
College Grammar	2										
Communicative English	2										
Discussion	2										
Public Speaking I	2										
Public Speaking II	2										
Debate I	2										
Debate II	2										
通訳 I	2	4		4		4		4			
通訳 II	2										
英語ビジネス・コミュニケーション	2										
英語ビジネス・コミュニケーション実務	2										
メディア英語 I	2										
メディア英語 II	2										
シネマ英語	2										
英語学の世界	2	2		2		2		2			
言語情報処理 I a	2										
言語情報処理 I b	2		4		4		4		4		
言語情報処理 II a	2										
言語情報処理 II b	2										
英語発音教授法	2										
音声・音韻論a	2										
音声・音韻論b	2										
シンタクスa	2										
シンタクスb	2										
意味論a	2										
意味論b	2										
英語学特殊講義a	2										
英語学特殊講義b	2										
英語学文庫研究a	2										
英語学文庫研究b	2										
英語圏の文学・文化	2			2							
英語圏の小説a	2										
英語圏の小説b	2										
英語圏の詩a	2										
英語圏の詩b	2										
英語圏の演劇a	2										
英語圏の演劇b	2										
英語圏の社会と思想a	2										
英語圏の社会と思想b	2										
英語圏の歴史a	2										
英語圏の歴史b	2										
英語圏のエリア・スタディーズa	2										
英語圏のエリア・スタディーズb	2										
英語圏の文学・文化特殊講義a	2										
英語圏の文学・文化特殊講義b	2										
英語圏の文学・文化文庫研究a	2										
英語圏の文学・文化文庫研究b	2										
異文化間コミュニケーション論a	2					2		2			
異文化間コミュニケーション論b	2					2		2			
メディア・コミュニケーション論a	2										
メディア・コミュニケーション論b	2										
スピーチ・コミュニケーション論a	2										
スピーチ・コミュニケーション論b	2										
コミュニケーション論特殊講義a	2					8		4			
コミュニケーション論特殊講義b	2										
コミュニケーション論文庫研究a	2										
コミュニケーション論文庫研究b	2										
グローバル社会論a	2					2		2			
グローバル社会論b	2					2		2			
英語圏の国際関係a	2										
英語圏の国際関係b	2										
国際関係論	2										
国際協力論	2										
国際交流論	2										
国際ツーリズム論	2					4		8			
国際NGO・ボランティア論	2										
国際関係特殊講義a	2										
国際関係特殊講義b	2										
国際関係文庫研究a	2										
国際関係文庫研究b	2										
特別セミナー	2										
卒業論文	4										
外国語学部共通科目(別表 I-5)											
全学共通授業科目(全カ)											
カテゴリー I	4			4		4		4			
カテゴリー II	8			8		8		8			
カテゴリー III	4			4		4		4			
カテゴリー IV	4			4	4	4	4	4	4		
カテゴリー V	8			8		8		8			
英語以外の外国語科目*	8			8		8		8			
古典語科目	2			2		2		2			
演習	2	8		8		8		8			
卒業に必要な単位数	28	52	22(20)	28	52	32	44	24(22)	32	44	24(22)
卒業に必要な単位数の合計		128		128		128		128		128	

卒業論文を除きすべての科目は半期完結科目

定員のある科目は春・秋学期履修登録時に抽選を行う

○定員のある科目
①すべての学科共通科目
②専門科目の一部(詳しくは授業時間割表・シラバスで確認してください)

○履修制限
多くの科目に履修のための制限があります(学期配当・既修条件・重複の有無)
「履修の手引」P52の「英語学科科目特性表」に掲載されています

外国語学部共通科目：科目についてはシラバスの後半部分に掲載。(修得単位数は選択に加算される)

全学共通授業科目(全カ)のシラバスから選んで登録する。第二外国語以外の多くの科目はオンラインによる登録・抽選。(詳しくは授業時間割表参照)

全カ、各カテゴリーの選択必修必要単位数の他にさらに4単位を修得しなければならない。4単位以上修得した場合は学科の選択に加算される。

卒業するまでには最低限128単位が必要



卒業・進級判定時に全カりの科目が不足している場合のみ教職課程科目を全カり科目に読み替えることができます。読替可能単位数は20単位まで。ただし、学科の選択に加算することはできません。

英語学科授業科目（2006年度以降入学生用）

目次

学科基礎科目

開講期	科目名	担当教員	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
春	Lecture Workshop I	各担当教員		2	1	全	1
秋	Lecture Workshop II	各担当教員		2	1	全	1
春	Comprehensive English I	各担当教員		2	1	全	2
秋	Comprehensive English II	各担当教員		2	1	全	2
春	Reading Strategies I	各担当教員		1	1	全	3
秋	Reading Strategies II	各担当教員		1	1	全	3
春	Writing Strategies	各担当教員		1	1	全	4
春秋	Paragraph Writing	各担当教員		1	1	全	5
秋	Basic Essay Writing	各担当教員		1	1	全	6
春	E-learning I (Aグループ)	木村 恵	木5	1	1	全	7
春	E-learning I (B・Cグループ)	安井 美代子	水3	1	1	全	8
秋	E-learning II (Aグループ)	木村 恵	木5	1	1	全	7
秋	E-learning II (B・Cグループ)	安井 美代子	水3	1	1	全	8
春秋	Pronunciation Practice	各担当教員		1	1	全	9
春秋	Introductory Grammar	各担当教員		1	1	全	10
春	英語音声学	青柳 真紀子	火1	2	1		11
春	英語音声学	大西 雅行	木1	2	1		12
秋	英語音声学	青柳 真紀子	火1	2	1		11
秋	英語音声学	大西 雅行	木1	2	1		12
春	英語学入門	鈴木 英一	木4	2	1		13
春	英語学入門	安井 美代子	木1	2	1		14
秋	英語学入門	鈴木 英一	木4	2	1		13
秋	英語学入門	安井 美代子	木1	2	1		14
春	英語圏の文学・文化入門	上野・北澤・児嶋・原		2	1		16
秋	英語圏の文学・文化入門	上野・北澤・児嶋・原		2	1		16
春	文化コミュニケーション入門	板場 良久	水2	2	1		18
春	文化コミュニケーション入門	柿田 秀樹	水2	2	1		19
秋	文化コミュニケーション入門	板場 良久	水2	2	1		18
秋	文化コミュニケーション入門	柿田 秀樹	水2	2	1		19
春	国際コミュニケーション入門	佐野 康子	水2	2	1		21
春	国際コミュニケーション入門	永野 隆行	水2	2	1		22
秋	国際コミュニケーション入門	佐野 康子	水2	2	1		21
秋	国際コミュニケーション入門	永野 隆行	水2	2	1		22

◆「外国語学部共通科目」は「英語学科授業科目」のあと(P. 211)に掲載しています。
(目次も含む)

学則別表(2003年度以降入学者用)

科目群	部門	科目	単位	言語コミュニケーション・コース			文学コミュニケーション・コース			異文化コミュニケーション・コース			国際コミュニケーション・コース			
				必修	選択必修	選択	必修	選択必修	選択	必修	選択必修	選択	必修	選択必修	選択	
学科基礎科目		Speech Communication a	1													
		Speech Communication b	1													
		Advanced Speech Communication a	1		2			2			2			2		
		Advanced Speech Communication b	1													
		英語ライティング・ストラテジーズa	1													
		英語ライティング・ストラテジーズb	1													
		英語パラグラフ・ライティングa	1		2			2				2			2	
		英語パラグラフ・ライティングb	1													
		英語リーディング・ストラテジーズa	1													
		英語リーディング・ストラテジーズb	1	2				2				2			2	
		Reading Comprehension a	1													
		Reading Comprehension b	1													
		Honors English 1 a	1			2			2						2	
		Honors English 1 b	1													
		Honors English 2 a	1													
		Honors English 2 b	1													
		英語専門講読入門a	1			2			2						2	
		英語専門講読入門b	1													
		英語学概論a	2	2				2				2			2	
		英語学概論b	2	2				2				2			2	
		英語圏の文学・文化概論a	2	2				2				2			2	
		英語圏の文学・文化概論b	2	2				2				2			2	
		文化コミュニケーション概論a	2	2				2				2			2	
		文化コミュニケーション概論b	2	2				2				2			2	
		国際コミュニケーション概論a	2	2				2				2			2	
		国際コミュニケーション概論b	2	2				2				2			2	
		英語音声学	2	2				2				2			2	
		スピーチ・クリニック	2													
		ベーシック・カレッジ・グラマー	2													
		学科共通科目	英語	英語専門講読a	2	12			12				12			12
				英語専門講読b	2											
				英作文a	2											
英作文b	2															
英語エッセイ・ライティングa	2															
英語エッセイ・ライティングb	2				4			4				4				
翻訳a	2															
翻訳b	2															
カレッジ・グラマーa	2															
カレッジ・グラマーb	2															
Communicative English I a	2															
Communicative English I b	2															
Communicative English II a	2															
Communicative English II b	2															
Discussion a	2															
Discussion b	2															
Public Speaking I a	2															
Public Speaking I b	2															
Public Speaking II a	2															
Public Speaking II b	2				4			4				4				
Debate I a	2															
Debate I b	2															
Debate II a	2															
Debate II b	2															
通訳 I a	2															
通訳 I b	2															
通訳 II a	2															
通訳 II b	2															
英語ビジネス・コミュニケーション I a	2															
英語ビジネス・コミュニケーション I b	2															
英語ビジネス・コミュニケーション II a	2															
英語ビジネス・コミュニケーション II b	2															
メディア英語 I a	2															
メディア英語 I b	2															
メディア英語 II a	2															
メディア英語 II b	2															
シネマ英語a	2															
シネマ英語b	2															

学科専門科目	言語コミュニケーション	言語情報処理 I a	2																		
		言語情報処理 I b	2	4																	
		言語情報処理 II a	2																		
		言語情報処理 II b	2																		
		統語論a	2																		
		統語論b	2																		
		意味論a	2																		
		意味論b	2																		
		音声・音韻論a	2																		
		音声・音韻論b	2																		
		英語史a	2	16																	
		英語史b	2																		
		英語学特殊講義a	2																		
		英語学特殊講義b	2																		
		英語学文献研究a	2																		
		英語学文献研究b	2																		
		文学コミュニケーション	英語圏の小説a	2																	
	英語圏の小説b		2																		
	英語圏の詩a		2																		
	英語圏の詩b		2																		
	英語圏の演劇a		2																		
	英語圏の演劇b		2																		
	英語圏の社会と思想a		2																		
	英語圏の社会と思想b		2																		
	英語圏の歴史a		2																		
	英語圏の歴史b		2																		
	英語圏のエリア・スタディーズa		2																		
	英語圏のエリア・スタディーズb		2																		
	英語圏の文学・文化特殊講義a		2																		
	英語圏の文学・文化特殊講義b		2																		
	英語圏の文学・文化文献研究a		2																		
	英語圏の文学・文化文献研究b		2																		
	異文化コミュニケーション		異文化間コミュニケーション論a	2								2						2			
		異文化間コミュニケーション論b	2								2						2				
		マス・コミュニケーション論a	2																		
		マス・コミュニケーション論b	2																		
		スピーチ・コミュニケーション論a	2																		
		スピーチ・コミュニケーション論b	2																		
		コミュニケーション論特殊講義a	2										8								4
		コミュニケーション論特殊講義b	2																		
		コミュニケーション論文献研究a	2																		
		コミュニケーション論文献研究b	2																		
	国際コミュニケーション	国際社会論a	2																		
		国際社会論b	2																		
		国際関係史a	2																		
国際関係史b		2																			
国際開発協力論a		2																			
国際開発協力論b		2																			
国際関係論特殊講義a		2																			
国際関係論特殊講義b		2																			
国際関係論文献研究a		2																			
国際関係論文献研究b		2																			
特別セミナー	2																				
卒業論文	4																				
外国語学部共通科目(別表 I-5)																					
目(別表 IV)	全学共通授業科目 全学総合科目 外国語科目	カテゴリ I	4					4				4				4					
		カテゴリ II																			
		カテゴリ III																			
		カテゴリ IV																			
		カテゴリ V																			
英語以外の外国語科目 *																					
古典語科目																					
演習a	2	4						4				4				4					
演習b	2	4						4				4				4					
卒業に必要な単位数			44	64	20		44	60	24		52	52	24		52	52	24				
			128				128				128				128						

備考

- (1) 卒業に必要な選択科目のうち16単位までは、他学部または他学科および教職課程授業科目の単位をもって代用できる。ただし、他学部科目の単位は、8単位以内(教職課程授業科目の4単位を含む)とする。
なお、教職課程授業科目の単位の代用について別に定める。
- (2) * 英語以外の外国語は、ドイツ語、フランス語、スペイン語、中国語のうちいずれか一方を1言語とし、1学年に4単位、2学年に4単位を履修するものとする。
- 本表は、2003年度入学者から適用する。
* 2005年度入学生は英語史 a, bの科目は履修登録できません。

学則別表の見方(03~05年度入学英語学科生用)

コース選択は2年生の春学期履修登録期間に申請書を提出し、決定する。(一度決めたら変更できない)コース決定用紙は履修相談会場で配付しています。

単位数: その科目を修得した時に得られる数字。各学期ごとの上限計算や卒業のための計算等に必要です。

必修科目: 必修のところに数字がある科目は必ずその科目の単位数を卒業までに修得しなければいけない。

選択必修科目: この範囲にある科目の中からその数字の単位数を修得する。(例: 英作文 a、b(2単位×2科目)の合計4単位以上修得した場合は**選択の単位数に加算**される。)

選択科目: 矢印の範囲内から数字の単位数以上を修得する。

外国語学部共通科目: 科目についてはシラバスの後半部分に掲載。(修得単位数は**選択に加算**される)

全学共通授業科目(全カリ)のシラバスから選んで登録する。第二外国語以外の多くの科目はオンラインによる登録・抽選。(詳しくは授業時間割表参照)

全カリの各カテゴリーの**選択必修必要単位数**の他にさらに4単位を修得しなければいけない。4単位以上修得した場合は**学科の選択に加算**される。

どちらを履修するかは入学時のTOEIC®によりクラス分けされ、決定します。

Honors English 2a、bおよび英語専門講読入門a、bについては2年生で履修する。(1年次秋学期に受験するTOEIC®の結果によって履修する科目が決まる)

矢印より上の**学科基礎科目**(Honors English 2a、bおよび英語専門講読入門a、bを除く)は1年生で履修する。すべて自動登録されます。

卒業論文を除くすべての科目は半期完結科目

定員のある科目は春・秋学期履修登録時に抽選を行う

○定員のある科目
①すべての学科共通科目
②専門科目の一部(詳しくは授業時間割表・シラバスで確認してください)

○履修制限
すべての科目に履修のための制限があります(学期配当・既修条件・重複の有無)
「履修の手引」の<英語学科科目特性表>に掲載されています

科目	単位	言語コミュニケーションコース		文学コミュニケーションコース		異文化コミュニケーションコース		国際コミュニケーションコース	
		必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択
Speech Communication a	1								
Speech Communication b	1								
Advanced Speech Communication a	1								
Advanced Speech Communication b	1								
英語ライティング・ストラテジーズa	1								
英語ライティング・ストラテジーズb	1								
英語パラグラフ・ライティングa	1								
英語パラグラフ・ライティングb	1								
英語リーディング・ストラテジーズa	1								
英語リーディング・ストラテジーズb	1								
Reading Comprehension a	1								
Reading Comprehension b	1								
Honors English 1 a	1								
Honors English 1 b	1								
Honors English 2 a	1								
Honors English 2 b	1								
英語専門講読入門a	1								
英語専門講読入門b	1								
英語学概論a	2								
英語学概論b	2								
英語圏の文学・文化概論a	2								
英語圏の文学・文化概論b	2								
文化コミュニケーション概論a	2								
文化コミュニケーション概論b	2								
国際コミュニケーション概論a	2								
国際コミュニケーション概論b	2								
英語音声学	2								
スピーチ・クリニク	2								
ベーシック・カレッジ・グラマー	2								
英語専門講読a	2	12		12		12		12	
英語専門講読b	2								
英作文a	2								
英作文b	2								
英語エッセイ・ライティングa	2								
英語エッセイ・ライティングb	2								
翻訳a	2								
翻訳b	2								
カレッジ・グラマーa	2								
カレッジ・グラマーb	2								
Communicative English I a	2								
Communicative English I b	2								
Communicative English II a	2								
Communicative English II b	2								
Discussion a	2								
Discussion b	2								
Public Speaking I a	2								
Public Speaking I b	2								
Public Speaking II a	2								
Public Speaking II b	2								
Debate I a	2								
Debate I b	2								
Debate II a	2								
Debate II b	2								
通訳 I a	2								
通訳 I b	2								
通訳 II a	2								
通訳 II b	2								
英語ビジネス・コミュニケーション I a	2								
英語ビジネス・コミュニケーション I b	2								
英語ビジネス・コミュニケーション II a	2								
英語ビジネス・コミュニケーション II b	2								
メディア英語 I a	2								
メディア英語 I b	2								
メディア英語 II a	2								
メディア英語 II b	2								
シネマ英語a	2								
シネマ英語b	2								
言語情報処理 I a	2								
言語情報処理 I b	2								
言語情報処理 II a	2								
言語情報処理 II b	2								
統語論a	2								
統語論b	2								
意味論a	2								
意味論b	2								
音声・音韻論a	2								
音声・音韻論b	2								
英語学特殊講義a	2								
英語学特殊講義b	2								
英語学文庫研究a	2								
英語学文庫研究b	2								
英語圏の小説a	2								
英語圏の小説b	2								
英語圏の詩a	2								
英語圏の詩b	2								
英語圏の演劇a	2								
英語圏の演劇b	2								
英語圏の社会と思想a	2								
英語圏の社会と思想b	2								
英語圏の歴史a	2								
英語圏の歴史b	2								
英語圏のエリア・スタディーズa	2								
英語圏のエリア・スタディーズb	2								
英語圏の文学・文化特殊講義a	2								
英語圏の文学・文化特殊講義b	2								
英語圏の文学・文化文庫研究a	2								
英語圏の文学・文化文庫研究b	2								
異文化間コミュニケーション論a	2								
異文化間コミュニケーション論b	2								
マス・コミュニケーション論a	2								
マス・コミュニケーション論b	2								
スピーチ・コミュニケーション論a	2								
スピーチ・コミュニケーション論b	2								
コミュニケーション論特殊講義a	2								
コミュニケーション論特殊講義b	2								
コミュニケーション論文研究a	2								
コミュニケーション論文研究b	2								
国際社会論a	2								
国際社会論b	2								
国際関係史a	2								
国際関係史b	2								
国際関係論a	2								
国際関係論b	2								
国際関係論特殊講義a	2								
国際関係論特殊講義b	2								
国際関係論論文研究a	2								
国際関係論論文研究b	2								
特別セミナー	2								
卒業論文	4								
外国語学部共通科目(別表1-5)									
全学共通科目(別表1-4)									
全学共通科目(別表1-4)									
全学共通科目(別表1-4)									
全学共通科目(別表1-4)									
全学共通科目(別表1-4)									
英語以外の外国語科目*									
古典語科目									
演習a	2								
演習b	2								
卒業に必要な単位数		44	64	20	44	60	24	52	24
		128			128			128	

備考
(1) 卒業に必要な選択科目のうち16単位までは、他学部または他学科および教職課程授業科目の単位をもって代用できる。ただし、他学部科目の単位は、8単位以内(教職課程授業科目の4単位を含む)とする。
なお、教職課程授業科目の単位について別に定める。
(2) *英語以外の外国語は、ドイツ語、フランス語、スペイン語、中国語のうちいずれか1か国語とし、1学年(1.2学期)に4単位、2学年(3.4学期)に4単位を履修するものとする。
○ 本表は、2005年度入学者から適用する。

卒業するまでには最低限128単位が必

注意 卒業・進級判定時に全カリの科目が不足している場合のみ教職課程科目を全カリ科目に読み替えることができます。読替可能単位数は20単位まで。ただし、学科の選択に加算することはできません。

英語学科授業科目 (2003年度～2005年度入学生用)

目次

学科基礎科目

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
	春秋	SPEECH COMMUNICATION a,b	各担当教員		1/1	1	全	23
	春秋	英語ライティング・ストラテジーズ a,b	各担当教員		1/1	1	全	24
	春秋	英語リーディング・ストラテジーズ a,b	各担当教員		1/1	1	全	25
	春秋	READING COMPREHENSION a,b	各担当教員		1/1	1	全	26
	春秋	HONORS ENGLISH 2 a,b (2005年度入学生のみ)	E. カーニイ	水2	1/1	2	全	27
	春秋	HONORS ENGLISH 2 a,b (2005年度入学生のみ)	N. H. ジョスト	水2	1/1	2	全	28
	春秋	HONORS ENGLISH 2 a,b (2005年度入学生のみ)	T. ヒル	水2	1/1	2	全	29
	春秋	英語専門講読入門 a,b (2005年度入学生のみ)	上野 直子	水2	1/1	2	全	30
	春秋	英語専門講読入門 a,b (2005年度入学生のみ)	片山 亜紀	水2	1/1	2	全	31
	春秋	英語専門講読入門 a,b (2005年度入学生のみ)	北澤 滋久	水2	1/1	2	全	32
	春秋	英語専門講読入門 a,b (2005年度入学生のみ)	木村 恵	水2	1/1	2	全	33
	春秋	英語専門講読入門 a,b (2005年度入学生のみ)	児嶋 一男	水2	1/1	2	全	34
	春秋	英語専門講読入門 a,b (2005年度入学生のみ)	小早川 暁	水2	1/1	2	全	35
	春秋	英語専門講読入門 a,b (2005年度入学生のみ)	佐藤 勉	水2	1/1	2	全	36
	春秋	英語専門講読入門 a,b (2005年度入学生のみ)	島田 啓一	水2	1/1	2	全	37
	春秋	英語専門講読入門 a,b (2005年度入学生のみ)	鍋倉 健悦	水2	1/1	2	全	38
	春秋	英語専門講読入門 a,b (2005年度入学生のみ)	原 成吉	水2	1/1	2	全	39
	春秋	英語専門講読入門 a,b (2005年度入学生のみ)	福井 嘉彦	水2	1/1	2	全	40
	春秋	英語専門講読入門 a,b (2005年度入学生のみ)	藤田 永祐	水2	1/1	2	全	41
	春秋	英語専門講読入門 a,b (2005年度入学生のみ)	前沢 浩子	水2	1/1	2	全	42
12121	春	英語専門講読入門 a (再履修)	小早川 暁	火2	1	2	全	43
11546	春	英語専門講読入門 a (再履修)	佐野 康子	火4	1	2	全	44
12122	秋	英語専門講読入門 b (再履修)	小早川 暁	火2	1	2	全	43
11547	秋	英語専門講読入門 b (再履修)	佐野 康子	火4	1	2	全	44
11564	春	英語学概論 a	鈴木 英一	木4	2	1		13
11563	春	英語学概論 a	安井 美代子	木1	2	1		14
11276	春	英語学概論 b	府川 謹也	金2	2	1		15
11566	秋	英語学概論 a	鈴木 英一	木4	2	1		13
11565	秋	英語学概論 a	安井 美代子	木1	2	1		14
11275	秋	英語学概論 b	府川 謹也	金4	2	1		15
11575	春	英語圏の文学・文化概論 a	上野/北澤/児嶋/原	木4	2	1		16
11573	春	英語圏の文学・文化概論 a	上野/北澤/児嶋/原	木5	2	1		16
11576	秋	英語圏の文学・文化概論 a	上野/北澤/児嶋/原	木4	2	1		16
11574	秋	英語圏の文学・文化概論 a	上野/北澤/児嶋/原	木5	2	1		16
11270	秋	英語圏の文学・文化概論 b	高橋 雄一郎	水1	2	1		17
11581	春	文化コミュニケーション概論 a	板場 良久	水2	2	1		18
11579	春	文化コミュニケーション概論 a	柿田 秀樹	水2	2	1		19
08772	春	文化コミュニケーション概論 b	工藤 和宏	月5	2	1		20
11583	秋	文化コミュニケーション概論 a	板場 良久	水2	2	1		18
11582	秋	文化コミュニケーション概論 a	柿田 秀樹	水2	2	1		19
11255	秋	文化コミュニケーション概論 b	工藤 和宏	月5	2	1		20
11585	春	国際コミュニケーション概論 a	佐野 康子	水2	2	1	言	21
11584	春	国際コミュニケーション概論 a	永野 隆行	水2	2	1	言	22
11580	秋	国際コミュニケーション概論 b	佐野 康子	水2	2	1	言	21
11586	秋	国際コミュニケーション概論 b	永野 隆行	水2	2	1	言	22
11091	春	英語音声学	青柳 真紀子	火1	2	1		11
11093	春	英語音声学	大西 雅行	木1	2	1		12
11092	秋	英語音声学	青柳 真紀子	火1	2	1		11
11094	秋	英語音声学	大西 雅行	木1	2	1		12
	春	スピーチ・クリニック(2年生以上用)(定員20名)	清水 由理子	金2	2	2		45
	秋	スピーチ・クリニック(2年生以上用)(定員20名)	清水 由理子	金2	2	2		45

◆2006年度から履修方法が変わります。

①学科共通科目についてはa, b別々に履修登録が必要です。すべての科目が抽選となりますので、必ず登録期間にオンライン登録を行ってください。

②ただし、次の科目は必ずa, bセットで履修してください。(登録は春学期のみです)

「英語専門講読a, b」、「Debate I a, b」、「Debate II a, b」、

「Public Speaking I a, b」、「Public Speaking II a, b」

★注意★ a, bセット履修の科目はb科目からの登録はできません。b科目の削除は可能ですが、学習効果が下がりますので、十分検討して応募してください。

レベルはTOEIC®・TOEFL®のスコアによって次の3つのレベルにきめられています。

レベルA・・・TOEIC®700点以上・TOEFL®520点以上を取得している者

レベルB・・・TOEIC®600点以上・TOEFL®480点以上を取得している者

レベルC・・・TOEIC®500点以上・TOEFL®440点以上を取得している者

*レベルが[既修条件]となっている科目を履修する場合は、TOEICまたはTOEFLのスコアを証明する書類のコピーを教務課外国語学部担当係まで提出してください。

英語専門講読a,b (a, bセット履修)

★各部門の英語専門講読は登録のコースと関係なくすべての部門から履修することができます
[既修条件]英語リーディング・ストラテジーズ a,bおよびREADING COMPREHENSION a,bまたはHONORS ENGLISH 1 a,bを修得していること

[定員32名]

「言語コミュニケーション」部門

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
	春秋	英語専門講読 a,b(Learning Bow)	J. J. ダゲン	木2	2/2	2		46
	春秋	英語専門講読 a,b(Sociolinguistics)	T. ヒル	月2	2/2	2		47
	春秋	英語専門講読 a,b(Exploring Learning)	T. マーフィー	火1	2/2	2		48
	春秋	英語専門講読 a,b(音声入門)	青柳 真紀子	火3	2/2	2		49
	春秋	英語専門講読 a,b(Exploring Language Teaching)	浅岡 千利世	金1	2/2	2		50
	春秋	英語専門講読 a,b(いろいろな英語発音)	大西 雅行	水1	2/2	2		51
	春秋	英語専門講読 a,b(The Authorized Version(欽定訳聖書)を読む)	川崎 潔	木2	2/2	2		52
	春秋	英語専門講読 a,b(認知意味論)	小早川 暁	金4	2/2	2		53
	春秋	英語専門講読 a,b(人間言語の普遍的特徴)	鈴木 英一	水1	2/2	2		54
	春秋	英語専門講読 a,b(ニュースや名スピーチのスク립トを読む)	鍋倉 健悦	月4	2/2	2		55
	春秋	英語専門講読 a,b(認知意味論入門)	府川 謹也	火1	2/2	2		56
	春秋	英語専門講読 a,b(単語のスマールワールドネットワークと文構造)	安井 美代子	月2	2/2	2		57

「文学コミュニケーション」部門

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
	春秋	英語専門講読 a.b(James Joyce)	M. フッド	水3	2/2	2		58
	春秋	英語専門講読 a.b(Black Britishの50年)	上野 直子	火3	2/2	2		59
	春秋	英語専門講読 a.b(Bob Marleyの詩を読む)	遠藤 朋之	金2	2/2	2		60
	春秋	英語専門講読 a.b(ヴァージニア・ウルフ入門)	片山 亜紀	木4	2/2	2		61
	春秋	英語専門講読 a.b(アメリカ文学: John Steinbeckの作品を読む)	金谷 優子	金3	2/2	2		62
	春秋	英語専門講読 a.b(The Man Who Died 精読)	北澤 滋久	火2	2/2	2		63
	春秋	英語専門講読 a.b(オーストラリアの詩)	国見 晃子	火2	2/2	2		64
	春秋	英語専門講読 a.b(英語圏の現代演劇)	児嶋 一男	火2	2/2	2		65
	春秋	英語専門講読 a.b(英・米のユダヤ人史)	佐藤 唯行	水1	2/2	2		66
	春秋	英語専門講読 a.b(物語を読む)	佐藤 勉	金3	2/2	2		67
	春秋	英語専門講読 a.b(アメリカ小説)	島田 啓一	金3	2/2	2		68
	春秋	英語専門講読 a.b(イギリス児童文学)	白鳥 正孝	月3	2/2	2		69
	春秋	英語専門講読 a.b(日系アメリカ女性作家の声)	高田 宣子	火4	2/2	2		70
	春秋	英語専門講読 a.b(アメリカ現代詩)	原 成吉	火3	2/2	2		71
	春秋	英語専門講読 a.b(キリスト教とは)	福井 嘉彦	水1	2/2	2		72
	春秋	英語専門講読 a.b(20世紀初期のイギリス小説)	藤田 永祐	木2	2/2	2		73
	春秋	英語専門講読 a.b(シェイクスピア)	前沢 浩子	月2	2/2	2		74

「異文化コミュニケーション」部門

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
	春秋	英語専門講読 a.b(Reading on Intercultural Communication)	C. B. 池口	火2	2/2	2		75
	春秋	英語専門講読 a.b(LITERATURE AND COMMUNICATION)	E. カーニィ	火1	2/2	2		76
	春秋	英語専門講読 a.b(Canadian Culture and Society)	K. ミーハン	月1	2/2	2		77
	春秋	英語専門講読 a.b(異文化間コミュニケーション論)	石井 敏	金1	2/2	2		78
	春秋	英語専門講読 a.b(「癒し」文化のコミュニケーション分析 I / II)	板場 良久	月1	2/2	2		79
	春秋	英語専門講読 a.b(アメリカ黒人の歴史)	岡田 誠一	月2	2/2	2		80
	春秋	英語専門講読 a.b(ヒッチコック映画の精神分析)	柿田 秀樹	火5	2/2	2		81
	春秋	英語専門講読 a.b(異文化コミュニケーション)	川島 浩美	水3	2/2	2		82
	春秋	英語専門講読 a.b(コミュニケーションと文化リテラシー)	工藤 和宏	月4	2/2	2		83
	春秋	英語専門講読 a.b(異文化理解の視点)	瀬戸 千尋	火3	2/2	2		84
	春秋	英語専門講読 a.b(黒人表現文化)	三吉 美加	水3	2/2	2		85

「国際コミュニケーション」部門

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
	春秋	英語専門講読 a.b(米国の東アジア政策)	阿部 純一	土2	2/2	2		86
	春	英語専門講読 a.b(アジア太平洋地域の政治・経済・国際関係)	金子 芳樹	月4/月5	2/2	2		87
	春秋	英語専門講読 a.b(現代国際関係)	佐野 康子	木3	2/2	2		88
	春秋	英語専門講読 a.b(各種英文ビジネス文書の読み方と実務)	杉山 晴信	水1	2/2	2		89
	春秋	英語専門講読 a.b(アジア太平洋の安全保障)	竹田 いさみ	火2	2/2	2		90
	春秋	英語専門講読 a.b(現代国際関係論)	永野 隆行	月4	2/2	2		91

英作文 a,b

[既修条件]英語ライティング・ストラテジーズ a,bまたはレベルCを修得していること

[定員28名]

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
08227	春	英作文 a	遠藤 朋之	木3	2	2		92
08254	春	英作文 a	岡田 誠一	月4	2	2		93
08225	春	英作文 a	金子 節也	月3	2	2		94
08234	春	英作文 a	川崎 潔	木3	2	2		95
08229	春	英作文 a	鈴木 英一	火4	2	2		96
08250	春	英作文 a	中村 粲	火3	2	2		97
08238	春	英作文 a	福井 嘉彦	木1	2	2		98

08244	春	英作文 a	藤田 永祐	金2	2	2	99
08228	秋	英作文 b	遠藤 朋之	木3	2	2	92
08255	秋	英作文 b	岡田 誠一	月4	2	2	93
08226	秋	英作文 b	金子 節也	月3	2	2	94
08235	秋	英作文 b	川崎 潔	木3	2	2	95
08230	秋	英作文 b	鈴木 英一	火4	2	2	96
08251	秋	英作文 b	中村 粲	火3	2	2	97
08239	秋	英作文 b	福井 嘉彦	木1	2	2	98
08245	秋	英作文 b	藤田 永祐	金2	2	2	99

英語エッセイ・ライティング a,b

[既修条件]英語パラグラフ・ライティング a,b、英作文 a,b または レベル B を修得していること

[定員28名]

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
08260	春	英語エッセイ・ライティング a	J. ウォールドマン	木2	2	2		100
08262	春	英語エッセイ・ライティング a	L. K. ハーキンス	月2	2	2		101
08256	春	英語エッセイ・ライティング a	M. ウーラートン	木4	2	2		102
08266	春	英語エッセイ・ライティング a	M. フッド	水4	2	2		103
08268	春	英語エッセイ・ライティング a	N. H. ジョスト	月1	2	2		104
08737	春	英語エッセイ・ライティング a	R. J. パロウズ	木2	2	2		105
08272	春	英語エッセイ・ライティング a	R. ジョーンズ	月3	2	2		106
08270	春	英語エッセイ・ライティング a	R. ダラム	木1	2	2		107
08264	春	英語エッセイ・ライティング a	T. J. フォトス	水2	2	2		108
08258	春	英語エッセイ・ライティング a	W. J. ベンフィールド	水3	2	2		109
08780	春	英語エッセイ・ライティング a	鈴木 眞奈美	月2	2	2		110
08261	秋	英語エッセイ・ライティング b	J. ウォールドマン	木2	2	2		100
08263	秋	英語エッセイ・ライティング b	L. K. ハーキンス	月2	2	2		101
08257	秋	英語エッセイ・ライティング b	M. ウーラートン	木4	2	2		102
08267	秋	英語エッセイ・ライティング b	M. フッド	水4	2	2		103
08269	秋	英語エッセイ・ライティング b	N. H. ジョスト	月1	2	2		104
08738	秋	英語エッセイ・ライティング b	R. J. パロウズ	木2	2	2		105
08273	秋	英語エッセイ・ライティング b	R. ジョーンズ	月3	2	2		106
08271	秋	英語エッセイ・ライティング b	R. ダラム	木1	2	2		107
08265	秋	英語エッセイ・ライティング b	T. J. フォトス	水2	2	2		108
08259	秋	英語エッセイ・ライティング b	W. J. ベンフィールド	水3	2	2		109
08781	秋	英語エッセイ・ライティング b	鈴木 眞奈美	月2	2	2		110

翻訳 a,b

[既修条件]英語リーディング・ストラテジーズ a,b および READING COMPREHENSION a,b または HONORS ENGLISH 1 a,b または レベル C を修得していること

[定員25名]

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
08274	春	翻訳 a	遠藤 朋之	木2	2	2		111
08276	春	翻訳 a	北澤 滋久	火3	2	2		112
08280	春	翻訳 a	高田 宣子	火5	2	2		113
08278	春	翻訳 a	藤田 永祐	木1	2	2		114
08275	秋	翻訳 b	遠藤 朋之	木2	2	2		111
08277	秋	翻訳 b	北澤 滋久	火3	2	2		112
08281	秋	翻訳 b	高田 宣子	火5	2	2		113
08279	秋	翻訳 b	藤田 永祐	木1	2	2		114

カレッジ・グラマーa,b

[既修条件]英語リーディング・ストラテジーズ a,bおよびREADING COMPREHENSION a,bまたはHONORS ENGLISH 1 a,bまたはレベルCを修得していること

[定員32名]

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
11528	春	カレッジ・グラマー a	鈴木 英一	木2	2	2		115
11396	春	カレッジ・グラマー a	府川 謹也	水1	2	2		116
11398	春	カレッジ・グラマー a	本田 謙介	月2	2	2		117
11525	春	カレッジ・グラマー a	毛利 秀高	木3	2	2		118
11529	秋	カレッジ・グラマー b	鈴木 英一	木2	2	2		115
11397	秋	カレッジ・グラマー b	府川 謹也	水1	2	2		116
11399	秋	カレッジ・グラマー b	本田 謙介	月2	2	2		117
11526	秋	カレッジ・グラマー b	毛利 秀高	木3	2	2		118

COMMUNICATIVE ENGLISH I a,b

[既修条件]SPEECH COMMUNICATION a,bまたはレベルCを修得していること

[定員28名]

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
08318	春	COMMUNICATIVE ENGLISH I a	D. マツキャン	木2	2	2		119
08296	春	COMMUNICATIVE ENGLISH I a	E. J. ナオウミ	木2	2	2		120
08308	春	COMMUNICATIVE ENGLISH I a	E. カーニィ	水1	2	2		121
08292	春	COMMUNICATIVE ENGLISH I a	K. ミーハン	金3	2	2		122
08322	春	COMMUNICATIVE ENGLISH I a	M. デル ベツキオ	水3	2	2		123
08330	春	COMMUNICATIVE ENGLISH I a	N. ハミルトン	火1	2	2		124
08320	春	COMMUNICATIVE ENGLISH I a	P. アップス	水2	2	2		125
08304	春	COMMUNICATIVE ENGLISH I a	P. アップス	水3	2	2		125
08294	春	COMMUNICATIVE ENGLISH I a	P. M. ホーネス	月1	2	2		126
08310	春	COMMUNICATIVE ENGLISH I a	P. M. ホーネス	木1	2	2		126
08300	春	COMMUNICATIVE ENGLISH I a	R. M. ペイン	月2	2	2		127
08306	春	COMMUNICATIVE ENGLISH I a	R. ダラム	木2	2	2		128
08302	春	COMMUNICATIVE ENGLISH I a	T. J. フォトス	月1	2	2		129
08314	春	COMMUNICATIVE ENGLISH I a	T. J. フォトス	月3	2	2		129
08290	春	COMMUNICATIVE ENGLISH I a	T. ヒル	火2	2	2		130
08319	秋	COMMUNICATIVE ENGLISH I b	D. マツキャン	木2	2	2		119
08297	秋	COMMUNICATIVE ENGLISH I b	E. J. ナオウミ	木2	2	2		120
08309	秋	COMMUNICATIVE ENGLISH I b	E. カーニィ	水1	2	2		121
08293	秋	COMMUNICATIVE ENGLISH I b	K. ミーハン	金3	2	2		122
08323	秋	COMMUNICATIVE ENGLISH I b	M. デル ベツキオ	水3	2	2		123
08331	秋	COMMUNICATIVE ENGLISH I b	N. ハミルトン	火1	2	2		124
08321	秋	COMMUNICATIVE ENGLISH I b	P. アップス	水2	2	2		125
08305	秋	COMMUNICATIVE ENGLISH I b	P. アップス	水3	2	2		125
08295	秋	COMMUNICATIVE ENGLISH I b	P. M. ホーネス	月1	2	2		126
08311	秋	COMMUNICATIVE ENGLISH I b	P. M. ホーネス	木1	2	2		126
08301	秋	COMMUNICATIVE ENGLISH I b	R. M. ペイン	月2	2	2		127
08307	秋	COMMUNICATIVE ENGLISH I b	R. ダラム	木2	2	2		128
08303	秋	COMMUNICATIVE ENGLISH I b	T. J. フォトス	月1	2	2		129
08315	秋	COMMUNICATIVE ENGLISH I b	T. J. フォトス	月3	2	2		129
08291	秋	COMMUNICATIVE ENGLISH I b	T. ヒル	火2	2	2		130

COMMUNICATIVE ENGLISH II a,b

[既修条件]ADVANCED SPEECH COMMUNICATION a,b、COMMUNICATIVE ENGLISH I a,bまたはレベルBを修得していること

[定員25名]

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
08326	春	COMMUNICATIVE ENGLISH II a	C. B. 池口	火4	2	2		131
08328	春	COMMUNICATIVE ENGLISH II a	D. L. ブランケン	水3	2	2		132
08803	春	COMMUNICATIVE ENGLISH II a	D. マツキャン	木1	2	2		133

08354	春	COMMUNICATIVE ENGLISH II a	K. ミーハン	月2	2	2	134
08352	春	COMMUNICATIVE ENGLISH II a	M. デル ベツキオ	木3	2	2	135
08346	春	COMMUNICATIVE ENGLISH II a	M. フッド	水2	2	2	136
08332	春	COMMUNICATIVE ENGLISH II a	N. ハミルトン	月1	2	2	137
08338	春	COMMUNICATIVE ENGLISH II a	N. ハミルトン	火2	2	2	137
08340	春	COMMUNICATIVE ENGLISH II a	P. アップス	火3	2	2	138
08344	春	COMMUNICATIVE ENGLISH II a	R. J. バロウズ	火1	2	2	139
08350	春	COMMUNICATIVE ENGLISH II a	R. ジョーンズ	水3	2	2	140
08342	春	COMMUNICATIVE ENGLISH II a	R. ダラム	火2	2	2	141
08334	春	COMMUNICATIVE ENGLISH II a	T. J. フォトス	水1	2	2	142
08327	秋	COMMUNICATIVE ENGLISH II b	C. B. 池口	火4	2	2	131
08329	秋	COMMUNICATIVE ENGLISH II b	D. L. ブランケン	水3	2	2	132
08805	秋	COMMUNICATIVE ENGLISH II b	D. マッキャン	木1	2	2	133
08355	秋	COMMUNICATIVE ENGLISH II b	K. ミーハン	月2	2	2	134
08353	秋	COMMUNICATIVE ENGLISH II b	M. デル ベツキオ	木3	2	2	135
08347	秋	COMMUNICATIVE ENGLISH II b	M. フッド	水2	2	2	136
08333	秋	COMMUNICATIVE ENGLISH II b	N. ハミルトン	月1	2	2	137
08339	秋	COMMUNICATIVE ENGLISH II b	N. ハミルトン	火2	2	2	137
08341	秋	COMMUNICATIVE ENGLISH II b	P. アップス	火3	2	2	138
08345	秋	COMMUNICATIVE ENGLISH II b	R. J. バロウズ	火1	2	2	139
08351	秋	COMMUNICATIVE ENGLISH II b	R. ジョーンズ	水3	2	2	140
08343	秋	COMMUNICATIVE ENGLISH II b	R. ダラム	火2	2	2	141
08335	秋	COMMUNICATIVE ENGLISH II b	T. J. フォトス	水1	2	2	142

DISCUSSION a,b

[既修条件]ADVANCED SPEECH COMMUNICATION a,b、COMMUNICATIVE ENGLISH I a,bまたはレベルBを修得していること

[定員20名]

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
08358	春	DISCUSSION a	D. L. ブランケン	水2	2	2		143
08356	春	DISCUSSION a	N. H. ジョスト	火2	2	2		144
11509	春	DISCUSSION a	R. ダラム	木3	2	2		145
08360	春	DISCUSSION a	W. J. ベンフィールド	木2	2	2		146
08359	秋	DISCUSSION b	D. L. ブランケン	水2	2	2		143
08357	秋	DISCUSSION b	N. H. ジョスト	火2	2	2		144
11510	秋	DISCUSSION b	R. ダラム	木3	2	2		145
08361	秋	DISCUSSION b	W. J. ベンフィールド	木2	2	2		146

PUBLIC SPEAKING I a,b (a, bセット履修)

[既修条件]ADVANCED SPEECH COMMUNICATION a,b、COMMUNICATIVE ENGLISH I a,bまたはレベルBを修得していること

[定員25名]

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
01388	春秋	PUBLIC SPEAKING I a,b (a, bセット履修)	A. R. ファルヴォ	金1	2	1		147
01337	春秋	PUBLIC SPEAKING I a,b (a, bセット履修)	E. カーニィ	月1	2	1		148
00703	春秋	PUBLIC SPEAKING I a,b (a, bセット履修)	鍋倉 健悦	火3	2	1		149

PUBLIC SPEAKING II a,b (a, bセット履修)

[既修条件]ADVANCED SPEECH COMMUNICATION a,b、COMMUNICATIVE ENGLISH I a,bまたはレベルAを修得していること

[定員25名]

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
07281	春秋	PUBLIC SPEAKING II a, b (a, bセット履修)	P. マッケピリー	金2	2	2		150

DEBATE I a,b (a, bセット履修)

[既修条件]ADVANCED SPEECH COMMUNICATION a,b、COMMUNICATIVE ENGLISH I a,bまたはレベルBを修得していること

[定員25名]

時間割コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
00876	春秋	DEBATE I a,b (a, bセット履修)	P. M. ホーネス	木2	2	1		151
11213	春秋	DEBATE I a,b (a, bセット履修)	R. J. バロウズ	火2	2	1		152
01134	春秋	DEBATE I a,b (a, bセット履修)	柿田 秀樹	木3	2	1		153

DEBATE II a,b (a, bセット履修)

[既修条件]ADVANCED SPEECH COMMUNICATION a,b、COMMUNICATIVE ENGLISH I a,bまたはレベルAを修得していること

[定員25名]

時間割コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
08808	春秋	DEBATE II a,b (a, bセット履修)	N. H. ジョスト	月3	2	2		154

通訳 I a,b

[既修条件]ADVANCED SPEECH COMMUNICATION a,b、COMMUNICATIVE ENGLISH I a,bまたはレベルBを修得していること

[定員25名]

時間割コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
00734	春	通訳 I a	原口 友子	月2	2	1		155
00773	春	通訳 I a	原口 友子	月4	2	1		155
00735	秋	通訳 I b	原口 友子	月2	2	1		155
00774	秋	通訳 I b	原口 友子	月4	2	1		155

通訳 II a,b

[既修条件]通訳 I a,bまたはレベルAを修得していること

[定員25名]

時間割コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
08362	春	通訳 II a	原口 友子	月3	2	2		156
08363	秋	通訳 II b	原口 友子	月3	2	2		156

英語ビジネス・コミュニケーション I a,b

[既修条件]英語リーディング・ストラテジーズ a,bおよびREADING COMPREHENSION a,bまたはHONORS ENGLISH 1 a,bまたはレベルCを修得していること

[定員50名]

時間割コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
08366	春	英語ビジネス・コミュニケーション I a	海老沢 達郎	金3	2	2		157
08368	春	英語ビジネス・コミュニケーション I a	杉山 晴信	水2	2	2		158
08370	春	英語ビジネス・コミュニケーション I a	杉山 晴信	木3	2	2		159
08372	春	英語ビジネス・コミュニケーション I a	信 達郎	月1	2	2		160
08374	春	英語ビジネス・コミュニケーション I a	信 達郎	月2	2	2		160
08367	秋	英語ビジネス・コミュニケーション I b	海老沢 達郎	金3	2	2		157
08369	秋	英語ビジネス・コミュニケーション I b	杉山 晴信	水2	2	2		158
08371	秋	英語ビジネス・コミュニケーション I b	杉山 晴信	木3	2	2		159
08373	秋	英語ビジネス・コミュニケーション I b	信 達郎	月1	2	2		160
08375	秋	英語ビジネス・コミュニケーション I b	信 達郎	月2	2	2		160

英語ビジネス・コミュニケーション II a,b

[既修条件]英語リーディング・ストラテジーズ a,bおよびREADING COMPREHENSION a,bまたはHONORS ENGLISH 1 a,bまたはレベルBを修得していること

[定員45名]

時間割コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
08376	春	英語ビジネス・コミュニケーション II a	杉山 晴信	金3	2	2		161
08377	秋	英語ビジネス・コミュニケーション II b	杉山 晴信	金3	2	2		161

メディア英語 I a,b

[既修条件]英語リーディング・ストラテジーズ a,bおよびREADING COMPREHENSION a,bまたはHONORS ENGLISH 1 a,bまたはレベルCを修得していること

[定員40名]

時間割コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
08384	春	メディア英語 I a	W. J. ベンフィールド	水2	2	2		162
09087	春	メディア英語 I a	海老沢 達郎	火4	2	2		163
08388	春	メディア英語 I a	岡田 誠一	月3	2	2		164
08390	春	メディア英語 I a	岡田 誠一	木4	2	2		164
08382	春	メディア英語 I a	金子 節也	月4	2	2		165
11552	春	メディア英語 I a	佐野 康子	金3	2	2		166
08385	秋	メディア英語 I b	W. J. ベンフィールド	水2	2	2		162
09088	秋	メディア英語 I b	海老沢 達郎	火4	2	2		163
08389	秋	メディア英語 I b	岡田 誠一	月3	2	2		164
08391	秋	メディア英語 I b	岡田 誠一	木4	2	2		164
08383	秋	メディア英語 I b	金子 節也	月4	2	2		165
11553	秋	メディア英語 I b	佐野 康子	金3	2	2		166

メディア英語 II a,b

[既修条件]英語リーディング・ストラテジーズ a,bおよびREADING COMPREHENSION a,bまたはHONORS ENGLISH 1 a,bまたはレベルBを修得していること

[定員40名]

時間割コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
08394	春	メディア英語 II a	A. R. ファルヴォ	月1	2	2		167
08392	春	メディア英語 II a	川島 浩美	水2	2	2		168
08395	秋	メディア英語 II b	A. R. ファルヴォ	月1	2	2		167
08393	秋	メディア英語 II b	川島 浩美	水2	2	2		168

シネマ英語 a,b

[既修条件]英語リーディング・ストラテジーズ a,bおよびREADING COMPREHENSION a,bまたはHONORS ENGLISH 1 a,bまたはレベルBを修得していること

[定員35名]

時間割コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
08400	春	シネマ英語 a	岡田 誠一	木3	2	2		169
08401	秋	シネマ英語 b	岡田 誠一	木3	2	2		169
08399	秋	シネマ英語 b	高橋 雄一郎	金5	2	2		170

学科専門科目

◆a, bセットで履修する必要はありません

「言語コミュニケーション」部門

時間割コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
11543	春	言語情報処理 I a (定員50名)	木村 恵	木4	2	2		176
01509	春	言語情報処理 I a (定員50名)	吉成 雄一郎	金2	2	2		177
11544	秋	言語情報処理 I b (定員50名)	木村 恵	木4	2	2		176
01510	秋	言語情報処理 I b (定員50名)	吉成 雄一郎	金2	2	2		177
01541	春	言語情報処理 II a (定員40名)	吉成 雄一郎	金1	2	2		178
01542	秋	言語情報処理 II b (定員40名)	吉成 雄一郎	金1	2	2		178
01347	春	統語論a	鈴木 英一	火2	2	2		179
01348	秋	統語論b	鈴木 英一	火2	2	2		179
00790	春	意味論a	小早川 暁	金3	2	2		180
00791	秋	意味論b	小早川 暁	金3	2	2		180
00799	春	音声・音韻論a	大西 雅行	火3	2	2		181
00800	秋	音声・音韻論b	大西 雅行	火3	2	2		181

09829	春	英語史a (2005年度入学生は履修できません)	毛利 秀高	木4	2	2	182
09830	秋	英語史b (2005年度入学生は履修できません)	毛利 秀高	木4	2	2	182
01149	春	英語学特殊講義a〔既修条件:英語学概論a,b〕	府川 謹也	水2	2	2	183
01150	秋	英語学特殊講義b〔既修条件:英語学概論a,b〕	府川 謹也	水2	2	2	183
08784	春	英語学文献研究a (定員25名)	小早川 暁	火1	2	3	184
08785	秋	英語学文献研究b (定員25名)	小早川 暁	火1	2	3	184

「文学コミュニケーション」部門

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
10274	春	英語圏の小説 a (定員100名)	藤田 永祐	金3	2	2		185
09060	秋	英語圏の小説 b (定員100名)	北澤 滋久	木3	2	2		185
08205	春	英語圏の詩 a (定員100名)	原 成吉	火2	2	2		186
08206	秋	英語圏の詩 b (定員100名)	白鳥 正孝	月4	2	2		186
08207	春	英語圏の演劇 a (定員100名)	児嶋 一男	月3	2	2		187
08208	秋	英語圏の演劇 b (定員100名)	児嶋 一男	月3	2	2		187
08209	春	英語圏の社会と思想 a (定員100名)	福井 嘉彦	火2	2	2		188
08210	秋	英語圏の社会と思想 b (定員100名)	福井 嘉彦	火2	2	2		188
08211	春	英語圏の歴史 a	佐藤 唯行	木2	2	2		189
08212	秋	英語圏の歴史 b	佐藤 唯行	木2	2	2		189
08213	春	英語圏のエリア・スタディーズ a (定員200名)	白鳥 正孝	水3	2	2		190
08214	秋	英語圏のエリア・スタディーズ b (定員200名)	白鳥 正孝	水3	2	2		190
10657	春	英語圏の文学・文化特殊講義 a	上野 直子	木3	2	3		191
11539	秋	英語圏の文学・文化特殊講義 b	片山 亜紀	月4	2	3		191
11271	秋	英語圏の文学・文化特殊講義 b	高橋 雄一郎	金4	2	3		192
10243	秋	英語圏の文学・文化文献研究 b (定員25名)	原 成吉	火2	2	3		193

「異文化コミュニケーション」部門

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
01434	春	異文化間コミュニケーション論a	工藤 和宏	金3	2	2		194
01238	春	異文化間コミュニケーション論a	鍋倉 健悦	月5	2	2		195
01435	秋	異文化間コミュニケーション論b	工藤 和宏	金3	2	2		194
01239	秋	異文化間コミュニケーション論b	鍋倉 健悦	月5	2	2		195
01393	春	マス・コミュニケーション論a	佐々木 輝美	木3	2	2		196
01394	秋	マス・コミュニケーション論b	佐々木 輝美	木3	2	2		196
01108	春	スピーチ・コミュニケーション論a	板場 良久	月2	2	2		197
00977	春	スピーチ・コミュニケーション論a	柿田 秀樹	火4	2	2		198
01169	秋	スピーチ・コミュニケーション論b	板場 良久	月2	2	2		197
00978	秋	スピーチ・コミュニケーション論b	柿田 秀樹	火4	2	2		198
01360	春	コミュニケーション論特殊講義a	町田 喜義	水2	2	3		199
01361	秋	コミュニケーション論特殊講義b	町田 喜義	水2	2	3		199
00975	春	コミュニケーション論文献研究a (定員25名)	板場 良久	火3	2	3		200
01511	秋	コミュニケーション論文献研究b (定員25名)	板場 良久	火3	2	3		200

「国際コミュニケーション」部門

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
08217	春	国際社会論 a (a,bは担当者を変えて履修すること)	金子 芳樹	月3	2	2		201
08215	春	国際社会論 a (a,bは担当者を変えて履修すること)	竹田 いさみ	月3	2	2		202
08218	秋	国際社会論 b (a,bは担当者を変えて履修すること)	竹田 いさみ	月3	2	2		201
08216	秋	国際社会論 b (a,bは担当者を変えて履修すること)	永野 隆行	月3	2	2		202
00743	春	国際関係史a	永野 隆行	月2	2	2	法	203
00732	秋	国際関係史b	永野 隆行	月2	2	2	法	203
00945	春	国際開発協力論a	竹田 いさみ	火3	2	2		204
00917	秋	国際開発協力論b	佐野 康子	金2	2	2		204

11798	春	国際関係論特殊講義a	石川 幸子	金2	2	2	205
01501	春	国際関係論特殊講義a	金子 芳樹	火2	2	2	206
10614	春	国際関係論特殊講義b	金子 芳樹	水1	2	2	206
01502	秋	国際関係論特殊講義b	竹田 いさみ	火3	2	2	207
01556	春	国際関係論文献研究a (定員25名)	阿部 純一	土3	2	3	208
00935	春	国際関係論文献研究a (定員25名)	竹田 いさみ	火1	2	3	209
01557	秋	国際関係論文献研究b (定員25名)	阿部 純一	土3	2	3	208
00961	秋	国際関係論文献研究b (定員25名)	竹田 いさみ	火1	2	3	209
10222	春	特別セミナー(CAEL) (定員60名)	J. スティベンソン	水2	2	2	210
10223	秋	特別セミナー(CAEL) (定員60名)	J. スティベンソン	水2	2	2	210

◆「外国語学部共通科目」は「英語学科授業科目」のあと(P. 211)に掲載しています。
(目次も含む)

学則別表(2002年度入学者用)

科目群	部門	科目	単位	言語情報コース			文学文化コース			国際コミュニケーションコース		
				必修	選択必修	選択	必修	選択必修	選択	必修	選択必修	選択
学科基礎科目	第2外国語	ドイツ語Ⅰ	2									
		フランス語Ⅰ	2	4			4			4		
		スペイン語Ⅰ	2									
		ドイツ語Ⅱ	2									
		フランス語Ⅱ	2	4			4			4		
	スペイン語Ⅱ	2										
	英語	Speech Communication	2									
		Advanced Speech Communication	2	2			2			2		
		英語ライティング・ストラテジー	2									
		英語パラグラフ・ライティング	2	2			2			2		
		英語リーディング・ストラテジー	2	2			2			2		
		Reading Comprehension	2									
		Honors English I	2		2			2			2	
		Honors English II	2		2			2			2	
		英語専門講義入門	2		2			2			2	
英語学概論		4	4			4			4			
米文学概論	4	4			4			4				
国際コミュニケーション概論	4	4			4			4				
英語音声学	*2	2			2			2				
スピーチ・クリニク	*2											
ペシク・カレッジ・グラマー	*2											
学科共通科目	英語	英語専門講義	4	12			12			12		
		英作文	4									
		英語エッセイ・ライティング	4		4			4			4	
		英日翻訳	4									
		日英翻訳	4									
	カレッジ・グラマー	4										
	Communicative English I	4										
	Communicative English II	4										
	Discussion	4										
	Public Speaking I	4		4			4			4		
	Public Speaking II	4										
	Debate I	4										
	Debate II	4										
	演説Ⅰ	4										
	演説Ⅱ	4										
英語ビジネス・コミュニケーションⅠ	4											
英語ビジネス・コミュニケーションⅡ	4											
メディア英語Ⅰ	4											
メディア英語Ⅱ	4											
シネマ英語	4			20			24			24		
第2外国語	ドイツ語Ⅲ	2										
	フランス語Ⅲ	2										
	スペイン語Ⅲ	2										
	ドイツ語Ⅳ	2										
	フランス語Ⅳ	2										
	スペイン語Ⅳ	2										
	ドイツ語会話Ⅰ	2										
	フランス語会話Ⅰ	2										
	スペイン語会話Ⅰ	2										
	ドイツ語会話Ⅱ	2										
	フランス語会話Ⅱ	2										
	スペイン語会話Ⅱ	2										
	言語情報	言語情報処理Ⅰa	*2									
		言語情報処理Ⅰb	*2									
		言語情報処理Ⅱa	*2	4								
言語情報処理Ⅱb		*2										
総論a		*2										
総論b		*2										
意味論a		*2										
意味論b		*2										
音声・音韻論a		*2										
音声・音韻論b		*2										
英語史a		*2										
英語史b		*2										
英語学特殊講義a		*2										
英語学特殊講義b		*2										
英語学文献研究a		*2										
英語学文献研究b	*2											
文学文化	米文学史a	*2										
	米文学史b	*2										
	米文学の小説a	*2										
	米文学の小説b	*2										
	米文学の詩a	*2										
	米文学の詩b	*2										
	米文学の演劇a	*2										
	米文学の演劇b	*2										
	英語圏文学特殊講義a	*2										
	英語圏文学特殊講義b	*2										
	米文学文献研究a	*2										
	米文学文献研究b	*2										
	米文学の社会と思想a	*2										
	米文学の社会と思想b	*2										
	米文学の政治と経済a	*2										
米文学の政治と経済b	*2											
米文学の歴史a	*2											
米文学の歴史b	*2											
米事情a	*2											
米事情b	*2											
英語圏文化特殊講義a	*2											
英語圏文化特殊講義b	*2											
米文化文献研究a	*2											
米文化文献研究b	*2											
国際コミュニケーション	国際政治論a	*2										
	国際政治論b	*2										
	国際関係史a	*2										
	国際関係史b	*2										
	国際関係協力論a	*2										
	国際関係協力論b	*2										
	国際関係論特殊講義a	*2										
	国際関係論特殊講義b	*2										
	国際関係論文献研究a	*2										
	国際関係論文献研究b	*2										
	異文化間コミュニケーション論a	*2										
	異文化間コミュニケーション論b	*2										
	マス・コミュニケーション論a	*2										
	マス・コミュニケーション論b	*2										
	スピーチ・コミュニケーション論a	*2										
スピーチ・コミュニケーション論b	*2											
コミュニケーション論特殊講義a	*2											
コミュニケーション論特殊講義b	*2											
コミュニケーション論文献研究a	*2											
コミュニケーション論文献研究b	*2											
特別セミナー	卒業論文	*4										
	外国語学部共通科目(別表1-5)	4	28			28			28			
演習	4	8			8			8				
卒業に必要な単位数		64	48	20	68	40	24	72	36	24		
			132			132			132			

備考
 (1) *は、半期完結科目を現す。
 (2) 第2外国語部門からは1言語を選択する。
 (3) 言語情報コースの言語情報処理については、IかIIのいずれから4単位を修得する。IとIIを組み合わせることはできない。
 (4) 卒業論文の必要単位数は20単位まで、他学部または他学科および教職課程授業科目の単位をもって代用できる。ただし、他学部科目の単位は、8単位以内(教職課程授業科目の4単位を含む)とする。
 なお、教職課程授業科目の単位の代用について別に定める。

○ 本表は、2002年度入学者から適用する。

英語学科授業科目（2002年度入学生用）

目次

学科基礎科目

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
	通年	SPEECHCOMMUNICATION	各担当教員		2	1	全	23
	通年	英語ライティング・ストラテジーズ	各担当教員		2	1	全	24
	通年	英語リーディング・ストラテジーズ	各担当教員		2	1	全	25
	通年	READING COMPREHENSION	各担当教員		2	1	全	26
12123	通年	英語専門講読入門	小早川 暁	火2	2	2	全	43
11545	通年	英語専門講読入門	佐野 康子	火4	2	2	全	44
11571	通年	英語学概論	鈴木 英一／府川 謹也	木4／金4	4	1		13/15
11567	通年	英語学概論	鈴木 英一／安井 美代子	木4／木1	4	1		13/14
11570	通年	英語学概論	府川 謹也／鈴木 英一	金2／木4	4	1		15/13
11572	通年	英語学概論	府川 謹也／安井 美代子	金2／木1	4	1		15/14
11568	通年	英語学概論	安井 美代子／鈴木 英一	木1／木4	4	1		14/13
11569	通年	英語学概論	安井 美代子／府川 謹也	木1／金4	4	1		14/15
11577	通年	英米文学概論	上野/北澤/児嶋/原/高橋	木4／水1	4	1		16/17
11578	通年	英米文学概論	上野/北澤/児嶋/原/高橋	木5／水1	4	1		16/17
12104	通年	国際コミュニケーション概論	柿田 秀樹／永野 隆行	水2／水2	4	1	言	19/22
11588	通年	国際コミュニケーション概論	工藤 和宏／永野 隆行	月5／水2	4	1	言	20/22
12105	通年	国際コミュニケーション概論	永野 隆行／柿田 秀樹	水2／水2	4	1	言	22/19
11589	通年	国際コミュニケーション概論	永野 隆行／工藤 和宏	水2／月5	4	1	言	22/20
11091	春学期	英語音声学	青柳 真紀子	火1	2	1		11
11093	春学期	英語音声学	大西 雅行	木1	2	1		12
11092	秋学期	英語音声学	青柳 真紀子	火1	2	1		11
11094	秋学期	英語音声学	大西 雅行	木1	2	1		12
	春学期	スピーチ・クリニック(2年生以上用)(定員20名)	清水 由理子	金2	2	2		45
	秋学期	スピーチ・クリニック(2年生以上用)(定員20名)	清水 由理子	金2	2	2		45

学科共通科目

レベルはTOEIC®・TOEFL®のスコアによって次の3つのレベルにきめられています。

レベルA・・・TOEIC®700点以上・TOEFL®520点以上を取得している者

レベルB・・・TOEIC®600点以上・TOEFL®480点以上を取得している者

レベルC・・・TOEIC®500点以上・TOEFL®440点以上を取得している者

*レベルが[既修条件]となっている科目を履修する場合は、TOEICまたはTOEFLのスコアを証明する書類のコピーを教務課外国語学部担当係まで提出してください。

英語専門講読

★各部門の英語専門講読は登録のコースと関係なくすべての部門から履修することができます

[既修条件]英語リーディング・ストラテジーズおよびREADING COMPREHENSION またはHONORS ENGLISH 1を修得していること

[定員32名]

「言語コミュニケーション」部門

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
	通年	英語専門講読(Learning Bow)	J. J. ダゲン	木2	4	2		46
	通年	英語専門講読(Sociolinguistics)	T. ヒル	月2	4	2		47
	通年	英語専門講読(Exploring Learning)	T. マーフィー	火1	4	2		48
	通年	英語専門講読(音声入門)	青柳 真紀子	火3	4	2		49

通年	英語専門講読(Exploring Language Teaching)	浅岡 千利世	金1	4	2	50
通年	英語専門講読(いろいろな英語発音)	大西 雅行	水1	4	2	51
通年	英語専門講読(The Authorized Version(欽定訳聖書)を読む)	川崎 潔	木2	4	2	52
通年	英語専門講読(認知意味論)	小早川 暁	金4	4	2	53
通年	英語専門講読(人間言語の普遍的特徴)	鈴木 英一	水1	4	2	54
通年	英語専門講読(ニュースや名スピーチのスク립トを読む)	鍋倉 健悦	月4	4	2	55
通年	英語専門講読(認知意味論入門)	府川 謹也	火1	4	2	56
通年	英語専門講読(単語のsmallワールドネットワークと文構造)	安井 美代子	月2	4	2	57

「文学コミュニケーション」部門

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
通年	英語専門講読(James Joyce)	M. フッド	水3	4	2	58		
通年	英語専門講読(Black Britishの50年)	上野 直子	火3	4	2	59		
通年	英語専門講読(Bob Marleyの詩を読む)	遠藤 朋之	金2	4	2	60		
通年	英語専門講読(ヴァージニア・ウルフ入門)	片山 亜紀	木4	4	2	61		
通年	英語専門講読(アメリカ文学: John Steinbeckの作品を読む)	金谷 優子	金3	4	2	62		
通年	英語専門講読(The Man Who Died 精読)	北澤 滋久	火2	4	2	63		
通年	英語専門講読(オーストラリアの詩)	国見 晃子	火2	4	2	64		
通年	英語専門講読(英語圏の現代演劇)	児嶋 一男	火2	4	2	65		
通年	英語専門講読(英・米のユダヤ人史)	佐藤 唯行	水1	4	2	66		
通年	英語専門講読(物語を読む)	佐藤 勉	金3	4	2	67		
通年	英語専門講読(アメリカ小説)	島田 啓一	金3	4	2	68		
通年	英語専門講読(イギリス児童文学)	白鳥 正孝	月3	4	2	69		
通年	英語専門講読(日系アメリカ女性作家の声)	高田 宣子	火4	4	2	70		
通年	英語専門講読(アメリカ現代詩)	原 成吉	火3	4	2	71		
通年	英語専門講読(キリスト教とは)	福井 嘉彦	水1	4	2	72		
通年	英語専門講読(20世紀初期のイギリス小説)	藤田 永祐	木2	4	2	73		
通年	英語専門講読(シェイクスピア)	前沢 浩子	月2	4	2	74		

「異文化コミュニケーション」部門

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
通年	英語専門講読(Reading on Intercultural Communication)	C. B. 池口	火2	4	2	75		
通年	英語専門講読(LITERATURE AND COMMUNICATION)	E. カーニィ	火1	4	2	76		
通年	英語専門講読(Canadian Culture and Society)	K. ミーハン	月1	4	2	77		
通年	英語専門講読(異文化間コミュニケーション論)	石井 敏	金1	4	2	78		
通年	英語専門講読(「癒し」文化のコミュニケーション分析 I / II)	板場 良久	月1	4	2	79		
通年	英語専門講読(アメリカ黒人の歴史)	岡田 誠一	月2	4	2	80		
通年	英語専門講読(ヒッチコック映画の精神分析)	柿田 秀樹	火5	4	2	81		
通年	英語専門講読(異文化コミュニケーション)	川島 浩美	水3	4	2	82		
通年	英語専門講読(コミュニケーションと文化リテラシー)	工藤 和宏	月4	4	2	83		
通年	英語専門講読(異文化理解の視点)	瀬戸 千尋	火3	4	2	84		
通年	英語専門講読(黒人表現文化)	三吉 美加	水3	4	2	85		

「国際コミュニケーション」部門

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
通年	英語専門講読(米国の東アジア政策)	阿部 純一	土2	4	2	86		
春学期	英語専門講読(アジア太平洋地域の政治・経済・国際関係)	金子 芳樹	月4/月5	4	2	87		
通年	英語専門講読(現代国際関係)	佐野 康子	木3	4	2	88		
通年	英語専門講読(各種英文ビジネス文書の読み方と実務)	杉山 晴信	水1	4	2	89		
通年	英語専門講読(アジア太平洋の安全保障)	竹田 いさみ	火2	4	2	90		
通年	英語専門講読(現代国際関係論)	永野 隆行	月4	4	2	91		

英作文

[既修条件]英語ライティング・ストラテジーズ またはレベルCを修得していること
[定員28名]

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
01249	通年	英作文	遠藤 朋之	木3	4	2		92
01480	通年	英作文	岡田 誠一	月4	4	2		93
00821	通年	英作文	金子 節也	月3	4	2		94
01152	通年	英作文	川崎 潔	木3	4	2		95
01142	通年	英作文	鈴木 英一	火4	4	2		96
01138	通年	英作文	中村 粲	火3	4	2		97
01504	通年	英作文	福井 嘉彦	木1	4	2		98
01425	通年	英作文	藤田 永祐	金2	4	2		99

英語エッセイ・ライティング

[既修条件]英語パラグラフ・ライティング、英作文またはレベルBを修得していること
[定員28名]

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
01144	通年	英語エッセイ・ライティング	J. ウォールドマン	木2	4	2		100
00720	通年	英語エッセイ・ライティング	L. K. ハーキンス	月2	4	2		101
00721	通年	英語エッセイ・ライティング	M. ウーラートン	木4	4	2		102
01089	通年	英語エッセイ・ライティング	M. フッド	水4	4	2		103
01160	通年	英語エッセイ・ライティング	N. H. ジョスト	月1	4	2		104
08736	通年	英語エッセイ・ライティング	R. J. バロウズ	木2	4	2		105
01074	通年	英語エッセイ・ライティング	R. ジョーンズ	月3	4	2		106
00788	通年	英語エッセイ・ライティング	R. ダラム	木1	4	2		107
01075	通年	英語エッセイ・ライティング	T. J. フォトス	水2	4	2		108
01508	通年	英語エッセイ・ライティング	W. J. ベンフィールド	水3	4	2		109
08779	通年	英語エッセイ・ライティング	鈴木 眞奈美	月2	4	2		110

英日翻訳

[既修条件]英語リーディング・ストラテジーズおよびREADING COMPREHENSIONまたはHONORS ENGLISH 1またはレベルCを修得していること
[定員25名]

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
01188	通年	英日翻訳	遠藤 朋之	木2	4	2		111
01111	通年	英日翻訳	北澤 滋久	火3	4	2		112
01514	通年	英日翻訳	高田 宣子	火5	4	2		113
10277	通年	英日翻訳	藤田 永祐	木1	4	2		114

カレッジ・グラマー

[既修条件]英語リーディング・ストラテジーズおよびREADING COMPREHENSIONまたはHONORS ENGLISH 1またはレベルCを修得していること
[定員32名]

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
11530	通年	カレッジ・グラマー	鈴木 英一	木2	4	2		115
11395	通年	カレッジ・グラマー	府川 謹也	水1	4	2		116
11400	通年	カレッジ・グラマー	本田 謙介	月2	4	2		117
11527	通年	カレッジ・グラマー	毛利 秀高	木3	4	2		118

COMMUNICATIVE ENGLISH I

[既修条件]SPEECH COMMUNICATIONまたはレベルCを修得していること
[定員28名]

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
01097	通年	CommunicativeEngl. I	D. マツキャン	木2	4	2		119
01140	通年	CommunicativeEngl. I	E. J. ナオウミ	木2	4	2		120

00820	通年	CommunicativeEngl. I	E. カーニィ	水1	4	2	121
01044	通年	CommunicativeEngl. I	K. ミーハン	金3	4	2	122
01148	通年	CommunicativeEngl. I	M. デル ベツキオ	水3	4	2	123
01254	通年	CommunicativeEngl. I	N. ハミルトン	火1	4	2	124
00722	通年	CommunicativeEngl. I	P. アップス	水2	4	2	125
01082	通年	CommunicativeEngl. I	P. アップス	水3	4	2	125
00718	通年	CommunicativeEngl. I	P. M. ホーネス	月1	4	2	126
00702	通年	CommunicativeEngl. I	P. M. ホーネス	木1	4	2	126
01331	通年	CommunicativeEngl. I	R. M. ベイン	月2	4	2	127
00729	通年	CommunicativeEngl. I	R. ダラム	木2	4	2	128
01022	通年	CommunicativeEngl. I	T. J. フォトス	月1	4	2	129
00853	通年	CommunicativeEngl. I	T. J. フォトス	月3	4	2	129
00957	通年	CommunicativeEngl. I	T. ヒル	火2	4	2	130

COMMUNICATIVE ENGLISH II

[既修条件]ADVANCED SPEECH COMMUNICATION、COMMUNICATIVE ENGLISH I またはレベルBを修得していること

[定員25名]

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
00992	通年	CommunicativeEngl. II	C. B. 池口	火4	4	2		131
00928	通年	CommunicativeEngl. II	D. L. ブランケン	水3	4	2		132
08801	通年	CommunicativeEngl. II	D. マツキヤン	木1	4	2		133
01332	通年	CommunicativeEngl. II	K. ミーハン	月2	4	2		134
01145	通年	CommunicativeEngl. II	M. デル ベツキオ	木3	4	2		135
01453	通年	CommunicativeEngl. II	M. フッド	水2	4	2		136
00737	通年	CommunicativeEngl. II	N. ハミルトン	月1	4	2		137
00787	通年	CommunicativeEngl. II	N. ハミルトン	火2	4	2		137
06406	通年	CommunicativeEngl. II	P. アップス	火3	4	2		138
06307	通年	CommunicativeEngl. II	R. J. パロウズ	火1	4	2		139
01465	通年	CommunicativeEngl. II	R. ジョーンズ	水3	4	2		140
01219	通年	CommunicativeEngl. II	R. ダラム	火2	4	2		141
00742	通年	CommunicativeEngl. II	T. J. フォトス	水1	4	2		142

DISCUSSION

[既修条件]ADVANCED SPEECH COMMUNICATION、COMMUNICATIVE ENGLISH I またはレベルBを修得していること

[定員20名]

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
00789	通年	Discussion	D. L. ブランケン	水2	4	2		143
01096	通年	Discussion	N. H. ジョスト	火2	4	2		144
11227	通年	Discussion	R. ダラム	木3	4	2		145
00837	通年	Discussion	W. J. ベンフィールド	木2	4	2		146

PUBLIC SPEAKING I

[既修条件]ADVANCED SPEECH COMMUNICATION、COMMUNICATIVE ENGLISH I またはレベルBを修得していること

[定員25名]

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
08410	通年	PublicSpeaking I	A. R. ファルヴォ	金1	4	1		147
01339	通年	PublicSpeaking I	E. カーニィ	月1	4	1		148
11521	通年	PublicSpeaking I	鍋倉 健悦	火3	4	1		149

PUBLIC SPEAKING II

[既修条件]ADVANCED SPEECH COMMUNICATION、COMMUNICATIVE ENGLISH I またはレベルAを修得していること

[定員25名]

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
08411	通年	PublicSpeaking II	P. マッケビリー	金2	4	2		150

DEBATE I

[既修条件]ADVANCED SPEECH COMMUNICATION、COMMUNICATIVE ENGLISH I またはレベルBを修得していること

[定員25名]

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
00851	通年	Debate I	P. M. ホーネス	木2	4	1		151
11215	通年	Debate I	R. J. パロウズ	火2	4	1		152
01072	通年	Debate I	柿田 秀樹	木3	4	1		153

DEBATE II

[既修条件]ADVANCED SPEECH COMMUNICATION、COMMUNICATIVE ENGLISH I またはレベルAを修得していること

[定員25名]

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
08807	通年	Debate II	N. H. ジョスト	月3	4	2		154

通訳 I

[既修条件]ADVANCED SPEECH COMMUNICATION、COMMUNICATIVE ENGLISH I またはレベルBを修得していること

[定員25名]

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
00733	通年	通訳 I	原口 友子	月2	4	1		155
08783	通年	通訳 I	原口 友子	月4	4	1		155

通訳 II

[既修条件]通訳 I またはレベルAを修得していること

[定員25名]

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
00796	通年	通訳 II	原口 友子	月3	4	2		156

英語ビジネス・コミュニケーション I

[既修条件]英語リーディング・ストラテジーズおよびREADING COMPREHENSIONまたはHONORS ENGLISH 1またはレベルCを修得していること

[定員50名]

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
01459	通年	英語ビジネス・コミュニケーション I	海老沢 達郎	金3	4	2		157
01433	通年	英語ビジネス・コミュニケーション I	杉山 晴信	水2	4	2		158
01299	通年	英語ビジネス・コミュニケーション I	杉山 晴信	木3	4	2		159
00739	通年	英語ビジネス・コミュニケーション I	信 達郎	月1	4	2		160
10675	通年	英語ビジネス・コミュニケーション I	信 達郎	月2	4	2		160

英語ビジネス・コミュニケーション II

[既修条件]英語リーディング・ストラテジーズおよびREADING COMPREHENSIONまたはHONORS ENGLISH 1またはレベルBを修得していること

[定員45名]

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
01356	通年	英語ビジネス・コミュニケーション II	杉山 晴信	金3	4	2		161

メディア英語 I

[既修条件]英語リーディング・ストラテジーズおよびREADING COMPREHENSION またはHONORS ENGLISH 1またはレベルCを修得していること

[定員40名]

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
01147	通年	メディア英語 I	W. J. ベンフィールド	水2	4	2		162
09085	通年	メディア英語 I	海老沢 達郎	火4	4	2		163

01298	通年	メディア英語Ⅰ	岡田 誠一	月3	4	2	164
01355	通年	メディア英語Ⅰ	岡田 誠一	木4	4	2	164
00815	通年	メディア英語Ⅰ	金子 節也	月4	4	2	165
11554	通年	メディア英語Ⅰ	佐野 康子	金3	4	2	166

メディア英語Ⅱ

[既修条件]英語リーディング・ストラテジーズおよびREADING COMPREHENSIONまたはHONORS ENGLISH 1またはレベルBを修得していること

[定員40名]

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
01260	通年	メディア英語Ⅱ	A. R. ファルヴォ	月1	4	2		167
00973	通年	メディア英語Ⅱ	川島 浩美	水2	4	2		168

シネマ英語

[既修条件]英語リーディング・ストラテジーズおよびREADING COMPREHENSIONまたはHONORS ENGLISH 1またはレベルBを修得していること

[定員35名]

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
00861	通年	シネマ英語	岡田 誠一	木3	4	2		169

第二外国語

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
08877	通年	ドイツ語ⅢB〔文章表現法〕	田島 加奈子	木2	2	3	全	171
08985	通年	フランス語Ⅲ	近江屋 志穂	金2	2	3	全	172
01276	通年	スペイン語Ⅲ	北岸 団	月2	2	3	全	173
08984	通年	フランス語会話Ⅰ	L. フォンテーヌ	月2	2	3	全	174
01500	通年	スペイン語会話Ⅰ〔総合〕	J. フェレーラス	金5	2	3	全	175

学科専門科目

「言語情報」部門

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
11543	春学期	言語情報処理Ⅰa(定員50名)	木村 恵	木4	2	2		176
01509	春学期	言語情報処理Ⅰa(定員50名)	吉成 雄一郎	金2	2	2		177
11544	秋学期	言語情報処理Ⅰb(定員50名)	木村 恵	木4	2	2		176
01510	秋学期	言語情報処理Ⅰb(定員50名)	吉成 雄一郎	金2	2	2		177
01541	春学期	言語情報処理Ⅱa(定員40名)	吉成 雄一郎	金1	2	2		178
01542	秋学期	言語情報処理Ⅱb(定員40名)	吉成 雄一郎	金1	2	2		178
01347	春学期	統語論a	鈴木 英一	火2	2	2		179
01348	秋学期	統語論b	鈴木 英一	火2	2	2		179
00790	春学期	意味論a	小早川 暁	金3	2	2		180
00791	秋学期	意味論b	小早川 暁	金3	2	2		180
00799	春学期	音声・音韻論a	大西 雅行	火3	2	2		181
00800	秋学期	音声・音韻論b	大西 雅行	火3	2	2		181
09829	春学期	英語史a	毛利 秀高	木4	2	2		182
09830	秋学期	英語史b	毛利 秀高	木4	2	2		182
01149	春学期	英語学特殊講義a〔既修条件:英語学概論〕	府川 謹也	水2	2	2		183
01150	秋学期	英語学特殊講義b〔既修条件:英語学概論〕	府川 謹也	水2	2	2		183
08784	春学期	英語学文献研究a(定員25名)	小早川 暁	火1	2	3		184
08785	秋学期	英語学文献研究b(定員25名)	小早川 暁	火1	2	3		184

「文学文化」部門

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
08822	春学期	英米の小説a(定員100名)	藤田 永祐	金3	2	2		185
09059	秋学期	英米の小説b(定員100名)	北澤 滋久	木3	2	2		185

01151	春学期	英米の詩a(定員100名)	原 成吉	火2	2	2	186
01156	秋学期	英米の詩b(定員100名)	白鳥 正孝	月4	2	2	186
00843	春学期	英米の演劇a(定員100名)	児嶋 一男	月3	2	2	187
00844	秋学期	英米の演劇b(定員100名)	児嶋 一男	月3	2	2	187
01166	秋学期	英米文学文献研究b(定員25名)	原 成吉	火2	2	3	193
00740	春学期	英米の社会と思想a(定員100名)	福井 嘉彦	火2	2	2	188
00741	秋学期	英米の社会と思想b(定員100名)	福井 嘉彦	火2	2	2	188
01295	春学期	英米の歴史a	佐藤 唯行	木2	2	2	189
01296	秋学期	英米の歴史b	佐藤 唯行	木2	2	2	189
01211	春学期	英米事情a(定員200名)	白鳥 正孝	水3	2	2	190
01212	秋学期	英米事情b(定員200名)	白鳥 正孝	水3	2	2	190
01006	春学期	英語圏文化特殊講義a	上野 直子	木3	2	3	191
11538	秋学期	英語圏文化特殊講義b	片山 亜紀	月4	2	3	191

「国際コミュニケーション」部門

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
00817	春学期	国際政治論a(a,bは担当者を変えて履修すること)	金子 芳樹	月3	2	2		201
00818	春学期	国際政治論a(a,bは担当者を変えて履修すること)	竹田 いさみ	月3	2	2		202
00819	秋学期	国際政治論b(a,bは担当者を変えて履修すること)	竹田 いさみ	月3	2	2		201
00816	秋学期	国際政治論b(a,bは担当者を変えて履修すること)	永野 隆行	月3	2	2		202
00743	春学期	国際関係史a	永野 隆行	月2	2	2	法	203
00732	秋学期	国際関係史b	永野 隆行	月2	2	2	法	203
00945	春学期	国際開発協力論a	竹田 いさみ	火3	2	2		204
00917	秋学期	国際開発協力論b	佐野 康子	金2	2	2		204
11798	春学期	国際関係論特殊講義a	石川 幸子	金2	2	2		205
01501	春学期	国際関係論特殊講義a	金子 芳樹	火2	2	2		206
10614	春学期	国際関係論特殊講義b	金子 芳樹	水1	2	2		206
01502	秋学期	国際関係論特殊講義b	竹田 いさみ	火3	2	2		207
01556	春学期	国際関係論文献研究a(定員25名)	阿部 純一	土3	2	3		208
00935	春学期	国際関係論文献研究a(定員25名)	竹田 いさみ	火1	2	3		209
01557	秋学期	国際関係論文献研究b(定員25名)	阿部 純一	土3	2	3		208
00961	秋学期	国際関係論文献研究b(定員25名)	竹田 いさみ	火1	2	3		209
01434	春学期	異文化間コミュニケーション論a	工藤 和宏	金3	2	2		194
01238	春学期	異文化間コミュニケーション論a	鍋倉 健悦	月5	2	2		195
01435	秋学期	異文化間コミュニケーション論b	工藤 和宏	金3	2	2		194
01239	秋学期	異文化間コミュニケーション論b	鍋倉 健悦	月5	2	2		195
01393	春学期	マス・コミュニケーション論a	佐々木 輝美	木3	2	2		196
01394	秋学期	マス・コミュニケーション論b	佐々木 輝美	木3	2	2		196
01108	春学期	スピーチ・コミュニケーション論a	板場 良久	月2	2	2		197
00977	春学期	スピーチ・コミュニケーション論a	柿田 秀樹	火4	2	2		198
01169	秋学期	スピーチ・コミュニケーション論b	板場 良久	月2	2	2		197
00978	秋学期	スピーチ・コミュニケーション論b	柿田 秀樹	火4	2	2		198
01360	春学期	コミュニケーション論特殊講義a	町田 喜義	水2	2	3		199
01361	秋学期	コミュニケーション論特殊講義b	町田 喜義	水2	2	3		199
00975	春学期	コミュニケーション論文献研究a(定員25名)	板場 良久	火3	2	3		200
01511	秋学期	コミュニケーション論文献研究b(定員25名)	板場 良久	火3	2	3		200
10222	春学期	特別セミナー(CAEL)(定員60名)	J. スティベンソン	水2	2	2		210
10223	秋学期	特別セミナー(CAEL)(定員60名)	J. スティベンソン	水2	2	2		210

◆「外国語学部共通科目」は『全学共通授業科目シラバス』に掲載しています。

学則別表(1998年～2001年度入学者用)

科目群	部門	科目	単位	言語情報コース			文学文化コース			国際コミュニケーションコース		
				必修	選択必修	選択	必修	選択必修	選択	必修	選択必修	選択
学科基礎科目	第2外国語	ドイツ語Ⅰ	2									
		フランス語Ⅰ	2	4			4			4		
		スペイン語Ⅰ	2									
		ドイツ語Ⅱ	2									
		フランス語Ⅱ	2	4			4			4		
	スペイン語Ⅱ	2										
	英語	英語Ⅰ	2	4			4			4		
		英語Ⅱ	2	2			2			2		
		英語Ⅲ	2	2			2			2		
		英語Ⅳ	2	2			2			2		
英語学概論		4	4			4			4			
英米文学概論		4	4			4			4			
国際コミュニケーション概論		4	4			4			4			
学科共通科目	英語	英語音声学	*2	2			2			2		
		スピーチ・クリニック	*2									
		専門講義	4	12			12			12		
		英作文	4									
		エッセイ・ライティング	4									
		翻訳Ⅰ	4		4			4			4	
		翻訳Ⅱ	4									
		英文法	4									
		ConversationⅠ	4									
		ConversationⅡ	4									
第2外国語	英語	Discussion	4									
		スピーチ	4		4			4			4	
		ディベート	4									
		通訳Ⅰ	4									
		通訳Ⅱ	4									
		ビジネス英語Ⅰ	4									
		ビジネス英語Ⅱ	4									
		時事英語Ⅰ	4									
		時事英語Ⅱ	4									
		ドイツ語Ⅲ	2			20					24	
言語情報	英語	フランス語Ⅲ	2									
		スペイン語Ⅲ	2									
		ドイツ語Ⅳ	2									
		フランス語Ⅳ	2									
		スペイン語Ⅳ	2									
		ドイツ語会話Ⅰ	2									
		フランス語会話Ⅰ	2									
		スペイン語会話Ⅰ	2									
		ドイツ語会話Ⅱ	2									
		フランス語会話Ⅱ	2									
文学文化	英語	スペイン語会話Ⅱ	2									
		言語情報地理Ⅰa	*2									
		言語情報地理Ⅰb	*2									
		言語情報地理Ⅱa	*2	4								
		言語情報地理Ⅱb	*2									
		統語論a	*2	2								
		統語論b	*2	2								
		意味論a	*2									
		意味論b	*2									
		音声・音韻論a	*2									
音声・音韻論b	*2			12								
国際コミュニケーション	英語	英語史a	*2									
		英語史b	*2									
		英語学特殊講義a	*2									
		英語学特殊講義b	*2									
		英語学文献研究a	*2									
		英語学文献研究b	*2									
		英米文学史a	*2				2					
		英米文学史b	*2				2					
		英米の小説a	*2									
		英米の小説b	*2									
国際コミュニケーション	英語	英米の詩a	*2									
		英米の詩b	*2									
		英米の演劇a	*2									
		英米の演劇b	*2									
		英語圏文学特殊講義a	*2									
		英語圏文学特殊講義b	*2									
		英米文学文献研究a	*2					16				
		英米文学文献研究b	*2									
		英米の社会と思想a	*2									
		英米の社会と思想b	*2									
国際コミュニケーション	英語	英米の政治と経済a	*2									
		英米の政治と経済b	*2									
		英米の歴史a	*2									
		英米の歴史b	*2									
		英米事情a	*2									
		英米事情b	*2									
		英語圏文化特殊講義a	*2									
		英語圏文化特殊講義b	*2									
		英米文化文献研究a	*2									
		英米文化文献研究b	*2									
国際コミュニケーション	英語	国際政治論a	*2							2		
		国際政治論b	*2							2		
		国際関係史a	*2									
		国際関係史b	*2									
		国際開発協力論a	*2									
		国際開発協力論b	*2									
		国際関係論特殊講義a	*2									
		国際関係論特殊講義b	*2									
		国際関係論文献研究a	*2									
		国際関係論文献研究b	*2									
国際コミュニケーション	英語	異文化間コミュニケーション論a	*2							2		
		異文化間コミュニケーション論b	*2							2		
		マス・コミュニケーション論a	*2									
		マス・コミュニケーション論b	*2									
		スピーチ・コミュニケーション論a	*2									
		スピーチ・コミュニケーション論b	*2									
		コミュニケーション論特殊講義a	*2									
		コミュニケーション論特殊講義b	*2									
		コミュニケーション論文献研究a	*2									
		コミュニケーション論文献研究b	*2									
特別セミナー	英語	卒業論文	4									
		外国語学部共通科目(別表Ⅰ-5)	4	28			28			28		
		演習	4	8			8			8		
卒業に必要な単位数				76	36	20	76	32	24	80	28	24
					132			132		132		

備考
 (1) *は、半期完結科目を現す。
 (2) 第2外国語部門からは一言語を選択する。
 (3) 言語情報コースの言語情報処理については、ⅠかⅡのいずれから4単位を修得する。ⅠとⅡを組み合わせることはできない。
 (4) 卒業に必要な選択科目のうち20単位までは、他学部または他学科および教職課程授業科目の単位をもって代用できる。ただし、他学部科目の単位は、8単位以内(教職課程授業科目の4単位を含む)とする。
 なお、教職課程授業科目の単位の代用について別に定める。

○ 本表は、1998年度入学者から適用する。

英語学科授業科目（2001年度以前入学生用）

目次

学科基礎科目

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
	通年	英語 I [ReadingSt.]	各担当教員		2	1	全	25
	通年	英語 I [ReadingSt.]	各担当教員		2	1	全	25
	通年	英語 I [ReadingCom.]	各担当教員		2	1	全	26
	通年	英語 III [SpeechCom.]	各担当教員		2	1	全	23
	通年	英語 IV [WritingSt.]	各担当教員		2	1	全	24
12124	通年	英語 II [講読]	小早川 暁	火2	2	2	全	43
12103	通年	英語 II [講読]	佐野 康子	火4	2	2	全	44
11571	通年	英語学概論	鈴木 英一／府川 謹也	木4／金4	4	1		13/15
11567	通年	英語学概論	鈴木 英一／安井 美代子	木4／木1	4	1		13/14
11570	通年	英語学概論	府川 謹也／鈴木 英一	金2／木4	4	1		15/13
11572	通年	英語学概論	府川 謹也／安井 美代子	金2／木1	4	1		15/14
11568	通年	英語学概論	安井 美代子／鈴木 英一	木1／木4	4	1		14/13
11569	通年	英語学概論	安井 美代子／府川 謹也	木1／金4	4	1		14/15
11577	通年	英米文学概論	上野/北澤/児嶋/原/高橋	木4／水1	4	1		16/17
11578	通年	英米文学概論	上野/北澤/児嶋/原/高橋	木5／水1	4	1		16/17
12104	通年	国際コミュニケーション概論	柿田 秀樹／永野 隆行	水2／水2	4	1	言	19/22
11588	通年	国際コミュニケーション概論	工藤 和宏／永野 隆行	月5／水2	4	1	言	20/22
12105	通年	国際コミュニケーション概論	永野 隆行／柿田 秀樹	水2／水2	4	1	言	22/19
11589	通年	国際コミュニケーション概論	永野 隆行／工藤 和宏	水2／月5	4	1	言	22/20
11091	春学期	英語音声学	青柳 真紀子	火1	2	1		11
11093	春学期	英語音声学	大西 雅行	木1	2	1		12
11092	秋学期	英語音声学	青柳 真紀子	火1	2	1		11
11094	秋学期	英語音声学	大西 雅行	木1	2	1		12
	春学期	スピーチ・クリニック(2年生以上用)(定員20名)	清水 由理子	金2	2	2		45
	秋学期	スピーチ・クリニック(2年生以上用)(定員20名)	清水 由理子	金2	2	2		45

学科共通科目

レベルはTOEIC®・TOEFL®のスコアによって次の3つのレベルにきめられています。

レベルA・・・TOEIC®700点以上・TOEFL®520点以上を取得している者

レベルB・・・TOEIC®600点以上・TOEFL®480点以上を取得している者

レベルC・・・TOEIC®500点以上・TOEFL®440点以上を取得している者

*レベルが[既修条件]となっている科目を履修する場合は、TOEICまたはTOEFLのスコアを証明する書類のコピーを教務課外国語学部担当係まで提出してください。

専門講読

★各部門の専門講読は登録のコースと関係なくすべての部門から履修することができます

[既修条件]英語 I [Reading Strategies]および英語 I [Reading Comprehension]を修得していること

[定員32名]

「言語コミュニケーション」部門

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
	通年	専門講読(Learning Bow)	J. J. ダゲン	木2	4	2		46
	通年	専門講読(Sociolinguistics)	T. ヒル	月2	4	2		47

通年	専門講読(Exploring Learning)	T. マーフィー	火1	4	2	48
通年	専門講読(音声入門)	青柳 真紀子	火3	4	2	49
通年	専門講読(Exploring Language Teaching)	浅岡 千利世	金1	4	2	50
通年	専門講読(いろいろな英語発音)	大西 雅行	水1	4	2	51
通年	専門講読(The Authorized Version(欽定訳聖書)を読む)	川崎 潔	木2	4	2	52
通年	専門講読(認知意味論)	小早川 暁	金4	4	2	53
通年	専門講読(人間言語の普遍的特徴)	鈴木 英一	水1	4	2	54
通年	専門講読(ニュースや名スピーチのスク립トを読む)	鍋倉 健悦	月4	4	2	55
通年	専門講読(認知意味論入門)	府川 謹也	火1	4	2	56
通年	専門講読(単語のsmall-worldネットワークと文構造)	安井 美代子	月2	4	2	57

「文学コミュニケーション」部門

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
通年	専門講読(James Joyce)	M. フッド	水3	4	2	58		
通年	専門講読(Black Britishの50年)	上野 直子	火3	4	2	59		
通年	専門講読(Bob Marleyの詩を読む)	遠藤 朋之	金2	4	2	60		
通年	専門講読(ヴァージニア・ウルフ入門)	片山 亜紀	木4	4	2	61		
通年	専門講読(アメリカ文学: John Steinbeckの作品を読む)	金谷 優子	金3	4	2	62		
通年	専門講読(The Man Who Died 精読)	北澤 滋久	火2	4	2	63		
通年	専門講読(オーストラリアの詩)	国見 晃子	火2	4	2	64		
通年	専門講読(英語圏の現代演劇)	児嶋 一男	火2	4	2	65		
通年	専門講読(英・米のユダヤ人史)	佐藤 唯行	水1	4	2	66		
通年	専門講読(物語を読む)	佐藤 勉	金3	4	2	67		
通年	専門講読(アメリカ小説)	島田 啓一	金3	4	2	68		
通年	専門講読(イギリス児童文学)	白鳥 正孝	月3	4	2	69		
通年	専門講読(日系アメリカ女性作家の声)	高田 宣子	火4	4	2	70		
通年	専門講読(アメリカ現代詩)	原 成吉	火3	4	2	71		
通年	専門講読(キリスト教とは)	福井 嘉彦	水1	4	2	72		
通年	専門講読(20世紀初期のイギリス小説)	藤田 永祐	木2	4	2	73		
通年	専門講読(シェイクスピア)	前沢 浩子	月2	4	2	74		

「異文化コミュニケーション」部門

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
通年	専門講読(Reading on Intercultural Communication)	C. B. 池口	火2	4	2	75		
通年	専門講読(LITERATURE AND COMMUNICATION)	E. カーニィ	火1	4	2	76		
通年	専門講読(Canadian Culture and Society)	K. ミーハン	月1	4	2	77		
通年	専門講読(異文化間コミュニケーション論)	石井 敏	金1	4	2	78		
通年	専門講読(「癒し」文化のコミュニケーション分析 I / II)	板場 良久	月1	4	2	79		
通年	専門講読(アメリカ黒人の歴史)	岡田 誠一	月2	4	2	80		
通年	専門講読(ヒッチコック映画の精神分析)	柿田 秀樹	火5	4	2	81		
通年	専門講読(異文化コミュニケーション)	川島 浩美	水3	4	2	82		
通年	専門講読(コミュニケーションと文化リテラシー)	工藤 和宏	月4	4	2	83		
通年	専門講読(異文化理解の視点)	瀬戸 千尋	火3	4	2	84		
通年	専門講読(黒人表現文化)	三吉 美加	水3	4	2	85		

「国際コミュニケーション」部門

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
通年	専門講読(米国の東アジア政策)	阿部 純一	土2	4	2	86		
春学期	専門講読(アジア太平洋地域の政治・経済・国際関係)	金子 芳樹	月4/月5	4	2	87		
通年	専門講読(現代国際関係)	佐野 康子	木3	4	2	88		
通年	専門講読(各種英文ビジネス文書の読み方と実務)	杉山 晴信	水1	4	2	89		
通年	専門講読(アジア太平洋の安全保障)	竹田 いさみ	火2	4	2	90		
通年	専門講読(現代国際関係論)	永野 隆行	月4	4	2	91		

英作文

[既修条件]英語IV[Writing Strategies]またはレベルCを修得していること
[定員28名]

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
01250	通年	英作文	遠藤 朋之	木3	4	2		92
01488	通年	英作文	岡田 誠一	月4	4	2		93
00832	通年	英作文	金子 節也	月3	4	2		94
01184	通年	英作文	川崎 潔	木3	4	2		95
01191	通年	英作文	鈴木 英一	火4	4	2		96
01176	通年	英作文	中村 粲	火3	4	2		97
01517	通年	英作文	福井 嘉彦	木1	4	2		98
01441	通年	英作文	藤田 永祐	金2	4	2		99

エッセイ・ライティング

[既修条件]英語IV[Paragraph Writing]または英作文またはレベルBを修得していること
[定員28名]

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
01180	通年	エッセイ・ライティング	J. ウォールドマン	木2	4	2		100
00748	通年	エッセイ・ライティング	L. K. ハーキンス	月2	4	2		101
00749	通年	エッセイ・ライティング	M. ウーラートン	木4	4	2		102
01116	通年	エッセイ・ライティング	M. フッド	水4	4	2		103
01186	通年	エッセイ・ライティング	N. H. ジョスト	月1	4	2		104
08735	通年	エッセイ・ライティング	R. J. バロウズ	木2	4	2		105
01114	通年	エッセイ・ライティング	R. ジョーンズ	月3	4	2		106
00824	通年	エッセイ・ライティング	R. ダラム	木1	4	2		107
01076	通年	エッセイ・ライティング	T. J. フォトス	水2	4	2		108
01519	通年	エッセイ・ライティング	W. J. ベンフィールド	水3	4	2		109
08778	通年	エッセイ・ライティング	鈴木 眞奈美	月2	4	2		110

翻訳 I

[定員25名]

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
01189	通年	翻訳 I	遠藤 朋之	木2	4	2		111
01127	通年	翻訳 I	北澤 滋久	火3	4	2		112
01521	通年	翻訳 I	藤田 永祐	木1	4	2		114

翻訳 II

[定員25名]

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
01524	通年	翻訳 II	高田 宣子	火5	4	3		113

英文法

[定員32名]

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
00834	通年	英文法	鈴木 英一	木2	4	2		115
09051	通年	英文法	府川 謹也	水1	4	2		116
00970	通年	英文法	本田 謙介	月2	4	2		117
09825	通年	英文法	毛利 秀高	木3	4	2		118

CONVERSATION I

[既修条件]英語III[Speech Communication]またはレベルCを修得していること
[定員28名]

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
01098	通年	Conversation I	D. マッキャン	木2	4	2		119
01177	通年	Conversation I	E. J. ナオウミ	木2	4	2		120

00830	通年	Conversation I	E. カーニィ	水1	4	2	121
01059	通年	Conversation I	K. ミーハン	金3	4	2	122
01183	通年	Conversation I	M. デル ベツキオ	水3	4	2	123
01261	通年	Conversation I	N. ハミルトン	火1	4	2	124
00750	通年	Conversation I	P. アップス	水2	4	2	125
01115	通年	Conversation I	P. アップス	水3	4	2	125
00746	通年	Conversation I	P. M. ホーネス	月1	4	2	126
00708	通年	Conversation I	P. M. ホーネス	木1	4	2	126
01369	通年	Conversation I	R. M. ペイン	月2	4	2	127
00752	通年	Conversation I	R. ダラム	木2	4	2	128
01023	通年	Conversation I	T. J. フォトス	月1	4	2	129
00870	通年	Conversation I	T. J. フォトス	月3	4	2	129
00966	通年	Conversation I	T. ヒル	火2	4	2	130

CONVERSATION II

[既修条件]英語Ⅲ[Advanced Speech Communication]またはConversation I またはレベルBを修得していること

[定員25名]

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
01040	通年	Conversation II	C. B. 池口	火4	4	2	131	
00930	通年	Conversation II	D. L. ブランケン	水3	4	2	132	
08800	通年	Conversation II	D. マツキャン	木1	4	2	133	
01370	通年	Conversation II	K. ミーハン	月2	4	2	134	
01181	通年	Conversation II	M. デル ベツキオ	木3	4	2	135	
01482	通年	Conversation II	M. フッド	水2	4	2	136	
00755	通年	Conversation II	N. ハミルトン	月1	4	2	137	
00823	通年	Conversation II	N. ハミルトン	火2	4	2	137	
00963	通年	Conversation II	P. アップス	火3	4	2	138	
06308	通年	Conversation II	R. J. バロウズ	火1	4	2	139	
01485	通年	Conversation II	R. ジョーンズ	水3	4	2	140	
01220	通年	Conversation II	R. ダラム	火2	4	2	141	
00757	通年	Conversation II	T. J. フォトス	水1	4	2	142	

DISCUSSION

[既修条件]英語Ⅲ[Advanced Speech Communication]またはConversation I またはレベルBを修得していること

[定員20名]

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
07223	通年	Discussion	D. L. ブランケン	水2	4	2	143	
01118	通年	Discussion	N. H. ジョスト	火2	4	2	144	
11508	通年	Discussion	R. ダラム	木3	4	2	145	
00825	通年	Discussion	W. J. ベンフィールド	木2	4	2	146	

スピーチ

[既修条件]英語Ⅲ[Advanced Speech Communication]またはConversation I またはレベルBを修得していること

[定員25名]

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
08414	通年	スピーチ	A. R. ファルヴォ	金1	4	2	147	
08412	通年	スピーチ	E. カーニィ	月1	4	2	148	
08413	通年	スピーチ	P. マッケビリー	金2	4	2	150	
00709	通年	スピーチ	鍋倉 健悦	火3	4	2	149	

ディベート

[既修条件]英語Ⅲ[Advanced Speech Communication]またはConversation I またはレベルBを修得していること

[定員25名]

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
08806	通年	ディベート	N. H. ジョスト	月3	4	2		154
00869	通年	ディベート	P. M. ホーネス	木2	4	2		151
11218	通年	ディベート	R. J. パロウズ	火2	4	2		152
01112	通年	ディベート	柿田 秀樹	木3	4	2		153

通訳 I

[既修条件]英語Ⅲ[Advanced Speech Communication]またはConversation I またはレベルBを修得していること

[定員25名]

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
00753	通年	通訳 I	原口 友子	月2	4	2		155
08782	通年	通訳 I	原口 友子	月4	4	2		155

通訳 II

[既修条件]通訳 I またはレベルAを修得していること

[定員25名]

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
00826	通年	通訳 II	原口 友子	月3	4	3		156

ビジネス英語 I

[定員50名]

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
01484	通年	ビジネス英語 I	海老沢 達郎	金3	4	2		157
01442	通年	ビジネス英語 I	杉山 晴信	水2	4	2		158
01315	通年	ビジネス英語 I	杉山 晴信	木3	4	2		159
00756	通年	ビジネス英語 I	信 達郎	月1	4	2		160
10676	通年	ビジネス英語 I	信 達郎	月2	4	2		160

ビジネス英語 II

[定員45名]

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
01380	通年	ビジネス英語 II	杉山 晴信	金3	4	3		161

時事英語 I

[定員40名]

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
01182	通年	時事英語 I	W. J. ベンフィールド	水2	4	2		162
09086	通年	時事英語 I	海老沢 達郎	火4	4	2		163
01314	通年	時事英語 I	岡田 誠一	月3	4	2		164
01379	通年	時事英語 I	岡田 誠一	木4	4	2		164
00829	通年	時事英語 I	金子 節也	月4	4	2		165
11555	通年	時事英語 I	佐野 康子	金3	4	2		166

時事英語 II

[定員40名]

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
01267	通年	時事英語 II	A. R. ファルヴォ	月1	4	3		167
00974	通年	時事英語 II	川島 浩美	水2	4	3		168

第二外国語

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
08877	通年	ドイツ語ⅢB〔文章表現法〕	田島 加奈子	木2	2	3	全	171
08985	通年	フランス語Ⅲ	近江屋 志穂	金2	2	3	全	172
01276	通年	スペイン語Ⅲ	北岸 団	月2	2	3	全	173
08984	通年	フランス語会話Ⅰ	L. フォンテーヌ	月2	2	3	全	174
01500	通年	スペイン語会話Ⅰ〔総合〕	J. フェレーラス	金5	2	3	全	175

学科専門科目

「言語情報」部門

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
11543	春学期	言語情報処理Ⅰa(定員50名)	木村 恵	木4	2	2		176
01509	春学期	言語情報処理Ⅰa(定員50名)	吉成 雄一郎	金2	2	2		177
11544	秋学期	言語情報処理Ⅰb(定員50名)	木村 恵	木4	2	2		176
01510	秋学期	言語情報処理Ⅰb(定員50名)	吉成 雄一郎	金2	2	2		177
01541	春学期	言語情報処理Ⅱa(定員40名)	吉成 雄一郎	金1	2	2		178
01542	秋学期	言語情報処理Ⅱb(定員40名)	吉成 雄一郎	金1	2	2		178
01347	春学期	統語論a	鈴木 英一	火2	2	2		179
01348	秋学期	統語論b	鈴木 英一	火2	2	2		179
00790	春学期	意味論a	小早川 暁	金3	2	2		180
00791	秋学期	意味論b	小早川 暁	金3	2	2		180
00799	春学期	音声・音韻論a	大西 雅行	火3	2	2		181
00800	秋学期	音声・音韻論b	大西 雅行	火3	2	2		181
09829	春学期	英語史a	毛利 秀高	木4	2	2		182
09830	秋学期	英語史b	毛利 秀高	木4	2	2		182
01149	春学期	英語学特殊講義a〔既修条件:英語学概論〕	府川 謹也	水2	2	2		183
01150	秋学期	英語学特殊講義b〔既修条件:英語学概論〕	府川 謹也	水2	2	2		183
08784	春学期	英語学文献研究a(定員25名)	小早川 暁	火1	2	3		184
08785	秋学期	英語学文献研究b(定員25名)	小早川 暁	火1	2	3		184

「文学文化」部門

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
08822	春学期	英米の小説a(定員100名)	藤田 永祐	金3	2	2		185
09059	秋学期	英米の小説b(定員100名)	北澤 滋久	木3	2	2		185
01151	春学期	英米の詩a(定員100名)	原 成吉	火2	2	2		186
01156	秋学期	英米の詩b(定員100名)	白鳥 正孝	月4	2	2		186
00843	春学期	英米の演劇a(定員100名)	児嶋 一男	月3	2	2		187
00844	秋学期	英米の演劇b(定員100名)	児嶋 一男	月3	2	2		187
01166	秋学期	英米文学文献研究b(定員25名)	原 成吉	火2	2	3		193
00740	春学期	英米の社会と思想a(定員100名)	福井 嘉彦	火2	2	2		188
00741	秋学期	英米の社会と思想b(定員100名)	福井 嘉彦	火2	2	2		188
01295	春学期	英米の歴史a	佐藤 唯行	木2	2	2		189
01296	秋学期	英米の歴史b	佐藤 唯行	木2	2	2		189
01211	春学期	英米事情a(定員200名)	白鳥 正孝	水3	2	2		190
01212	秋学期	英米事情b(定員200名)	白鳥 正孝	水3	2	2		190
01006	春学期	英語圏文化特殊講義a	上野 直子	木3	2	3		191
11538	秋学期	英語圏文化特殊講義b	片山 亜紀	月4	2	3		191

「国際コミュニケーション」部門

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
00817	春学期	国際政治論a(a,bは担当者を変えて履修すること)	金子 芳樹	月3	2	2		201
00818	春学期	国際政治論a(a,bは担当者を変えて履修すること)	竹田 いさみ	月3	2	2		202
00819	秋学期	国際政治論b(a,bは担当者を変えて履修すること)	竹田 いさみ	月3	2	2		201
00816	秋学期	国際政治論b(a,bは担当者を変えて履修すること)	永野 隆行	月3	2	2		202

00743	春学期	国際関係史a	永野 隆行	月2	2	2	法	203
00732	秋学期	国際関係史b	永野 隆行	月2	2	2	法	203
00945	春学期	国際開発協力論a	竹田 いさみ	火3	2	2		204
00917	秋学期	国際開発協力論b	佐野 康子	金2	2	2		204
11798	春学期	国際関係論特殊講義a	石川 幸子	金2	2	2		205
01501	春学期	国際関係論特殊講義a	金子 芳樹	火2	2	2		206
10614	春学期	国際関係論特殊講義b	金子 芳樹	水1	2	2		206
01502	秋学期	国際関係論特殊講義b	竹田 いさみ	火3	2	2		207
01556	春学期	国際関係論文献研究a(定員25名)	阿部 純一	土3	2	3		208
00935	春学期	国際関係論文献研究a(定員25名)	竹田 いさみ	火1	2	3		209
01557	秋学期	国際関係論文献研究b(定員25名)	阿部 純一	土3	2	3		208
00961	秋学期	国際関係論文献研究b(定員25名)	竹田 いさみ	火1	2	3		209
01434	春学期	異文化間コミュニケーション論a	工藤 和宏	金3	2	2		194
01238	春学期	異文化間コミュニケーション論a	鍋倉 健悦	月5	2	2		195
01435	秋学期	異文化間コミュニケーション論b	工藤 和宏	金3	2	2		194
01239	秋学期	異文化間コミュニケーション論b	鍋倉 健悦	月5	2	2		195
01393	春学期	マス・コミュニケーション論a	佐々木 輝美	木3	2	2		196
01394	秋学期	マス・コミュニケーション論b	佐々木 輝美	木3	2	2		196
01108	春学期	スピーチ・コミュニケーション論a	板場 良久	月2	2	2		197
00977	春学期	スピーチ・コミュニケーション論a	柿田 秀樹	火4	2	2		198
01169	秋学期	スピーチ・コミュニケーション論b	板場 良久	月2	2	2		197
00978	秋学期	スピーチ・コミュニケーション論b	柿田 秀樹	火4	2	2		198
01360	春学期	コミュニケーション論特殊講義a	町田 喜義	水2	2	3		199
01361	秋学期	コミュニケーション論特殊講義b	町田 喜義	水2	2	3		199
00975	春学期	コミュニケーション論文献研究a(定員25名)	板場 良久	火3	2	3		200
01511	秋学期	コミュニケーション論文献研究b(定員25名)	板場 良久	火3	2	3		200
10222	春学期	特別セミナー(CAEL)(定員60名)	J. スティベンソン	水2	2	2		210
10223	秋学期	特別セミナー(CAEL)(定員60名)	J. スティベンソン	水2	2	2		210

◆「外国語学部共通科目」は『全学共通授業科目シラバス』に掲載しています。

06年度以降	Lecture Workshop I	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Lecture Workshop classes will be a mixture of Mini-Lectures (short lectures) followed by activities in which you will reformulate and use the information (workshop-style). Students are asked to speak mostly English in classes and to turn in weekly assignments entailing reading, listening, speaking, watching videos, and writing. Students may be asked to keep a Portfolio of their work to show to each teacher at the end of the term, as well as self-evaluations and project work.</p> <p>In many of the classes YAHOO Groups will be used for out of class discussion and homework. Students are expected to sign up for the new Yahoo Groups immediately after the teacher assigns it. Students who are new to Yahoo Groups and wish to practice with one can send a message to mits@dokkyo.ac.jp saying, "Please sign me up for 1styearcommons dokkyo06" and you will be signed up. It's fun! This will be a place you can ask any questions. It will be moderated by older students who can answer your questions and the coordinator.</p>		<p><u>List of six-week courses (you will have only 4)</u> Alternative Learning Forms: T.Murphey, M. Suzuki Asian Englishes: C. Asaoka, E. Uchida Intro to Gender Studies: A. Katayama, N. Ueno Intro to Public Speaking: N. Jost, P. McEvelly Intro to Africa: E. Naoumi Intro to International Relations: P. Horness American History through Music: J. Waldman</p> <p>These short six-week courses are about a variety of interesting and useful content areas. Students will change classes each six weeks and will have a different teacher every six weeks (4 for the year). No students will have all the available topics but all will have a good variety.</p> <p>Because these courses are very short, ATTENDANCE is very important for students. Missing 1/3 of the classes (2) in any 6-week class is cause for failure. Please see your teacher for unavoidable sickness or absences.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Teachers will mostly use handouts and booklets to be distributed in class at minimal cost.		Evaluations are done by the individual teachers based upon participation and the amount and quality of work done for the class. Two teachers will combine their grades into one for a semester grade	

06年度以降	Lecture Workshop II	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Lecture Workshop classes will be a mixture of Mini-Lectures (short lectures) followed by activities in which you will reformulate and use the information (workshop-style). Students are asked to speak mostly English in classes and to turn in weekly assignments entailing reading, listening, speaking, watching videos, and writing. Students may be asked to keep a Portfolio of their work to show to each teacher at the end of the term, as well as self-evaluations and project work.</p> <p>In many of the classes YAHOO Groups will be used for out of class discussion and homework. Students are expected to sign up for the new Yahoo Groups immediately after the teacher assigns it. Students who are new to Yahoo Groups and wish to practice with one can send a message to mits@dokkyo.ac.jp saying, "Please sign me up for 1styearcommons dokkyo06" and you will be signed up. It's fun! This will be a place you can ask any questions. It will be moderated by older students who can answer your questions and the coordinator.</p>		<p><u>List of six-week courses (you will have only 4)</u> Alternative Learning Forms: T.Murphey, M. Suzuki Asian Englishes: C. Asaoka, E. Uchida Intro to Gender Studies: A. Katayama, N. Ueno Intro to Public Speaking: N. Jost, P. McEvelly Intro to Africa: E. Naoumi Intro to International Relations: P. Horness American History through Music: J. Waldman</p> <p>These short six-week courses are about a variety of interesting and useful content areas. Students will change classes each six weeks and will have a different teacher every six weeks (4 for the year). No students will have all the available topics but all will have a good variety.</p> <p>Because these courses are very short, ATTENDANCE is very important for students. Missing 1/3 of the classes (2) in any 6-week class is cause for failure. Please see your teacher for unavoidable sickness or absences.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Teachers will mostly use handouts and booklets to be distributed in class at minimal cost.		Evaluations are done by the individual teachers based upon participation and the amount and quality of work done for the class. Two teachers will combine their grades into one for a semester grade	

06年度以降	Comprehensive English I	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term twice-a-week class develops the range of English language skills (but with an emphasis on oral communication) by applying practical communication strategies to help build on those linguistic skills learned by students in high school.</p> <p>Overall Objectives: The following are the macro-level objectives for this course:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. To give students maximum opportunities to communicate (speak, listen, read and write). 2. To build student confidence in interpersonal communication. 3. To develop the basic study skills needed to successfully carry out their four years of English study at this institution. 		<p>授業予定は各担当教員から説明がなされる。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>Individual instructors are free to select their own text material, including any supplementary teaching material, and to use it in the manner they feel will best complete the above objectives.</p>		<p>Individual instructors are asked to determine a system of grading that is fair and consistent to the students, and best measures the classroom performance and overall improvement of the students communicative abilities.</p>	

06年度以降	Comprehensive English II	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term twice-a-week class helps students to learn how to improve their English language communication skills by introducing the organizational skills necessary to become a competent speaker and writer.</p> <p>Overall Objectives: The following are the macro-level objectives for this course:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. To develop in the students a good grounding in the organization skills of speech communication and writing. 2. To give students maximum opportunities to develop their speech delivery and writing skills. 3. To build student confidence in speech communication in front of a group. 		<p>授業予定は各担当教員から説明がなされる。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>Individual instructors are free to select their own text material, including any supplementary teaching material, and to use it in the manner they feel will best complete the above objectives.</p>		<p>Individual instructors are asked to determine a system of grading that is fair and consistent to the students, and best measures the classroom performance and overall improvement of the students communicative abilities.</p>	

06年度以降	Reading Strategies I	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[目標] 英語の語彙を増やししながら、日本語を介さず英語で考える能力を養い、併せて外国の文化や文学を理解する力をつける。将来、英語圏で学習する場合にも役立つような基礎的な読解スキルを学習する。</p> <p>[概要] 各担当教員が選定した教材を用いる。 読解スキルとしては、Previewing and Predicting; Recognizing patterns in paragraphs; Recognizing patterns of text organizationなどが含まれる。 このほか、語彙を身につけるために、「E-learning (Comprehensive) I」の Powerwords で学んだ語彙の Quiz(小テスト)を授業中に行う。テストは1回3 units ずつで、春学期中に10回実施される。テストの点数は、このコースの評価に加えられる。Group Aの学生に対しても、Group Bレベルの Quizが Reading Strategies(RS)の授業時間に行われ、RSの評価に加えられる。 (「E-learning (Comprehensive) I」を参照)</p>		各担当教員が開講時に説明する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
各担当教員が指示する。		各担当教員が開講時に説明する。	

06年度以降	Reading Strategies II	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[目標] 「Reading Strategies I」に引き続き、英語の語彙力をつけながら、日本語を介さないで読む直読直解の力と外国の文化や文学を理解する力をつける。また、「Reading Strategies I」で身につけた基礎的な読解スキルを定着させ、発展させる。</p> <p>[概要] 各教員が選定した教材を用いる。 秋学期は、次のような読解スキルを学ぶ。Previewing and Predicting; Recognizing patterns of text organization; Making inferences; Outliningなど。 この学期も語彙力をつけるため、Powerwords で学んだ語彙の Quizを授業中に行う。テストは1回3 units ずつで、学期中に10回実施される。テストの点数は、このコースの評価に加えられる。Group Aの学生についても同様。(「E-learning (Comprehensive) II」を参照) 10月には、図書館の利用方法に慣れるため、クラス別に図書館ガイダンスが行われる。</p>		各担当教員が開講時に説明する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
各担当教員が指示する。		各担当教員が開講時に説明する。	

06年度以降	Writing Strategies	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This is a one-term-long class that students work on sentence-level writing so that they can review what they learned in high school and move on to the introductory academic writing. Accuracy is the main focus; however, students should be provided with some free writing exercises where they can practice fluency as the same time.</p> <p>The objectives of this class are to help students:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. to write grammatical sentences 2. to increase the students' awareness of the common grammatical problems in writing made by EFL students 3. to introduce self-help strategies so that they can analyze their problems and revise their writing (ex. Teachers should use an error awareness sheet in order to help their students aware of what their errors are and to help them decide which errors to work on first.) 		<p><u>Recommended Topics:</u></p> <p>Verb tenses</p> <p>Sentence structure</p> <p>Modals (necessity, certainty etc.)</p> <p>Conditional</p> <p>Passives</p> <p>Relative Clauses</p> <p>Noun Clauses</p> <p>Free writing/Rush writing</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
There are no set texts for this course, so the decision is left to the discretion of individual instructors.		The decision is left to the discretion of individual instructors.	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

06 年度以降	Paragraph Writing	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The department would like the students to be taught how to write a unified, coherent paragraph which is a basic unit of composition common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English.</p> <p><u>Overall Objectives:</u></p> <ol style="list-style-type: none"> To provide an overview of what constitutes a 'good' paragraph (ex. topic sentence, supporting sentences) To teach the various patterns of paragraph organizations To help students write clear and focused structures To help students analyze their problems and revise their writing <p>Students should write at least two 300-word-long paragraphs and have a chance to revise it.</p>		<p><u>Recommended Topics:</u></p> <p>What is a paragraph? Planning what they write Topic vs topic sentence Writing a topic sentence of a paragraph Supporting topic sentences (ex. giving examples, enumeration, giving a definition, cause and effect, comparison and contrast) Revising what they write Free writing/ Rush writing</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
There are no set texts for this course, so the decision is left to the discretion of individual instructors.		The decision is left to the discretion of individual instructors.	

06 年度以降	Paragraph Writing	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The department would like the students to be taught how to write a unified, coherent paragraph which is a basic unit of composition common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English.</p> <p><u>Overall Objectives:</u></p> <ol style="list-style-type: none"> To provide an overview of what constitutes a 'good' paragraph (ex. topic sentence, supporting sentences) To teach the various patterns of paragraph organizations To help students write clear and focused structures To help students analyze their problems and revise their writing <p>Students should write at least two 300-word-long paragraphs and have a chance to revise it.</p>		<p><u>Recommended Topics:</u></p> <p>What is a paragraph? Planning what they write Topic vs topic sentence Writing a topic sentence of a paragraph Supporting topic sentences (ex. giving examples, enumeration, giving a definition, cause and effect, comparison and contrast) Revising what they write Free writing/ Rush writing</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
There are no set texts for this course, so the decision is left to the discretion of individual instructors.		The decision is left to the discretion of individual instructors.	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

06年度以降	Basic Essay Writing	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The goal in the essay writing course is to develop students' writing and thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing about familiar ideas to writing about more complex and academic ones.</p> <p><u>Overall Objectives:</u></p> <ol style="list-style-type: none"> To provide an overview of what constitutes a 'good' basic essay (ex. introduction, a thesis statement, supporting details, conclusion) To teach the various patterns of essay organizations To help students plan and revise an essay To help students write clear and focused paragraphs <p>Students should write at least one 5-paragraph-level essay including an introduction and a conclusion and have a chance to revise it.</p>		<p><u>Recommended Topics:</u></p> <p>Brainstorming and narrowing down the topic</p> <p>Writing an introduction</p> <p>Writing cohesive paragraphs</p> <p>Writing a conclusion</p> <p>Narrating (ex. unforgettable event)</p> <p>Describing (ex. a person you admire, a favorite place, a celebration, a process)</p> <p>Explaining (ex. the origin of a name, your learning style)</p> <p>Informing (ex. an event, a famous person)</p> <p>Evaluating (ex. a movie, a story, an event, a person)</p> <p>Summarizing (ex. a movie, a story)</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
There are no set texts for this course, so the decision is left to the discretion of individual instructors.		The decision is left to the discretion of individual instructors. However, not only the final product but also the process of writing should be evaluated.	

06 年度以降	E-learning I (Short Essay)	担当者	木村 恵
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[授業目的] 英語学科 1 年の Group A の学生を対象とする。春学期の Paragraph Writing, 秋学期の Basic Essay Writing でパラグラフや短いエッセイを英語で書くための技術を学習するが、同時並行で行われるこの授業では、その技術を用いて多くのエッセイを書いていく実践練習を行う。レポート、小論文、卒業論文など、2 年次以降の専門科目の履修に必要なアカデミック・ライティングの実践・応用力を身につけることを目標とする。</p> <p>[授業概要] 米国 Educational Testing Service (ETS) が開発したライティング教材である <i>Criterion</i> を使用する。TOEFL のライティングテストで出題されるようなトピックに関してエッセイを書き、インターネットで提出する。コンピュータ・プログラムによって自動的に採点されたスコアと誤りに関するフィードバックを参照しながら、目標レベル達成を目指し、学習を繰り返す。週 1 回の対面授業では、受講者に共通して見られる誤りについての解説や、英作文支援教材・ツールの紹介などを行う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 全体フィードバック, 英作文支援教材・ツールの紹介 3. 全体フィードバック, 英作文支援教材・ツールの紹介 4. 全体フィードバック, 英作文支援教材・ツールの紹介 5. 全体フィードバック, 英作文支援教材・ツールの紹介 [エッセイ 1 提出 5 月 18 日(予定)] 6. 全体フィードバック, 英作文支援教材・ツールの紹介 7. 全体フィードバック, 個別対応 8. 全体フィードバック, 個別対応 9. 全体フィードバック, 個別対応 [エッセイ 2 提出 6 月 15 日(予定)] 10. 全体フィードバック, 個別対応 11. 全体フィードバック, 個別対応 12. 全体フィードバック, 個別対応 [エッセイ 3 提出 7 月 13 日(予定)] 	
テキスト、参考文献		評価方法	
使用しない。4 月の情報センターオリエンテーションで配布されるネットワークログインのためのパスワードの用紙を、最初の授業の際に必ず持参すること。		(1) <i>Criterion</i> を使用した毎週の学習記録と、(2) 教員に直接提出する 3 つのエッセイによる。	

06 年度以降	E-learning II (Short Essay)	担当者	木村 恵
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[授業目的] 春学期と同じ。 ただし、更なる分量、語彙的・文法的正確さ、パラグラフ構成(論理構成)の向上を目指す。</p> <p>[授業概要] 春学期同様 <i>Criterion</i> を使用する。 本学期は、一部のエッセイに関して、peer feedback (受講生同士によるフィードバック)を取り入れる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 全体フィードバック, peer feedback 3. 全体フィードバック, peer feedback 4. 全体フィードバック, peer feedback 5. 全体フィードバック, peer feedback [エッセイ 1 提出 10 月 26 日(予定)] 6. 全体フィードバック, peer feedback 7. 全体フィードバック, peer feedback, 個別対応 8. 全体フィードバック, peer feedback, 個別対応 9. 全体フィードバック, peer feedback, 個別対応 [エッセイ 2 提出 11 月 30 日(予定)] 10. 全体フィードバック, peer feedback, 個別対応 11. 全体フィードバック, peer feedback, 個別対応 12. 全体フィードバック, peer feedback, 個別対応 [エッセイ 3 提出 12 月 28 日(予定)] 	
テキスト、参考文献		評価方法	
なし		(1) <i>Criterion</i> を使用した毎週の学習記録と、(2) 教員に直接提出する 3 つのエッセイによる。	

06年度以降	E-learning I (Comprehensive)	担当者	安井 美代子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>英語学科1年のグループ B, C の学生を対象とする。Reading Strategies (RS) などの対面授業で教員から習ったスキルを自律学習によって定着、向上させることを目的とする。春学期初めの説明会と各学期の中間試験、期末試験を除いて一斉授業は行わない。各自が学内の PC 教室もしくは自宅でサーバーにアクセスして自分のペースで語彙、リスニング、リーディングなどの教材に取り組む。</p> <p>教材サーバーは以下の2つ。 Alc http://alc.dokkyo.ac.jp/n-acad/bin/le/wletop.asp Terra http://terra.dokkyo.ac.jp 教材はAlc/Terra の powerwords (PW), Alc/Terra の reading と Alc の listening の3つである。PW については春学期はグループ B はレベル4、グループ C はレベル3を学習する。reading、listening はグループ共通。春学期初めの説明会で学習の進め方、試験の出題形式など詳しく説明するので必ず出席すること。</p>		<p>4/12 第1回説明会 (図書館特別教室) 4/19 第2回説明会 (図書館特別教室) 4/26 (RS でのクイズ PW Units 1-3) 5/10 (RS でのクイズ PW Units 4-6) 5/17 (RS でのクイズ PW Units 7-9) 5/24 (RS でのクイズ PW Units 10-12) 5/31 中間試験 PW Units 13-21, Reading Units 1-20, Listening Units 1-20 (図書館特別教室) 6/7 (RS でのクイズ PW Units 22-24) 6/14 (RS でのクイズ PW Units 25-27) 6/21 (RS でのクイズ PW Units 28-30) 6/28 (RS でのクイズ PW Units 31-33) 7/5 (RS でのクイズ PW Units 34-36) 期末試験 PW Units 37-50, Reading Units 21-40, Listening Units 21-40</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
なし		<p>評価は中間/期末試験による。試験範囲は上記の通り。PW のそれぞれのレベルの Units 1-12 と 22-36 は 上記のスケジュールで RS の授業の中でクイズ(3 units ずつ9回)を行ない、RS の評価に含まれる。PW は最初の方の Unit をとばして後ろに進むことができないので、毎週確実に勉強すること。</p>	

06年度以降	E-learning II (Comprehensive)	担当者	安井 美代子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期と同じ。ただし、PW については秋学期はグループ B はレベル5、グループ C はレベル4を学習する。</p>		<p>9/27 自律学習 10/4 (RS でのクイズ PW Units 1-3) 10/11 (RS でのクイズ PW Units 4-6) 10/18 (RS でのクイズ PW Units 7-9) 10/25 (RS でのクイズ PW Units 10-12) 11/1 中間試験 PW Units 13-21, Reading Units 41-60, Listening Units 41-60 (図書館特別教室) 11/8 (RS でのクイズ PW Units 22-24) 11/15 (RS でのクイズ PW Units 25-27) 11/29 (RS でのクイズ PW Units 28-30) 12/6 (RS でのクイズ PW Units 31-33) 12/13 (RS でのクイズ PW Units 34-36) 12/20 自律学習 期末試験 PW Units 37-50, Reading Units 61-80, Listening Units 61-80</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
なし		<p>春学期と同じ。ただし、Reading, Listening の試験範囲は Units 41-80 (上記の授業計画を参照)。</p>	

06年度以降	Pronunciation Practice	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><u>講義目的</u> コミュニケーションにおいて、相手の言ったことが聞き取れ、また自分の言ったことが相手に通じることはとても重要である。この授業では、より英語らしい音声について理解し、練習を通して英語の聴解能力と発音技能の向上を目指す。</p> <p><u>講義概要</u> LL 教室において、聞き取りと発音の演習を行う。日本語音声との比較も交えて英語音声の特徴について学び、特に日本語話者の苦手な点について、練習する。 具体的には、個々の音（母音・子音）、音の連結、ストレス、イントネーションなどの学習をし、語句、短文、または長文を使って発話練習をする。</p>		各担当者による。	
テキスト、参考文献		評価方法	
各担当者による。		各担当者による。	

06年度以降	Pronunciation Practice	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><u>講義目的</u> コミュニケーションにおいて、相手の言ったことが聞き取れ、また自分の言ったことが相手に通じることはとても重要である。この授業では、より英語らしい音声について理解し、練習を通して英語の聴解能力と発音技能の向上を目指す。</p> <p><u>講義概要</u> LL 教室において、聞き取りと発音の演習を行う。日本語音声との比較も交えて英語音声の特徴について学び、特に日本語話者の苦手な点について、練習する。 具体的には、個々の音（母音・子音）、音の連結、ストレス、イントネーションなどの学習をし、語句、短文、または長文を使って発話練習をする。</p>		各担当者による。	
テキスト、参考文献		評価方法	
各担当者による。		各担当者による。	

06年度以降	Introductory Grammar	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>基本文法事項の継続的な学習を通して、英語学科の開設科目を受講するのに最低限求められる文法的知識を高めると共に、誤用の少ない英文を作成できる能力を養うことを目的とする。</p> <p>講義は、以下の内容からなる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 各担当教員による重要ポイントの解説と問題演習を行う。受講生が間違いやすい文法的事項や語句については、特に詳しく扱う。 2. 文法項目毎に重要な英文を各担当教員が選び、受講生は徹底した音読練習によって指定された英文を暗記する。 3. 1と2の方法で重要文法項目を学習した後は、TOEICやTOEFL等の総合問題演習を繰り返し行うことで、文法的誤謬に対する感受性を高める練習を積む。 		<p>授業予定は各担当教員から説明がなされる。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
各担当教員が指示する。		各担当教員が開講時に説明する。	

06年度以降	Introductory Grammar	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>基本文法事項の継続的な学習を通して、英語学科の開設科目を受講するのに最低限求められる文法的知識を高めると共に、誤用の少ない英文を作成できる能力を養うことを目的とする。</p> <p>講義は、以下の内容からなる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 4. 各担当教員による重要ポイントの解説と問題演習を行う。受講生が間違いやすい文法的事項や語句については、特に詳しく扱う。 5. 文法項目毎に重要な英文を各担当教員が選び、受講生は徹底した音読練習によって指定された英文を暗記する。 6. 1と2の方法で重要文法項目を学習した後は、TOEICやTOEFL等の総合問題演習を繰り返し行うことで、文法的誤謬に対する感受性を高める練習を積む。 		<p>授業予定は各担当教員から説明がなされる。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
各担当教員が指示する。		各担当教員が開講時に説明する。	

06年度以降 05年度以前	英語音声学	担当者	青柳 真紀子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><u>講義目的</u> 音声コミュニケーションを考えたときに、音声がどのように作られ、伝わり、聞き取られるかという問題は興味深いものがある。この授業では、英語学習者または将来の教師にとって重要である英語音声について少し体系的に見てみる。日本語や他の言語の音声と比較も交えて、英語音声をより深く理解し、実践できるようにすることを目指す。また、音声や音声学のさまざまな面について紹介するので、その面白さを少しでも感じてもらい、これ以降の音声関係の科目履修へつながっていったらと思う。</p> <p><u>講義概要</u> 大教室における半期12回程度の授業であるので、音声学の基礎の講義となる。指定テキストは量的にも質的にもやさしい基本事項が記してある。各学生は毎回、最低限この指定範囲を読むことが必須である。また、入門なのでどうしても用語を覚えなくてはならない。小テストや課題により、授業の補足・確認をしていく。</p> <p><u>メッセージ</u> 第一回目の授業前にテキストを購入し、第1章(pp. 2-7)を読むこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 第1章 音声学とは Speech Chain, 領域(言語学, 学際的分野, 応用) 2. 第2章 発声のメカニズム 器官(声帯, 声道, 音源, ソース・フィルタ理論, 母音/子音) 3. 第3章 音声表記 IPA, 分類(気流, 声帯振動, 調音位置/方法等), ピッチ/強さ/長さ 4. 第4章 母音、第14章 方言 分類(高低/前後, 円唇), 基本母音 5. 第5章 子音 有声/無声, 調音位置/方法, 共鳴音, 6. 子音(ii), 日本語との比較 復習・練習問題 7. 第6章 音節, 第7章 語強勢 開/閉音節, 音素配列, モーフ/音節, アクセント/リズム 8. 第8章 音縮小、第9章 同時調音 同化, 弱化, 無性化, 脱落, 9. 第10章 イントネーション 10. 第11章 音響音声学 波形, 周波数, 音圧, スペクトル, 母音/子音, 普遍性 11. 第12章 聴覚音声学 器官, 母音, 子音, VOT, 動物, bottom-up/top-down 12. 第15章 音声と規則性 素性, 語彙と音韻規則 	
テキスト、参考文献		評価方法	
『現代の英語音声学』佐藤寧、佐藤努。金星堂。1997 その他 配布資料		出席・参加、小テスト、課題、試験の総合評価による。各項目において最低限をクリアすること。出席は最低要件として厳しい。	

06年度以降 05年度以前	英語音声学	担当者	青柳 真紀子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><u>講義目的</u> 音声コミュニケーションを考えたときに、音声がどのように作られ、伝わり、聞き取られるかという問題は興味深いものがある。この授業では、英語学習者または将来の教師にとって重要である英語音声について少し体系的に見てみる。日本語や他の言語の音声と比較も交えて、英語音声をより深く理解し、実践できるようになることを目指す。また、音声や音声学のさまざまな面について紹介するので、その面白さを少しでも感じてもらい、これ以降の音声関係の科目履修へつながっていったらと思う。</p> <p><u>講義概要</u> 大教室における半期12回程度の授業であるので、音声学の基礎の講義となる。指定テキストは量的にも質的にもやさしい基本事項が記してある。各学生は毎回、最低限この指定範囲を読むことが必須である。また、入門なのでどうしても用語を覚えなくてはならない。小テストや課題により、授業の補足・確認をしていく。</p> <p><u>メッセージ</u> 第一回目の授業前にテキストを購入し、第1章(pp. 2-7)を読むこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 第1章 音声学とは Speech Chain, 領域(言語学, 学際的分野, 応用) 2. 第2章 発声のメカニズム 器官(声帯, 声道, 音源, ソース・フィルタ理論, 母音/子音) 3. 第3章 音声表記 IPA, 分類(気流, 声帯振動, 調音位置/方法等), ピッチ/強さ/長さ 4. 第4章 母音、第14章 方言 分類(高低/前後, 円唇), 基本母音 5. 第5章 子音 有声/無声, 調音位置/方法, 共鳴音, 6. 子音(ii), 日本語との比較 復習・練習問題 7. 第6章 音節, 第7章 語強勢 開/閉音節, 音素配列, モーフ/音節, アクセント/リズム 8. 第8章 音縮小、第9章 同時調音 同化, 弱化, 無性化, 脱落, 9. 第10章 イントネーション 10. 第11章 音響音声学 波形, 周波数, 音圧, スペクトル, 母音/子音, 普遍性 11. 第12章 聴覚音声学 器官, 母音, 子音, VOT, 動物, bottom-up/top-down 12. 第15章 音声と規則性 素性, 語彙と音韻規則 	
テキスト、参考文献		評価方法	
『現代の英語音声学』佐藤寧、佐藤努。金星堂。1997 その他 配布資料		出席・参加、小テスト、課題、試験の総合評価による。各項目において最低限をクリアすること。出席は最低要件として厳しい。	

06年度以降 05年度以前	英語音声学	担当者	大西 雅行
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的： 英語の一般的音声現象と英語特有の音声変化を解説し、英語を聞く、話す能力の向上に役立てる。 言語研究やその応用研究への基礎知識を与える。</p> <p>講義概要： 音声を形成する仕組み、音声表記、母音と子音の分類とその特徴、日英米音の差異、英語の韻律特徴など発話に必要な音声現象を講義する。 音声理論の講義を補足に、視聴覚機器を使用し、多少の発音練習も加える。</p>		<p>授業計画：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 英語の標準語と標準音 2. 発音器官と機能 3. 英語音の表記法 4. 母音の定義と分類 5. 英語の単母音 6. 英語の二重母音、三重母音 7. 英語の子音分類法 8. 破裂音、破擦音、鼻音 9. 側音、摩擦音、半母音 10. 弱形と強形 11. 同化作用、 12. 置換作用、省略作用 	
テキスト、参考文献		評価方法	
なし。		テストの点	

06年度以降 05年度以前	英語音声学	担当者	大西 雅行
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的： 英語の一般的音声現象と英語特有の音声変化を解説し、英語を聞く、話す能力の向上に役立てる。 言語研究やその応用研究への基礎知識を与える。</p> <p>講義概要： 音声を形成する仕組み、音声表記、母音と子音の分類とその特徴、日英米音の差異、英語の韻律特徴など発話に必要な音声現象を講義する。 音声理論の講義を補足に、視聴覚機器を使用し、多少の発音練習も加える。</p>		<p>授業計画：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 語の標準語と標準音 2. 発音器官と機能 3. 英語音の表記法 4. 母音の定義と分類 5. 英語の単母音 6. 英語の二重母音、三重母音 7. 英語の子音分類法 8. 破裂音、破擦音、鼻音 9. 側音、摩擦音、半母音 10. 弱形と強形 11. 同化作用、 12. 置換作用、省略作用 	
テキスト、参考文献		評価方法	
なし。		テストの点	

06年度以降 05年度以前	英語学入門 英語学概論 a	担当者	鈴木 英一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的: 英語学とは英語を対象として科学的に研究する学問領域である。英語を含め人間言語にはさまざまな側面があるので、英語学にはそういった側面を研究する分野がある。この講義では、英語の音・語・文・意味・用法に関する特徴がどのように研究されるかを概観することを目的とする。</p> <p>講義概要: 英語学という学問領域を理解するために、まず、英語という言葉概要を概観する。人間が言語音としてどのような音を用いるか、英語においてどのような音がどのように用いられているかを説明するのが音声学と音韻論である。文を構成する最小単位である語がどのような内部構造をもつかということは、形態論によって研究される。統語論は、語によって構成される文がどのような語の配列と構造をもつかを研究する。意味論は、文がどのような意味内容を表すかを扱う。文の意味内容を理解するためには、語の意味や語の結合の意味計算、語の修飾関係などを知る必要がある。文の意味解釈に文を使用する文脈・脈絡がどのような影響を及ぼすかを説明するのは語用論である。最後に、現代英語の特徴をみる上で有益な英語の歴史をたどることとする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 英語学とは何か：人間言語，英語という言葉，英語の研究 2. 音声学：調音音声学，音響音声学，子音，母音，渡り音 3. 音韻論：母音・子音体系，子音連鎖，強勢型，リズムと音調 4. 形態論：語の基本的な構造，形態素の種類と語の構成 5. 形態論：派生接辞と屈折接辞，派生と継承特性，複合語 6. 統語論：語順の決定，語順の役割，句構造 7. 統語論：文の特徴，主語の特徴，述語構造，修飾語，受動文・繰り上げ構文・疑問文・感嘆文・分裂文 8. 意味論：語の意味論（成分分析，多義語，同音異義語，語と語の関係），文の合成的意味解釈（意味素性による意味解釈，主題関係による意味解釈），指示表現の解釈 9. 意味論：否定・数量詞と作用域，部分否定と全文否定，否定の作用域，数量詞の作用域，数量詞と否定要素 10. 語用論：対人的機能，脈絡的機能，言内の意味と言外の意味，関連性，直示表現，発話行為 10. 語用論：前提と主張，会話の含意と強調の原則，情報構造 12. 英語史：音韻の歴史，形態・語の歴史，統語構造の歴史 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：鈴木英一『英語学への誘い』(刊行予定) 参考書：安井稔(1987)『英語学概論』(開拓社)</p>		出席状況，授業における平常点，期末試験の成績を総合して評価する。なお，単位の認定には授業回数の2/3以上の出席が必要とされる。	

06年度以降 05年度以前	英語学入門 英語学概論 a (秋学期開講)	担当者	鈴木 英一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的: 英語学とは英語を対象として科学的に研究する学問領域である。英語を含め人間言語にはさまざまな側面があるので、英語学にはそういった側面を研究する分野がある。この講義では、英語の音・語・文・意味・用法に関する特徴がどのように研究されるかを概観することを目的とする。</p> <p>講義概要: 英語学という学問領域を理解するために、まず、英語という言葉概要を概観する。人間が言語音としてどのような音を用いるか、英語においてどのような音がどのように用いられているかを説明するのが音声学と音韻論である。文を構成する最小単位である語がどのような内部構造をもつかということは、形態論によって研究される。統語論は、語によって構成される文がどのような語の配列と構造をもつかを研究する。意味論は、文がどのような意味内容を表すかを扱う。文の意味内容を理解するためには、語の意味や語の結合の意味計算、語の修飾関係などを知る必要がある。文の意味解釈に文を使用する文脈・脈絡がどのような影響を及ぼすかを説明するのは語用論である。最後に、現代英語の特徴をみる上で有益な英語の歴史をたどることとする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 英語学とは何か：人間言語，英語という言葉，英語の研究 2. 音声学：調音音声学，音響音声学，子音，母音，渡り音 3. 音韻論：母音・子音体系，子音連鎖，強勢型，リズムと音調 4. 形態論：語の基本的な構造，形態素の種類と語の構成 5. 形態論：派生接辞と屈折接辞，派生と継承特性，複合語 6. 統語論：語順の決定，語順の役割，句構造 7. 統語論：文の特徴，主語の特徴，述語構造，修飾語，受動文・繰り上げ構文・疑問文・感嘆文・分裂文 8. 意味論：語の意味論（成分分析，多義語，同音異義語，語と語の関係），文の合成的意味解釈（意味素性による意味解釈，主題関係による意味解釈），指示表現の解釈 9. 意味論：否定・数量詞と作用域，部分否定と全文否定，否定の作用域，数量詞の作用域，数量詞と否定要素 10. 語用論：対人的機能，脈絡的機能，言内の意味と言外の意味，関連性，直示表現，発話行為 10. 語用論：前提と主張，会話の含意と強調の原則，情報構造 12. 英語史：音韻の歴史，形態・語の歴史，統語構造の歴史 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：鈴木英一『英語学への誘い』(刊行予定) 参考書：安井稔(1987)『英語学概論』(開拓社)</p>		出席状況，授業における平常点，期末試験の成績を総合して評価する。なお，単位の認定には授業回数の2/3以上の出席が必要とされる。	

06年度以降 05年度以前	英語学入門 英語学概論 a	担当者	安井 美代子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>英語の規則動詞の過去形を表す ed には3つの読み方があり、<u>walked</u>, <u>changed</u>, <u>wanted</u> がその例である。この区別は、母国語話者のみならず、外国語として英語を学んだ私たちにとってもそう難しいものではない。また、日本語では「大酒」はおおざけであり、おおさけとは読まない。一方、「大風」はおおかぜであり、おおがぜではない。「大太鼓」「大騒ぎ」についても日本語を母国語とする人なら同じ読み方をするだろう。濁音にする場合としない場合には規則性があるが、どんな規則に従っているか私たちは意識しないし、明確に述べることができる人はめったにいない。ed の発音も同様である。この授業ではこのような無意識の言語に関する知識を明らかにして、私たちが使っている言語がいかに緻密な構造を持っているかを理解したい。扱うデータは英語が中心であるが、日本語に見られる同様の現象も取り上げる。また、不幸にして母国語を持たない、もしくは失ってしまった例を見ることによって、言語がいかに私たちの知的活動を支える上で不可欠か皆で考えたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 無意識の言語知識 2. 英語の音のしくみ 3. 様々な音韻現象 (クイズ1) 4. 英語の単語の成り立ち (クイズ2) 5. 続き (クイズ3) 6. 英語の文構造 (クイズ4) 7. 続き (クイズ5) 8. 続き (クイズ6) 9. 子供の言語獲得 (クイズ7) 10. 続き (クイズ8) 11. 言語障害 (クイズ9) 12. まとめ (クイズ10) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>参考文献 S. ピンカー「言語を生み出す本能 上・下」 (NHL ブックス)</p>		<p>授業の最初に簡単な復習クイズを行う(上記の授業計画参照)。評価はこのクイズ(30%)と定期試験(70%)による。</p>	

06年度以降 05年度以前	英語学入門 英語学概論 a (秋学期開講)	担当者	安井 美代子
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期と同じ		春学期と同じ	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期と同じ		春学期と同じ	

05 年度以前	英語学概論 b (春学期開講)	担当者	府川 謹也
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講義の目的は、言語学の最近の発展から得られた知見を利用し、英語の特質を探り当てて英語そのものの理解を深めることであるが、その過程において、ふだん無意識のうちに使っていることばの研究の楽しさを味わうことである。具体的には、英語を母語とする話者の無意識下にある言語直感を掘り出し、英語の隠れていた規則性を発見し、ひいては言語そのものの研究が意外と（問題の多いことばであるが）科学的かつ人間的で、それだから楽しいということを実感してもらうことである。</p> <p>英語学科の学生は、ただ英語の実用的運用能力に秀でているだけでなく、知的好奇心の対象としての英語について、その本質的知識を身につけ、その過程で、ことばが人間であることの大事な証（あかし）であることを理解してほしい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 機能的統語論（情報構造、受身文、視点、再帰代名詞） 2. " 3. " 4. 意味論（語・句・節の意味、意味関係、前提と断定、） 5. " 6. 認知意味論（カテゴリー化、メタファー、メトニミー、イメージスキーマ、文法化、意味変化） 7. " 8. " 9. 語用論（ダイクシス、発話行為、会話の含意、ポライトネス） 10. " 11. 関連性理論（コミュニケーションと解釈原則、表意と推意、概念的コード化と手続き的コード化） 12. " 	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント（随時配布）		試験と課題による	

05 年度以前	英語学概論 b (秋学期開講)	担当者	府川 謹也
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期と同じ。		春学期と同じ。	
テキスト、参考文献		評価方法	
安藤貞雄・澤田治美編『英語学入門』開拓社 プリント（随時配布）		試験と課題による	

06年度以降 05年度以前	英語圏の文学・文化入門（木4／木5） 英語圏の文学・文化概論 a（木4／木5）	担当者	北澤 滋久・原 成吉 児嶋 一男・上野 直子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(講義目的) 一年次のこの講義においては、文学と文化とを、歴史と社会の動きのなかから生まれたものとして、また歴史のなかに生き、ときに歴史に翻弄される人間の尊厳の表現として、理解できるようになってほしい。そして、言葉と向き合い、味わい、格闘し、楽しみ、そこから自らの力をひきだすための糸口を掴んでほしい。</p> <p>(講義概要) いまや英語圏は世界中に広がっている。そのなかでも環大西洋地域を中心に、歴史と世界の動きのなかから生まれた文学と文化のエッセンスを紹介する。 12回のコースを4名の教員で3回ずつ担当し、各担当教員は専門とする地域について講義を行う。12回の授業の受講後には、環大西洋地域の文学と文化、そして歴史のダイナミックな見取り図が描けるようになるはずである。</p>		<p>詳細な授業計画は開講時に配布する。</p> <p>各教員が担当する地域は以下のとおり。 北澤 主にイギリス 原 主にアメリカ合衆国 児嶋 主にアイルランド 上野 カリブ諸地域をはじめとする、上記以外の旧イギリス植民地</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
追って通知する。授業開始前に、必ず掲示板にて確認のこと。		詳細は開講時に説明するが、欠席が4回を超えた場合は、単位を認定しない。	

06年度以降 03～05年度	英語圏の文学・文化入門（木4／木5） 英語圏の文学・文化概論 a（秋学期開講）（木4／木5）	担当者	北澤 滋久・原 成吉 児嶋 一男・上野 直子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(講義目的) 一年次のこの講義においては、文学と文化とを、歴史と社会の動きのなかから生まれたものとして、また歴史のなかに生き、ときに歴史に翻弄される人間の尊厳の表現として、理解できるようになってほしい。そして、言葉と向き合い、味わい、格闘し、楽しみ、そこから自らの力をひきだすための糸口を掴んでほしい。</p> <p>(講義概要) いまや英語圏は世界中に広がっている。そのなかでも環大西洋地域を中心に、歴史と世界の動きのなかから生まれた文学と文化のエッセンスを紹介する。 12回のコースを4名の教員で3回ずつ担当し、各担当教員は専門とする地域について講義を行う。12回の授業の受講後には、環大西洋地域の文学と文化、そして歴史のダイナミックな見取り図が描けるようになるはずである。</p>		<p>詳細な授業計画は開講時に配布する。</p> <p>各教員が担当する地域は以下のとおり。 北澤 主にイギリス 原 主にアメリカ合衆国 児嶋 主にアイルランド 上野 カリブ諸地域をはじめとする、上記以外の旧イギリス植民地</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
追って通知する。授業開始前に、必ず掲示板にて確認のこと。		詳細は開講時に説明するが、欠席が4回を超えた場合は、単位を認定しない。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

05年度以前	英語圏の文学・文化概論 b	担当者	高橋 雄一郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業では、イギリス、アメリカという枠組みに捉われず、英米の旧植民地も含めた広義の英語圏における文学・文化の変遷を概観する。西欧による世界支配から現在のグローバリゼーションに至る思想の流れに焦点を置く。</p>		<p>プリントを使って、毎週、異なる作家、思想家の文章を読んできてもらい、教室でディスカッションをする。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>教員が配布する。</p>		<p>毎週提出の小レポートと学期末レポートによる。授業への毎回の出席、授業での積極的な発言が単位取得の前提となる。</p>	

06年度以降 03～05年度	文化コミュニケーション入門 文化コミュニケーション概論 a	担当者	板場 良久
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>英語を学ぶ皆さんは、「異文化コミュニケーション」というものに少なからず興味があるのではないのでしょうか？しかし、そのことを本格的に勉強する前に、まずは「文化」「コミュニケーション」そして、この2つの関係性について理解を深めておく必要があります。そこで、これまでの自分の考えやイメージを一旦手放していただき、それを見つめ直していただきたいと考えています。なぜなら、大学で学ぶ異文化コミュニケーションの深い理解とは、まず、自分の考えへの問い直しから始まるからです。</p> <p>なお、講義は基本的に日本語で行いますが、各回の講義時間の最初に前回の講義の復習を平易な英語で行います。</p>		<p>I. コミュニケーション理論のフロンティア</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 講義概要 2. 科学技術的なコミュニケーション理論 3. 人間主義的なコミュニケーション理論 4. 批判実践的なコミュニケーション理論 <p>II. 文化研究への招待</p> <ol style="list-style-type: none"> 5. 比較文化論の問題 6. 文化本質主義の問題 7. 自民族中心主義と文化相対論の問題 8. 文化の政治性とは何か？ <p>III. レトリック研究への招待</p> <ol style="list-style-type: none"> 9. レトリックとは何か？ 10. 誰かを説得しようとしている自分 11. 知らぬ間に説得されている自分 12. 講義のまとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：プリント配布予定 参考書：『異文化コミュニケーション研究法』（有斐閣）</p>		<p>クイズ2回（不定期、15%×2回=30%） 学期末課題（複数の形式から選択、70%）</p>	

06年度以降 03～05年度	文化コミュニケーション入門 文化コミュニケーション概論 a （秋学期開講）	担当者	板場 良久
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>英語を学ぶ皆さんは、「異文化コミュニケーション」というものに少なからず興味があるのではないのでしょうか？しかし、そのことを本格的に勉強する前に、まずは「文化」「コミュニケーション」そして、この2つの関係性について理解を深めておく必要があります。そこで、これまでの自分の考えやイメージを一旦手放していただき、それを見つめ直していただきたいと考えています。なぜなら、大学で学ぶ異文化コミュニケーションの深い理解とは、まず、自分の考えへの問い直しから始まるからです。</p> <p>なお、講義は基本的に日本語で行いますが、各回の講義時間の最初に前回の講義の復習を平易な英語で行います。</p>		<p>I. コミュニケーション理論のフロンティア</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 講義概要 2. 科学技術的なコミュニケーション理論 3. 人間主義的なコミュニケーション理論 4. 批判実践的なコミュニケーション理論 <p>II. 文化研究への招待</p> <ol style="list-style-type: none"> 5. 比較文化論の問題 6. 文化本質主義の問題 7. 自民族中心主義と文化相対論の問題 8. 文化の政治性とは何か？ <p>III. レトリック研究への招待</p> <ol style="list-style-type: none"> 9. レトリックとは何か？ 10. 誰かを説得しようとしている自分 11. 知らぬ間に説得されている自分 12. 講義のまとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：プリント配布予定 参考書：『異文化コミュニケーション研究法』（有斐閣）</p>		<p>クイズ2回（不定期、15%×2回=30%） 学期末課題（複数の形式から選択、70%）</p>	

06年度以降 05年度以前	文化コミュニケーション入門 文化コミュニケーション概論 a	担当者	柿田 秀樹
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的 映画やコマーシャルを含むマスメディアを中心とした文化現象の多様なレトリック分析を通してコミュニケーション研究のダイナミックさを啓発していきたい。具体的には、マスメディアのテキストに批評的分析を施すレトリックの方法に重点を置きながら、ポピュラーカルチャーの題材を中心に当該研究分野の重要性を解説していく。</p> <p>表象 (represent) された言語は政治的であり、表象の代理・代用 (re-present) 可能性がゆえに受け手もまた臆見を利用した判断を必要とする。我々は言語を含む「表象」を消費する度にこの種の判断を迫られているのである。講義の目的は、そうした賢明な判断のために必要な地平を理解することである。批評的分析の理解は、英語圏（特にアメリカ）の文化や社会の諸問題を賢慮とともに判断する能力を養う手助けとなる。</p> <p>講義概要 講義では1テーマを3ないし4回の授業で扱う。テキストとしては各テーマの理解に最適と思われるビデオを採用し、キータームの解説を加えながら講義を進めていく。</p>		1 Course Orientation 2 Hollywood and Hypercommercial 3 Hollywood and Hypercommercial 4 Hollywood and Hypercommercial 5 Advertisement and Public Culture 6 Advertisement and Public Culture 7 Advertisement and Public Culture 8 Desire, Sexuality and Power in Music Video 9 Desire, Sexuality and Power in Music Video 10 Desire, Sexuality and Power in Music Video 11 Desire, Sexuality and Power in Music Video 12 Wrap Up	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業で指示する。		定期試験、不定期に課す課題、及び出席状況等による総合評価	

06年度以降 05年度以前	文化コミュニケーション入門 文化コミュニケーション概論 a (秋学期開講)	担当者	柿田 秀樹
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的 映画やコマーシャルを含むマスメディアを中心とした文化現象の多様なレトリック分析を通してコミュニケーション研究のダイナミックさを啓発していきたい。具体的には、マスメディアのテキストに批評的分析を施すレトリックの方法に重点を置きながら、ポピュラーカルチャーの題材を中心に当該研究分野の重要性を解説していく。</p> <p>表象 (represent) された言語は政治的であり、表象の代理・代用 (re-present) 可能性がゆえに受け手もまた臆見を利用した判断を必要とする。我々は言語を含む「表象」を消費する度にこの種の判断を迫られているのである。講義の目的は、そうした賢明な判断のために必要な地平を理解することである。批評的分析の理解は、英語圏（特にアメリカ）の文化や社会の諸問題を賢慮とともに判断する能力を養う手助けとなる。</p> <p>講義概要 講義では1テーマを3ないし4回の授業で扱う。テキストとしては各テーマの理解に最適と思われるビデオを採用し、キータームの解説を加えながら講義を進めていく。</p>		1 Course Orientation 2 Hollywood and Hypercommercial 3 Hollywood and Hypercommercial 4 Hollywood and Hypercommercial 5 Advertisement and Public Culture 6 Advertisement and Public Culture 7 Advertisement and Public Culture 8 Desire, Sexuality and Power in Music Video 9 Desire, Sexuality and Power in Music Video 10 Desire, Sexuality and Power in Music Video 11 Desire, Sexuality and Power in Music Video 12 Wrap Up	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業で指示する。		定期試験、不定期に課す課題、及び出席状況等による総合評価	

03～05年度	文化コミュニケーション概論 b (春学期開講)	担当者	工藤 和宏
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>文化とコミュニケーションの諸相を題材にしながら、問題意識を持ち自問し続けることの面白さを受講生と分かち合うことを講義目標とします。したがって、文化研究やコミュニケーション論の理論や学問体系を受講生に習得させることが本講義における私の意図ではありません。右の授業計画に沿いながらも、毎回重要だと思うテーマや出来事について、自由気ままに意見を述べたり質問したりしますので、積極的に授業に参加してください。授業の理解度は授業への参加度と比例するものと心得ておいてください。</p> <p>本講義内容に関連する理論や学問体系に関心のある受講生は、以下の本を読んでみると良いでしょう。</p> <p>石井敏、久米昭元、岡部朗一 (1996) 『異文化コミュニケーション——新・国際人への条件』有斐閣。</p> <p>伊藤公雄、橋本満 編 (1998) 『はじめて出会う社会学——社会学はカルチャー・スタディ』有斐閣。</p> <p>船津衛 (1996) 『コミュニケーション・入門——心の中からインターネットまで』有斐閣。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 導入——文化とコミュニケーションを学問する 2. コミュニケーションを定義する？ 3. コミュニケーション研究史——歴史は語る 4. コミュニケーション・モデル——科学の挑戦 5. 文化——文化ではなく文化的な「あなた」 6. 文化の型と「異」文化への眼差し 7. 文化変容——文化＝コミュニケーション？ 8. アイデンティティと表象——私は誰でしょう？ 9. 説得的コミュニケーション——釈迦に説法できますか？ 10. 事例研究 1 ——刑務所化を知っていますか？ 11. 事例研究 2 ——グローバル化時代の大学生と文化コミュニケーション 12. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントを配布します。		レポート (40%) と試験 (60%)	

03～05年度	文化コミュニケーション概論 b (秋学期開講)	担当者	工藤 和宏
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>文化とコミュニケーションの諸相を題材にしながら、問題意識を持ち自問し続けることの面白さを受講生と分かち合うことを講義目標とします。したがって、文化研究やコミュニケーション論の理論や学問体系を受講生に習得させることが本講義における私の意図ではありません。右の授業計画に沿いながらも、毎回重要だと思うテーマや出来事について、自由気ままに意見を述べたり質問したりしますので、積極的に授業に参加してください。授業の理解度は授業への参加度と比例するものと心得ておいてください。</p> <p>本講義内容に関連する理論や学問体系に関心のある受講生は、以下の本を読んでみると良いでしょう。</p> <p>石井敏、久米昭元、岡部朗一 (1996) 『異文化コミュニケーション——新・国際人への条件』有斐閣。</p> <p>伊藤公雄、橋本満 編 (1998) 『はじめて出会う社会学——社会学はカルチャー・スタディ』有斐閣。</p> <p>船津衛 (1996) 『コミュニケーション・入門——心の中からインターネットまで』有斐閣。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 導入——文化とコミュニケーションを学問する 2. コミュニケーションを定義する？ 3. コミュニケーション研究史——歴史は語る 4. コミュニケーション・モデル——科学の挑戦 5. 文化——文化ではなく文化的な「あなた」 6. 文化の型と「異」文化への眼差し 7. 文化変容——文化＝コミュニケーション？ 8. アイデンティティと表象——私は誰でしょう？ 9. 説得的コミュニケーション——釈迦に説法できますか？ 10. 事例研究 1 ——刑務所化を知っていますか？ 11. 事例研究 2 ——グローバル化時代の大学生と文化コミュニケーション 12. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントを配布します。		レポート (40%) と試験 (60%)	

06年度以降 03～05年度	国際コミュニケーション入門 国際コミュニケーション概論 a	担当者	佐野 康子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義の目的は、国際関係論の基礎知識を学んでもらい、現在の国際社会で実際に発生している事柄や国際社会が直面する諸問題を分析・理解するためのきっかけを掴んでもらうことにある。</p> <p>本講義では、まず、国際関係論への導入として、国際関係論がいかなる学問であるのか、国際関係論発展の歴史的経緯、国際社会を構成する主体、また国際社会を分析する視点などを扱う。講義の後半部分では、現代の国際社会が直面する地球規模の課題をテーマに、課題の背景、現状、国際社会の取り組みを取上げる。</p> <p>本授業では、講義に加え、国際関係論、また現代の国際社会を分析・理解する上で必要となる基本的な用語を随時紹介する。また、国際関係論と実社会の結びつきを考えてもらうため、その時々々の情勢に合わせ、新聞記事などをも紹介していきたい。</p> <p>尚、第一週目に授業の詳細を説明する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション：国際関係論とは。 2. 国際関係の発展と展開（1） 3. 国際関係の発展と展開（2） 4. 国際社会を構成する主体（1） 5. 国際社会を構成する主体（2） 6. 国際社会を分析する視点（1） 7. 中間試験 8. 国際社会の直面する課題（1）テロリズム 9. 国際社会の直面する課題（2）貿易・市場 10. 国際社会の直面する課題（3）ナショナリズム 11. 国際社会の直面する課題（4）核拡散・軍拡 12. 国際社会の直面する課題（5）地球環境問題 	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは指定しないが、授業において参考文献を紹介する。		学期半ばに行う中間試験と学期末に提出してもらうレポートによる総合評価とする。	

06年度以降 03～05年度	国際コミュニケーション入門 国際コミュニケーション概論 b	担当者	佐野 康子
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期と同じ。		春学期と同じ。	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期と同じ。		春学期と同じ。	

06年度以降 05年度以前	国際コミュニケーション入門 国際コミュニケーション概論 a	担当者	永野 隆行
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>約半年間の授業を通じて、国際関係研究 (study of international relations) とはどのような学問なのかを理解してもらいたい。教員による説明をただ受動的に受け止めるのではなく、学生ひとりひとりが授業を批判的に聞き、常に疑問を持ち、自分なりの「国際関係」のイメージを持つようになることを目指す。</p> <p>また英語学科では、二学年次に四つの専門コースからひとつを選択することになっており、この授業がその手助けになる。</p> <p>毎回の授業の冒頭では、学生諸君に日々変化する国際情勢に関心を持ってもらうために、その週の新聞記事から面白そうなものを選んで、その記事について一緒に考える時間を 30 分程度設ける。必要に応じてビデオ映像なども利用して、理解を深めてもらいたい。</p> <p>また授業のなかでは、国際関係研究のうえで重要な理論や用語についても、その都度説明を加えていく。</p> <p>この授業では、携帯メールによる質問を授業中随時受け付け、適宜それらを取り上げているので、疑問に思ったことなどを積極的に教員に伝えて欲しい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. <u>国際関係論を学ぶにあたってのガイダンス</u> (第1週) ～勉強のうえで役に立つウェブサイトや図書館データベースの利用案内、本学国際関係関連科目の紹介、文献リストの解説 2. <u>イントロダクション</u> (第2～4週) ～国際関係論研究の誕生と発展、その特質について 3. <u>国際関係における秩序</u> (第5～8週) ～国際関係の特質としてのアナーキーと秩序 4. <u>国際政治を見る眼</u> (第9～12週) ～国際政治の三つの分析枠組みと国際関係論の代表的な三つのアプローチ <p>*第7～9週目に中間テストを行う予定。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>第一回目の講義で、詳しい参考文献リストを配布します。なお、ブックレポート(書評)では、この文献リストに掲載されている本を取り上げることになります。</p>		<p>中間テストと学期末のレポートによる評価。</p>	

06年度以降 05年度以前	国際コミュニケーション入門 国際コミュニケーション概論 b	担当者	永野 隆行
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>約半年間の授業を通じて、国際関係研究 (study of international relations) とはどのような学問なのかを理解してもらいたい。教員による説明をただ受動的に受け止めるのではなく、学生ひとりひとりが授業を批判的に聞き、常に疑問を持ち、自分なりの「国際関係」のイメージを持つようになることを目指す。</p> <p>また英語学科では、二学年次に四つの専門コースからひとつを選択することになっており、この授業がその手助けになる。</p> <p>毎回の授業の冒頭では、学生諸君に日々変化する国際情勢に関心を持ってもらうために、その週の新聞記事から面白そうなものを選んで、その記事について一緒に考える時間を 30 分程度設ける。必要に応じてビデオ映像なども利用して、理解を深めてもらいたい。</p> <p>また授業のなかでは、国際関係研究のうえで重要な理論や用語についても、その都度説明を加えていく。</p> <p>この授業では、携帯メールによる質問を授業中随時受け付け、適宜それらを取り上げているので、疑問に思ったことなどを積極的に教員に伝えて欲しい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. <u>国際関係論を学ぶにあたってのガイダンス</u> (第1週) ～勉強のうえで役に立つウェブサイトや図書館データベースの利用案内、本学国際関係関連科目の紹介、文献リストの解説 2. <u>イントロダクション</u> (第2～4週) ～国際関係論研究の誕生と発展、その特質について 3. <u>国際関係における秩序</u> (第5～8週) ～国際関係の特質としてのアナーキーと秩序 4. <u>国際政治を見る眼</u> (第9～12週) ～国際政治の三つの分析枠組みと国際関係論の代表的な三つのアプローチ <p>*第7～9週目に中間テストを行う予定。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>第一回目の講義で、詳しい参考文献リストを配布します。なお、ブックレポート(書評)では、この文献リストに掲載されている本を取り上げることになります。</p>		<p>中間テストと学期末のレポートによる評価。</p>	

	Speech Communication a	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要	授業計画		
<p>This is a course for speech communication, defined here as formal and informal speaking in situations such as face-to-face interaction, small group communication, public speaking, and debate.</p> <p>Given today's societal needs and students' interests, the Department would like every class to incorporate some activities to improve students' presentation skills. More specifically, the instructor is expected to provide a portion of each lesson to activities to improve the students' basic presentation (expository and persuasive) skills for communication. Students should (1) get experience in making and delivering a short speech in English, (2) become familiar with how to describe visual materials or to use visual aids to explain events, phenomena or concepts, and (3) learn to be responsive listeners, commentators, and/or questioners in the audience, rather than passive auditors.</p>	<p>授業予定は各担当教員から説明がなされる。</p>		
テキスト、参考文献	評価方法		
<p>This decision is left to the discretion of the individual instructor.</p>	<p>Student performances should be graded based on clarity and enthusiasm to communicate.</p>		

	Speech Communication b	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要	授業計画		
<p>This is a course for speech communication, defined here as formal and informal speaking in situations such as face-to-face interaction, small group communication, public speaking, and debate.</p> <p>Given today's societal needs and students' interests, the Department would like every class to incorporate some activities to improve students' presentation skills. More specifically, the instructor is expected to provide a portion of each lesson to activities to improve the students' basic presentation (expository and persuasive) skills for communication. Students should (1) get experience in making and delivering a short speech in English, (2) become familiar with how to describe visual materials or to use visual aids to explain events, phenomena or concepts, and (3) learn to be responsive listeners, commentators, and/or questioners in the audience, rather than passive auditors.</p>	<p>授業予定は各担当教員から説明がなされる。</p>		
テキスト、参考文献	評価方法		
<p>This decision is left to the discretion of the individual instructor.</p>	<p>Student performances should be graded based on clarity and enthusiasm to communicate.</p>		

	英語ライティング・ストラテジーズ a	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>基本的な単語や文法を用い、文章構成の基本を学びながら身近でやさしいトピックについて具体的に目的を持った短い文章が書けるようになることを目標とする。具体的には、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 基本的な文法項目等を復習する 2. 日常使われる手紙の基本形式を学び、実際に短い手紙を書いてみる（お祝の手紙、入学／就職希望の手紙、英文履歴書等） 3. パラグラフの基本について学ぶ <ol style="list-style-type: none"> (1) パラグラフとはなにか (2) トピック・センテンスについて (3) トピック・センテンスをサポートする、他 4. 以上の作文技術を学習した後、各教員が指定した教材を使用し作文力の向上を図る。場合によっては上記の作文技術と文法・作文用の教材を交えながら年間を通じて学んでいくこともあり得る。 		<p>授業予定は各担当教員から説明がなされる。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
各担当教員が指示する。		平常点、試験、レポート等による。	

	英語ライティング・ストラテジーズ b	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>英語ライティング・ストラテジーズ a の延長。</p>		<p>授業予定は各担当教員から説明がなされる。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
各担当教員が指示する。		平常点、試験、レポート等による。	

	英語リーディング・ストラテジーズ a	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>語彙力を増やしながら英語の読解力を養うことを目的とする。</p> <p>最初の数週間は読解力の基礎となるパラグラフ・リーディングの技術や <i>skimming, scanning</i> といった読むためのストラテジーを習得し、文章がどのように組み立てられているかを考えながら読むことを学ぶ。その後は各教員が選定した現代英語のテキストを用い読解力を養う。</p> <p>読解力向上に不可欠である語彙力の強化に関しては統一オンライン教材(アルクネットアカデミーの <i>Powerwords</i>)を用いて授業外で各自が自己学習を行う。春学期はレベル4の <i>Units 1～25</i> を学習すること。自己学習の成果を確認するために授業時に小テストを行う。</p>		<p>授業予定は各担当教員から説明がなされる。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>統一オンライン教材以外に関しては各担当教員が指示する。</p>		<p>各担当教員が開講時に説明する。</p>	

	英語リーディング・ストラテジーズ b	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>語彙力を増やしながら英語の読解力を養うことを目的とする。</p> <p>各教員が選定した現代英語のテキストを用い読解力を養う。テキストの背後にある歴史・政治・文化の背景を認識しながら深く読むことを学ぶ。</p> <p>読解力向上に不可欠である語彙力の強化に関しては統一オンライン教材(アルクネットアカデミーの <i>Powerwords</i>)を用いて授業外で各自が自己学習を行う。秋学期はレベル4の <i>Units 26～50</i> を学習すること。自己学習の成果を確認するために授業時に小テストを行う。</p>		<p>授業予定は各担当教員から説明がなされる。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>統一オンライン教材以外に関しては各担当教員が指示する。</p>		<p>各担当教員が開講時に説明する。</p>	

	Reading Comprehension a	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The Department has set the following macro-level objectives for this reading course to be taught by native-speaker instructors:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. To help students learn to think in English 2. To enlarge students' vocabulary 3. To give students insights into Western culture and literature 4. To help prepare students for study in an English-speaking country. 5. To help students learn new ideas, and have new learning experiences. <p>Instructors are free to select their own texts (inside and outside readers) and to use them as they think fit. However, in addition to the set texts, the Department would like the students in this class to be taught basic reading skills. The teaching of the skills may be done at the beginning of each class throughout the year or, alternatively, it may be done for a month or so at the beginning of the course.</p>		<p>授業予定は各担当教員から説明がなされる。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>This decision is left to the discretion of the individual instructor.</p>		<p>This decision is left to the discretion of the individual instructor.</p>	

	Reading Comprehension b	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The Department has set the following macro-level objectives for this reading course to be taught by native-speaker instructors:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. To help students learn to think in English 2. To enlarge students' vocabulary 3. To give students insights into Western culture and literature 4. To help prepare students for study in an English-speaking country. 5. To help students learn new ideas, and have new learning experiences. <p>Instructors are free to select their own texts (inside and outside readers) and to use them as they think fit. However, in addition to the set texts, the Department would like the students in this class to be taught basic reading skills. The teaching of the skills may be done at the beginning of each class throughout the year or, alternatively, it may be done for a month or so at the beginning of the course.</p>		<p>授業予定は各担当教員から説明がなされる。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>This decision is left to the discretion of the individual instructor.</p>		<p>This decision is left to the discretion of the individual instructor.</p>	

05年度	Honors English 2 a	担当者	E. Carney
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course aims to give students the opportunity to express themselves well to both individuals and groups. A variety of subjects will be introduced and the students are expected to work on good comprehension followed by good explanations of the content. Discussion of the material prior to presentation of delivery will be a prime concern.</p> <p>Subjects will range widely and may be adjusted in content matter according to the class situation. The general level will be native-speaker level.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction and methods 2. First subject introduced 3. Quiz, and second subject challenged 4. Some areas of difficulty in expression 5. Quiz. Do's and Don'ts 6. Delivery with stress and gesture aids 7. Quiz. A look at the world of abstract thought 8. Economy of effort 9. Quiz. What I say...or, what I mean? 10. Life should be fun? 11. Revisions and checking 12. Tests, reports, and evaluation 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Prints, DVDs, tapes, songs, humor, news items, internet material, stories, and personal experiences.		Quizzes at random, and a final report.	

05年度	Honors English 2 b	担当者	E. Carney
講義目的、講義概要		授業計画	
As above		Similar to above depending on class performance.	
テキスト、参考文献		評価方法	
As above		As above	

05 年度	Honors English 2 a	担当者	N.H. Jost
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This is an advanced English communication class. It aims to help students improve their speaking, listening, reading, writing and critical thinking skills. The material chosen for this class will look at some of the controversial issues that face us today. Students in this class will have to the opportunity to discuss and debate the issues covered in the reading and listening material. Additionally, students we give individual and group presentations. The group presentations will be in the form of posters session, which will be similar to those given at professional conferences. Students will have warm-up discussion with their partners at the start of each class. Students are required to have a vocabulary notebook for this class. In both the first semester and second semesters, this class with join Mr. Murphey's class for a movie and video project. Students will work together and video tape their discussions on a decided outside movie.</p>		<p>Week 1: Introduction; getting to know each other.</p> <p>Week 2: Second Language vs Foreign Language</p> <p>Week 3: Traditional or trendy lifestyle</p> <p>Week 4: Love or arranged marriage</p> <p>Week 5: Continuation and catch-up</p> <p>Week 6: Discipline or abuse</p> <p>Week 7: Movie/Video Project w/ Mr. Murhpey's class</p> <p>Week 8: Follow-up on Video Project</p> <p>Week 9: Poster Sessions</p> <p>Week 10: Right to life or right to choose</p> <p>Week 11: Review exercises</p> <p>Week 12: Final class open</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Materials will be provided by instructor.		Grades will be based on class participation, attendance and evaluations	

05 年度	Honors English 2 b	担当者	N.H. Jost
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This is an advanced English communication class. It aims to help students improve their speaking, listening, reading, writing and critical thinking skills. The material chosen for this class will look at some of the controversial issues that face us today. Students in this class will have to the opportunity to discuss and debate the issues covered in the reading and listening material. Additionally, students we give individual and group presentations. The group presentations will be in the form of posters session, which will be similar to those given at professional conferences. Students will have warm-up discussion with their partners at the start of each class. Students are required to have a vocabulary notebook for this class. In both the first semester and second semesters, this class with join Mr. Murphey's class for a movie and video project. Students will work together and video tape their discussions on a decided outside movie.</p>		<p>Week 1: Overview of fall semester</p> <p>Week 2: Right to die or duty to live?</p> <p>Week 3: Continuation</p> <p>Week 4: Life imprisonment or death penalty?</p> <p>Week 5: Continuation</p> <p>Week 6: Judges and Jury</p> <p>Week 7: Movie/Video Project w/ Mr. Murhpey's class</p> <p>Week 8: Follow-up on Video Project</p> <p>Week 9: Poster Sessions</p> <p>Week 10: Human Organs or animal organs</p> <p>Week 11: Surrogate mothers or natural mothers</p> <p>Week 12: Final class open</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Materials will be provided by instructor		Grades will be based on class participation, attendance and evaluations	

05年度	Honors English 2 a	担当者	T. Hill
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course is designed to help advanced-level students develop critical thinking skills as they discuss issues of contemporary importance. Students will build up their vocabulary in a number of content areas, and will develop the ability to express their own opinion on the topics studied.</p> <p>Students will be expected to actively participate in class activities, do research on the issues using newspapers and the internet, and write a number of short papers on some of the issues.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 2. The Homeless 3. Hunting 4. A Muzzle Law 5. The Third World 6. Abortion 7. Aging Leaders 8. Creativity in Japanese Schools 9. The United Nations 10. Feminism 11. Cryonics 12. Review 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>Discussing Issues II Paul McLean Yumi Press</p>		<p>Evaluation will be based on attendance, class participation, a number of written papers, and a final examination.</p>	

05年度	Honors English 2 b	担当者	T. Hill
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course is designed to help advanced-level students develop critical thinking skills as they discuss issues of contemporary importance. Students will build up their vocabulary in a number of content areas, and will develop the ability to express their own opinion on the topics studied.</p> <p>Students will be expected to actively participate in class activities, do research on the issues using newspapers and the internet, and write a number of short papers on some of the issues.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 2. Home Health Tests 3. Honesty 4. Diplomatic Immunity 5. Accepting Immigrants 6. The Japanese Language 7. Irradiation 8. Adultery in High Places 9. Breast-feeding 10. Plundered Art 11. Endangered Languages 12. Review 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>Discussing Issues II Paul McLean Yumi Press</p>		<p>Evaluation will be based on attendance, class participation, a number of written papers, and a final examination</p>	

05 年度	英語専門講読入門 a	担当者	上野 直子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(講義目的)</p> <p>現実のひとつではないこと、同じものを見ても、感じ方はそのものを見る人の立場によって異なること、そして、その差異には歴史や政治が関わっている場合があることを、文学テキストの精読を通して実感してほしいと考えます。</p> <p>また文学の言葉を味わう楽しみも学んでほしいのです。文学テキストにおいては、ひとつの単純な言葉がいくつもの意味をもったり、A という言葉は実は A とは反対のことを意味したりもします。複雑な言葉のダンスを読み解く、思考と感受性の筋肉を鍛えてください。</p> <p>(講義紹介)</p> <p>この講義では、カリブ出身の英語作家 Jamaica Kincaid の自伝的小説 <i>Lucy</i> を読みます。</p> <p>キンケイドは、1949 年、まだイギリス植民地であった Antigua (アンティグア) に生まれ、16 才で単身アメリカ合衆国にわたりました。自ら望んだ留学などではありません。経済的に逼迫した家族が娘を養いきれなくなったために、裕福な家庭で住み込みで働くオーペアとして、アメリカにやってきたのです。</p> <p>現在では作家として高い評価を得ているキンケイドですが、自分が文章を書きはじめたのは、「絶望の淵から</p>		<p>(授業の進め方)</p> <p>1st class Warm-up (必ずテキストの 9 頁まで読んでおくこと。)</p> <p>2nd class Introduction to the Author and Historical Backgrounds</p> <p>3rd class ~ Reading, Discussion, Mini-Lectures</p> <p>授業はグループワークを中心に進めますので、予習をきちんとしてきてください。3 回目以降のクラスはほぼ以下のようなメニューで進めます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Q+A (前回の授業での不明点、その日の議論を始める前に確認しておきたい疑問点。) 2. Discussion (やり方はその日に扱う内容によって変化します。前週の終わりに指示します。) 3. Presentation (group discussion の結果を発表してもらいます。) 4. Q+A (今回の授業の疑問点。解決できないものは次週の Q+A で。) 	
		評価方法	
Jamaica Kincaid, <i>Lucy</i> , (New York: Farrar Straus & Giroux, 1991/2002) ISBN: 0374527350。授業開始までに Amazon.co.jp など各自購入しておくこと。		出席・発表、小テスト・レポートを総合的に評価する。	

05 年度	英語専門講読入門 b	担当者	上野 直子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(上からの続き)</p> <p>はいあがるためだった」と、あるインタビューで語っています。</p> <p>年若いキンケイドを捕らえていた絶望とは何だったのでしょうか。それには、イギリス植民地時代のアンティグアに生まれたアフロカリビアン の女であったことが深く関わっています。</p> <p>おそらくは、受講生の大半とはまったく異なる歴史を負ったキンケイドですが、彼女のような存在は世界には少なくはないのです。植民地の貧しい黒人の女であるという、幾重にも周縁化された立場からみると、世界はどのように見えるのでしょうか。そしてそこから見えてくるものは、安寧に暮らす日本の私たちにどんな気づきを迫ってくるのでしょうか。</p>		<p>(上からの続き)</p> <p>一回に 10~15 頁ほどを読む予定ですが、実際にやってみて、適切な分量を見定めていきたいと思えます。読解力がアップするにつれ、一回に読む分量は増やしていきます。また 3 回目以降の授業では主に英語を使用します。</p> <p>(使用テキストの紹介)</p> <p><i>Lucy</i> は、書き手キンケイド自身の自伝的な小説です。主人公の <i>Lucy</i> は、カリブの島から北米の大都会にたった一人でやってきた 19 歳の女の子。見るもの聞くもの、回りの人々、あらゆるものが故郷とは異なる環境での新しい生活は、小さな闘いの連続です。</p> <p>物語は <i>Lucy</i> が 20 歳になるまでのほぼ一年間の日常を描いています。確実に大人へと成長してゆく一年の間に、彼女は決して幸福ではなかった島での少女時代と家族との関係を振り返ります。振り返り乗り越えることで、新しい自分を手にいれようと努めます。そしてその過程で、自分という個人に作用している大きな歴史の力とも向き合うことになるのです。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期と同じ		春学期と同じ	

05年度	英語専門講読入門 a	担当者	片山 亜紀
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的</p> <p>みなさんは「子ども」というとどんなイメージを思い浮かべますか。素直でかわいいというイメージでしょうか。でも自分の子ども時代を思い出したらきっとすぐお分かりのように、子どもは残酷だったり計算高かったりもします。また大人とちがう価値観をもち、大人に押し潰されそうになったり、はたまた大人と対決したりもします。</p> <p>この講義では、子どもをテーマにした英米のショート・ストーリーをいくつか読んで、子どもがどんなふう描かれているのか、作家が子どもを描くのにどんなテクニックを駆使しているのかを考察します。子どもという単一のテーマをもったストーリーを読み比べてみることで、文学表現の多様性を実感してもらうのが最終的なねらいです。</p> <p>講義概要</p> <p>各ストーリーに2～3回くらいの授業時間を当てます。各受講者はかならずストーリーを読んで授業に臨むことが前提です。授業では最初にレポーターからストーリーの内容について報告を受け、その報告をもとにディスカッション等を行って理解を深めます。</p>		<p>1. イン트로ダクション</p> <p>* 具体的な授業の進め方を説明し、レポーターを決めますので、受講を希望する人はかならず出席してください。</p> <p>2-1 1. ストーリーを読む</p> <p>* 次の順序で読み進める予定ですが、難易度やスケジュールの調整のため、一部入れ替えることがあります。</p> <p>John Updike, “Should Wizard Hit Mommy?” Graham Greene, “The End of the Party” William Boyd, “Killing Lizard” D.H. Lawrence, “The Rocking-Horse Winner”</p> <p>1 2. まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Escott and Bassett eds., <i>The Eye of Childhood</i> (Oxford University Press, 2000)		小テスト、発表、ディスカッションへの参加、提出物、最終試験を総合的に評価します。ただし欠席が3回を超えた場合は成績評価の対象になりません。	

05年度	英語専門講読入門 b	担当者	片山 亜紀
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>継続して、子どもをテーマにしたショート・ストーリーを数編扱います。</p>		<p>1-1 1. (続) ストーリーを読む</p> <p>* 次の順序で読み進める予定ですが、難易度やスケジュールの調整のため、一部入れ替えることがあります。</p> <p>Saki, “The Open Window” Penelope Lively, “Next Term, We’ll Mash You” Secrets, “Bernard MacLaverty” Morley Calaghan, “The Runaway”</p> <p>1 2. まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
同上		同上	

05年度	英語専門講読入門 a	担当者	北澤 滋久
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Harvard 大学を舞台に青年男女の恋愛の顛末を描いて、アメリカのみならず、世界的なベスト・セラーとなり、映画においても傑作を生んだ、Erich Segal の <i>Love Story</i> を精読する。この作品は、古来より存在する恋愛小説の典型の現代版であるが、その文体の斬新さのみならず、例えば、</p> <p>① 人種問題 ② 宗教問題 ③ 親子関係 ④ 学生生活</p> <p>等々の、現代のアメリカが抱えるさまざまな問題が内包されているので、これら文化面のことについても適宜解説を交え、討論もいたしながら、単に英文を表面的に上撫でするのではない授業にしてゆきたいと思っている。</p> <p>なお、この授業は昨年このテキストを用いて好評だったので、繰り返し同一テキストによることを、あらかじめお断りしておく。</p>		<p>随時指名した学生と担当者の質疑応答により、英文を逐一味吟しながら読み進め、その内容を把握してゆく。その間に、左の項にあげたことなどの諸問題も扱ってゆく。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Erich Segal, <i>Love Story</i> , Avon Books. (DUOに発注済)		平常の勉学態度と、随時の小テストの累積で評価する。	

05年度	英語専門講読入門 b	担当者	北澤 滋久
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>継続して、同じ小説の後半を読み進めてゆく。春学期の項参照。</p>		<p>春学期の項参照。 なお、予定通りに進行して読み終えれば、最後の週には映画のビデオ版を上映することも考えている。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期の項参照。		春学期の項参照。	

05年度	英語専門講読入門 a	担当者	木村 恵
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[講義目的] 第2言語習得(SLA: second language acquisition)研究の中の、特に「実証的研究」を行う方法論について学ぶ。より良い日本の英語教育を考えるにあたり、教師や研究者たちは、「Aという教え方とBという教え方のどちらが効果的なのか?」、「日本人の英語語彙力を正確に測れるテストはどのように作ったらよいのか?」といった、数多くの疑問を持っている。それらの疑問に対する答えを探すため、実験を行ったり、学習者を観察したりして実証的なデータを収集・分析する研究が行われている。この講義では、そのような実証研究の論文を読み、その方法論について学んでいく。さらに、その研究方法について批評・議論を行い、自分なりの修正を提案することまでを目指していきたい。</p> <p>[講義概要] 日本で出版されたある論文を予め読んでおき、授業では全員でその方法論についての理解を確認する。一致した理解を得られたところで議論に進む。</p>		<p>13. オリエンテーション 14. 論文1: 方法論の確認 15. 論文1: 方法論についてのディスカッション 16. 論文1: 修正の提案 (→ 提出) 17. 論文2: 方法論の確認 18. 論文2: 方法論についてのディスカッション 19. 論文2: 修正の提案 (→ 提出) 20. 論文3: 方法論の確認 21. 論文3: 方法論についてのディスカッション 22. 論文3: 修正の提案 (→ 提出) 23. 論文4: 方法論の確認 24. 論文4: 方法論についてのディスカッション</p> <p>レポート: 論文4: 修正の提案</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
日本国内で出版された、日本人の英語学習について取り扱った英語論文。その都度コピーを配布する。		試験は行わない。(1)出席、(2)授業中の議論への積極的な参加・貢献度、(3)レポートの提出状況から総合的に判断する。	

05年度	英語専門講読入門 b	担当者	木村 恵
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[講義目的] 春学期同様、SLA研究の中の、特に「実証的研究」を行う方法論について学ぶ。 秋学期は、より広い視野をもってSLA研究を考えることを目指し、海外で出版された論文を読んでいく。</p> <p>[講義概要] 1) 論文を読み、その方法論について理解の確認を行う 2) その研究方法について批評・議論を行う 3) 自分なりの修正を提案するという手順は春学期と同じ。</p>		<p>1. オリエンテーション 2. 論文1: 方法論の確認 3. 論文1: 方法論についてのディスカッション 4. 論文1: 修正の提案 (→ 提出) 5. 論文2: 方法論の確認 6. 論文2: 方法論についてのディスカッション 7. 論文2: 修正の提案 (→ 提出) 8. 論文3: 方法論の確認 9. 論文3: 方法論についてのディスカッション 10. 論文3: 修正の提案 (→ 提出) 11. 論文4: 方法論の確認 12. 論文4: 方法論についてのディスカッション</p> <p>レポート: 論文4: 修正の提案</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
海外で出版された、第2言語学習について取り扱った英語論文。その都度コピーを配布する。		試験は行わない。(1)出席、(2)授業中の議論への積極的な参加・貢献度、(3)レポートの提出状況から総合的に判断する。	

05 年度	英語専門講読入門 a	担当者	児嶋 一男
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>英米の現代演劇の台本をテキストにしてさまざまな英語の主として会話表現を学びます。生まれ育った環境が異なれば、人が使う言葉にも相異が生じます。背景となっている文化を考察し、多種多様な会話表現を読もうと思います。さらに実際の舞台を観て、演劇は面白いということを実感してください。どの台本も最初の 15-20 ページ目までしか教室では読みません。続きは自分で読んでください。テキストは出席者のみにプリントで配布します。教室ではお互いの翻訳を確認しながら、ロール・プレイ形式でテキストを読んでいきます。きちんと辞書を引いて、舞台上で交される話し言葉の日本語翻訳表現をノートに用意して出席することを求めます。事前の準備が不十分な人は、その場で退場してもらい、欠席扱いとします。遅刻はすべて欠席扱いとします。公欠扱いは一切ありません。授業回数の 3 分の 1 以上を欠席した場合、<u>理由の如何を問わず</u>、単位を認めません。</p> <p>遅刻はすべて欠席扱いとします。公欠扱いは一切ありません。授業回数の 3 分の 1 以上を欠席した場合、<u>理由の如何を問わず</u>、単位を認めません。</p>		<p>教室で読む台本は、実際の上演舞台が観られる台本を選んでいきますから、上演スケジュールに合わせて授業を進めていきます。</p> <p>レポートに関する詳細は初回授業で説明します。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>英米の現代演劇の台本を抜粋してプリントで配布します。参考文献は授業中に言及する予定です。</p>		<p>毎回授業開始時に行う vocabulary テスト 60%。観劇レポート (500 字) 2 編で 40%。学期末定期試験はしません。レポートは必修です。未提出者には単位を認めません。</p>	

05 年度	英語専門講読入門 b	担当者	児嶋 一男
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>英米の現代演劇の台本をテキストにしてさまざまな英語の主として会話表現を学びます。生まれ育った環境が異なれば、人が使う言葉にも相異が生じます。背景となっている文化を考察し、多種多様な会話表現を読もうと思います。さらに実際の舞台を観て、演劇は面白いということを実感してください。どの台本も最初の 15-20 ページ目までしか教室では読みません。続きは自分で読んでください。テキストは出席者のみにプリントで配布します。教室ではお互いの翻訳を確認しながら、ロール・プレイ形式でテキストを読んでいきます。きちんと辞書を引いて、舞台上で交される話し言葉の日本語翻訳表現をノートに用意して出席することを求めます。事前の準備が不十分な人は、その場で退場してもらい、欠席扱いとします。遅刻はすべて欠席扱いとします。公欠扱いは一切ありません。授業回数の 3 分の 1 以上を欠席した場合、<u>理由の如何を問わず</u>、単位を認めません。</p>		<p>教室で読む台本は、実際の上演舞台が観られる台本を選んでいきますから、上演スケジュールに合わせて授業を進めていきます。</p> <p>レポートに関する詳細は初回授業で説明します。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>英米の現代演劇の台本を抜粋してプリントで配布します。参考文献は授業中に言及する予定です。</p>		<p>毎回授業開始時に行う vocabulary テスト 60%。観劇レポート (500 字) 2 編で 40%。学期末定期試験はしません。レポートは必修です。未提出者には単位を認めません。</p>	

05年度	英語専門講読入門 a	担当者	小早川 暁
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>下記のテキストの第2章から第4章を読むことを通じて、言語学で用いられる典型的な議論の仕方を身につけることを目標とする。これにより、学期末には、単なる感想文とレポート、論文の違いについて、自分なりの意見がもてるようになることが期待される。</p> <p>第2章 Topics and Hypotheses (15頁から35頁)</p> <p>第3章 Argumentation (37頁から51頁)</p> <p>第4章 Presentation (53頁から63頁)</p>		<p>テキストを読んでゆくが、必要に応じて、取捨選択、補足を行なう。1章あたり、4回の授業をあてる予定である。受講生は、あらかじめ割り当てられた部分について、発表することになる。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Green, Georgia M. and Jerry L. Morgan (2001) <i>Practical Guide to Syntactic Analysis</i> , 2nd ed. Stanford, California: CSLI Publications.		出席状況、授業態度、テスト、学期末のレポート課題などにより総合的に評価する。	

05年度	英語専門講読入門 b	担当者	小早川 暁
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>下記のテキストの第1章から第3章を読むことにより、日本語と英語の比較対照研究に必要となる日本語文法の基礎的事項を身につけることを目標とする。</p> <p>第1章 Typological Characteristics of Japanese (3頁から34頁)</p> <p>第2章 <i>Wa</i> and <i>Ga</i> (Part I)—Theme, Contrast, Exhaustive Listing, and Neutral Description (37頁から61頁)</p> <p>第3章 <i>Wa</i> and <i>Ga</i> (Part II)—Subjectivization (62頁から77頁)</p>		<p>テキストを一行一行丹念に読んでゆく。1章あたり、4回の授業をあてる予定である。受講生は、あらかじめ割り当てられた部分について、発表することになる。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Kuno, Susumu (1973) <i>The Structure of the Japanese Language</i> . Cambridge, Massachusetts: MIT Press.		出席状況、授業態度、テスト、学期末のレポート課題などにより総合的に評価する。	

	英語専門講読入門 a	担当者	佐藤 勉
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期の目標は専門講読へ進むための読みの戦略的技術を習得することを目標とします。</p> <p>物語を読むのですが、様々なトピックスが網羅されているテキストを使用して、沢山の物語の内容の読解と様々の語彙の習得、さらに必要な文法事項などにも触れて多読準備をしていきます。そのために一番取り組みやすいテキストを選びました。テキストには次のような特徴があります。</p> <p>Listening Vocabulary Listening and Speaking Reading Grammar</p>		<p>この授業で扱うものは短い物語で以下のようなものです。</p> <p>Stories :</p> <p><i>Embrace</i> by Joyce Carol Gates <i>Little Things</i> by Raymond Caver <i>The Wish</i> by Roald Dahl <i>I See You Never</i> by Ray Bradbury <i>Silly Asses</i> by Isaac Asimov <i>Breakfast</i> by John Steinbeck <i>After Twenty Year</i> by O. Henry</p> <p>その他に授業の進行状況によってプリントを用意します。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p><i>Reading Through the Skills</i> (Macmillan Languagehouse, 2003) を売店で購入してください。</p> <p>その他にプリントを渡します。</p>		<p>平常点 (これは予習の課題、授業中での発表などがはいる)</p> <p>出席点 (これは春学期の全出席の 3 分の 1 以上で与える)</p> <p>定期試験の点数 (これが評価の中心です)</p>	

	英語専門講読入門 b	担当者	佐藤 勉
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>秋学期の目標はさらに多様な物語、エッセイなどを読んでいきます。様々なトピックスがありますので、自分の興味のあるものが必ずあると思いますので、しっかりと読解を進めていきます。</p> <p>下記に示したテキストには次のような特徴が挙げられています。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Pre-reading Exercise 2. Vocabulary Exercise 3. Strategy Focus : Comprehension Exercise 4. Summary Exercise <p>このほかに適切なプリントを用意します。</p>		<p>この授業の具体的なトピックスは以下のようなものです。</p> <p>Cleaning up the Mess (Tropical Rain Forest)</p> <p>Business: Watching the Bottom Line (The Principles of Problem Solving)</p> <p>Biotechnology : Feeding the Billions (Seed Banking Against Famine)</p> <p>A Changing Living Planet (Earthquake Mentality)</p> <p>Living Together in a World of Peace (Understanding Culture)</p> <p>A Slice of life (A Slice of Life)</p> <p>Secrets in the Stones (The Lost Continent of Atlantis) And so on.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p><i>Between the Lines 5</i> (Shohakusha 2004) を売店で購入してください。その他のものはプリントを渡します。</p>		<p>平常点 (これは予習の課題、授業中での発表などがはいる)</p> <p>出席点 (これは秋学期の全出席の 3 分の 1 以上で与える)</p> <p>定期試験の点数 (これが評価の中心です)</p>	

05年度	英語専門講読入門 a	担当者	島田 啓一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>アメリカの小説（短編）を読みます。訳読と質問表による討論を通じて、英語の読解力と作品理解を深めることを目的とします。</p> <p>最初は訳読を中心に授業を進め、後半は事前に配布した作品の内容に関する質問表の答え合わせをしながら、討論形式で授業を進める予定です。</p> <p>また TOEIC の得点アップを目指して、副教材を使用した授業内小テストを毎回実施する予定です。</p> <p>毎回必ず予習をして授業に臨むことが義務づけられます。万が一予習をしてこなかった場合は、出欠をとるときに、その旨申告してもらいます（「はい」のかわりに「パス」と返事）。但し、「パス」は3回までで、その後は、1回につき1点減点します。欠席は2点減点、30分以内の遅刻、早退は1点減点です。減点0（無遅刻・無欠席・ノーパス）の場合は、学期末に15点の「ボーナス点」を与えます。「パス」の申告漏れは15点減点としますので、発覚すればほぼ致命的と思われます。</p>		<p>第1週 授業の説明など。必ず出席することを希望。欠席すると「ボーナス点」（左記参照）の資格が消えます。</p> <p>第2週以降 前週指示した範囲を読み、訳読や討論をします。以下、同じ。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントや e-text/book などを用いる予定		定期試験(100点満点)±平常点(上記参照)	

05年度	英語専門講読入門 b	担当者	島田 啓一
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期を参照		春学期を参照	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期を参照		春学期を参照	

05年度	英語専門講読入門 a	担当者	鍋倉 健悦
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>近年の英語教育が、“話す英語”を過度に重視するためか、学生の語彙力および文法力の不足が目立つようになってきている。しかし、そもそもある言語を読み、書き、話し、聴く能力の基礎は、語彙力、文法力の筈である。そこで、当講座では、英単語と英文法を主軸とした講読の授業を進めていきたい。なお、授業の3分の1以上を欠席した場合、単位は認められない。</p>		<p>授業では毎回、学生は、語彙力・文法力アップを目的とした様々な英文の解読に取り組むことになる。内容の委細については未定だが、TOEICやTOEFLの問題も広く用いたい。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント使用		出席、平常の授業での評価	

05年度	英語専門講読入門 b	担当者	鍋倉 健悦
講義目的、講義概要		授業計画	
同上		同上	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント使用		出席、平常の授業での評価	

05 年度	英語専門講読入門 a	担当者	原 成吉
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Rock Classic の中から代表的な 2 4 曲の歌詞を取り上げ、その作品から時代を読む。Rock の 5 0 年の歴史から生まれた「歌われる現代詩」の言葉の魅力を、いわゆる現代詩とシンクロさせてみたい。</p> <p>2 人 1 組のレポーターを中心にディスカッション形式でおこなう。レポーターは、発表前に疑問や問題点を e-mail で受講者に送る。それをもとに各自それぞれが解釈を持ちより、クラスでディスカッションする。個々の作品が生まれた政治的・社会的・経済的背景を視野に入れながら、インタラクティブにアメリカ文化論を考える。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. “America” by Paul Simon 2. Eleanor Rigby” by the Beatles 3. “The Boxer” by Paul Simon 4. “Across the Universe” by the Beatles 5. Me and Bobby McGee” by Janis Joplin 6. “Big Yellow Taxi” by Joni Michell 7. “Sweet Baby James” by James Taylor 8. “California” by Joni Michell 9. “Good Night Saigon” by Billy Joel 10. “Thunder Road” by Bruce Springsteen 11. “Luka” by Suzanne Vega 12. “At Seventeen” by Janis Ian 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト プリントを配付</p>		<p>プレゼンテーションとレポート（ワープロで約 4,000 字程度の作品論）によって決める。欠席が授業回数の 1/3 を超えた場合は、評価の対象とはしない</p>	

05 年度	英語専門講読入門 b	担当者	原 成吉
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Rock Classic の中から代表的な 2 4 曲の歌詞を取り上げ、その作品から時代を読む。Rock の 5 0 年の歴史から生まれた「歌われる現代詩」の言葉の魅力を、いわゆる現代詩とシンクロさせてみたい。</p> <p>2 人 1 組のレポーターを中心にディスカッション形式でおこなう。レポーターは、発表前に疑問や問題点を e-mail で受講者に送る。それをもとに各自それぞれが解釈を持ちより、クラスでディスカッションする。個々の作品が生まれた政治的・社会的・経済的背景を視野に入れながら、インタラクティブにアメリカ文化論を考える。</p>		<p>秋学期は Bob Dylan の作品を取りあげる。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト http://search.bobdylan.com/lyricsearch/ よりダウンロード。</p>		<p>プレゼンテーションとレポート（ワープロで約 4,000 字程度の作品論）によって決める。欠席が授業回数の 1/3 を超えた場合は、評価の対象とはしない。</p>	

05年度	英語専門講読入門 a	担当者	福井 嘉彦
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>『聖書』「創世記」の12章以下アブラハムとその子孫たちについて述べた文章を読む。</p> <p>副教材として TOEIC 用テスト問題集を用いる。</p>		<p>テキストの文章の難易度と学生の予習能力に応じて進めていく。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
In the Beginning のプリント		出席の少ない者は不合格にする。授業時での発表と小テストの結果を基本とし、必要な場合、定期試験を行う。	

05年度	英語専門講読入門 b	担当者	福井 嘉彦
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期に準じる。</p>		<p>春学期に準じる。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期と同じ。		春学期に準じる。	

05年度	英語専門講読入門 a	担当者	藤田 永祐
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業の第一の目的は英語を駆使する能力の向上にあります。英文和訳の作業は和訳そのものが目的ではありません。日本語を母国語とする者が英文を記す能力、話す能力を上達させ、磨きをかけるのに、それは欠かすことができない作業でもあるのです。</p> <p>今までに日本の文化と欧米の文化を比較して考察した欧米人や日本人は少なくないのですが、この授業でテキストとして使う <i>Polite Fictions</i> 中の論考は、数ある中で最も優れたものであることはまちがいないでしょう。考察が具体的で分かりやすく、核心を突いていて(必ずしも正鵠を得ているというわけではありませんが)読む人を惹きつける点で右に出るものがないと思われるからです。</p>		<p>色々な手法をとりいれて授業を進める予定です。最初の時間に説明します。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<i>Polite Fictions</i> by Nancy Sakamoto(金星堂)		レポート、平素の小テスト、平常点	

05年度	英語専門講読入門 b	担当者	藤田 永祐
(講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業の第一の目的は英語を駆使する能力の向上にあります。英文和訳の作業は和訳そのものが目的ではありません。日本語を母国語とする者が英文を記す能力、話す能力を上達させ、磨きをかけるのに、それは欠かすことができない作業でもあるのです。</p> <p>今までに日本の文化と欧米の文化を比較して考察した欧米人や日本人は少なくないのですが、この授業でテキストとして使う <i>Polite Fictions</i> 中の論考は数ある中で最も優れたものであることはまちがいないでしょう。考察が具体的で分かりやすく、核心を突いていて(必ずしも正鵠を得ているというわけではありませんが)読む人を惹きつける点で右に出るものがないと思われるからです。</p>		<p>最初の授業はガイダンス</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<i>Polite Fictions</i> (金星堂)		レポート、平素の小テスト、平常点	

05年度	英語専門講読入門 a	担当者	前沢 浩子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>George Bernard Shaw (ジョージ・バーナード・ショー) の戯曲 <i>Pygmalion</i> (『ピグマリオン』) と、この作品を原作にしたミュージカル <i>My Fair Lady</i> (『マイ・フェア・レディ』) を読み比べ、近代の英国の劇作品とその受容について考えることを目指す。</p> <p>映画化もされているミュージカル <i>My Fair Lady</i> は、ロマンティックなシンデレラ・ストーリーであるが、その台詞には英語という言語についての強い問題意識がこめられている。社会に対して警告を發し続けた劇作家 Shaw の批判精神が、<i>Pygmalion</i> という原作を通して、<i>My Fair Lady</i> にも受け継がれているからだ。甘い音楽に包まれた上質なエンターテインメント <i>My Fair Lady</i> と辛口の結末で終わる <i>Pygmalion</i> を読みながら、「社会と言語」「女性の自立」「マザコンの学者」など今日にも通じる問題を抽出してみたい。</p>		<p><i>My Fair Lady</i> を読みながら、随時、対応する <i>Pygmalion</i> の場面と比較する。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>Alan Jay Lerner, <i>My Fair Lady</i> George Bernard Shaw, <i>Pygmalion</i> プリント</p>		<p>平常点と期末テストを合わせて評価する。</p>	

05年度	英語専門講読入門 b	担当者	前沢 浩子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>George Bernard Shaw (ジョージ・バーナード・ショー) の戯曲 <i>Pygmalion</i> (『ピグマリオン』) と、この作品を原作にしたミュージカル <i>My Fair Lady</i> (『マイ・フェア・レディ』) を読み比べ、近代の英国の劇作品とその受容について考えることを目指す。</p> <p>映画化もされているミュージカル <i>My Fair Lady</i> は、ロマンティックなシンデレラ・ストーリーであるが、その台詞には英語という言語についての強い問題意識がこめられている。社会に対して警告を發し続けた劇作家 Shaw の批判精神が、<i>Pygmalion</i> という原作を通して、<i>My Fair Lady</i> にも受け継がれているからだ。甘い音楽に包まれた上質なエンターテインメント <i>My Fair Lady</i> と辛口の結末で終わる <i>Pygmalion</i> を読みながら、「社会と言語」「女性の自立」「マザコンの学者」など今日にも通じる問題を抽出してみたい。</p>		<p>春学期の続き。<i>My Fair Lady</i> を読みながら、随時、対応する <i>Pygmalion</i> の場面と比較する。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>Alan Jay Lerner, <i>My Fair Lady</i> George Bernard Shaw, <i>Pygmalion</i> プリント</p>		<p>平常点と期末テストを合わせて評価する。</p>	

	英語専門講読入門 a (再履修)	担当者	小早川 暁
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>下記のテキストの第2章から第4章を読むことを通じて、言語学で用いられる典型的な議論の仕方を身につけることを目標とする。これにより、学期末には、単なる感想文とレポート、論文の違いについて、自分なりの意見がもてるようになることが期待される。</p> <p>第2章 Topics and Hypotheses (15 頁から 35 頁)</p> <p>第3章 Argumentation (37 頁から 51 頁)</p> <p>第4章 Presentation (53 頁から 63 頁)</p>		<p>テキストを読んでゆくが、必要に応じて、取捨選択、補足を行なう。1章あたり、4回の授業をあてる予定である。受講生は、あらかじめ割り当てられた部分について、発表することになる。また、学期中、折に触れて、理解度を確認するためのテストを行なう予定である。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>Green, Georgia M. and Jerry L. Morgan (2001) <i>Practical Guide to Syntactic Analysis</i>, 2nd ed. Stanford, California: CSLI Publications.</p>		<p>出席状況、授業態度、テスト、学期末のレポート課題などにより総合的に評価する。</p>	

	英語専門講読入門 b (再履修)	担当者	小早川 暁
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>下記のテキストの第1章から第3章を読むことにより、日本語と英語の比較対照研究に必要となる日本語文法の基礎的事項を身につけることを目標とする。</p> <p>第1章 Typological Characteristics of Japanese (3 頁から 34 頁)</p> <p>第2章 <i>Wa</i> and <i>Ga</i> (Part I)—Theme, Contrast, Exhaustive Listing, and Neutral Description (37 頁から 61 頁)</p> <p>第3章 <i>Wa</i> and <i>Ga</i> (Part II)—Subjectivization (62 頁から 77 頁)</p>		<p>テキストを一行一行丹念に読んでゆく。1章あたり、4回の授業をあてる予定である。受講生は、あらかじめ割り当てられた部分について、発表することになる。また、学期中、折に触れて、理解度を確認するためのテストを行なう予定である。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>Kuno, Susumu (1973) <i>The Structure of the Japanese Language</i>. Cambridge, Massachusetts: MIT Press.</p>		<p>出席状況、授業態度、テスト、学期末のレポート課題などにより総合的に評価する。</p>	

03～05 年度	英語専門講読入門 a (再履修)	担当者	佐野 康子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>現代の国際社会を理解するには、先進国の動きのみならず、世界の大半を占める開発途上国の動きをも知っておく必要がある。本授業では、途上国問題の入門書をテキストとして使用し、先進国との歴史的関係、途上国を取巻く国際情勢、また途上国の直面する開発問題を読み解く。授業を通じて、学生には、開発途上国への関心を高めるのと同時に、途上国問題に関する基礎的な知識、また同分野において頻繁に使用される英語の表現を習得してもらいたい。</p> <p>授業は、学生による担当箇所の発表またディスカッションによって進める。授業内容の理解度を把握するため、毎回授業の始めに小テストを行う。また、授業への学生の積極的な参加を促すため、出席、授業への参加状況を重視する。</p> <p>学生の理解度に応じて授業を進めるつもりであるが、春学期では、主にテキストの前半部分を扱う。</p> <p>尚、第一週目のオリエンテーションにて、授業の詳細について説明する。</p>		<p>1. オリエンテーション</p> <p>2. ～1 2. 小テスト、発表、ディスカッション</p> <p>(取上げるテーマは、以下の通り。)</p> <ul style="list-style-type: none"> • The Other World ? • The Old and the New Colonialism, Neocolonialism, and Nationalism • Political Economy • Women and Development 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Joseph N. Weatherby and Emmit B. Evans (eds), <i>The Other World: Issues and Politics of the Developing World</i> , sixth edition (New York: Longman, 2005).		出席、授業への参加状況、小テスト、学期末試験の総合評価。	

03～05 年度	英語専門講読入門 b (再履修)	担当者	佐野 康子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期と同じテキストを使用する。テキストの後半部分を読み進める。春学期で扱った各々のテーマへの理解を深めるため、南米、サハラ以南アフリカ、アジア、中東・北アフリカ、中央アジアの 5 つの地域、また域内国を具体的な事例として扱う。</p> <p>尚、第一週目のオリエンテーションにて、授業の詳細を説明する。</p>		<p>1. オリエンテーション</p> <p>2. ～1 2. 小テスト、発表、ディスカッション</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期と同じ。		春学期と同じ。	

	スピーチ・クリニック	担当者	清水 由理子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[講義目的] 3学期生(2年生)以上で英語教員を目指す人を対象とし、次のような目的で行う。</p> <p>① 発音練習。第一歩として英語の音、強勢、抑揚の違いの聞き分けとそれを実際に発音できるようになること。</p> <p>② 発音指導。英語教育の現場で生徒に英語の発音を教える際の指導の仕方を学ぶ。</p> <p>[講義概要] 英語の単音・音のつながり・強勢とリズム・抑揚についての特徴と発音の仕方の要点を把握する。実際に練習することを通して、生徒に教える際のポイントを学ぶ。英語音声学の基礎知識を持っており、少なくとも発音記号が読めることが前提となる。毎回、診断テストとアチーブメントテストがあり、その結果を参考にして自分の苦手な部分を課外にも十分練習することが求められる。</p> <p>定員20名の学期完結のコース。定員を超えた場合は、最初の授業で抽選をする。</p>		<p>1. Introduction Lesson 1 Stress</p> <p>2. Listening Test Lessons 2-3 Stops</p> <p>3. Lessons 4-5 Stops and Fricatives</p> <p>4. Lessons 6-7 Fricatives</p> <p>5. Lessons 8-9 Nasals and Liquids</p> <p>6. Lessons 10-11 Liquids and Semivowels</p> <p>7. Lessons 12-13 Consonant Clusters Stress and Rhythm</p> <p>8. Lessons 14-15 Front Vowels</p> <p>9. Lessons 16-17 Central Vowels</p> <p>10. Lessons 18-19 Back Vowels</p> <p>11. Lessons 20-21 Diphthongs, Obscure Vowels and Rhythm</p> <p>12. Lessons 22-23 Intonation</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
牧野 勤 他: <i>New Approach to English Pronunciation</i> , 愛育社		期末試験(リスニングとスピーキング・テスト)に平常点(出席状況、アチーブメント・テスト、ミニ実習)を加味する。	

	スピーチ・クリニック	担当者	清水 由理子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[講義目的] 3学期生(2年生)以上で英語教員を目指す人を対象とし、次のような目的で行う。</p> <p>① 発音練習。第一歩として英語の音、強勢、抑揚の違いの聞き分けとそれを実際に発音できるようになること。</p> <p>② 発音指導。英語教育の現場で生徒に英語の発音を教える際の指導の仕方を学ぶ。</p> <p>[講義概要] 英語の単音・音のつながり・強勢とリズム・抑揚についての特徴と発音の仕方の要点を把握する。実際に練習することを通して、生徒に教える際のポイントを学ぶ。英語音声学の基礎知識を持っており、少なくとも発音記号が読めることが前提となる。毎回、診断テストとアチーブメントテストがあり、その結果を参考にして自分の苦手な部分を課外にも十分練習することが求められる。</p> <p>定員20名の学期完結のコース。定員を超えた場合は、最初の授業で抽選をする。</p>		<p>1. Introduction Lesson 1 Stress</p> <p>2. Listening Test Lessons 2-3 Stops</p> <p>3. Lessons 4-5 Stops and Fricatives</p> <p>4. Lessons 6-7 Fricatives</p> <p>5. Lessons 8-9 Nasals and Liquids</p> <p>6. Lessons 10-11 Liquids and Semivowels</p> <p>7. Lessons 12-13 Consonant Clusters Stress and Rhythm</p> <p>8. Lessons 14-15 Front Vowels</p> <p>9. Lessons 16-17 Central Vowels</p> <p>10. Lessons 18-19 Back Vowels</p> <p>11. Lessons 20-21 Diphthongs, Obscure Vowels and Rhythm</p> <p>12. Lessons 22-23 Intonation</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
牧野 勤 他: <i>New Approach to English Pronunciation</i> , 愛育社		期末試験(リスニングとスピーキング・テスト)に平常点(出席状況、アチーブメント・テスト、ミニ実習)を加味する。	

	英語専門講読 a (Learning Bow)	担当者	J.J. Duggan
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><i>Learning to Bow</i> is the first-person account of a young American taking part in the JET program in Japan. It offers an instructive, yet amusing, inside look at Japan's educational system as seen by someone from another culture. The author's account of his experiences with his Japanese students, supervisors and colleagues (including such educationally and culturally relevant topics as how boys and girls learn gender roles, or the impact of strict school rules) will form the basis of study for this class.</p> <p>By reading and discussing the observations made by the author, it is hoped that students will achieve a new outlook and understanding of the education system in Japan and of Japanese society and culture in general.</p> <p>Students will be required to keep reading journals in which they will record their assignments as well as their own observations, opinions, and discussion of the text. These journals will be occasionally collected and checked by the instructor.</p> <p>As participation and attendance are essential for learning from this course, if you miss or are very late for more than 1/3 of the lessons, you will automatically fail.</p>		<p>Week 1: Introduction & Ch.1: Through the open door. Week 2: Ch.2: Drawing the lines. Week 3: Ch.3: The first day of school. Week 4: Ch.4: The welcome party. Week 5: Ch.5: The sports festival. Week 6: Ch.6: Fall in the chestnut basin. Week 7: Ch.7: The anatomy of a junior high school uniform. Week 8: Ch.8: Making hospital rounds. Week 9: Ch.9: Trash Day. Week 10: Ch.10: The lost art of school lunch. Week 11: Ch.11: New Year's Eve and the rising sun. Week 12: Ch.12: The Japanese color wheel & Review.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Feiler, B. <i>Learning to Bow: Inside the Heart of Japan</i> . (Harper Perennial).		Grades are based on in-class participation, assignments, and a final assessment based on the text and lecture.	

	英語専門講読 b (Learning Bow)	担当者	J.J. Duggan
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><i>Learning to Bow</i> is the first-person account of a young American taking part in the JET program in Japan. It offers an instructive, yet amusing, inside look at Japan's educational system as seen by someone from another culture. The author's account of his experiences with his Japanese students, supervisors and colleagues (including such educationally and culturally relevant topics as how boys and girls learn gender roles, or the impact of strict school rules) will form the basis of study for this class.</p> <p>By reading and discussing the observations made by the author, it is hoped that students will achieve a new outlook and understanding of the education system in Japan and of Japanese society and culture in general.</p> <p>Students will be required to keep reading journals in which they will record their assignments as well as their own observations, opinions, and discussion of the text. These journals will be occasionally collected and checked by the instructor.</p> <p>As participation and attendance are essential for learning from this course, if you miss or are very late for more than 1/3 of the lessons, you will automatically fail.</p>		<p>Week 1: Introduction & Ch.13: Twin winter escapades. Week 2: Ch.14: The teacher in Japan. Week 3: Ch.15: The Juku generation. Week 4: Ch.16: Drinking alone in rural Japan. Week 5: Ch.17: How to pick up a Japanese girl. Week 6: Ch.18: Graduation Day. Week 7: Ch.19: A cherry blossom spring. Week 8: Ch.20: A tale of two students. Week 9: Ch.21: The invisible class. Week 10: Ch.22: A Japanese wedding spectacular. Week 11: Ch.23: The annual school excursion. Week 12: Ch.24: The American class & Review.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Feiler, B. <i>Learning to Bow: Inside the Heart of Japan</i> . (Harper Perennial).		Grades are based on in-class participation, assignments, and a final assessment based on the text and lecture.	

	英語専門講読 a (Sociolinguistics)	担当者	T.Hill
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Sociolinguistics is the study of how language use is affected by different social factors. In this course, we will use one of the first books ever written in this field, and we will study the following topics: language and society, language and social class, language and ethnic group, language and gender, language and context, language and nation, language and geography, and language and humanity.</p> <p>Students will be expected to read the textbook, and come to class prepared to discuss the issues. They will also be expected to write a number of short papers on some of the topics studied.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 2. Language and Society 1 3. Language and Society 2 4. Language and Social Class 1 5. Language and Social Class 2 6. Language and Ethnic Group 1 7. Language and Ethnic Group 2 8. Language and Gender 1 9. Language and Gender 2 10. Language and Context 1 11. Language and Context 2 12. Review 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>Sociolinguistics: An Introduction to language and society Peter Trudgill Penguin Books Fourth Edition</p>		<p>Evaluation will be based on attendance, participation in class, written papers, and a final exam.</p>	

	英語専門講読 b (Sociolinguistics)	担当者	T.Hill
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Sociolinguistics is the study of how language use is affected by different social factors. In this course, we will use one of the first books ever written in this field, and we will study the following topics: language and society, language and social class, language and ethnic group, language and gender, language and context, language and nation, language and geography, and language and humanity.</p> <p>Students will be expected to read the textbook, and come to class prepared to discuss the issues. They will also be expected to write a number of short papers on some of the topics studied.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 2. Language and Social Interaction 1 3. Language and Social Interaction 2 4. Language and Nation 1 5. Language and Nation 2 6. Language and Geography 1 7. Language and Geography 2 8. Language and Contact 1 9. Language and Contact 2 10. Language and Humanity 1 11. Language and Humanity 2 12. Review 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>Sociolinguistics: An Introduction to language and society Peter Trudgill Penguin Books Fourth Edition</p>		<p>Evaluation will be based on attendance, participation in class, written papers, and a final exam.</p>	

	英語専門講読 a (Exploring Learning)	担当者	T. Murphey
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><u>HOW YOU LEARN WITH OTHERS</u> will be the main topic for this advanced class. You can experiment with learning in many ways and then discuss these in your recordings. Starting the first week <u>you will be recorded</u> having conversations on video. At the end of each semester you will have about 10 five-minute video-recordings of yourself (one each week) and write a paper comparing your first conversations with your later ones. You can see how you improved and evaluate your learning experiments and strategies, beliefs, and identities.</p> <p>We will look at how we can ENJOY learning more in many ways, in and out of class. For example, we may have some classes OUTSIDE, learn to JUGGLE, call each other on our cell phones and get used to USING English outside of class in our everyday lives.</p> <p>Because I adjust to student feedback, the above schedule is approximate. Students will read about 2 chapters in the texts each week.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction and tentative syllabus: Intro video 2. Five ways I like to learn 3. Helpful Friends & Classmates 4. Learning New Strategies 5. Mistake stories 6. Language Learning Histories 7. Movie Discussion 8. Topics to be determined 9. Topics to be determined 10. Topics to be determined 11. Topics to be determined 12. My Progress This Semester 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>Required Texts 1) (1998). <i>Language Hungry!</i> [You buy it from the teacher in the first class]</p>		<p><i>Evaluation:</i> Students will be evaluated each week from their participation and action logs. A paper at the end of each semester and an interview with the teacher will also support your grade. 1/3 absent or missed work = automatic "F" No final exam.</p>	

	英語専門講読 b (Exploring Learning)	担当者	T. Murphey
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Please note: This class has an English Mostly policy—students are expected to try to use mostly English as much as possible and to achieve 100% English classes half the time during each semester. Mistakes are OK, they show we are trying. Your level is not important, but your WILLINGNESS to try to speak in English is.</p> <p>You should count on at least an hour a week of reading, watching, or activity time a week.</p> <p><u>Comment from a student last year</u> “Videoing our conversations in English is a great way to improve our English. This class also got me used to using English in my everyday life. After 90 minutes in English, it just comes naturally after class. You gave us a lot of work. I did most of it and I learned a lot.” For more information see http://www2.dokkyo.ac.jp/%7Eesemi029/pages/timteaches.htm</p>		<p>September (Fall Semester) Weeks</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Video 1 Summer vacation 2. Video 2 Jobs 3. Video 3 Extensive Reading 4. Video 4 Being Someone Else 5. Video 5 Language Learning History 6. Video 6 MOVIE Rapa Nui 7. Video 7 Topics to be determined 8. Open Variation 9. Video 8 Class Reunion 10. Video 9 Random Acts of Kindness 11. Video 10 Movie Wonderful Life 12. Video 11 My Progress This semester <p>Because I adjust to student feedback the above schedule is approximate. Students will read and write a good bit each week. SAME EVALUATION SYSTEM and TEXTS AS ABOVE A Yahoo Groups E-mail MAILING LIST will be used for this class to mail newsletters and reading material. Students are expected to check their email accounts regularly. Note: keitai accounts cannot be used.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Same as above.		Same as above.	

	英語専門講読 a (音声入門)	担当者	青柳 真紀子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的 音声(生成・知覚・習得など)に関連して、いくつかの読み物(英語)から抜粋して読んでいく。音声学や音韻論の基礎の学習を通して、音声に対する興味を開拓し、知能としての言語の面白さに触れる。</p> <p>使用するテキストは比較的やさしい入門書ではあるが、専門的な内容についてある程度まとまった分量を読み進めることにより、分析的な読解力と視点を養う。</p> <p>講義概要 (1) 英語を中心にした音声概論(手話、音声獲得少し含む。) (2) 日本語の音声と音韻の基礎について (3) 音声知覚入門(音響基礎、範疇知覚、こどもの音声獲得、動物)</p> <p>2005 年度に青柳担当の「専門講読入門」「専門講読」(音声学)を履修した学生には、重複する部分が多量にあるが、新しい分野が多くなるので(日本語、手話、聴覚認知など)、新たに発見があるはずである。</p> <p>各学生は毎回の指定範囲の予習が前提となる。授業においては担当発表者がハンドアウト(配布資料)を使用して内容を発表する。これについて担当者が補足、解説をし、また質疑応答・議論を行う。</p> <p>メッセージ リーディング課題は、最初は苦しいかもしれないが、少しずつ慣れていけるはずである。読んでいるかどうか少しずつチェックをする予定なので、是非チャレンジして欲しい。一緒に頑張りましょう。</p> <p>また、秋学期は音響的な要素が入ってくるので、コンピュータによる音声の勉強(分析や実験)の導入になるかもしれない(内容は初歩的)。男子学生もどうぞ来たれ。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. L-Ch-6 Introduction 2. L-Ch-6 Articulatory Phonetics 3. L-Ch-6 Articulatory Phonetics (2) Exercise 4. L-Ch-7 The Phonological units of Language (p.283) 5. L-Ch-7 The phonological units of Language (2) 6. L-Ch-8 Language Acquisition (Speech..., p. 352) 7. Review Exercises 8. J-Ch-2 Phonetics 9. J-Ch-3 Phonology (1) 10. J-Ch-3 Phonology (2) 11. J-Ch-3 Phonology (3) Rendaku 12. Review Exercises 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Ryalls, Jack. (1996) <i>A Basic Introduction to Speech Perception</i> . Singular Publishing Group Inc. (ISBN: 1-56593-617-5)		発表、授業参加(準備・参加)、小テスト、試験の総合評価による。各項で最低限をクリアすること。	

	英語専門講読 b (音声入門)	担当者	青柳 真紀子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>秋学期</p> <p>Ryalls (1996) を使って、音声知覚の基礎を学ぶ。</p> <p>この書は、入門書の中でもっとも平易に簡潔に書かれているものである。英語も易しく、各章も文字の大きいわずかなページからなり、後ろに確認 exercise がついて初心者にとっても親切である。</p> <p>適宜、コンピュータによる音声デモンストレーションを入れられればいいと思う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. S-Ch-1 The Sounds of Speech 2. S-Ch-2 Basic Speech Acoustics, デモンストレーション 3. S-Ch-3 Perception of Consonants, デモ 4. S-Ch-4 Categorical Perception, デモ 5. S-Ch-8 A theory of Acoustic Invariance 6. S-Ch-9 Dichotic Listening 7. S-Ch-10 Parallel Distributed Processing Models: Bottom-up versus Top-down 9. S-Ch-11 Studies of Infant Speech Perception 10. S-Ch-12 Development of Speech Perception 11. S-Ch-13 Speech Perception in Animals 12. S-Ch-14 Disorders Affecting Speech Perception 	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期と同じ。		発表、授業参加(準備・参加)、小テスト、試験の総合評価による	

	英語専門講読 a (Exploring Language Teaching)	担当者	浅岡 千利世
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>In this course, you will learn practical ideas and techniques in materials development for language teaching and integrating Global Issues into language learning classes.</p> <p>All the coursework will be conducted in English. You will be encouraged to actively participate in the class activities.</p> <p>This course is strongly recommended for students who are in the teacher-training course.</p> <p><i>Please refer to <u>Kogi-shien System</u> whenever you miss a class which will be updated with the latest information.</i></p>		<p><u>Tentative Schedule</u></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 2. Global issues and language learning 3. Global issues and language teaching 4. Finding and selecting materials 5. Adapting materials 6. Content-rich songs 7. Developing activities 8. Developing activities 9. Presentations 10. Presentations 11. Presentations 12. Evaluating your materials 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>講義支援システム使用</p> <p>参考文献: <u>Materials Development in Language Teaching</u> (B. Tomlinson, Cambridge Univ. Press), <u>Global Issues</u> (Sampedro & Hillyard, Oxford)</p>		class participation, reading assignments and projects	

	英語専門講読 b (Exploring Language Teaching)	担当者	浅岡 千利世
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>In this course, you will learn practical ideas and techniques in materials development for language teaching and integrating Global Issues into language learning classes.</p> <p>All the coursework will be conducted in English. You will be encouraged to actively participate in the class activities.</p> <p>This course is strongly recommended for students who are in the teacher-training course.</p> <p>Please refer to <u>Kogi-shien System</u> whenever you miss a class which will be updated with the latest information.</p>		<p><u>Tentative Schedule</u></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 2. Global issues and language learning 3. Global issues and language teaching 4. Using authentic materials 5. Using films as a teaching material 6. Using media as a teaching material 7. Developing activities 8. Developing activities 9. Presentations 10. Presentations 11. Presentations 12. Evaluating your materials 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>講義支援システム使用</p> <p>参考文献: <u>Materials Development in Language Teaching</u> (B. Tomlinson, Cambridge Univ. Press), <u>Global Issues</u> (Sampedro & Hillyard, Oxford)</p>		class participation, reading assignments and projects	

	英語専門講読 a (いろいろな英語発音)	担当者	大西 雅行
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>目的：英語の発音は地域により、人により異なる。それは音声をどのレベルで観察するか、どのような分類の仕方によるか、どのような単位で扱うかで、音声の種々の側面を捉え、音声の実態を知ることができる。</p> <p>概要：授業は学生の輪読と、担当者の語句、内容の説明で進める。極力、多くの学生に当てたいので、十分、予習し、遅刻、欠席のないように心がけること。</p>		<p>How accents differ? Phonetic realization Phonotactic distribution Phonemic systems Lexical distribution Further considerations Consequences: rhymes, puns, and intelligibility Rhythmical characteristics Intonation Voice quality</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント		期末の試験の点と平常点の総合	

	英語専門講読 b (いろいろな英語発音)	担当者	大西 雅行
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>目的：発音は何故、異なって生じるのか。その体系を考察する。</p> <p>概要：春学期の内容と深く関わりがあるので、春学期のプリントが終えて、秋学期のプリントへ進む。 授業は学生の輪読と、担当者の語句、内容の説明で進める。極力、多くの学生に当てたいので、十分、予習し、遅刻、欠席のないように心がけること。</p>		<p>Why accents differ? Why innovations arise? System preservation Splits and mergers Regularization Why innovations spread? The influence of literacy Altering one's accent</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント		期末の試験の点と平常点の総合	

	英語専門講読 a (The Authorized Version (欽定訳聖書) を読む)	担当者	川崎 潔
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>英訳聖書、殊に The Authorized Version(1611年出版)は、英語英文学を学ぶ者にとって必読の書である。AV は先行する英訳聖書の粋を集大成したものであり、それ以後信仰の書として読み続けられ、英米の文化と文学にも広く深い影響をあたえてきたからである。</p> <p>授業では AV の旧・新約から代表的な箇所を抜粋した「英訳聖書鈔」を語学的に精読することに重点をおきたいと思う。その際 AV を他の現代英語訳聖書、例えば Revised Standard Version(新旧両訳 1952 年)や New English Bible(新旧両訳・外典 1970 年)と読み比べれば、両者の英語の違いを具体的に知ることができよう。</p> <p>なおテキストには 90 頁から成る詳しい注が付けられており、有益である。</p>		<p>1~2 Chapter I</p> <p>3~5 Chapter II</p> <p>6 Chapter XXVIII</p> <p>7~8 Chapter III</p> <p>9~10 Chapter IV</p> <p>11~12 Chapter V</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：船橋 雄 注釈「英訳聖書鈔」研究社 ¥2,200</p> <p>参考文献：寺沢芳雄ほか著「英語の聖書」富山房</p>		<p>期末テストと平常点によって評価する。</p>	

	英語専門講読 b (The Authorized Version (欽定訳聖書) を読む)	担当者	川崎 潔
講義目的、講義概要		授業計画	
同上		<p>1 Chapter V</p> <p>2~8 Chapter VI</p> <p>9~10 Chapter XXIX</p> <p>11~12 Chapter XXIV</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
同上		同上	

	英語専門講読 a (認知意味論)	担当者	小早川 暁
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>英語の読解力を高めることを目的とする。使用するテキストは、英語で書かれた認知言語学の入門書である。例証として用いられているデータも英語であるので、英語そのものについての理解も深めることができるはずである。</p> <p>授業では、下記のテキストの第1章から第3章を読んでゆく。丹念な読みを通じて、日本語らしさ、英語らしさについても学ぶことになる。</p> <p>第1章 Basis Concepts (1 頁から 12 頁)</p> <p>第2章 Space (18 頁から 28 頁)</p> <p>第3章 Extensions form Spatial Meanings (30 頁から 49 頁)</p>		<p>テキストを一行一行丹念に読んでゆく。必要に応じて、補足資料を配布する。進度としては、1章あたり、4回の授業をあてる予定である。受講生は、あらかじめ割り当てられた部分について、発表することになる。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>Lee, David (2001) <i>Cognitive Linguistics: An Introduction.</i> South Melbourne: Oxford University Press.</p>		<p>出席状況、授業態度、テスト、学期末のレポート課題などにより総合的に評価する。</p>	

	英語専門講読 b (認知意味論)	担当者	小早川 暁
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>英語の読解力を高めることを目的とする。使用するテキストは、英語で書かれた認知言語学の入門書である。例証として用いられているデータも英語であるので、英語そのものについての理解も深めることができるはずである。</p> <p>授業では、下記のテキストの第4章、第8章及び第9章を読んでゆく。丹念な読みを通じて、日本語らしさ、英語らしさについても学ぶことになる。</p> <p>第4章 Radial Categories (53 頁から 67 頁)</p> <p>第8章 Count and Mass Nouns (137 頁 145 頁)</p> <p>第9章 Perfective and Imperfective Uses of Verbs (147 頁から 154 頁)</p>		<p>テキストを一行一行丹念に読んでゆく。必要に応じて、補足資料を配布する。進度としては、1章あたり、4回の授業をあてる予定である。受講生は、あらかじめ割り当てられた部分について、発表することになる。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>Lee, David (2001) <i>Cognitive Linguistics: An Introduction.</i> South Melbourne: Oxford University Press.</p>		<p>出席状況、授業態度、テスト、学期末のレポート課題などにより総合的に評価する。</p>	

	英語専門講読 a (人間言語の普遍的特徴)	担当者	鈴木 英一
講義目的・講義概要		授業計画	
<p>講義目的: 世界的に著名な言語学者であるNoam Chomskyが1975年に公刊した画期的な論文を読み、英語の読解力を伸ばしながら、生成文法理論の神髄を理解する。あわせて言語学における説明の美しさも感じ取りたい。</p> <p>講義概要: まず、文を生成する規則は意味や語彙に依存するのではなく構造に依存するというChomskyの1955年来の基本的な立場が述べられる。次に、1965年に提案された生成文法の標準理論が説明され、特に、文の基本的な構造である句構造標識とそれを生成する基底部と中心的な概念である「深層構造」が説明される。深層構造に規則が適用されて文が派生されるが、規則の適用には厳しい制限があることが明らかにされ、その制限を形式化した「下接の原理」は人間言語を特徴づける普遍的特性であると提案される。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Structure Dependence of Grammatical Rules 2. Base Component and Phrase Markers (1) 3. Base Component and Phrase Markers (2) 4. Standard Theory and Notion of “Deep Structure” 5. Transformational Component and Surface Structures (1) 6. Transformational Component and Surface Structures (2) 7. Domains of Transformations and Cyclic Category 8. Subjacency; Condition on Transformations 9. Conditions on Wh-Movement 10. Universal Grammar and Language Faculty 11. Two Arguments about Language Acquisition 12. Subjacency Principle as a Principle of Universal Grammar 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト: Noam Chomsky (1975) “Some General Features of Language”. <i>Reflections on Languages</i>. Pantheon. 参考書: 安井稔(編)『コンサイス英文法辞典』(三省堂)</p>		<p>出席状況、授業の予習、授業中の発表、期末試験の成績を総合して評価する。なお、単位の認定には授業回数の2/3以上の出席が必要とされる。</p>	

	英語専門講読 b (人間言語の普遍的特徴)	担当者	鈴木 英一
講義目的・講義概要		授業計画	
<p>講義目的: (春学期と同じ) 世界的に著名な言語学者であるNoam Chomskyが1975年に公刊した画期的な論文を読み、英語の読解力を伸ばしながら、生成文法理論の神髄を理解する。あわせて言語学における説明の美しさも感じ取りたい。</p> <p>講義概要: (春学期の続き) 疑問詞としてWh語を含むWh疑問文が詳細に分析され、要素が移動される際にその要素の元に位置に痕跡(trace)が残されるという、「移動の痕跡理論」が提案される。生成文法に痕跡理論が組み込まれたのが、生成文法理論の発展の中でもっとも注目される理論の一つ《修正拡大標準理論》である。痕跡を用いることによって、表層構造が豊かになり、表層構造によって全ての意味解釈がなされると考えられる。痕跡理論が素晴らしい点は、移動規則によって残される痕跡がほかの言語要素特に再帰代名詞や相互代名詞といった照応形と同じ制約によって説明されるということである。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Syntax or Semantics? Explanation of Wh-Questions (1) 2. Syntax or Semantics? Explanation of Wh-Questions (2) 3. Trace Theory of Movement Rules 4. Motivations for Trace Theory 5. Wh-Movement and Interpretation of Pronouns 6. Semantic Interpretation of Enriched Surface Structures (1) 7. Semantic Interpretation of Enriched Surface Structures (2) 8. Specified Subject Condition and Trace Theory 9. Reformulation of Passive Rule 10. Traces and Binding Quantifiers 11. Binding Principles and Conditions on Transformations (1) 12. Binding Principles and Conditions on Transformations (2) 	
テキスト・参考文献		評価方法	
<p>テキスト: Noam Chomsky (1975) “Some General Features of Language”. <i>Reflections on Languages</i>. Pantheon. 参考書: 中島平三(編)『英語構文辞典』(大修館)</p>		<p>出席状況、授業の予習、授業中の発表、期末試験の成績を総合して評価する。なお、単位の認定には授業回数の2/3以上の出席が必要とされる。</p>	

	英語専門講読 a (ニュースや名スピーチのスク립トを読む)	担当者	鍋倉 健悦
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>読んで理解できない英語は、当然、聴いても理解できない。 当講座は、“英会話”以上の英語（ニュース・インタビュー・スピーチ・レクチャー e t c）を、聴いて理解できるようにするためのものである。このため、授業では、さまざまなジャンルのスク립トを読んでいく。 なお、授業の3分の1以上を欠席した場合、単位は認められない。</p>		<p>聴解能力には、読解能力だけでなく、スピードもまた重要となってくる。そこで、学生には、文頭からの読み、予測読み、速読など、(英語を聴いて理解するための読み技術)を教えていきたい。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
毎回ごとにスク립トのプリントを使用		出席、平常授業での評価による	

	英語専門講読 b (ニュースや名スピーチのスク립トを読む)	担当者	鍋倉 健悦
講義目的、講義概要		授業計画	
同上		同上	
テキスト、参考文献		評価方法	
毎回ごとにスク립トのプリントを使用		出席、平常授業での評価による	

	英語専門講読 a (認知意味論入門)	担当者	府川 謹也
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>認知言語学の入門書を読む。テキストでは、人間の「認知能力」とは何か、そしてその認知能力をことば (の意味) の基盤として考えることによって、これまで十分に研究の射程に入っていなかった英語現象のどのようなことが分かるのかをわかりやすく説明している。例えば、次のような違いを英米人教師に尋ねてもよく分からなかったが、この授業を取ることで明確な答が得られるようになる。</p> <p>(1) a. I'm standing on/in the street. b. The fish is in/under the water. c. Fill in/out the form, please.</p> <p>(2) a. I've broken the window. b. The stone has broken the window.</p> <p>(3) John wrote {a letter to Mary/*Mary a letter}, but later he tore it up.</p>		<p>1 章から 6 章までを読む。</p> <p>1 章 Basic Concepts(Introduction/Construal/Perspective/Fo regrounding etc) 2 章 Space(<i>in/on/at</i> etc) 3 章 Extensions from Spatial Meanings(<i>out/fill in vs. fill out/hunt up vs. hunt down/ speak up vs. speak out/ through</i>) 4 章 Radial Categories (–able /strong /good/ climb/turn etc) 5 章 Constructions 6 章 Mental Spaces(Apparent semantic anomalies /Referential ambiguities/Tense and mood/ Change predicates/Reflexives</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
David Lee (2001) <i>Cognitive Linguistics: An Introduction</i> . Oxford University Press. (3 月中に別の入門書が出版されればそちらを使用する予定。)		試験と平常点によるが、受講者数によっては出欠も考慮する。	

	英語専門講読 b (認知意味論入門)	担当者	府川 謹也
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期に続いて読んでいく。留学などの特別な事情があって秋学期から履修する学生については、春学期に扱った教材について教員から手に入れて勉強しておく必要がある。</p>		<p>次の章を読む。</p> <p>7 章 Language Change(<i>soon/still/may, can/ will, be going to</i>) 8 章 Count and Mass Nouns (Count and mass phenomena/Nouns lacking a singular form /Nouns with identical singular and plural forms) 9 章 Perfective and Imperfective Uses of Verbs (Progressive aspect/Simple present tense on perfective verbs/Simple present tense On imperfective verbs) 10 章 Causation and Agency(Causation in English/Causation in Japanese) 13 章 Creativity and the Nature of Meaning</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期に同じ。		試験と平常点によるが、受講者数によっては出欠も考慮する。	

	英語専門講読 a (単語のsmall world ネットワークと文構造)	担当者	安井 美代子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>現在WWWは非常に多くのウェブページから成り立っているが、驚くべきことに、あるページから他のどんなページに行くにも平均して20回程度リンクをクリックすればたどり着けることが分かっている。WWWは思ったより遥かに狭い世界、「small world」になっているのである。友人・知人関係のネットワークもsmall worldの性質を持ち、世界中の大多数の人が6ステップ程度でつながりあっている。(1)はsmall worldについて平易な英語で述べた解説である。言語にもsmall worldがあり、英単語同士が平均3ステップ以下でつながっていることがBritish National Corpus (BNCは獨協の図書館でも利用できる)をデータに(2)で証明されている。この3ステップ以下の英単語同士のつながりというのは、実は膨大なコーパスを使って調べなくても、英語の統語的性質から必然的に導きだせるものである。この授業では(1)でsmall worldについて理解した後、(3)で英単語同士の統語的つながりについて見て行く。また、BNCで実際に英単語を検索してsmall worldになっているか調べるので、PC教室で授業をする予定である。</p>		<p>4/10 Buchanan: Introduction & BNC の使い方 4/17 Buchanan: The Small-World Puzzle, The Strength of Weak Ties 4/24 Buchanan: Small World Graphs, A Missing Link: Hubs and Connectors 5/1 Buchanan: Growth and Stability & BNC を使った英単語ネットワークの分析 5/8 Cowper: Ch. 2 Categories and Phrase Structure 5/15 Cowper: Ch. 2 続き 5/22 Cowper: Ch. 2 続き 5/29 Cowper: Ch. 3 Thematic Relations and θ-roles 6/5 Cowper: Ch. 3 続き 6/12 Cowper: Ch. 4 Predicting Phrase Structure 6/19 Cowper: Ch. 4 続き 6/26 Review</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>(1) Mark Buchanan "Small World Networks" (2) Cancho and Sole (2001) "Small world of human language." (3) E. A. Cowper <i>A Concise Introduction to Syntactic Theory: The Government-Binding Approach</i>. Chicago University Press.</p>		<p>毎週指定された reading について簡単なクイズをする。評価はこのクイズと担当範囲に関する授業での発表を平常点(50%)とし、定期試験(50%)と合わせて評価する。</p>	

	英語専門講読 b (単語のsmall world ネットワークと文構造)	担当者	安井 美代子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>英語専門講読 a に引き続き(3)を読んで行く。また、bilingual な単語のネットワークから英語だけでなく日本語の文も生成するような簡単なプログラムをVisual Basic (VB)で作ってみる。</p>		<p>9/25 春学期定期試験返却 & VB について 10/2 Cowper: Ch. 5 NP-movement 10/9 Cowper: Ch. 5 続き 10/16 Cowper: Ch. 6 Government and Case 10/23 Cowper: Ch. 6 続き 10/30 Cowper: Ch. 7 WH-movement 11/13 Cowper: Ch. 7 続き 11/20 Cowper: Ch. 8 Move α and the Theory of Movement 11/27 Cowper: Ch. 8 続き 12/4 Cowper: Ch. 10 Interpretation of Nominals 12/11 Cowper: Ch. 10 続き 12/18 Review</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>E. A. Cowper <i>A Concise Introduction to Syntactic Theory: The Government-Binding Approach</i>. Chicago University Press.</p>		<p>春学期と同じ。</p>	

	英語専門講読 a (James Joyce)	担当者	M.Hood
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course is intended to introduce students to the life and writings of James Joyce (1882-1941).</p> <p>In this term, we will:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Learn about Joyce's life 2. Study the political, cultural, and religious currents of early 20th century Dublin and Europe and their function in Joyce's works. 3. Consider the definition and significance of literary modernism and Joyce's role in the modernist movement. 4. Begin reading Joyce's early works. 		<p>Each week, there will be a lecture and discussion on a different aspect of Joyce's work. Generally, we will follow this schedule:</p> <p>April: Biography and Influences</p> <p>May/June: "Dubliners."</p> <p>July: "A Portrait of the Artist as a Young Man."</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>The Portable James Joyce. Viking Press ISBN: 0140150307 Additional materials will be available at mikehoodenglish.com</p>		<p>Grades will be determined based on in-class and out of class writing assignments, and an exam.</p>	

	英語専門講読 b (James Joyce)	担当者	M.Hood
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This term, we will our work on James Joyce, following the same procedures, with the same goals, as the spring term.</p> <p>We will spend the majority of the term studying Joyce's most famous work, "Ulysses."</p> <p>We will spend a short time at the end of the term on his final and most enigmatic work, "Finnegans Wake."</p>		<p>September: Finish "A Portrait."</p> <p>October/November/December: "Ulysses."</p> <p>December: "Finnegans Wake."</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>The Portable James Joyce. Viking Press ISBN: 0140150307 Additional materials will be available at mikehoodenglish.com</p>		<p>Grades will be determined based on in-class and out of class assignments and an exam.</p>	

	英語専門講読 a (Black British の 50 年)	担当者	上野 直子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(講義目的) グローバル化が進行する世界における、多人種・多文化社会、そのなかでの個人の生のありよう、そして社会と個人が向かい合う問題を、Black British の文化表現を通して考える。</p> <p>(講義紹介) Black British. 黒いイギリス人。耳慣れない言葉かもしれませんが、最新の国勢調査によればロンドンの人口のほぼ 3 分の 1 は非白人です。もちろん全国的にみればイギリスは依然として白人が大多数を占める国 (全人口の 92.1% が白人) なのですが、大都市部における人口が多いためもあり、Black British は現在のイギリス文化に大きな影響を与えています。</p> <p>実は Black British の歴史は奴隷貿易とおなじほど古く、すでに 18 世紀半ばには Black British の作家が存在していました。まとまった数の Black British がイギリスにやってきたのは、それから約 200 年後、第二次大戦後のことです。カリブ諸地域をはじめとして、世界にひろがる (旧) イギリス植民地から、多くの移民が、よりよい生活と人生のチャンスを求めて「母国」にやってきたのです。</p>		<p>授業計画の詳細は開講時に配布しますが、4 月のはじめには中央棟 6 階、620 研究室の前に掲示しますので、前もって詳細を知りたい人はそちらを見てください。</p> <p>文学テキストを中心に、映画と音楽もとりあげます。映画と音楽については、AV ライブラリーを利用して閲覧できるようにしますので、授業の前に必ず、観たり聞いたりしておいてください。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
ハンドアウトを用意します。参考図書は随時紹介します。		授業への参加 (単なる出席ではない)、小テスト、レポートを総合的に評価します。	

	英語専門講読 b (Black British の 50 年)	担当者	上野 直子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(上からの続き) 差別と偏見に曝されながらも、忍耐強く、新しい土地での基盤を作りあげていった移民第一世代。80 年代になると、イギリスで生まれ育った第二世代が現れます。黒い肌をした市民への差別と偏見は相変わらずでしたが、もはやイギリスよりほかに故郷を持たない第二世代は、親たちとは違うやり方でイギリス社会と対峙してゆきました。彼らは、自らが何者であるのか、すなわちアイデンティティーの問題と向きあい、肌の色にかかわらず自分たちはイギリス人であると認識します。社会が変わらないのならば、自分たちが変えるしかないと思ひ決め、様々な方法で自分たちのスペースを作りだしていったのです。文学や音楽などの文化表現は、彼らの存在をイギリス社会に示すおおきな要素となりました。</p> <p>第二世代の挑戦からさらに一世代分のときが経過した 21 世紀のはじめ。イギリスは確実に、多人種・多文化社会へと変化しています。この講義では、20 世紀の半ばから現在までに Black British が生み出した文化表現を通して、イギリス社会の変化、多人種・多文化社会、アイデンティティーの問題などについて考えていきたいと思ひます。</p>			
		評価方法	
春学期と同じ。		春学期と同じ。	

	英語専門講読 a (Bob Marley の詩を読む)	担当者	遠藤 朋之
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ジャマイカのレゲエミュージシャン、Bob Marley の歌詞を発表年代に沿って読む。Marley の歌詞は、故郷アフリカから奴隷制度によって離散してしまった黒人による聖書解釈に基づいた Rastafarianism をその背景に持つ。早い話が、Marley のうたは、20 世紀中葉に、被抑圧者によって書かれた賛美歌だ。</p> <p>本講義では、Marley がどのように聖書を書き換えしていったか、そして黒人のアイデンティティ回復をどのように歌ったか、さらに、Marley が発したメッセージがどのような限界を持ち、そのメッセージを 21 世紀に向けて開いていくのには、どのような解釈を私たちがすればよいのか、そういったことを考える。</p> <p>授業はレポーター形式で行われる。レポーターをやらない場合は、単位の認定はない。なお、うたによっては、聖書の参照も必要となる。さらに、ジャマイカ語独特の表現など、英語の辞書にないものも頻出する。</p> <p>カリブ海の寄せては返す波のようなレゲエの riddim (“rhythm” をジャマイカでは、このように表記する)に身を任せていれば単位はオクケー、などという学生は、Marley をナメている。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1) introduction 2) Jamming 3) Rastafarian についてのエッセイ 4) 同上 5) Slave Driver, Get up, Stand up 6) I Shot the Sheriff, Burnin’ vand Lootin’ 7) Pass It On, Small Axe 8) Lively up Yourself, No Woman, No Cry 9) Them Belly Full (But We Hungry), Rebel Music (3 O’Clock Road Block) 10) So Jah Seh, Natty Dread 11) Talkin’ Blues, 12) Revolution 	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント。Holy Bible (King James’ Version)		2 通のレポート。他の学生のレポートを見ることも勉強である。欠席は 4 回以上は F、それ以下の場合は減点の対象となる。	

	英語専門講読 b (Bob Marley の詩を読む)	担当者	遠藤 朋之
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期に引き続き、Bob Marley の歌詞を読む。中期以降。春学期に読んだものから、どのような変化を Marley の歌詞がたどったかを追う。21 世紀に向けて開かれた Marley 像を考えてみたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1) Positive Vibration, Who the Cap Fit 2) Crazy Baldhead, Want More 3) War 4) So Much Things to Say, The Heathen 5) Exodus 6) Three Little Birds, One Love /People Get Ready 7) Is This Love, Babylon System 8) Survival, Africa Unite 9) Ambush in the Night, Wake up and Live 10) Coming in from the Cold, BadCard 11) Forever Loving Jah, Could You Be Loved 12) Redemption Songs, Buffalo Soldier 	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント。Holy Bible (King James’ Version)		2 通のレポート。他の学生のレポートを見ることも勉強である。欠席は 4 回以上は F、それ以下の場合は減点の対象となる。	

	英語専門講読 a (ヴァージニア・ウルフ入門)	担当者	片山 亜紀
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的</p> <p>ヴァージニア・ウルフ (Virginia Woolf, 1882-1941) の『灯台へ』 (<i>To the Lighthouse</i>, 1927) という小説は、明日は晴れると請け合う母親の言葉で幕を開けます。なぜ翌日の天気が問題なのかというと、子どもたちがボートで灯台に遊びに行く予定だからです。しかしその「翌日」が訪れる前に 10 年の歳月が流れます。母親は亡くなり、彼らの住んでいた建物は腐敗して嵐が吹きすさびます。そしてついに 10 年後のその日、灯台に向かう一行を見送りつつ、一人の画家がキャンバスに灯台を収めようと筆を取ります。</p> <p>このような構成をもつ小説を著わして、作者ウルフは何を表現したかったのでしょうか。この小説はたとえば時間や親子関係について何を語っているのでしょうか。またタイトルの「灯台」とは何かの象徴なのでしょうか。最後に筆を取る画家が女性であるということは、何か特別な意味があるのでしょうか。</p> <p>この講義では、『灯台へ』という作品の細部を丹念に読み込むことを通じて、これらの点について考えてみたいと (下に続く)</p>		<p>1-3 イン트로ダクション</p> <ul style="list-style-type: none"> * ウルフの生きた時代について、そしてその活動について、テキストの抜粋や映像を使いながら解説します。 <p>4-12 <i>To the Lighthouse</i> 講読</p> <ul style="list-style-type: none"> * 毎回 10 ページ程度ずつ、受講者の発表・討論を中心に読み進めます。 * 春学期に第一部をほぼ読み終える予定です。 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>Virginia Woolf, <i>To the Lighthouse</i> (Penguin, 2000) ISBN: 0141183411 授業開始時までに amazon.co.jp など で各自購入しておくこと。</p>		<p>プレゼンテーション、レポートなどの提出物、授業への参加を総合的に評価します。ただし欠席が 3 回を超えた場合は成績評価の対象になりません。</p>	

	英語専門講読 b (ヴァージニア・ウルフ入門)	担当者	片山 亜紀
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(上から続く)</p> <p>思います。ヴァージニア・ウルフは 20 世紀を代表する作家の一人と考えられており、またそのフェミニストとしての発言は、後世のフェミニズム運動にも多大な影響を与えてきました。『灯台へ』はウルフの作品でも比較的読みやすい自伝的な作品です。一年をかけてこの小説に取り組むことで、ウルフの独特な小説世界に触れてほしいと思います。</p> <p>講義概要</p> <p>はじめに予備知識として、ウルフの生涯とその仕事について、そして彼女の小説の読みどころについてこちらから解説します。その後、『灯台へ』を通読します。</p>		<p>1-11. <i>To the Lighthouse</i> 続き</p> <ul style="list-style-type: none"> * 秋学期には第二部と第三部を中心に読みます。 <p>12. まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
同上		同上	

	英語専門講読 a (アメリカ文学 : John Steinbeck の作品を読む)	担当者	金谷 優子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>『怒りの葡萄』(<i>The Grapes of Wrath</i>,1939)、『エデンの東』(<i>The East of Eden</i>,1952)の著者であり、1962年にノーベル文学賞を受賞したジョン・スタインベックは、20世紀のアメリカ文学を語る際、忘れてはならない作家である。彼は、上掲の二大作品以外にも多様なジャンルにわたる数多くの作品を表わしている。この授業では、スタインベックが晩年に愛犬チャーリーを連れてアメリカ周遊の旅をした際の旅行記、『チャーリーとの旅』(<i>Travels with Charley--- in search of America</i>,1961)を取り上げる。作品の読解を通して、スタインベックのアメリカ観を探りながら、その視点の多様性に着目して、彼が複眼的な視点で捉えたアメリカとはいかなるものかを考察し、彼の文学の妙味を共に鑑賞したい。</p> <p>全部で四部構成の 277 ページから成る作品を、年間を通して読みます。毎時間、翌週の授業で扱う範囲と、内容に関する質問事項を挙げますので、各自、準備をして授業に臨んでください。テキスト(ペンギン・ペーパーバック)はアマゾン等のインターネット通販や洋書を扱う書店で容易に入手できますので、受講希望者は、各自開講前に購入しておいてください。</p>		1 : John Steinbeck の作品群とその評価について 2 : <i>Travels with Charley</i> についての一般的な評価 3 : <i>Travels with Charley</i> part I 4 : <i>Travels with Charley</i> part I 5 : <i>Travels with Charley</i> part I 6 : <i>Travels with Charley</i> part II 7 : <i>Travels with Charley</i> part II 8 : <i>Travels with Charley</i> part II 9 : <i>Travels with Charley</i> part II 10 : <i>Travels with Charley</i> part II 11 : Review	
テキスト、参考文献		評価方法	
John Steinbeck, <i>Travels with Charley --- in search of America</i> (Penguin)		平常点(出席状況と授業中の発表内容あるいは提出物)と期末のレポートを総合的に評価	

	英語専門講読 b (アメリカ文学 : John Steinbeck の作品を読む)	担当者	金谷 優子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>前期に引き続き、<i>Travels with Charley</i> の読解を続ける。</p>		1 : 前期レポート返却と総評 2 : <i>Travels with Charley</i> part III 3 : <i>Travels with Charley</i> part III 4 : <i>Travels with Charley</i> part III 5 : <i>Travels with Charley</i> part III 6 : <i>Travels with Charley</i> part III 7 : <i>Travels with Charley</i> part IV 8 : <i>Travels with Charley</i> part IV 9 : <i>Travels with Charley</i> part IV 10 : John Steinbeck の他の作品と評価 11 : Review	
テキスト、参考文献		評価方法	
John Steinbeck, <i>Travels with Charley --- in search of America</i> (Penguin)		平常点(出席状況と授業中の発表内容あるいは提出物)と期末のレポートを総合的に評価	

	英語専門講読 a (<i>The Man Who Died</i> 精読)	担当者	北澤 滋久
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>テキストは、ロレンス、最晩年の傑作中編小説である。イエスに擬せられた男の、復活とその後の生き方に、パイプを巧みに用いながら、それとは全く違うロレンスの死生観を注ぎ込んだ、この一見異様な作品を味読することにより、作家の行き着いた現代に生きる我々への遺言を、よりよく理解しようとする授業である。</p> <p>下記の参考文献で、担当者はすでにこのテキストの「読み」を詳細に分析しており、それに従って毎時間解説を加えてゆくけれども、受講者はあらかじめ、共感福音書中の、特に、復活の部分およびマグダラのマリアの存在、さらには、エジプト神話のオシリス、イシス挿話の概要ぐらいは心得ておかねばなるまい。</p>		<p>左のような次第であるから、単に英文を上なでして、日本語にできればそれでよし、といった類の授業ではない。一語、一語の意味を吟味し、行間に漂う作者の真意をよく思考して、その上で自己の感性にも照らして、この作品の伝えんとするメッセージを重層的に受け止めるのである。</p> <p>アト・ランダムに指名した学生と担当者の質疑応答を主軸に、この目的を達成しようと思っている。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>D. H. Lawrence, <i>The Man Who Died</i>, Ecco Press. 北沢滋久、『D. H. ロレンス、生と死のファンタジイ：人と文明の再生をもとめて』、金星堂。</p>		<p>日常の成績と、主には学期末の論述試験で評価する。</p>	

	英語専門講読 b (<i>The Man Who Died</i> 精読)	担当者	北澤 滋久
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期の継続である。前項参照。</p>		<p>春学期の項参照。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>春学期の項参照。</p>		<p>日常の成績と、主には学期末の論述試験で評価する。</p>	

	英語専門講読 a (オーストラリアの詩)	担当者	国見 晃子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><講義目的></p> <p>「詩」と聞いて、「ぼ・え・む」的なものを連想する方がいらっしゃるかもしれません。あるいはオタクめいた、いかにも暗そうな人が読むものだ。まず、その偏見から変えていきましょう。「言葉は力であり、魔法である」。このことを、頭だけでなく心から理解できたとき、その後の生活が変わっていくと思います。</p> <p>「オーストラリア」が大好き！という方はたくさんいらっしゃいますよね。「好き」ということは「もっと知りたい」ということに通じると思います。表面的な知識だけでなく、様々な角度からオーストラリアを考察していきましょう。まだ、あまりよくオーストラリアのことを知らないけれど、関心・興味はあるという方。「関心・興味」は研究への第一歩です。熱意のある方、お待ちしております。</p> <p><講義概要></p> <p>アボリジニの歴史や神話を踏まえた上で、彼らの詩を読んでいきます。CD、ビデオ、DVDを使用して、授業を進めることもあります。授業はレポーターの発表後、クラスで議論する形式で進めます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. オーストラリア歴史概要 3. アボリジニの歴史概要 4. アボリジニの神話・伝説概要 5. オーストラリア関連の映像の紹介 6. アボリジニ独自の言語から英訳された詩① 7. アボリジニ独自の言語から英訳された詩② 8. アボリジニ独自の言語から英訳された詩③ 9. 最初から英語で書かれたアボリジニの詩① 10. 最初から英語で書かれたアボリジニの詩② 11. 最初から英語で書かれたアボリジニの詩③ 12. 前期授業のまとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストはプリントして配布いたします。</p> <p>参考文献は授業で適時紹介します。</p>		<p>春学期・秋学期レポート、授業での参加度（発表、発言など）、出席状況（欠席は年間6回以内。30分以内の遅刻の場合、3分の1の欠席として計算します。でも、やむをえない場合以外はなるべく遅刻はしないで下さいね。）</p>	

	英語専門講読 b (オーストラリアの詩)	担当者	国見 晃子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><講義目的></p> <p>春学期と同様です。</p> <p><講義概要></p> <p>入植者、または入植者の血を引くものたちの詩を読んでいきます。詩人本人が朗読している詩や、音楽に合わせて読まれている詩のときには、CDを利用して授業を進めます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. レポート返却、コメント。秋学期授業の展望。 2. 初期入植者たちが書いた詩① 3. 初期入植者たちが書いた詩② 4. Bruce Dawe ① 5. Bruce Dawe ② 6. Gwen Harwood ① 7. Gwen Harwood ② 8. Judith Wright ① 9. Judith Wright ② 10. Les Murray ① 11. Les Murray ② 12. 秋学期授業のまとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期同様		春学期同様	

	英語専門講読 a (英語圏の現代演劇)	担当者	児嶋 一男
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>英米の現代演劇の台本をテキストにしてさまざまな英語の主として会話表現を学びます。生まれ育った環境が異なれば、人が使う言葉にも相異が生じます。背景となっている文化を考察し、多種多様な会話表現を読もうと思います。さらに実際の舞台を観て、演劇は面白いということを実感してください。どの台本も最初の 15-20 ページ目までしか教室では読みません。続きは自分で読んでください。テキストは出席者のみにプリントで配布します。教室ではお互いの翻訳を確認しながら、ロール・プレイ形式でテキストを読んでいきます。きちんと辞書を引いて、舞台上で交される話し言葉の日本語翻訳表現をノートに用意して出席することを求めます。事前の準備が不十分な人は、その場で退場してもらい、欠席扱いとします。遅刻はすべて欠席扱いとします。公欠扱いは一切ありません。授業回数の 3 分の 1 以上を欠席した場合、<u>理由の如何を問わず</u>、単位を認めません。</p> <p>遅刻はすべて欠席扱いとします。公欠扱いは一切ありません。授業回数の 3 分の 1 以上を欠席した場合、<u>理由の如何を問わず</u>、単位を認めません。</p>		<p>教室で読む台本は、実際の上演舞台が観られる台本を選んでいきますから、上演スケジュールに合わせて授業を進めていきます。</p> <p>レポートに関する詳細は初回授業で説明します。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>主として英米の現代演劇の台本を抜粋してプリントで配布します。専門講読入門のクラスよりも英語や内容が多少難しい作品がテキストとなっています。参考文献は授業中に言及する予定です。</p>		<p>毎回授業開始時に行う vocabulary テスト 60%。観劇レポート (500 字) 2 編で 40%。学期末定期試験はしません。レポートは必修です。未提出者には単位を認めません。</p>	

	英語専門講読 b (英語圏の現代演劇)	担当者	児嶋 一男
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>英米の現代演劇の台本をテキストにしてさまざまな英語の主として会話表現を学びます。生まれ育った環境が異なれば、人が使う言葉にも相異が生じます。背景となっている文化を考察し、多種多様な会話表現を読もうと思います。さらに実際の舞台を観て、演劇は面白いということを実感してください。どの台本も最初の 15-20 ページ目までしか教室では読みません。続きは自分で読んでください。テキストは出席者のみにプリントで配布します。教室ではお互いの翻訳を確認しながら、ロール・プレイ形式でテキストを読んでいきます。きちんと辞書を引いて、舞台上で交される話し言葉の日本語翻訳表現をノートに用意して出席することを求めます。事前の準備が不十分な人は、その場で退場してもらい、欠席扱いとします。遅刻はすべて欠席扱いとします。公欠扱いは一切ありません。授業回数の 3 分の 1 以上を欠席した場合、<u>理由の如何を問わず</u>、単位を認めません。</p>		<p>教室で読む台本は、実際の上演舞台が観られる台本を選んでいきますから、上演スケジュールに合わせて授業を進めていきます。</p> <p>レポートに関する詳細は初回授業で説明します。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>主として英米の現代演劇の台本を抜粋してプリントで配布します。専門講読入門のクラスよりも英語や内容が多少難しい作品がテキストとなっています。参考文献は授業中に言及する予定です。</p>		<p>毎回授業開始時に行う vocabulary テスト 60%。観劇レポート (500 字) 2 編で 40%。学期末定期試験はしません。レポートは必修です。未提出者には単位を認めません。</p>	

	英語専門講読 a (英・米のユダヤ人史)	担当者	佐藤 唯行
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>平均的な大学生の中には、英文の和訳が一応出来ても、意味が理解出来ていなかったり、内容を要約し、結論をひとことで表現する力が不足している者が少なくありません。英文の学術書を読み進む場合、パラグラフ毎、各章毎の内容要約能力が常に求められます。そのため、本授業では、学生側のそうした弱点を補強するために、各パラグラフ毎に内容の要旨をひとことで要約する能力を養う事を、授業の目的といたします。</p> <p>使用するテキストはイギリスユダヤ人史の概説書です。また、そこに書かれた文章は平易な内容です。18世紀から今日に至るイギリス社会とユダヤ人との関係が、叙述の中心となります。</p>		最初の授業で説明する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>高価なため、コピーを配布します。 P. Jones, Jews of Britain</p>		春・秋学期に筆記試験をします。平常点 30%程考慮します。欠席が授業回数の 1/3 を超えた場合、単位を与えません。遅刻は 3 回で欠席 1 回分にカウントします。	

	英語専門講読 b (英・米のユダヤ人史)	担当者	佐藤 唯行
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期と同じ		春学期と同じ	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期と同じ		春学期と同じ	

	英語専門講読 a (物語を読む)	担当者	佐藤 勉
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>優れた現代英米の物語（短編小説と呼んでもかまわない）を読んで、作品の構造、語りの技巧、物語内容などに触れ、読みの行為とはなにか、物語の面白さはどこにあるか、という点に焦点を当てて考えます。読むための技術を身につけることを目的とします。そのためにいろいろな物語を取り上げたいのですが、時間の都合で数編ということになるでしょう。今年度はテキストを購入してそれを中心に読んでいきます。読む物語の特徴が理解できるように読み進める積もりですが、受講生に順番に読んでもらいますので毎回出席することはなによりも大切です。</p> <p>言葉のもつ表面的な意味や隠されている意味を掘り起こしたり、作者がどんな文化的背景を物語の語りに駆使しているかを見極めたりします。最終的には物語の面白さがどこからくるのかを理解してもらえるように授業を進めていきます。授業では読み進める物語の解説とともに、右に掲げた授業計画のメイン・トピックスを取り上げて説明を試みる予定です。</p>		<p>以下に学習する主なトピックスを挙げておきます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 Character と characterization について 2 Plot と plotting について 3 Point of view と narrator について 4 Setting と perspective について 5 Style と tone について 6 Theme と title について 7 Structure について 8 Metaphor について 9 Allegory について 10 Imagery について 11 Satire について 12 Symbol について 13 Focalization について 14 Stereotype について 15 Irony について その他 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストは『イギリス三大作家選』（金星堂）を売店で購入すること。またプリントの配布があるかもしれません。</p>		<p>成績評価は出席、定期試験によって行います。3分の2以上の授業出席が必要です。またレポートの提出などもあるかもしれません。</p>	

	英語専門講読 b (物語を読む)	担当者	佐藤 勉
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>優れた現代英米の物語（短編小説と呼んでもかまわない）を読んで、作品の構造、語りの技巧、物語内容などに触れ、読みの行為とはなにか、物語の面白さはどこにあるか、という点に焦点を当てて考えます。読むための技術を身につけることを目的とします。そのためにいろいろな物語を取り上げたいのですが、時間の都合で数編ということになるでしょう。今年度はテキストを購入してそれを中心に読んでいきます。読む物語の特徴が理解できるように読み進める積もりですが、受講生に順番に読んでもらいますので毎回出席することはなによりも大切です。</p> <p>言葉のもつ表面的な意味や隠されている意味を掘り起こしたり、作者がどんな技巧を物語の語りに駆使しているかを見極めたりします。最終的には物語の面白さがどこからくるのかを理解してもらえるように授業を進めていきます。授業では読み進める物語の解説とともに、右に掲げた授業計画のメイン・トピックスを取り上げて説明を試みる予定です。</p>		<p>以下に学習する主なトピックスを挙げておきます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 Character と characterization について 2 Plot と plotting について 3 Point of view と narrator について 4 Setting と perspective について 5 Style と tone について 6 Theme と title について 7 Structure について 8 Metaphor について 9 Allegory について 10 Imagery について 11 Satire について 12 Symbol について 13 Focalization について 14 Stereotype について 15 Irony について その他 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストは『イギリス三大作家選』（金星堂）を売店で購入すること。またプリントの配布があるかもしれません。</p>		<p>成績評価は出席、定期試験によって行います。3分の2以上の授業出席が必要です。またレポートの提出などもあるかもしれません。</p>	

	英語専門講読 a (アメリカ小説)	担当者	島田 啓一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>まず第一に「英語で」原書を読むことにより英語力の向上を図ること、第二に質疑応答・討論による作品理解を深めることを目的とします。</p> <p>20 世紀最大のアメリカ作家と言われる William Faulkner の最高傑作 <i>The Sound and the Fury</i> (1929) に挑戦します。難解な小説とされていますが、100%理解できなくても十分楽しめ、人間の想像力の素晴らしさを味わうことが出来る作品です。いくつかの例外はありますが、比較的平易な英語で書かれている箇所も多く、一般的に言われているほど英語学習者にとって読むことが困難な小説ではないと考えます。最近インターネット上で難解な箇所を解き明かしてくれるサイトなども出現していますので、それらを利用すればさらに理解を深めることが出来るでしょう。アメリカ南部が舞台の作品ですが、「家族崩壊」、「初恋」、「兄弟間の愛憎」など現代の学生諸君にも十分理解・自己投影できる普遍性をもった作品です。</p>		<p>受講者希望者には最初の部分のプリントを用意しますので中央棟 617 まで取りに来てください。</p> <p>第 1 週 授業の進め方などについての説明と「第 1 週の質問表」にもとづく質疑応答・討論による体験授業。従って、左下の欄にある「第 1 週の質問表」に答えられるよう最初の数ページを読んでくる必要があります。</p> <p>第 2 週 前週に配布した質問表による質疑応答・討論と解説。約 10 ページ読む予定。</p> <p>第 3 週以降、同様な方法で毎週平均ほぼ 10~15 ページずつ読んでいく予定。</p> <p>質問表は教師が用意し、教師が討論の司会をしますが、途中から、学生諸君にプレゼンテーションや司会をしてもらうかもしれません。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>William Faulkner, <i>The Sound and the Fury</i> (Vintage International, 1990)</p> <p>秋学期の授業計画の欄を参照</p>		<p>学期末の定期試験、および平常点 (出席点ではない!)</p>	

	英語専門講読 b (アメリカ小説)	担当者	島田 啓一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>第 1 週の質問表 (私の「英語圏の文学・文化概論」を履修した方には復習となります)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. On the first line of the first page, the narrator writes, "I could see them hitting." What on earth are they hitting? 2. Why do you think Luster says, "Listen at you, now"? 3. The last paragraph of the first page is italicized. Why do you think is the sudden change in typography? 4. What does Benjamin [Benjy] want to do? Why do you think he wants to go out? 5. What is the first name of Benjamin's mother? 6. Where are Mother and Benjamin going in the carriage T.P. is driving? (Note what Mother tells Jason later.) 7. The first underlined passage on page eight goes: "Then those on one side stopped at the tall white post where the soldier was. But on the other side they went on smooth and steady, but a little slower." What is happening here? 8. What do you think is the content of the letter Uncle Maury asks Caddy to take to Mrs. Patterson? 		<p>左記の質問表の解説が以下のサイトにありますので、参照してください。</p> <p>http://www2.dokkyo.ac.jp/~esemi006/others/amlit2faulkner.htm</p> <p>また下記のサイトにはこの作品の全文が掲載されており、その上、難解な箇所を読みやすくする工夫がなされています。受講希望者はぜひ参照しておいてください。</p> <p>http://www.usask.ca/english/faulkner/</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>春学期と同じ</p>		<p>春学期と同じ</p>	

	英語専門講読 a (イギリス児童文学)	担当者	白鳥 正孝
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「習うより慣れよ」(Use makes perfect.) の観点から、面白くて易しい英語を多読することを目的とする。(昨年の秋学期だけでの実績は、課外の課題分も入れて489頁)</p> <p>Lang (Andrew, 1844-1922) の『色分け昔話集』全12巻の内、本年度は 『オリーブ昔話集』を読む。 ラングはグリム同様編者に過ぎないが、中には翻訳、再話で少し変えているところもある。今回もなじみの話は少ないが、基本は同じ、夢とヒューマーとペーソスである。(1回20頁相当を2人の共同責任で読んでもらう。)</p> <p>他に課外の課題として、同集中の中からプリントで20頁余を読んでもらい、期末に提出してもらう。(詳細は教室で指示する。)</p> <p>参考文献 キャサリン・ブリッグズ編著『妖精事典』富山房 1992 定松正・本多英明『英米児童文学辞典』研究社 2001</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. Madschun 3. The Blue Parrot 4. Geilaug the King's Daughter 5. The Story of Little King Loc 6. 'A Long-bow Story' 7. Jackal or Tiger 8. The Comb and the Collar 9. Samba the Coward 10. Kupti and Imani 11. The Strange Adventures of Little Maia 12. Diamond cut Diamond 	
テキスト、		評価方法	
Lang,A. ed. The Olive Fairy Book, Dover, 1968		主として期末の試験と課外の課題によるが、更に日頃のプレゼンも参考にする。	

	英語専門講読 b (イギリス児童文学)	担当者	白鳥 正孝
講義目的、講義概要		授業計画	
同上		<ol style="list-style-type: none"> 1. The Green night 2. The Five Wise Words of the Guru 3. The Golden-headed Fish 4. Dorani 5. The Satin Surgeon 6. The Billy Goat and the King 7. The Story of Zoulvisia 8. Grasp all, Love all 9. The Fate of the Turtle 10. The Snake Prince 11. The Prince and Princess in the Forest 12. The Clever Weaver 	
テキスト、参考文献		評価方法	
同上		同上	

	英語専門講読 a (日系アメリカ女性作家の声)	担当者	高田 宣子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>映画、絵画および文学作品から浮かび上がる日系アメリカ(北米)人の文化と歴史を明らかにしながら、日本に住む私たちにとって「近くて遠い存在」の日系アメリカ人とは何かを探ります。</p> <p>19世紀以降、日本からハワイ、アメリカ本土へ渡った日本人は、さまざまな困難を克服しながら、現在に至るまで着実な発展を遂げています。</p> <p>この授業では、日系の人々にとってのアメリカあるいは日本とは、どのような意味を持つのかを、主として女性作家の作品に焦点を当てて探ります。</p> <p>履修者の人数にもよりますが、学生グループによるプレゼンテーションも評価の対象とします。</p>		<p>第1回 ガイダンス 日本人にとって北米とは</p> <p>第2回 映画に見られる日系アメリカ人</p> <p>第3回 日系アメリカ人の絵画と音楽</p> <p>第4回 初期移民の歴史と文化 (テキスト講読)</p> <p>第5回 Yoshiko Uchida</p> <p>第6回 ハワイの日系人</p> <p>第7回 復習テスト</p> <p>第8回 第二次世界大戦下の日系アメリカ人</p> <p>第9回 Mitsuye Yamada</p> <p>第10回 Mitsuye Yamada</p> <p>第11回 John Okada</p> <p>第12回 まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
『日系アメリカ文学 三世代の軌跡を読む』 創元社 1997年 その他プリント		毎週のコメントペーパー、プレゼンテーションおよび復習テストによります。	

	英語専門講読 b (日系アメリカ女性作家の声)	担当者	高田 宣子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期の内容を踏まえた上で、主として第二次世界大戦後の日系アメリカ人の歴史と現在に至る創作活動について検証します。</p> <p>秋学期は英語でコメントを執筆してもらいます。</p>		<p>第1回 大戦後の日系アメリカ人</p> <p>第2回 日系3世 Janice Mirikitani</p> <p>第3回 Janice Mirikitani</p> <p>第4回 Janice Mirikitani</p> <p>第5回 日系人をテーマとした映像の分析</p> <p>第6回 復習テスト</p> <p>第7回 Joy Kogawa</p> <p>第8回 Cynthia Kadohata</p> <p>第9回 Nobuko Miyamoto</p> <p>第10回 Jeanne W. Houston</p> <p>第11回 Isamu Noguchi</p> <p>第12回 まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
『日系アメリカ文学 三世代の軌跡を読む』 創元社 1997年 その他プリント		毎週のコメントペーパー、プレゼンテーションおよび復習テストとレポートによります。	

	英語専門講読 a (アメリカ現代詩)	担当者	原 成吉
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ゲーリー・スナイダーの最新詩集 <i>Danger on Peaks</i> は、現在わたしたちが直面している環境問題を含めた地球という生命体「ガイア」についての詩集です。スナイダーは、エコロジー、神話、仏教、そしてウィルダネスへの旅をとおして得てきた経験と知識をこのテキストに織り込みました。このクラスの目的は、スナイダーの詩をとおして、ガイアで暮らすためのこれからのライフスタイルを考えることです。授業は学生による発表・討論の形式で行い、学期ごとにレポートを提出してもらいます。</p> <p>ビデオ映像やCDを使って「声としての詩」—poetry performance についても紹介します。スナイダーについては、 http://www.english.uiuc.edu/maps/poets/s_z/snyder/snyder.htm を参照してください。</p>		<p>最初の授業で、プレゼンテーションのグループを決め、1回の授業で、1篇の作品を取りあげます。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>Gary Snyder, <i>Danger on Peaks</i>. Washington D. C. : Shoemaker & Hoard, 2004. (amazon.co.jp などを通して各自購入してください。)</p>		<p>プレゼンテーションとレポート (4,000 程度の作品論) によって決めます。ただし欠席が授業回数の 1/3 を越えた場合は評価対象とはなりません。</p>	

	英語専門講読 b (アメリカ現代詩)	担当者	原 成吉
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ゲーリー・スナイダーの最新詩集 <i>Danger on Peaks</i> は、現在わたしたちが直面している環境問題を含めた地球という生命体「ガイア」についての詩集です。スナイダーは、エコロジー、神話、仏教、そしてウィルダネスへの旅をとおして得てきた経験と知識をこのテキストに織り込みました。このクラスの目的は、スナイダーの詩をとおして、ガイアで暮らすためのこれからのライフスタイルを考えることです。授業は学生による発表・討論の形式で行い、学期ごとにレポートを提出してもらいます。</p> <p>ビデオ映像やCDを使って「声としての詩」—poetry performance についても紹介します。スナイダーについては、 http://www.english.uiuc.edu/maps/poets/s_z/snyder/snyder.htm を参照してください。</p>		<p>最初の授業で、プレゼンテーションのグループを決め、1回の授業で、1篇の作品を取りあげます。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストは春学期と同じ 参考文献 重松宗育・原 成吉訳『野性の実践』(山と溪谷社)</p>		<p>プレゼンテーションとレポート (4,000 程度の作品論) によって決めます。ただし欠席が授業回数の 1/3 を越えた場合は評価対象とはなりません。</p>	

	英語専門講読 a (キリスト教とは)	担当者	福井 嘉彦
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>テキストの2章“The whole trouble” : Original Sin. を読む。 内容はキリスト教についてのものである。</p>		<p>テキストの文章の難易度と学生の予習能力に応じて進めていく。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
The Gospel According to Peanuts のプリント		出席の少ない者は不合格にする。授業時での発表と小テストの結果を基本とし、必要な場合、定期試験を行う。	

	英語専門講読 b (キリスト教とは)	担当者	福井 嘉彦
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期に準じる。</p>		<p>春学期に準じる。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>春学期に準じる。</p>		<p>春学期に準じる。</p>	

	英語専門講読 a (20世紀初期のイギリス小説)	担当者	藤田 永祐
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>語学力養成の効果的な一つの方法は、好きな文章、英文らしい歯切れの良い文章などを、手におえる範囲で(いうまでもないことですが、難しすぎる文章は試みても無駄です)繰り返し黙読ないし音読して、発想やコロケーションを消化し習得することでしょう(この作業はネイティブスピーカーも英語を駆使する能力を伸ばそうとするときは自然に行っていることです)。昔も今もこのことに変わりはないと思います。</p> <p>テキストは 20 世紀のイギリスの代表的な作家サマセット・モーム、D.H.ローレンス、グレアム・グリーン、コナン・ドイル等の比較的親しみやすい短編を集めたものです。大方は流麗で明快な文章で、鑑賞するのに向いていると思います。</p> <p>授業では word, phrase, sentence の把握の正確さと深さを求めます。</p>		<p>最初の授業時に辞書の使い方や reading の心構えと共に授業の進め方についての話をします。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p><i>Shades of Life</i> by W.S.Maugham,K.Mansfield etc,[南雲堂]</p>		<p>普段の授業に数回テストを行い、その総合点と平常点で評価する。</p>	

	英語専門講読 b (20世紀初期のイギリス小説)	担当者	藤田 永祐
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>語学力養成の効果的な一つの方法は、好きな文章、英文らしい歯切れの良い文章などを、手におえる範囲で(いうまでもないことですが、難しすぎる文章は試みても無駄です)繰り返し黙読ないし音読して、発想やコロケーションを消化し習得することでしょう(この作業はネイティブスピーカーも英語を駆使する能力を伸ばそうとするときは自然に行っていることです)。昔も今もこのことに変わりはないと思います。</p> <p>テキストは 20 世紀のイギリスの代表的な作家サマセット・モーム、D.H.ローレンス、グレアム・グリーン、コナン・ドイル等の比較的親しみやすい短編を集めたものです。大方は流麗で明快な文章で、鑑賞するのに向いていると思います。</p> <p>授業では word, phrase, sentence の把握の正確さと深さを求めます。</p>		<p>最初の授業時に辞書の使い方や reading の心構えと共に授業の進め方についての話をします。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p><i>Shades of Life</i> by W.S.Maugham,K.Mansfield etc,[南雲堂]</p>		<p>普段の授業に数回テストを行い、その総合点と平常点で評価する。</p>	

	英語専門講読 a (シェイクスピア)	担当者	前沢 浩子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>シェイクスピアの喜劇 <i>A Midsummer Night's Dream</i> (『夏の夜の夢』) を精読しながら、シェイクスピアの詩や作劇法に触れる。シェイクスピアを原文で読むおもしろさとむずかしさを実際に経験することを目的とする。</p> <p>まずはシェイクスピアの用いた詩の形式(ブランク・ヴァース)に慣れる。現代の日常的な英語との語義や語法の違いを理解し、韻文のリズムを聞いてみる。その詩の中で、宮廷と森、職人と妖精、夢と現実など、異なる世界が入り混じるドラマが展開する。韻文の戯曲という文学形式に近づくために、できるだけ音声テープなどを利用したいと考えている。作品への理解を深めるため、シェイクスピアの時代の劇場や作劇の伝統、社会的背景、あるいはシェイクスピアの他の作品についても、必要に応じて説明する。また映画化されたものを通して、現代におけるシェイクスピア劇の受容についても考える。</p>		<p>第1回： シェイクスピアについての概説と授業の進め方の説明</p> <p>第2回から第12回： 丹念にテキストを読み解くことを中心に授業を行う。 1回の授業で100行くらいを目安に読み進めていく。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
大修館シェイクスピア双書 <i>A Midsummer-Night's Dream</i>		平常点、および1月に1度、小テストを行うので、その結果を総合して成績評価を行う。欠席が3回を超えた場合は、成績評価の対象にはならない。	

	英語専門講読 b (シェイクスピア)	担当者	前沢 浩子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>シェイクスピアの喜劇 <i>A Midsummer Night's Dream</i> (『夏の夜の夢』) を精読しながら、シェイクスピアの詩や作劇法に触れる。シェイクスピアを原文で読むおもしろさとむずかしさを実際に経験することを目的とする。</p> <p>まずはシェイクスピアの用いた詩の形式(ブランク・ヴァース)に慣れる。現代の日常的な英語との語義や語法の違いを理解し、韻文のリズムを聞いてみる。その詩の中で、宮廷と森、職人と妖精、夢と現実など、異なる世界が入り混じるドラマが展開する。韻文の戯曲という文学形式に近づくために、できるだけ音声テープなどを利用したいと考えている。作品への理解を深めるため、シェイクスピアの時代の劇場や作劇の伝統、社会的背景、あるいはシェイクスピアの他の作品についても、必要に応じて説明する。また映画化されたものを通して、現代におけるシェイクスピア劇の受容についても考える。</p>		<p>春学期の続き。 1回の授業で150行くらいを目安に読み進めていく。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
大修館シェイクスピア双書 <i>A Midsummer-Night's Dream</i>		平常点、および1月に1度、小テストを行うので、その結果を総合して成績評価を行う。欠席が3回を超えた場合は、成績評価の対象にはならない。	

	英語専門講読 a (Readings on Intercultural Communication)	担当者	C.B.Ikeguchi
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course aims to provide advanced reading materials on language, culture and communication. The reason behind Japan's distinctiveness lies in its ability to borrow selectively from both Eastern and Western traditions. It borrowed selectively and massively, and yet formed its own "hybrid" culture.</p> <p>Students will be able to see the process of interacting with other cultures, as they see foreigners interacting with Japanese culture. This process involves perception. In so doing, it will require critical analysis of individual perception, in order to manage ethnocentrism, a natural perceptual barrier to cross-cultural communication.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Course Orientation: Introduction to the Course 2. Japan in World Perspective 3. Collectivism VS Individualism 4. High Context VS Low Context 5. Barriers to Cross-cultural understanding 6. Double standards: Interpersonal, Intercultural etc. 7. Ethnocentrism: cultural elitism 8. The Myth of Japanese Uniqueness 9. The Problems of Japanese Uniqueness 10. Aspects of Language and Society (1) 11. General Summary 12. Term Test and evaluation 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Will be announced on the first day of class.		Grades will be based on a summative evaluation of class performance (assignments and class participation) and term tests. Attendance is obligatory.	

	英語専門講読 b (Readings on Intercultural Communication)	担当者	C.B.Ikeguchi
講義目的、講義概要		授業計画	
A continuation of the spring term		<ol style="list-style-type: none"> 13. Review of the first term: Introduction to fall term 14. Aspects of Language and Society (2) 15. Gender Styles of Communication 16. Cultural Styles of Communication 17. Japanese communication style: guessing, honorifics 18. Japanese communication style: back channeling 19. Japanese communication style: relational identities 20. Contrastive Rhetoric 21. Language Indirectness/ vagueness 22. The "Tempura" metaphor 23. Ki-Shoo-Ten-Ketsu Style 24. General Summary and evaluation 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Will be announced on the first day of class.		Grades will be based on a summative evaluation of class performance (assignments and class participation) and term tests. Attendance is obligatory.	

	英語専門講読 a (Literature and Communication)	担当者	E. Carney
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course aims to encourage students to read good short stories for study, for vocabulary learning, and for sheer pleasure.</p> <p>The stories are chosen for their active ingredients: thought – provoking, stimulating, and educational. Students will be invited to discuss the material and should be able to meet a challenge quiz on each story. We are also concerned with the writer’s style, technique, and reader appeal. What the writer says between the lines must be given important consideration, too.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction and methods 2. Sample reading 3. First reading: comprehension 4. (3) continued 5. Quiz, and start second reading 6. continued (5) 7. Discussion and comment 8. Quiz 2. Next reading starts 9. Study and compare writers 10. Continued study 11. Continued reading and study 12. Final quiz, revisions, discussion 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Short story prints of Roald Dahl, Stephen King, Ray Bradbury, and others.		Quizzes and final report	

	英語専門講読 b (Literature and Communication)	担当者	E. Carney
講義目的、講義概要		授業計画	
As above		<ol style="list-style-type: none"> 1. Explanations 2. Reading, comprehension 3. Comparing and evaluating 4. The author’s world, the reader’s 5. Next reading 6. Continued, discussion 7. Student comments and ideas 8. Hearing, seeing, reading a story 9. Fiction vs. documentary 10. Read, discuss and compare 11. Read, revise, question time 12. Last quiz. Exam preparations 	
テキスト、参考文献		評価方法	
As above		Quizzes and final report	

	英語専門講読 a (Canadian Culture and Society)	担当者	K. Meehan
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The objective of this course is to study and learn about the many cultures that have been part of Canada's landscape, from native peoples, early-europeans, and multiculturalism of modern day Canada will be covered. The history, geography, religion and politics of the various cultures will be covered throughout the class. The class will revolve around small group discussions, short readings and videos.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 2. Landscape 3. Native Mythology 4. Tribes 5. Early Europeans 6. New France 7. North America 8. Canada 9. Immigration 10. TBA 11. TBA 12. TBA 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Douglas Coupeland, Souvenir Canada, Douglas & McTyre		Grades will be based on attendance, class participation, short essays, and book journal.	

	英語専門講読 b (Canadian Culture and Society)	担当者	K. Meehan
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The Objective of this course is to study and learn about the many cultures that have been part of Canada's landscape, from native peoples, early-europeans, and multiculturalism of modern day will be covered. The history, geography, religion, and politics of the various cultures will be covered throughout the class. The class will revolve around small group discussion, short reading and videos.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Nisei 2. Multiculturalism 3. Quiet revolution 4. Coming of Age 5. Literature 6. Film 7. Great Canadian 8. Modern Natives 9. TBA 10. TBA 11. TBA 12. TBA 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Douglas Coupeland, Souvenir of Canada, Douglas & Mctyre		Grades will be based on attendance, class participation, short essays, and book journal.	

	英語専門講読 a (異文化間コミュニケーション論)	担当者	石井 敏
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的 言語の学習には、聴く・話す・読む・書くの4言語技能と音声・語彙・文法・文字の4言語構成要素に関するバランスの維持が不可欠である。しかし現代の日本人大学生は、音声英語の機械的模倣練習と内容が幼稚で浅薄な日常英会話にのみ関心を持ちがちである。その結果として、彼らは他の英語技能と英語構成要素に関する理解力と運用力を欠き、大学生らしい問題意識と思考力を具えていないといわれる。そこで本講義では、異文化(間)コミュニケーションに関する英文を批評的に読解し、英語の語彙・文法・文字の知識を伸ばし、異文化に関する問題意識と思考力を育成することを目的とする。</p> <p>講義概要 最初に、鍵用語である「文化」と「コミュニケーション」を概念化し、両者の相関関係を明らかにする。続いて、英語圏文化を背景とする人達が主に日本で経験する具体的な異文化問題を扱い、問題の原因を究明し、改善策を考察する。単なる英文和訳の作業ではなく、内容を批評的に理解し、内容について建設的な感想・意見を積極的に発表することを重要視する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Overall Introduction to the Course (Lecture) 2. Conceptualizing Intercultural Communication Studies (Lecture) 3. (a) Finding and Moving into an Apartment in Japan, and (b) Judging from Appearances 4. (a) Preconceptions versus Experiences, and (b) Foreign Students in Japan 5. (a) Polite English, and (b) My Favorite Parties 6. (a) Cross-cultural Dating between Americans and Japanese, and (b) Last Names 7. (a) Finding a Job, and (b) Celebrities: What Talent? 8. (a) International Airports, and (b) Japan-US Trade Friction 9. (a) Language Problems and Gestures, and (b) The Personal Computer Age: The Internet 10. (a) American Dream, and (b) What Is "Communication"? 11. (a) Nonverbal Communication, and (b) Contexts of Communication 12. (a) Self-disclosure and Communication, and (b) Culture and Perception 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト 中林真佐男ほか (1995) <i>Intercultural communication</i>. 大阪教育図書。 参考書 古田 暁ほか (2001) 『異文化コミュニケーション・キーワード』(新版)有斐閣</p>		出席状況、授業中の発表の内容と方法、そして学期末試験の成績による。	

	英語専門講読 b (異文化間コミュニケーション論)	担当者	石井 敏
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的 言語の学習には、聴く・話す・読む・書くの4言語技能と音声・語彙・文法・文字の4言語構成要素に関するバランスの維持が不可欠である。しかし現代の日本人大学生は、音声英語の機械的模倣練習と内容が幼稚で浅薄な日常英会話にのみ関心を持ちがちである。その結果として、彼らは他の英語技能と英語構成要素に関する理解力と運用力を欠き、大学生らしい問題意識と思考力を具えていないといわれる。そこで本講義では、異文化(間)コミュニケーションに関する英文を批評的に読解し、英語の語彙・文法・文字の知識を伸ばし、異文化に関する問題意識と思考力を育成することを目的とする。</p> <p>講義概要 文化とコミュニケーションの相関関係を全体的に復習しながら、具体的な異文化間の危機事例(critical incident)を中心に異文化問題を扱い、問題の原因を究明し、改善策を考察する。単なる英文和訳の作業ではなく、内容を批評的に理解し、内容について建設的な感想・意見を積極的に発表することを重要視する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. (a) Overall Introduction to the Course (Lecture), and (b) Culture and Identity 2. Hidden Culture 3. Stereotypes 4. Words, Words. Words 5. Communication Without Words 6. Diversity 7. Perception 8. Communication Styles (1) 9. Communication Styles (2) 10. Values 11. Deep Culture (Beliefs and Values) 12. Culture Shock 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト Shaules, J ほか (1997) <i>Different realities</i>. 南雲堂。 参考書 古田 暁ほか (2001) 『異文化コミュニケーション・キーワード』(新版)有斐閣</p>		出席状況、授業中の発表の内容と方法、そして学期末試験の成績による。	

	英語専門講読 a (「癒し」文化のコミュニケーション分析 I)	担当者	板場 良久
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>“Healing”すなわち「癒し」とは何でしょうか？ “Therapy”すなわち「セラピー (セラピー)」は、なぜ流行るのでしょうか？ 「セラピーの場としての家庭」とは何でしょうか？ 「引きこもり」はなぜ「家庭」に引きこもるのでしょうか？ 様々な説明が可能ですが、このクラスではこうした事象をコミュニケーションの問題として理解し、自分たちの日常実践に生かしていくことを学習します。教材として、アメリカでの癒しやファミリー・セラピーに関するコミュニケーション研究書を使います。授業は主に、テキストの理解・検討・応用という3段階で進める予定です。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Overview of the course 2. Introduction 3. Perspectives on the Therapeutic 1 4. Perspectives on the Therapeutic 2 5. Perspectives on the Therapeutic 3 6. The Therapeutic in History 1 7. The Therapeutic in History 2 8. The Therapeutic in History 3 9. Family Therapies 1 10. Family Therapies 2 11. Family Therapies 3 12. Short Presentations 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>コピーを配布します。(Dana L. Cloud, <i>Control and Consolation in American Culture and Politics: Rhetorics of Therapy</i>, Sage, 1998)</p>		<p>①出席 (20%)、②クイズ (40%)、③学期末ミニ・プレゼンテーション (40%)</p>	

	英語専門講読 b (「癒し」文化のコミュニケーション分析 II)	担当者	板場 良久
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期に引き続き、「癒し」文化の仕組みを鋭く見抜くための原書講読をしていきます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Overview of the course 2. The Support Group Nation 1 3. The Support Group Nation 2 4. The Support Group Nation 3 5. The Therapeutic of Feminism 1 6. The Therapeutic of Feminism 2 7. The Therapeutic of Feminism 3 8. The New Age of Post-Marxism 1 9. The New Age of Post-Marxism 2 10. The New Age of Post-Marxism 3 11. Conclusion 12. Short Presentations 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>コピーを配布します。(Dana L. Cloud, <i>Control and Consolation in American Culture and Politics: Rhetorics of Therapy</i>, Sage, 1998)</p>		<p>①出席 (20%)、②クイズ (40%)、③学期末ミニ・プレゼンテーション (40%)</p>	

	英語専門講読 a (アメリカ黒人の歴史)	担当者	岡田 誠一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>アメリカ黒人文化の流れを学ぶのが、この授業の目標である。絵、風刺画、写真、新聞雑誌記事などが豊富に掲載されている本をテキストに使う予定。</p> <p>英文をじっくり読むことにより、将来必ず役に立つような英語力を培うのも、もう一つの目標である。</p> <p>今年度は、アメリカに奴隷として連れてこられた黒人が、どのように生きていくことになるかを学ぶ。</p> <p>なお、アメリカ黒人文化を知るための一助として、年間教本、黒人に関する映画を鑑賞する予定である。</p> <p>この授業を受けるには、アメリカ黒人について興味を抱いていることが必要条件。</p> <p>毎回、必ず予習をして授業に臨むこと。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・黒人はどのようにしてアメリカに連れてこられたか。 ・「黒い黄金」 ・新世界における奴隷 ・コットン・ジンとは何か ・キング・コットン ・奴隷の職人たち ・家の中で働く奴隷 ・独立宣言と奴隷 <p>などについて学んでいく。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p><i>A Pictorial History of Blackamericans</i> の抜粋(プリント)を使用する。</p> <p>参考文献は授業中適宜指示する。</p>		<p>出席状況、予習して授業に臨んだか否か、期末の試験、などにより評価が決定される。</p>	

	英語専門講読 b (アメリカ黒人の歴史)	担当者	岡田 誠一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期と同じ</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・財産としての奴隷と合衆国憲法 ・奴隷小屋と疫病 ・奴隷の反乱 ・逃亡奴隷とインディアン ・教育と奴隷 ・有名な奴隷たち ・ジム・クロウとは何か <p>などについて学ぶ予定。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>春学期と同じ</p>		<p>春学期と同じ</p>	

	英語専門講読 a (ヒッチコック映画の精神分析)	担当者	柿田 秀樹
講義目的、講義概要		授業計画 (予定)	
<p>講義目的 ヒッチコック映画をテキストとし、それらを精神分析の視座から批評した論文を精読する。それら複数の論文の精読を通して映像テキストの精神分析とはいかなるものであるかを思考する。講義においては以下の3点が探求のテーマとなる：1) 理論とは何か、2) 批評とは何か、3) 精神分析とは何か。これら3点のテーマについて綿密なテキスト分析の実践にその可能性を辿っていく。</p> <p>講義概要 映像という表象手段によって観客にコミュニケーションされるヒッチコック監督作品をテキストとして、精神分析批評とレトリック理論の基礎を学んでいく。映像というレトリックの手段によるテキストの構成過程を、映画作品と批評を綿密に読み込むことで、その理論的な背景を加味しながら理解していく。この講座の目標はあくまでもレトリック理論の探求であり、映画をエンターテインメントとして楽しむためのものではない。如何にして理論的な「読み」の楽しみを映画というテキストを通じて見いだしていくのが、講義と活発な討論を通じて探求していく主題となる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Course Orientation 2. 精神分析批評-Introduction, (1) 3. 精神分析批評-Introduction, (2) 4. <i>The Lady Vanishes</i>, but the Letter Remains: Julia Kristeva and the Maternal Real(m), (1) 5. <i>The Lady Vanishes</i>, but the Letter Remains: Julia Kristeva and the Maternal Real(m), (2) 6. The Fear of Women and Writing in <i>Spellbound</i>: Kaja Silverman and the Question of Castration, (1) 7. The Fear of Women and Writing in <i>Spellbound</i>: Kaja Silverman and the Question of Castration, (2) 8. <i>Rebecca</i>, Repetition, and the Circulation of Feminine Desire: Judith Butler and the Materiality of the Letter, (1) 9. <i>Rebecca</i>, Repetition, and the Circulation of Feminine Desire: Judith Butler and the Materiality of the Letter, (2) 10. <i>Notorious</i>: Luce Irigaray, Feminine Fluids, and Masculine (Be)Hind-Sight, (1) 11. <i>Notorious</i>: Luce Irigaray, Feminine Fluids, and Masculine (Be)Hind-Sight, (2) 12. 前期総括 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Robert Samuels. <u>Hitchcock's Bi-Textuality: Lacan, Feminisms, and Queer Theory</u> . SUNY U. Press. 1998.		定期試験又はレポート、授業への参加度(発表・発言等)、出席状況(一定以上の欠席は不合格、遅刻2回は欠席1回に相当)等から総合的に評価する。	

	英語専門講読 b (ヒッチコック映画の精神分析)	担当者	柿田 秀樹
講義目的、講義概要		授業計画 (予定)	
春学期と同じ		<ol style="list-style-type: none"> 1. <i>Vertigo</i>: Sexual Dis-Orienta-tion and the En-Gendering of the Real, (1) 2. <i>Vertigo</i>: Sexual Dis-Orienta-tion and the En-Gendering of the Real, (2) 3. <i>Marnie</i>: Abjection, Marking, and Feminine Subjectivity, (1) 4. <i>Marnie</i>: Abjection, Marking, and Feminine Subjectivity, (2) 5. <i>Rear Window</i> Ethics: Laura Mulvey and the Inverted Gaze, (1) 6. <i>Rear Window</i> Ethics: Laura Mulvey and the Inverted Gaze, (2) 7. <i>The Birds</i>: Zizek, Ideology, and the Horror of the Real, (1) 8. <i>The Birds</i>: Zizek, Ideology, and the Horror of the Real, (2) 9. Epilogue: <i>Psycho</i> and the Horror of the Bi-Textual Unconscious, (1) 10. Epilogue: <i>Psycho</i> and the Horror of the Bi-Textual Unconscious, (2) 11. 総括: レトリック、精神分析、批評理論, (1) 12. 総括: レトリック、精神分析、批評理論, (2) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Robert Samuels. <u>Hitchcock's Bi-Textuality: Lacan, Feminisms, and Queer Theory</u> . SUNY U. Press. 1998.		定期試験又はレポート、授業への参加度(発表・発言等)、出席状況(一定以上の欠席は不合格、遅刻2回は欠席1回に相当)等から総合的に評価する。	

	英語専門講読 a (異文化コミュニケーション)	担当者	川島 浩美
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><講義目的>コミュニケーションと文化の各々の特徴、および両者の関係についての文献を読み、異文化コミュニケーションへの基本的認識・理解を深める。その上で、コミュニケーション上の問題点等を分析できることを目的とする。</p> <p><講義概要>授業は、毎週 10 ページ程度の範囲をもとに、受講生による内容発表（レジュメ作成）と質疑応答で進めていく。内容は、コミュニケーションの概念及び構成要素、知覚、言語と非言語コミュニケーションなど文化とコミュニケーションの密接性に関するものを扱う。使用文献は以下からの抜粋が中心となる。</p> <p>Samovar, R. A., & Porter, R. E.(2001). <i>Communication between cultures</i> (4th ed.). Belmont, CA: Wadsworth.</p> <p>Jandit, F. E. (2004). <i>An Introduction to Intercultural communication: Identities in a global community</i>. Thousand Oaks, CA: Sage.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンスとレジュメ作成手順、発表担当者割り当て 2. Introduction 3. Communication and culture (1) 4. Communication and culture (2) 5. Communication and culture (3) 6. Perception 7. Culture and perception 8. Verbal communication and culture 9. Nonverbal communication and culture (1) 10. Nonverbal communication and culture (2) 11. Nonverbal communication and culture (3) 12. Review 	
テキスト、参考文献		評価方法	
上記参照		授業参加度（出席と発表）、定期試験による総合評価状況に応じて、レポート提出も追加する。 注：原則として、学期内の欠席が 3 回を超えないこと。	

	英語専門講読 b (異文化コミュニケーション)	担当者	川島 浩美
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的および授業の進め方は上記に同じ。内容は異文化適応を中心に春学期よりも専門的な分野に焦点を当てる。具体的には異文化コミュニケーションや異文化適応に重要な役割を果たす内的・外的要因などについて学ぶ。使用文献は以下からの抜粋が中心となる。</p> <p>Kim, Y.Y. (1988). <i>Communication and cross-cultural adaptation: An integrative theory</i>. Clevedon: Multilingual Matters.</p> <p>DeVito, J.A. (1988). <i>Human communication: The basic course</i> (4th ed.). NY: Harper & Row</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 2. Stereotype, prejudice and self (1) 3. Stereotype, prejudice and self (2) 4. Stereotype, prejudice and self (3) 5. For effective communication 6. Cross-cultural adaptation: Introduction 7. Cross-cultural adaptation: Internal factors (1) 8. Cross-cultural adaptation: Internal factors (2) 9. Cross-cultural adaptation: Communication 10. Cross-cultural adaptation: External factors 11. Cross-cultural adaptation: Reentry shock 12. Review 	
テキスト、参考文献		評価方法	
上記参照		授業参加度（出席と発表）、定期試験による総合評価注：原則として、学期内の欠席が 3 回を超えないこと。	

	英語専門講読 a (コミュニケーションと文化リテラシー)	担当者	工藤 和宏
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><u>Course Objectives and Content</u></p> <p>This subject examines aspects of intercultural (both face-to-face and mediated) communication from different theoretical standpoints. Emphasis is placed on promoting students' cultural literacies by having them explore various facets of culture and communication through critical reading of the textbook and other materials, group presentation and discussion.</p> <p>This subject is recommended for students who wish to undertake research into intercultural communication and are willing to spend more than two hours per week reading 10-20 pages and preparing well for class activities.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction to the course & Preface (pp. x-xiii) 2. Communication and culture (pp. 1-10) 3. Communication and culture (pp. 10-17) 4. Signs and meaning (pp. 18-24) 5. Signs and meaning (pp. 24-33) 6. Cultural literacies and practices (pp. 34-42) 7. Cultural literacies and practices (pp. 42-51) 8. Framing contexts (pp. 52-62) 9. Framing contexts (pp. 62-71) 10. Ideology (pp. 72-78) 11. Ideology (pp. 78-86) 12. Summary 	
テキスト		評価方法	
Schirato, T., & Yell, S. (2000). <i>Communication and culture: An introduction</i> . Allen & Unwin Australia.		A 1,000-word essay in English (40%) & two group presentations in English/Japanese (60%)	

	英語専門講読 b (コミュニケーションと文化リテラシー)	担当者	工藤 和宏
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><u>Textbook Description</u></p> <p>"<i>Communication and Culture</i> introduces the key concepts and skills needed by students of communication studies, cultural studies and textual studies. From Saussure to Bourdieu, from Freud to Foucault, the authors outline a range of theoretical approaches to the study of communication and culture. Concepts are introduced in everyday particular contexts to demonstrate the essential skills of textual analysis.</p> <p>The book focuses on three 'primary' systems of communication: spoken, written and visual. Examples are chosen from contemporary popular culture and common social and cultural practices in a range of media, including newspapers, magazines, television, film, politics, internet discussions and ordinary speech."</p> <p><u>Recommended reading</u></p> <p>Barker, C. (2004). <i>The SAGE dictionary of cultural studies</i>. London: Sage.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 2. Subjectivity (pp. 87-92) 3. Subjectivity (pp. 92-105) 4. Texts and contexts (pp. 106-112) 5. Texts and contexts (pp. 112-124) 6. Speech genres (pp. 125-134) 7. Speech genres (pp. 134-145) 8. Written genres (pp. 146-155) 9. Written genres (pp. 156-165) 10. Visual mediums (pp. 166-176) 11. Visual mediums (pp. 176-186) 12. Summary 	
テキスト		評価方法	
Schirato, T., & Yell, S. (2000). <i>Communication and culture: An introduction</i> . Allen & Unwin Australia.		A 1,000-word essay in English (40%) & two group presentations in English/Japanese (60%)	

	英語専門講読 a (異文化理解の視点)	担当者	瀬戸 千尋
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業の目的は、異文化理解に必要な視点とはどのようなものかを理解することにある。異なる文化を理解しようとする時、どうしても文化の表層面を認知的に捉えること、もしくは異なる文化を無批判に受け入れることを意味しているように思われる。この授業においては、これらの態度に疑問を投げかけ、異文化を理解することは、その分か背景を担っている人間を理解することであるという立場から「異文化理解」という概念を捉え直し、それに必要な視点について見ていきたい。また、文化相対主義に立脚し、異文化を理解することは異文化を受け入れることであるという異文化理解観についても再考したい。</p> <p>授業の形式は、異文化理解に関連する論文の会読である。つまり、学生によるグループ・プレゼンテーションとディスカッションおよび授業担当者によるコメントと解説である。異文化理解（誤解）やコミュニケーション活動は、われわれが日常的に経験しているものである。授業で会読する文献の内容を机上のものとしてせず、自らの体験に基づいた積極的な発言を期待する。また、プレゼンター以外の学生も該当箇所を予習して来なければ有意義な授業が成立しない。このテーマに興味を持ち、十分な意欲のある学生の履修が望ましい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Guidance and Introduction 2. Making Groups 3. Understanding Culture as Multilevel 4. Understanding the Six Barriers 5. Practicing Culturally-Centered Communication Skills 6. “Who am I?”: cultural variations in self-systems 7. Independent and Interdependent Models of the self as cultural frame 8. Why self-construals are useful 9. The source of dualism: Mechanistic Cartesian worldview 10. Dimensionality of cultural identity 11. Self-disclosure: Bragging vs. negative self-disclosure 12. Conclusion 	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント教材		レポート (40%), プレゼンテーション (30%), 授業への貢献度 (20%), 授業への参加度 (10%) を総合的に評価する。	

	英語専門講読 b (異文化理解の視点)	担当者	瀬戸 千尋
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業の目的は、異文化理解に必要な視点とはどのようなものかを理解することにある。異なる文化を理解しようとする時、どうしても文化の表層面を認知的に捉えること、もしくは異なる文化を無批判に受け入れることを意味しているように思われる。この授業においては、これらの態度に疑問を投げかけ、異文化を理解することは、その分か背景を担っている人間を理解することであるという立場から「異文化理解」という概念を捉え直し、それに必要な視点について見ていきたい。また、文化相対主義に立脚し、異文化を理解することは異文化を受け入れることであるという異文化理解観についても再考したい。</p> <p>授業の形式は、異文化理解に関連する論文の会読である。つまり、学生によるグループ・プレゼンテーションとディスカッションおよび授業担当者によるコメントと解説である。異文化理解（誤解）やコミュニケーション活動は、われわれが日常的に経験しているものである。授業で会読する文献の内容を机上のものとしてせず、自らの体験に基づいた積極的な発言を期待する。また、プレゼンター以外の学生も該当箇所を予習して来なければ有意義な授業が成立しない。このテーマに興味を持ち、十分な意欲のある学生の履修が望ましい。</p>		<p>春学期の最後の授業で発表する</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント教材		レポート (40%), プレゼンテーション (30%), 授業への貢献度 (20%), 授業への参加度 (10%) を総合的に評価する。	

	英語専門講読 a (黒人表現文化)	担当者	三吉 美加
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>アメリカ合衆国、およびカリブ海出身のアフリカ系アメリカ人作家による作品を読む。</p> <p>奴隷制時代から現代までをいくつかに分け、各時代のテキストを読みすすめながら、当時流行した音楽やダンスとの関連性について考察していく。</p> <p>予定しているのは、Zora Neale Hurston, Langston Hughes, Paule Marshall, James Baldwin, Maya Angelou, Jamaica Kincaid, Julia Alvarez らの短編 (詩も含む)。</p> <p>各時代に流行した音楽やダンスなどを鑑賞しながら、各文学作品との関連性 (リズム、スピード、聴覚、視覚的表現) について検討していく。</p> <p>注意: 必ず予習してくること (当たり前のことですが、敢えて書いてます)。</p>		<p>1~3 アメリカ大陸およびカリブ海における黒人の歴史</p> <p>4~5 ワークソング、スピリチュアルズ: 奴隷制時代の民話</p> <p>6~7 ブルース、ゴスペル、アフロ・カリビアン音楽</p> <p>8~9 ハーレムルネッサンス</p> <p>10 1950年代から60年代</p> <p>11~12 ビバップ〜クールジャズ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p><i>NORTON ANTHOLOGY OF AFRICAN AMERICAN LITERATURE</i></p> <p><i>Callaloo: A Journal of African Diaspora Arts & Letters</i> (雑誌)</p> <p>他。(高価なのでプリントを配布します)</p>		<p>授業への参加、小テスト、レポート、学期末試験などを総合的に評価する。</p>	

	英語専門講読 b (黒人表現文化)	担当者	三吉 美加
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期の続き。現代作家の最新作品を多く読んでいく。</p>		<p>1~3 ソウル・ロック</p> <p>4~5 現代の黒人イメージとテクノロジー</p> <p>6~8 レゲエ</p> <p>9~11 ヒップホップ</p> <p>12 まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>春学期と同じ。</p>		<p>授業への参加、小テスト、レポート、学期末試験などを総合的に評価する。</p>	

	英語専門講読 a (米国の東アジア政策)	担当者	阿部 純一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>今年 11 月の米中間選挙で、ブッシュ政権 2 期目の折り返し点を迎える。イラク、イランなど中東政策の打開に苦悩する外交分野では、東アジア政策は安定を最優先せざるを得ない。すなわち、北朝鮮の核問題を扱う六カ国協議、台湾海峡問題において、ともにキープレイヤーとなる中国との関係を重視する姿勢がより鮮明になるであろう。2005 年 9 月、ゼーリック国務副長官が中国を Responsible Stakeholder (責任ある利益共有者)と規定したことが、米国の対中関与の姿勢を明示している。</p> <p>しかし外交と表裏の関係にある国防戦略においては、ユーラシア大陸を横断する「不安定の弧」に対処するため米軍の再編を進めており、その過程で西太平洋における戦力拡充を図っているが、その暗示的な目標として、軍事的に台頭する中国への牽制の意図が込められている。</p> <p>米中関係を軸に、朝鮮半島、台湾、日米安保などの動向をフォローすることで、米国の東アジア政策のダイナミズムを観察・検討することが本講義の目的である。</p>		最初の授業で説明する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
シンクタンクのレポート、新聞記事、政府高官の議会証言等から教材を選択し、毎回配布する。		授業では、報告を担当する学生がレジュメを用意し、それに基づき報告する。成績は、学生の報告、授業への議論参加、出席を基準に評価。出席率 70%以下は不可。	

	英語専門講読 b (米国の東アジア政策)	担当者	阿部 純一
講義目的、講義概要		授業計画	
(春学期に同じ)			
テキスト、参考文献		評価方法	

	英語専門講読 a (アジア太平洋地域の政治・経済・国際関係) (春学期)	担当者	金子 芳樹
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>授業の目的は2つある。第一に、国際関係論や地域研究 (Area Studies) にとって不可欠な英語表現を学習する。第二に、アジア太平洋地域の国際関係・政治・経済に関する基本的知識、ならびに各国、各地域の現状分析を行う際の視点・手法の習得を図る。</p> <p>テキストを読み進めることを中心に、同地域に横たわる諸問題について検討する。週ごとに指定されたテキストのパートを精読し、その内容を全訳したレポートを毎週、受講者全員が提出する。授業はそれを基に受講者によるプレゼンテーション、質疑応答、討論を軸に進める。さらに他の文献・資料で関連知識を補強したレポートの提出を定期的に求める。特に出席を重視する。</p> <p>なお、本年度については、担当者（金子）が秋学期より1年間の海外研修に入るため、英語専門講読の a と b を合わせて前期集中とし、月曜日の 4、5 時限に連続で行う。したがって、英語専門講読 a/b を合わせて履修することが条件となる。</p>		<p>(テキストのパートごとに進める。詳細については1回目の授業時に説明する)</p> <p>テキスト： Institute of Southeast Asian Studies, <i>Regional Outlook: Southeast Asia 2005-2006</i>, ISEAS, 2005.</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキストは 200 ページ前後、価格は 2000 円程度。履修者決定時点で一括注文する。 ・テキストの内容は、2005 年における東南アジア諸国の国際関係・政治・経済の状況に関する国別の分析。 ・受講者数には上限がある。また、初回の授業で1時間程度の英文の読解力テスト（国際政治経済の時事問題に関する英文の和訳）を実施する。 	
テキスト、参考文献		評価方法	
右の授業計画参照。担当者が一括注文するので受講者が手配する必要はない。		出席率、レポート内容、プレゼン内容、討論への参加状況を基に評価する。理由の如何を問わず、欠席回数が3回に達した時点で履修者リストから除外する。	

	英語専門講読 b (アジア太平洋地域の政治・経済・国際関係) (春学期)	担当者	金子 芳樹
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>授業の目的および進め方については、英語専門講読 a と同様である。週ごとに指定されたテキストのパートを精読し、その内容を全訳したレポートを毎週、受講者全員が提出する。授業はそれを基に受講者によるプレゼンテーション、質疑応答、討論を軸に進める。さらに他の文献・資料で関連知識を補強したレポートの提出を定期的に求める。また、本授業では出席を第一に重視する。</p> <p>なお、本年度については、担当者（金子）が秋学期より1年間の海外研修に入るため、英語専門講読の a と b を合わせて前期集中とし、月曜日の 4、5 時限に連続で行う。したがって、受講者は英語専門講読 a/b を合わせて履修すること。</p> <p>本授業の受講者数には上限がある。また、初回の授業で1時間程度の英文の読解力テスト（国際政治経済の時事問題に関する英文の和訳）を実施する。</p>		<p>(テキストのパートごとに進める。詳細については1回目の授業時に説明する)</p> <p>テキスト： Institute of Southeast Asian Studies, <i>Southeast Asian Affairs 2005</i>, ISEAS, 2005.</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキストは、全体で 350 ページ前後、価格は 2000 程度。履修者決定時点で一括注文する。 ・テキストの内容は、近年における東南アジア諸国の国際関係・政治・経済に関する主要な出来事についての国別、イシュー別の分析・解説。 	
テキスト、参考文献		評価方法	
右の授業計画参照。担当者が一括注文するので受講者が手配する必要はない。		出席率、レポート内容、プレゼン内容、討論への参加状況を基に評価する。理由の如何を問わず、欠席回数が3回に達した時点で履修者リストから除外する。	

	英語専門講読 a (現代国際関係)	担当者	佐野 康子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本授業では、現代国際関係の中でも途上国問題に焦点を当てる。特にグローバリゼーションの進行が開発途上国に及ぼす影響をテーマに読み解いていく。より具体的には、グローバリゼーションとは何か、現代国際社会の中で途上国をどのように位置付けたらいいのか、国際情勢の変化が開発途上国に及ぼす政治的・文化的な影響、また逆に途上国の開発問題が国際社会に与える影響などを考察していきたい。</p> <p>本授業で扱う文献は、四部構成となっており、春学期では、第二部までを読み終える予定。秋学期には、文献の後半部分を扱う。但し、授業の進行は、学生の理解度により判断する。</p> <p>授業は、基本的にグループ発表とその後のディスカッションにより進める。学生には、授業への積極的な参加を求めるので、十分に予習を行った上で授業に臨んでもらいたい。</p>		<p>1. オリエンテーション、グループ分け</p> <p>2. ～12. 発表、ディスカッション</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Richard J. Payne and Jamal R. Nassar, <i>Politics and Culture in the Developing World: The Impact of Globalization</i> , second edition (New York: Longman, 2006).		出席、授業への参加状況、発表の総合評価とする。	

	英語専門講読 b (現代国際関係)	担当者	佐野 康子
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期と同じ。		春学期と同じ。	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期と同じ。		春学期と同じ。	

	英語専門講読 a(各種英文ビジネス文書の読み方と実務)	担当者	杉山 晴信
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>いわゆる ESP(English for Specific Purposes)の観点から、ビジネス英語を「国際商取引を遂行・促進するための英語によるコミュニケーション活動」ととらえると、その内容は概ねビジネス通信文(Business Correspondence)とビジネス文書(Business Documentation)とに大別できます。この授業は、前者のみを扱う狭義のビジネス英語から脱却し、後者にまで学習範囲を拡大して、国際ビジネスに従事する者にとって不可欠な実務能力とロジカル・シンキングを涵養することを目指します。</p> <p>「英文ビジネス文書」と一言で言っても、実際には法律文書、技術文書、財務文書、広告・宣伝文書等々、きわめて多岐にわたりますが、今年度の春学期は法律文書(legal writings)の代表である契約書と定款を扱います。具体的には、技術文書(technical writings)としての性格もあわせもつ技術援助契約(technical assistance agreement)の英文契約書と、米国法に基づく株式会社の設立定款(certificate of incorporation)をテキストとして読み、法律英語の文体や語法の特徴を言語的知識として学ぶと同時に、国際ビジネスに関する実務的な知識を習得できるように努力します。</p> <p>なお、右記の授業計画は、授業の進捗状況によって多少の変更があるかもしれません。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 春学期の授業計画と学習内容について詳しく説明し、履修上の注意事項を伝達します。 2 法律英語の文体や語法の基本的特徴、英文契約書の標準的構成と用語法、代表的な国際契約類型の概要などについて講義します。 3 同上 4 技術援助契約について全体的な説明を行った後、英文契約書の前文を読みます。 5 「定義(definitions)」および「実施権の許諾(grant of license)」の各条項を読みます。 6 「技術情報(technical information)」および「技術指導(technical guidance)」の各条項を読みます。 7 「技術訓練(technical training)」、「実施料(royalty)」および「会計と監査(accounting and auditing)」の各条項を読みます。 8 「工業所有権(industrial property rights)」、「改良(improvements)」および「商標(trademarks)」の各条項を読みます。 9 上記以外の一般条項を読みます。 10 日本企業の米国子会社の設立定款を読みます。 11 同上 12 春学期の総復習を行います。 	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントを当方で用意します。また、必要な資料も随時配布します。		出席状況や授業貢献度といった平常点を第一の尺度とし、定期試験の結果を加味して決定します。	

	英語専門講読 b(各種英文ビジネス文書の読み方と実務)	担当者	杉山 晴信
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的は春学期と同じですが、秋学期は英文財務諸表を扱います。実在の米国企業の財務諸表(financial statements)を範例とした英文のテキストを読みながら、貸借対照表(balance sheet)、損益計算書(income statement)、利益剰余金計算書(statement of retained earnings)、株主持分計算書(statement of shareholders' equity)、キャッシュフロー計算書(statement of cash flow)などの意義、表示区分と読み方、勘定科目、各種の分析指標などについて学び、ごく基本的なレベルで企業業績を読み取ることができるようになることを目指します。</p> <p>なお、右記の授業計画は、授業の進捗状況によって多少の変更があるかもしれません。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 秋学期の授業計画と学習内容について詳しく説明するとともに、履修上の注意事項を伝達します。 2 英文財務諸表、特に貸借対照表と損益計算書の意義について詳しく説明します。 3 各種英文財務諸表の表示区分と読み方、および主要な勘定科目について、日本語版のそれらと比較しながら詳しく説明します。 4 同上 5 実在の米国企業の(連結)財務諸表を範例とした英文のテキストを、専門用語に慣れながら読み進み、実務知識の習得を目指します。 6 同上 7 同上 8 同上 9 同上 10 各種の分析指標を用いて、テキストが範例としている米国企業の簡単な経営分析を行い、流動性、安全性、収益性、効率性、成長性等の業績を検討します。 11 同上 12 秋学期の総復習を行います。 	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントを当方で用意します。また、必要な資料も随時配布します。		出席状況や授業貢献度といった平常点を第一の尺度とし、定期試験の結果を加味して決定します。	

	英語専門講読 a (アジア太平洋の安全保障)	担当者	竹田 いさみ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>第1の目的は、アジア太平洋地域の国際関係と安全保障を分析することです。第2の目的は、英語の運用能力を高めるとともに、現代の国際関係に関する情報を獲得することです。</p> <p>対象国は①アメリカ、カナダ、オーストラリア、ニュージーランド、EU、日本、韓国などの先進国、②中国、インド、ロシアなど巨大な途上国、③シンガポール、タイ、インドネシア、ベトナムなど東南アジア諸国。</p> <p>2週単位で授業が進みます。第1週は、受講生は担当する国を決め、詳細なレジュメを用意してプレゼンテーションを行います。その際、新聞・雑誌・専門資料を活用し、テキストの内容を掘り下げる工夫が求められます。</p> <p>第2週は、テキストの英文を理解する作業が行われます。例えば第1週はオーストラリアに関するプレゼンがあり、第2週はテキストに掲載されているオーストラリアを、英語に着目して討論します。</p> <p>受講生から英語での質問、コメントもOK。</p>		<p>1 オリエンテーション</p> <p>2 プレゼンテーションと討論</p> <p>3 同上</p> <p>4 同上</p> <p>5 同上</p> <p>6 同上</p> <p>7 同上</p> <p>8 同上</p> <p>9 同上</p> <p>10 同上</p> <p>11 同上</p> <p>12 まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
C. Morrison ed., <i>Asia Pacific Security Outlook 2005</i> , Tokyo:JCIE, 2005		受講生によるレジュメ作成とプレゼンテーション、出席と討論への参加が基本となります。	

	英語専門講読 b (アジア太平洋の安全保障)	担当者	竹田 いさみ
講義目的、講義概要		講義目的、講義概要	
<p>第1の目的は、アジア太平洋地域の国際関係と安全保障を分析することです。第2の目的は、英語の運用能力を高めるとともに、現代の国際関係に関する情報を獲得することです。</p> <p>対象国は①アメリカ、カナダ、オーストラリア、ニュージーランド、EU、日本、韓国などの先進国、②中国、インド、ロシアなど巨大な途上国、③シンガポール、タイ、インドネシア、ベトナムなど東南アジア諸国。</p> <p>2週単位で授業が進みます。第1週は、受講生は担当する国を決め、詳細なレジュメを用意してプレゼンテーションを行います。その際、新聞・雑誌・専門資料を活用し、テキストの内容を掘り下げる工夫が求められます。</p> <p>第2週は、テキストの英文を理解する作業が行われます。例えば第1週はオーストラリアに関するプレゼンがあり、第2週はテキストに掲載されているオーストラリアを、英語に着目して討論します。</p> <p>受講生から英語での質問、コメントもOK。</p>		<p>1 オリエンテーション</p> <p>2 プレゼンテーションと討論</p> <p>3 同上</p> <p>4 同上</p> <p>5 同上</p> <p>6 同上</p> <p>7 同上</p> <p>8 同上</p> <p>9 同上</p> <p>10 同上</p> <p>11 同上</p> <p>12 まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
C. Morrison ed., <i>Asia Pacific Security Outlook 2005</i> , Tokyo:JCIE, 2005		受講生によるレジュメ作成とプレゼンテーション、出席と討論への参加が基本となります。	

	英語専門講読 a (現代国際関係論)	担当者	永野 隆行
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【授業の目的】</p> <p>① 現代国際関係における諸問題に対する関心を高め、理解を深めること。</p> <p>② プレゼンテーションを通じて、ものごとを筋道立てて説明し、発表する能力を身につけること。</p> <p>【授業の流れ】</p> <p>春学期は、英文テキストについて、あらかじめ指定された学生（またはグループ）が内容のサマリーを発表し、その後ディスカッションを進めます。<u>二週に一度、内容に関するクイズを行います。</u></p> <p>なお、テキストの講読を通じて、秋学期に向けたプレゼンテーションのテーマを見つけてもらいます。</p> <p>*受講者多数の場合には、グループ(2~3人)を組んでもらい、グループごとに研究・発表していただくこととなります。</p>		<p>1. この授業の進め方に関するオリエンテーション、ならびに発表担当者(グループ分け)の決定(第1週)</p> <p>2. 各発表者(グループ)によるプレゼンテーション(第2~第11週)</p> <p>3. 秋学期の発表についての打ち合わせ(最終週)</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
W. Raymond Duncan, Barbara Jancar-Webster, & Bob Switky, <i>World Politics in the 21st Century</i> , updated edition (New York: Addison Wesley, 2002). 図書館所蔵		評価は次の三点による。①発表の担当(35%)、②小テストの点数(35%)、③ディスカッションへの貢献度(30%)。欠席が四回を越えた時点で不可。遅刻は二回で欠席とみなす。	

	英語専門講読 b (現代国際関係論)	担当者	永野 隆行
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>秋学期は、個人(もしくはグループ)が、特定のテーマについてパワーポイントを使って<u>プレゼンテーションを英語で行います</u>。テーマは、基本的には春学期のテキストで学んだことに関連していることが望ましい。漠然としたテーマではなく、特定の問題に焦点をあて、<u>何らかの問題について、疑問点をあげて、それに対する答えを導き出す形式</u>をとること。</p> <p>決して自己満足的な発表とならないように、常に「聞き手」を意識したプレゼンテーションを行うように心がけてください。</p> <p>またプレゼンテーションのあとには、学生全員の参加するディスカッション(英語と日本語)を行いますので、担当グループは工夫して、ディスカッションが盛り上がるようにしてください。この授業の主役は学生で、教員はあくまでもアドバイザー役に徹します。</p>		<p>1. 秋学期のオリエンテーション(第1週)</p> <p>2. 個人(もしくはグループ)によるプレゼンテーション(第2~最終週)</p> <p>【注意事項】</p> <p>発表担当者(グループ)は、担当となる週の週間前の授業で、<u>英語の事前資料を用意</u>して、学生に当日までに読んでてもらおうようすること。</p> <p>毎回の発表終了後には、発表担当者を除く全学生に対して<u>授業用掲示板への投稿</u>を求めます。発表を受けて自分が考えたこと、疑問に思ったことなどを出来る限り詳しく書くこと。内容によっては、再投稿を求める。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
受講者が自分たちで選んで用意する資料がテキストとなります。		評価は次の3点による。①発表の担当(35%)、②ディスカッションへの貢献度(35%)、③掲示板への投稿(30%)。なお欠席と遅刻の取り扱いは、春学期と同様とする。	

	英作文 a	担当者	遠藤 朋之
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>英語においてどのようなパラグラフが「良いパラグラフ」か、それをまず考える。そしてそれを日本語で実践し、さらに英語でも行う。</p> <p>パラグラフの書き方は、いくつか種類があるが、それをテキストで学び、さらに英語で（ときには日本語で）実践する。</p> <p>「書きたい！」という意識がなければ、書くことはできない。パラグラフの書き方などよりも、書きたい、という意識の方が重要だ。そのためには、時には刺激的な、あるいは挑発的な言動が、担当者からあるかもしれない。その挑発に対して、本気で乗ってきて、「おまえ、違うだろ！」とか、「そうだよ、おまえ！」というような作文を、授業で学ぶパラグラフの書き方に則って書くことのできるような、気概のある学生に受講してもらいたい。</p> <p>どこかで、英字新聞などの記事を、書き手の視点から読むことがあるかもしれない。</p> <p>右の授業計画にあるように、春学期は4つ以上の英作文が課される。</p>		<p>1) introduction 2) Unit 1 3) Unit 2 4) Unit 3 5) Unit 4 6) Unit 4 の実践 7) Unit 5 8) Unit 5 の実践 9) Unit 6 10) Unit 6 の実践 11) Unit 7 12) Unit 7 の実践</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<i>Thoughts into Writing</i> (Seibido)		各回に提出される英作文の評価。欠席及び英作文提出の遅れは、評価に加味される。	

	英作文 b	担当者	遠藤 朋之
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期に引き続き、同じテキストで、同じこと、つまり、ひとつのユニットを読んで、その実践を行う。初回は、受講者の顔ぶれを見て、もしかしたら、基礎的な話を、繰り返しすることがあるかもしれない。</p> <p>昨年度は、秋学期だけで7通の英作文を提出してもらった。学園祭や作文提出の課題が出せない初回の授業をのぞいたら、ほぼ毎週、という感じである。「毎日が日曜日の夜」という、心休まる時がない日々を過ごすことになるであろう。「7通くらい、ラクショ〜!!」という学生に受講してもらいたい。</p> <p>春学期同様、どこかで、英字新聞などの記事を、書き手の視点から読むことがあるかもしれない。</p>		<p>1) Unit 8 2) Unit 8 の実践 3) Unit 9 4) Unit 9 の実践 5) Unit 10 6) Unit 10 の実践 7) Unit 11 8) Unit 11 の実践 9) Unit 12 10) Unit 12 の実践 11) Unit 13 12) Unit 13 の実践</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<i>Thoughts into Writing</i> (Seibido)		各回に提出される英作文の評価。欠席及び英作文提出の遅れは、評価に加味される。	

	英作文 a	担当者	岡田 誠一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>英文を書く場合、書きたい内容の表現に文法の知識が必要なことはいまでもない。 英作文に必要な文法とは、一言でいえば「生きた文法」である。 自然な英文が書けるようになるには、英文法の知識がすぐ使えるように絶えず活性化されていなければならない。 この授業では、文法を学びつつ、正しい自然な文章を書くこと、を目的とする。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・準動詞について ・動詞と基本文型 ・述語のパターン ・能動文と受動文 ・時間の表現 ・仮定法と助動詞 ・形容詞的修飾 ・副詞的修飾 <p>などについて学ぶ。 また、ヒヤリングの向上を目指すために、映画も活用する予定である。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p><i>English Composition at Work</i> 金星堂 参考書は授業において適宜指示する。</p>		<p>出席状況、予習して授業に臨んだか否か、期末の試験、などにより評価が決定される。</p>	

	英作文 b	担当者	岡田 誠一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期と同じ</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・分詞を用いた表現 ・関係詞を用いた表現 ・等位表現・従位表現 ・否定の表現 ・比較の表現 ・話法 ・効果的な作文法 ・つなぎ語句と慣用語句 <p>などについて学んでいく。 春学期同様、映画のビデオも活用の予定。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>春学期と同じ</p>		<p>春学期と同じ</p>	

	英作文 a	担当者	金子 節也
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>英語の基礎構造（5 文型）をしっかりと理解し、短い日本語をたくさん、スピーディに英語にしてゆく。</p> <p>たくさん練習する。つまり、英語を produce することによって、Speaking に近づいてゆく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 第 1, 2 文型 2. 第 2、3 文型 3. 第 3、4 文型 4. 第 4、5 文型 5. 1-5 復習 6. 形容詞句（第 1-3 文型） 7. 副詞句（第 1-3 文型） 8. 名詞句（第 1-3 文型） 9. 形容詞句（第 1-5 文型） 10. 副詞句（第 1-5 文型） 11. 名詞句（2）（第 1-5 文型） 12. 6-11 復習 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Building up English Skills（テキスト）その他多くの配布プリント		テストと出欠を含む平常点。	

	英作文 b	担当者	金子 節也
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>口頭英作文の要素を取り入れる。作文をさらにスピードアップ。プリント教材（自作）を併用。時事作文の要素を取り入れて、現実性を増す。五文型重視は春学期と同じ。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 等位節 2. 名詞節（1） 3. 副詞節（1） 4. 形容詞節（1） 5. 1-4 復習 6. 形容詞節（2） 7. 名詞節（2） 8. 副詞節（2） 9. 副詞節（3） 10. 副詞節（4） 11. 副詞節（5） 12. 6-12 復習 	
テキスト、参考文献		評価方法	
同上		同上	

	英作文 a	担当者	川崎 潔
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>目的</p> <p>教養ある native speaker (Donald Keene, Edward G. Seidensticker, Edwin O. Reischauer) の書いた自然な英文を読んで英語らしい表現法を学び、それにならって英文を書く練習をし、自己表現の域にたつする。</p> <p>概要</p> <p>(1) Model Paragraph を読んで Comprehension Questions に英語で答える。</p> <p>(2) Sentence Building : 既習の語や言いまわしを用いて、テキストとはやや異なった状況を表現する。</p> <p>(3) Model Paragraph を範例として、指示された状況に適合した英文を作成する。</p>		<p>1 授業の説明と Lesson 1 の一部</p> <p>2 Lesson 1 , 2</p> <p>3 Lesson 2 , 3</p> <p>4 Lesson 3 , 4</p> <p>5 Lesson 4 , 5</p> <p>6 Lesson 5 , 6</p> <p>7 Lesson 6 , 7</p> <p>8 Lesson 7 , 8</p> <p>9 Lesson 8 , 9</p> <p>10 Lesson 9 , 10</p> <p>11 Lesson 10</p> <p>12 予備日</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
天満美智子 : A Modern Writing Laboratory (朝日出版)		期末テスト、英作文の提出、平常点による。	

	英作文 b	担当者	川崎 潔
講義目的、講義概要		授業計画	
同上		<p>1 Lesson 11</p> <p>2 Lesson 11 , 12</p> <p>3 Lesson 12 , 13</p> <p>4 Lesson 13 , 14</p> <p>5 Lesson 14 , 15</p> <p>6 Lesson 15 , 16</p> <p>7 Lesson 16 , 17</p> <p>8 Lesson 17 , 18</p> <p>9 Lesson 18 , 19</p> <p>10 Lesson 19 , 20</p> <p>11 Lesson 20</p> <p>12 予備日</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
同上		同上	

	英作文 a	担当者	鈴木 英一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的: 伝えたい内容を英語で自由に表現できるようになることが究極の目標である。ここでは、そのためにまず、さまざまな状況で基本的な文を書く練習を行い、次第により複雑な内容を英語で表現できるようになることを目的とする。</p> <p>講義概要: まず、取り扱う文型・文法事項や語句を含む簡潔な英語の文章を読み、次に、取り上げられている文型・文法事項と語句・表現を確認し、関連する事柄を英語で表現する。さらに、基本的な文型や構文を使い、日常的な事柄に関する語彙を用いて英語の文章を書く訓練を行う。 春学期で中心的に取り上げる構文や語句・表現は、文の述語を構成する要素、動詞と形容詞である。これに加えて、完了形や受動形、さらに、不定詞や動名詞などを用いた文を書く練習を行う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Welcome to Our Fireside; 自動詞＋副詞, 代名詞 2. The Ultimate End; 仮主語 it, 部分否定, 未来完了 3. Little Tom, Learn by Experience; 助動詞, 助動詞＋完了形 4. A Wise Man, A Promising Designer; 仮目的語 it, 自動詞＋副詞＋前置詞, 自動詞＋前置詞 5. A Promising designer; 仮目的語 it, 他動詞＋目的語＋前置詞 6. A Letter; I'll Think It Over; 受動形, 他動詞＋目的語＋副詞 7. I Recommend Mr. Brown; 形容詞＋前置詞 8. Worrying about a Friend; 形容詞＋前置詞＋不定詞/疑問節 9. Finding a Thief; “It＋seem(＋…)＋that 節” 10. Uncle James; “It＋happen＋that 節”, 完了不定詞 11. Introduction to Japanese Culture; 動名詞, 完了動名詞 12. Essay Writing 	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：安井稔・他(1983) <i>A Guide to English Composition Intermediate</i> . 開拓社.		出席状況、授業における平常点、期末試験の成績を総合して評価する。なお、単位の認定には授業回数の 2/3 以上の出席が必要とされる。	

	英作文 b	担当者	鈴木 英一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的: (春学期と同じ) 伝えたい内容を英語で自由に表現できるようになることが究極の目標である。ここでは、そのためにまず、さまざまな状況で基本的な文を書く練習を行い、次第により複雑な内容を英語で表現できるようになることを目的とする。</p> <p>講義概要: (春学期の続き) 秋学期は、少し複雑な内容と構造をもつ文を書く練習を行う。まず、関係代名詞と関係副詞を含む文を扱う。次に、時・条件・譲歩・原因・理由・目的・結果・比較などを表す副詞節を含む文を扱う。さらに、仮定法の用法を学び、仮定法表現を含む文の各練習を行う。最後に、伝聞を表すのに用いられる直接話法と間接話法の文を扱う。最後の2回の授業では、1年間の授業のまとめを兼ねて、「誕生会への招待」と「友人宅への訪問」というテーマで自由に英語の文を書く。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. William Shakespeare; “S＋be＋that 節”, 関係代名詞 2. Mr. White; 自由関係詞 what, 関係詞副詞, “S＋be＋how 節” 3. Mr. Green, a Witty Teacher; 時を表す副詞節 4. A Delay; “形容詞＋that 節”, 原因・理由を表す副詞節 5. Rules for Making a Speech; 目的・結果を表す表現 6. My First Fishing Trip; 仮定法未来, 仮定法過去完了 7. The Doctor's Advice; 条件を表す表現 8. A True Friend; 譲歩を表す表現 9. What Is Happiness; 比較と対比を表す表現 10. A Huge Cabbage; 直接話法, 間接話法 11. Invitation to Birthday Party 12. Visiting Friends 	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：安井稔・他(1983) <i>A Guide to English Composition Intermediate</i> . (開拓社)		出席状況、授業における平常点、期末試験の成績を総合して評価する。なお、単位の認定には授業回数の 2/3 以上の出席が必要とされる。	

	英作文 a	担当者	中村 燦
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><講義概要> 精選された問題で和文英訳のコツと書き方を教え、実作を通して体得してもらおう。問題は日常一般の話題に止まらず、日本人としての知識教養を培い、対外発信に役立つ内容のものを選んである。 春学期は基本的文法事項を応用した和文英訳を主に、秋学期は文法応用をはなれた総合的和文英訳を多く取り入れた練習をする。 毎回学生に板書させ、それを添削し、訳例を示す。</p> <p><受講者への要望> 始業時に大きな声で挨拶する。毎回重要かつ独自の解説をするので、遅刻欠席せずに真剣に受講すること。授業中の私語、飲食等は厳禁。ガムも不可。茶髪、金髪は感心しない。</p>		1 序説 2 基本時制① 3 基本時制② 4 It・There① 5 It・There② 6 完了① 7 完了② 8 否定・不定詞① 9 否定・不定詞② 10 分詞・動名詞① 11 分詞・動名詞② 12 総復習	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント使用。		平素の熱意と勤怠及び定期試験の成績を総合的に考慮して評価する。	

	英作文 b	担当者	中村 燦
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><講義概要> 精選された問題で和文英訳のコツと書き方を教え、実作を通して体得してもらおう。問題は日常一般の話題に止まらず、日本人としての知識教養を培い、対外発信に役立つ内容のものを選んである。 春学期は基本的文法事項を応用した和文英訳を主に、秋学期は文法応用をはなれた総合的和文英訳を多く取り入れた練習をする。 毎回学生に板書させ、それを添削し、訳例を示す。</p> <p><受講者への要望> 始業時に大きな声で挨拶する。毎回重要かつ独自の解説をするので、遅刻欠席せずに真剣に受講すること。授業中の私語、飲食等は厳禁。ガムも不可。茶髪、金髪は感心しない。</p> <p>◎英作文 a を履修していることが望ましい（受講要件ではない）。</p>		1 序説 2 比較① 3 比較② 4 仮定(叙想)法① 5 仮定(叙想)法② 6 物主構文① 7 物主構文② 8 総復習 9 総合問題① 10 総合問題② 11 総合問題③ 12 総合問題④	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント使用。		平素の熱意と勤怠及び定期試験の成績を総合的に考慮して評価する。	

	英作文 a	担当者	福井 嘉彦
講義目的、講義概要		授業計画	
英作文がどちらかと言うと、苦手な諸君を対象とした授業を行いたい。		テキストに沿って行う。 受講者は名簿に従って定まった席についてもらう。	
テキスト、参考文献		評価方法	
未定（授業開始までに発表する。）		日常の授業への出席と発表、およびテストの結果で評価する。	

	英作文 b	担当者	福井 嘉彦
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期に準ずる。		春学期に準ずる。	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期に準ずる。		春学期に準ずる。	

	英作文 a	担当者	藤田 永祐
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>人は文章でも単語でも、先ず自分の母国語で思い浮かべるでしょう。それを英語に直していくと、ちゃんとした英文にならない、そんなことは当たり前のことですが、しかしこの当たり前のことがとても重要なことだと思います。たとえばフランス人やドイツ人が英語を習得する際、母国語で思い浮かべたもの(彼らも最初は頭の中で必ずそうするでしょう)を英語にする作業が、日本語を母国語とする者よりはるかに楽であるに違いありません。なぜ東洋人が英語をマスターするのが苦手なのかの根本的理由はそこにあると思います。それなら最初から頭の中で英語で組み立てればよいというのは現実や事実在即さぬ理屈であって、普段頭の中で英語で考え、英語で感情でも気持ちでも表現していないなら、急にそんなことを要求されても出来ないのは自明の理です。</p> <p>適切な word や phrase や sentence を使う能力、sentence と sentence をつなぐ能力は(受験勉強ではカバーできない)訓練を要するのです。</p> <p>時にテキストを離れて、詩とかエッセイの英訳に取り組みます。</p>		<p>テキストに沿って進めますが、学生一人ひとりの能力が異なるため、個人指導が欠かせません。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト <i>Basic Grammar for Writing</i> by Nancy Sakamoto (松柏社) 参考文献『日本人に共通する和文英訳のミス』 岩垣守彦著 (ジャパントイムズ)。</p>		<p>平素の小テストと平常点。</p>	

	英作文 b	担当者	藤田 永祐
(講義目的、講義概要)		授業計画	
<p>人は文章でも単語でも、先ず自分の母国語で思い浮かべるでしょう。それを英語に直していくと、ちゃんとした英文にならない、そんなことは当たり前のことですが、しかしこの当たり前のことがとても重要なことだと思います。たとえばフランス人やドイツ人が英語を習得する際、母国語で思い浮かべたもの(彼らも最初は頭の中で必ずそうするでしょう)を英語にする作業が、日本語を母国語とする者よりはるかに楽であるに違いありません。なぜ東洋人が英語をマスターするのが苦手なのかの根本的理由はそこにあると思います。それなら最初から頭の中で英語で組み立てればよいというのは現実や事実在即さぬ理屈であって、普段頭の中で英語で考え、英語で感情でも気持ちでも表現していないなら、急にそんなことを要求されても出来ないのは自明の理です。</p> <p>適切な word や phrase や sentence を使う能力、sentence と sentence をつなぐ能力は(受験勉強ではカバーできない)訓練を要するのです。</p> <p>時にテキストを離れて、詩とかエッセイの英訳に取り組みます。</p>		<p>テキストに沿って進めますが、学生一人ひとりの能力が異なるため、個人指導が欠かせません。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p><i>Basic Grammar for Writing</i>(松柏社) 参考文献は授業中に適宜指定する。</p>		<p>平素の小テストと平常点。</p>	

	英語エッセイ・ライティング a	担当者	J. Waldman
講義目的、講義概要		授業計画	
This course will enable students to become more proficient writers by encouraging them to explore and organize their ideas in writing.		<ol style="list-style-type: none"> 1. Orientation with explanation of grading system and student requirements. 2. Diagnostic writing and Chapter 1 3. Writing as a process: introduce free writing, journals, drafts and editing. 4. Review paragraph basics and topic sentences. 5. Organizing sentences and using transitions. 6. Vocabulary quiz, Chapter 3 7. Review subject verb agreement, plural nouns. 8. Review punctuation and capitalization. 9. Writing a five-paragraph essay, Chapter 4 10. Continue with essay writing, Chapter 4 11. Revising checklist for essays. In-class essay. 12. Return essays and go over strong and weak points. 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<i>Ready To Write More- Second Edition</i> Karen Blanchard Christine Root Publisher: Longman		Students will be graded on attendance, in-class essays, homework and tests.	

	英語エッセイ・ライティング b	担当者	J. Waldman
講義目的、講義概要		授業計画	
This course will enable students to become more proficient writers by encouraging them to explore and organize their ideas in writing.		<ol style="list-style-type: none"> 1. Orientation with explanation of grading system and student requirements. 2. Review spring term lessons and Chapter 5 3. Writing a process essay. 4. Vocabulary quiz and Chapter 6 5. Classifying and dividing the topic of essays. 6. The language of causes and effects. 7. Continue working on Chapter 7. 8. The comparison/contrast essay. 9. Continue comparison/contrast 10. The problem/solution essay 11. In-class essay. 12. Return essays. Writing summaries. 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<i>Ready To Write More- Second Edition</i> Karen Blanchard Christine Root Publisher: Longman		Students will be graded on attendance, in-class essays, homework and tests.	

	英語エッセイ・ライティング a	担当者	L. K. Hawkins
講義目的、講義概要		授業計画	
The goal of this course is to teach the students how to write a well structured essay and present their ideas in a clear and organized manner.		(1) Orientation (2) Essay structure (3) Essay structure (4) 1st Essay (5) 1st Essay (6) 1st essay (7) Evaluation of 1st Essay (8) 2 nd Essay (9) 2 nd Essay (10) 2 nd Essay (11) Evaluation of 2 nd essay (12) Final exam	
テキスト、参考文献		評価方法	
The teacher will provide handouts. No text is required.		The students will be evaluated through attendance, the two essays and by a final exam.	

	英語エッセイ・ライティング b	担当者	L.K.Hawkins
講義目的、講義概要		授業計画	
Same as spring semester.		(1) Orientation (2) Introduction to movies Reviews (3) Sample movie reviews (4) Sample movie (5) 1 st Movie Review (6) 1 st Movie Review (7) 1 st Movie Review (8) 2 nd Movie Review (9) 2 nd Movie Review (10) 2 nd Movie Review (11) Final Exam (12) Exam Discussion	
テキスト、参考文献		評価方法	
No text will be used in this course		Same as spring semester.	

	英語エッセイ・ライティング a	担当者	M. Woollerton
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course will teach students the most important writing skills needed to produce successful academic essays.</p> <p>It is hoped that by the end of this course students will be able to draft paragraphs and essays; revise and edit their writing; write process and classification type essays. This will include understanding and writing/using: topic sentences, supporting sentences, transitions, introductions, supporting paragraphs, conclusions, different organizational skills.</p>		<p>This schedule may change.</p> <p>Week 1: Course introduction and orientation.</p> <p>Week 2: Reasons & ways to write; steps to take when writing; how to prepare for writing.</p> <p>Weeks 3-4: Writing paragraphs; topic sentences; organizing paragraphs; main points and supporting details; using transitions.</p> <p>Weeks 5-6: How to revise & edit your work.</p> <p>Weeks 7-8: Writing essays; good introductions; the body of an essay; concluding an essay.</p> <p>Weeks 9-10: Process type essays.</p> <p>Weeks 11-12: Division & classification type essays.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Blanchard, K., and C. Root (1994). <i>Ready to Write More, 2nd Ed</i> , New York: Longman/Addison-Wesley Publishing Company.		Attendance – 30%; Classwork & homework – 40%; Final paper – 30%.	

	英語エッセイ・ライティング b	担当者	M. Woollerton
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This is a continuation from the spring semester .</p> <p>This course will teach students the most important writing skills needed to produce successful academic essays.</p> <p>It is hoped that by the end of this course students will be able to draft paragraphs and essays; revise and edit their writing; write cause/effect, compare/contrast and problem/solution type essays, as well as writing summaries and opinions. This will include understanding and writing/using: topic sentences, supporting sentences, transitions, introductions, supporting paragraphs, conclusions, different organizational skills.</p>		<p>This schedule may change.</p> <p>Weeks 1-2: Cause & effect type essays.</p> <p>Weeks 3-4: Comparison & contrast type essays.</p> <p>Weeks 5-6: Problem & solution type essays.</p> <p>Weeks 7-8: Writing summaries.</p> <p>Weeks 9-10: Writing about your opinions.</p> <p>Weeks 11-12: Writing school application essays.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Blanchard, K., and C. Root (1994). <i>Ready to Write More, 2nd Ed</i> , New York: Longman/Addison-Wesley Publishing Company.		Attendance – 30%; Classwork & homework – 40%; Final paper – 30%.	

	英語エッセイ・ライティング a	担当者	M.Hood
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>At the end of this term, students will be able to:</p> <p>Read complex essays and write SUMMARIES of them; RESPOND to the writings of others using PERSONAL EXPERIENCE and TEXTUAL ANALYSIS; ANALYZE and RESPOND in essay form to the ideas of others; EXPLAIN similarities and differences.</p> <p>The course is designed to provide students with the tools required to become INDEPENDENT writers. Students will be able to:</p> <p>Develop their own ideas; Keep their ideas unified in writing; Maintain coherence in their essays; Follow basic principles of style.</p> <p>To succeed in this course, there is a great deal of work to be done IN CLASS. ATTENDANCE IS MANDATORY.</p>		<p>April: SUMMARIES</p> <p>May/June: RESPONSES</p> <p>June/July: COMPARISON/CONTRAST</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
There are no textbooks for this class. Materials will be available at mikehoodenglish.com		<p>Essay Grades: 60%</p> <p>Participation: 40%</p>	

	英語エッセイ・ライティング b	担当者	M.Hood
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This term, we will continue practicing and developing the skills learned in the spring term, using them to accomplish more complex tasks such as writing a research paper. Therefore, it is crucial that you be enrolled in the class for both the spring and fall terms. <u>It will be extremely difficult to succeed in this class without completing the spring term.</u></p> <p>At the end of this term, students will be able to:</p> <p>Analyze CAUSE/EFFECT relationships; Propose SOLUTIONS to problems; Conduct independent research; Use sources effectively to support their own ideas; Document their sources according to APA Style.</p> <p>In addition, through continued practice, students will be able to identify strengths and weaknesses in their own writing and edit their work themselves.</p>		<p>September: Topic Proposals</p> <p>October: CAUSE/EFFECT Essay</p> <p>October: Research Skills</p> <p>November/December: PROBLEM SOLVING</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
There are no textbooks for this class. Materials will be available at mikehoodenglish.com		<p>Essay grades: 60%</p> <p>Participation: 40%</p>	

	英語エッセイ・ライティング a	担当者	N.H. Jost
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course sets out to help students develop effective writing skills. It will look at all aspects of essay writing:</p> <ul style="list-style-type: none"> -Organization -Grammar and Mechanics -Sentence Structure -Coherence -Idea development, planning, rewriting -Logical thinking <p>It will also look at various types of essays/writing</p> <ul style="list-style-type: none"> -Narratives -Cause/effect -Comparison/contrast -Casual internet writing -Summaries <p>This class will be held in a computer room and will use the internet for various class activities. Students will be required to use a Blog set up for the class, to follow other Blogs from internet and to use word frequency analysis programs.</p> <p>In order to improve writing skills, you will be required to do weekly readings, to post on the Blog, to write and analyze essays, and finally to find enjoyment in writing.</p>		<p>Week 1: Class Introduction; written introductions</p> <p>Week 2: Computers/blogs; a look at effective writing</p> <p>Week 3: Essay Organization; internet mailing list</p> <p>Week 4: Grammar and Mechanics; exchanging mess.</p> <p>Week 5: Essay analysis; word frequency indexes</p> <p>Week 6: Writing process and comparison; w.f.i.</p> <p>Week 7: Narrative, casual, and formal writing</p> <p>Week 8: Logical Division of ideas</p> <p>Week 9: Supporting an opinion</p> <p>Week 10: Open lecture and internet tasks and blogs</p> <p>Week 11: Open lecture and internet tasks and blogs</p> <p>Week 12: Open lecture and internet summaries</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
The text will be announced by instructor on first meeting; other materials will be provided by instructor		Evaluation will be based classroom participation, assignments, and tests.	

	英語エッセイ・ライティング b	担当者	N.H. Jost
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course sets out to help students develop effective writing skills. It will look at all aspects of essay writing:</p> <ul style="list-style-type: none"> -Organization -Grammar and Mechanics -Sentence Structure -Coherence -Idea development, planning, rewriting -Logical thinking <p>It will also look at various types of essays/writing</p> <ul style="list-style-type: none"> -Narratives -Cause/effect -Comparison/contrast -Casual internet writing -Summaries <p>This class will be held in a computer room and will use the internet for various class activities. Students will be required to use a Blog set up for the class and to follow other Blogs from internet as well as a mailing list.</p> <p>In order to improve writing skills, you will be required to do weekly readings, to post on the Blog, to write and analyze essays, and finally to find enjoyment in writing.</p>		<p>Week 1: Class overview; writing task</p> <p>Week 2: Looking at famous essays and imitating them</p> <p>Week 3: Comparison of imitated essays</p> <p>Week 4: Looking at coherence and how to achieve it</p> <p>Week 5: Using on-line correcting tools</p> <p>Week 6: Rewriting and editing processes</p> <p>Week 7: Stylizing your essays</p> <p>Week 8: Looking at the role of vocabulary in essays</p> <p>Week 9: Finding your own voice</p> <p>Week 10: Open lecture and internet tasks and blogs</p> <p>Week 11: Open lecture and internet tasks and blogs</p> <p>Week 12: Open lecture and internet summaries</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
The text will be announced by instructor on first meeting; other materials will be provided by instructor		Evaluation will be based classroom participation, assignments, and tests.	

	英語エッセイ・ライティング a	担当者	R. J. Burrows
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This is a writing course which seeks to:</p> <p>a) provide a structured, process approach with the tools that students need to become successful writers</p> <p>b) offer stimulating themes which act as springboards for process-oriented writing tasks</p> <p>c) link grammar structures to structures necessary for effective writing both at paragraph & essay level</p> <p>In addition to reading sample writing texts, students will engage in vocabulary building & grammar review exercises and undertake ample writing practice both in and out of the classroom.</p>		<p>1. Introductory Class 2 + 3. The Classroom Community 4 + 5. Story 6 + 7. Advice 8 + 9. Description 10 + 11. Analysis 12. Review</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
'Tools for Writing' by Linda Robinson Fellag & Laura Tomassi Le Drean, Heinle & Heinle		30 % Attendance & Punctuality, 30% In-Class Work, 40% Written Work	

	英語エッセイ・ライティング b	担当者	R. J. Burrows
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This is a writing course which seeks to:</p> <p>a) provide a structured, process approach with the tools that students need to become successful writers</p> <p>b) offer stimulating themes which act as springboards for process-oriented writing tasks</p> <p>c) link grammar structures to structures necessary for effective writing both at paragraph & essay level</p> <p>In addition to reading sample writing texts, students will engage in vocabulary building & grammar review exercises and undertake ample writing practice both in and out of the classroom.</p>		<p>1. Summer Review 2 + 3. Process 4 + 5. Change 6 + 7. Comparison & Contrast 8 + 9. Classification 10 + 11. The Global Community 12. Review</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
'Tools for Writing' by Linda Robinson Fellag & Laura Tomassi Le Drean, Heinle & Heinle		30 % Attendance & Punctuality, 30% In-Class Work, 40% Written Work	

	英語エッセイ・ライティング a	担当者	R.Jones
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The goal of this class is to help students become better at writing essays in English. This class is for students who are quite confident in their English abilities; that is, their English level should be quite advanced, particularly in grammar and spelling. In this class, the students will be required to do a lot of talking and thinking about a variety of high-interest topics. At the end of the second semester, the students will write one essay of their choice on a topic covered. In addition to writing, the students will be required to discuss many topics of high interest. It is hoped that the students can also increase their speaking and vocabulary skills in this lesson. The motto for this class: If at first you don't succeed, try, try again!</p> <p>Students! Please note that these classes always start on time so please be punctual. Also, come to all the lessons.</p>		<p>A variety of topics will be discussed over the course of the two semesters. The spring semester may include some or all of the following. Please note that the pace of the lesson will dictate how many topics are covered. Also the topics may not be covered in the order shown.</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 Introduction to the course of studies 2 Gender Issues 3 Attitudes towards women 4 Caring for kids 5 Japanese work ethics <p>Please note that if you have missed a lesson, you must find out what you have missed and make it up. Be responsible for your own learning; being absent from class is no excuse for missing work.</p> <p>SPECIAL NOTE: IT IS NOT RECOMMENDED THAT STUDENTS STUDYING IN THIS CLASS ALSO TAKE MR. JONES'S COMMUNICATIVE ENGLISH II CLASS.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>No textbook will be used in this class. Printed material will be given to the students, thus each student should buy a clear folder with many pages in order to keep the handouts in good order.</p>		<p>Your grade comes from: Class work, homework, vocabulary test and speeches: 50% End of term speaking tests: 40% Good attendance, trying hard in class, never late, speaking English: 10%</p>	

	英語エッセイ・ライティング b	担当者	R.Jones
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The goal of this class is to help students become better at writing essays in English. This class is for students who are quite confident in their English abilities; that is, their English level should be quite advanced, particularly in grammar and spelling. In this class, the students will be required to do a lot of talking and thinking about a variety of high-interest topics. At the end of the second semester, the students will write one essay of their choice on a topic covered. In addition to writing, the students will be required to discuss many topics of high interest. It is hoped that the students can also increase their speaking and vocabulary skills in this lesson. The motto for this class: If at first you don't succeed, try, try again!</p> <p>Students! Please note that these classes always start on time so please be punctual. Also, come to all the lessons</p>		<p>Below is a list of topics that may be covered. How far we get through these topics depends on the progress and pace of the class. Also the order of the topics may change.</p> <p>Fall Semester Topics</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 Why war? 2 Sexual Harassment 3 Environmental Issues. 4 Cloning 5 Issues in relationships. <p>Please note that if you have missed a lesson, you must find out what you have missed and make it up. Be responsible for your own learning; being absent from class is no excuse for missing work.</p> <p>SPECIAL NOTE: IT IS NOT RECOMMENDED THAT STUDENTS STUDYING IN THIS CLASS ALSO TAKE MR. JONES'S COMMUNICATIVE ENGLISH II CLASS.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>No textbook will be used in this class. Printed material will be given to the students, thus each student should buy a clear folder with many pages in order to keep the handouts in good order.</p>		<p>Your grade comes from: Class work, homework, vocabulary test and speeches: 30% End of term speaking tests: 30% Essay 30% Good attendance, trying hard in class, never late, speaking English: 10%</p>	

	英語エッセイ・ライティング a	担当者	R.Durham
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The purpose of this course is to place MODERN, <u>correct</u> English at the center –<u>NOT</u> Japanese English. Students are required to write and speak in COMPLETE sentences; and to explain, explain, explain. First Stage : Re-writing & writing of <u>correct</u> English SENTENCES. Second Stage : Writing & format of correct English PARAGRAPHS. Third Stage : Research & assembling of correctly – formatted English reports / essays.</p> <p>*The stage to which students reach depends upon ability, readiness, and interest.</p> <p>The topics indicated at right may be adjusted, in order to better suit student abilities and capabilities.</p> <p>Note : You <u>must</u> attend <u>EVERY</u> class. “Late”=1/2 absence. Late assignments / presentations will receive a ZERO grade.</p>		<p>1: INTRODUCTIONS incl. name, occupation, place of work / study. Part-time jobs, Practice of Tokyo train lines. Name-cards & class seating style.</p> <p>2: Plans for Golden Week : use of future tense (especially POLITE versions), & the need to explain & elaborate. Re-writing exercises.</p> <p>3: “How was your Golden Week?” : producing, stimulating answers to “How was ___?” questions.</p> <p>4: Assessments, Mother’s Day Writing & practice.</p> <p>5: Re-writing of student sentences; corrections.</p> <p>6: Writing paragraphs : format & practice.</p> <p>7: Re-writing practice : sentences & paragraphs.</p> <p>8: Writing about opinions. Assessments.</p> <p>9: Writing about feelings, & “How are you?”</p> <p>10: Exercises correctly re-writing English sentences paragraphs.</p> <p>11: Assessments. Writing about hobbies.</p> <p>12: Writing about plans for the summer Break.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Many photocopies / Internet.		Your grade will depend on your PARTICIPATION in class; homework; assignments; presentations; test(s); ATTENDANCE.	

	英語エッセイ・ライティング b	担当者	R.Durham
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course will continue to focus on writing of grammatically –<u>correct</u> English sentences, paragraphs, and compositions.</p> <p>Three phases may be focused on (depending on student capabilities & interest) : Writing of grammatically-correct sentences ; paragraphs ; & compositions. This semester will attempt to focus on a researched composition. Students will be required to research a specified topic, & to assemble a logically – organized compositions about it in international, Academic English format. Topics shown here may be altered to better meet student abilities / interests.</p> <p><u>Note</u> : You must attend <u>EVERY</u> class. “Late”=1/2 absence. Late assignments / presentations will receive a ZERO grade. If you are absent for a test: 0%. Be responsible.</p>		<p>1: “How was your Summer Break?” : writing & practice.</p> <p>2: Re-writing exercises, re: Summer Break.</p> <p>3: Selecting research topics; collecting research materials, Discussion of plagiarism.</p> <p>4: Assigning of research composition ‘skeletons’ ; re-writing practice.</p> <p>5: Checking of ‘skeletons’; advice, re: composition sections & format.</p> <p>6: Hallowe’en research & writing. Assessments.</p> <p>7: Re-writing exercises ; checking progress of research papers.</p> <p>8: Commencement of ‘final stretch’ to research report composition / completion.</p> <p>9: Revising Japanese English sentences to correct English grammar.</p> <p>10: Writing plans / ideas, re: Christmas. Assessments.</p> <p>11: Final phase of research paper completion. Re-writing practice.</p> <p>12: Christmas activities & explanations / practice.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Photocopies & Internet research.		Your grade will depend on your PARTICIPATION in class; homework; assignments; presentations; test(s); ATTENDANCE.	

	英語エッセイ・ライティング a	担当者	T.Fotos
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The objective of this English course is to offer students an organized chance to become better writers. One learns by doing and that means lots of practice. Essentially, the more one writes, the better one's writing will be. Mistakes will be made. After being corrected, students should not make the same mistakes.</p> <p>There is a basic requirement that anyone who writes has patterns, models, examples, or images in her or his brain about what good writing is. In other words, a person ought to have a pretty good idea of what is to be written by having lots of pictures of writing already in one's basic knowledge. That means reading a lot.</p> <p>So, although this is a composition or writing course, there is also the need for students to read about plenty of different topics. Some will have that deep learning already, others won't and will have to work that much harder to acquire the ability to write well. Students will be graded based upon their individual efforts to improve from whatever level they are at now.</p>		<p>Week 1 Introductory lesson and level test of students' writing ability.</p> <p>“ 2 Self-introduction essays.</p> <p>Weeks 3—10 Lessons will be determined by the contents of the textbook to be selected.</p> <p>Week 11 Final essays due and review.</p> <p>“ 12 Final essays returned and last advice given.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
The textbook will be decided after the first class meeting.		Doing one's best to improve one's writing skills will be the key ingredient in deciding each student's grade. Obviously, doing all the required class work is only a starting point—one should aim high!	

	英語エッセイ・ライティング b	担当者	T. Fotos
講義目的、講義概要		授業計画	
Please refer to the comments about the spring semester.		<p>Week 1 Introductory lesson and level test of students' writing ability.</p> <p>Weeks 2—10 Course dependent upon textbook to be used.</p> <p>Week 11 Final essays are to be turned in and a review of key points that have been covered will be done.</p> <p>“ 12 Last class meeting of the semester with the final corrected essay being returned to the students.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Textbook to be decided later.		Please refer to the spring semester's grading comments.	

	英語エッセイ・ライティング a	担当者	W. J. Benfield
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The aims of this course are:</p> <p>to help students improve their ability to write about their ideas and opinions in an organized way;</p> <p>to help students increase their vocabulary and range of expression;</p> <p>to develop an awareness of different styles of writing;</p> <p>to encourage students to edit and revise their writing.</p> <p>The class will provide opportunities for both controlled practice and free expression. The controlled practice will include such activities as expanding topic sentences, comparing and contrasting, giving examples and connecting ideas. More free activities will include writing journals and doing writing based on visual and other material supplied by the teacher. The importance of self-correction, self-editing, and revision will be emphasized. Apart from regular assignments, students will be given one writing project to complete by the end of the semester.</p> <p>The course will be a one-year course, and students are encouraged to enroll for the whole year, although students who have not taken the Spring semester course will be able to enroll for the second semester.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Course outline 2. Writing about yourself 3. Writing about yourself, contd. 4. Basic paragraph writing 5. Basic paragraph writing, contd. 6. Linking ideas 7. Linking ideas, contd. 8. Introduction to project work 9. Project work 10. Controlled practice 11. Free writing 12. Review of semester's work 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Teacher will supply photocopied material		Attendance, participation in class activities and results of assignments.	

	英語エッセイ・ライティング b	担当者	W. J. Benfield
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The aims of this course are:</p> <p>to help students improve their ability to write about their ideas and opinions in an organized way;</p> <p>to help students increase their vocabulary and range of expression;</p> <p>to develop an awareness of different styles of writing;</p> <p>to encourage students to edit and revise their writing.</p> <p>The class will provide opportunities for both controlled practice and free expression. The controlled practice will include such activities as expanding topic sentences, comparing and contrasting, giving examples and connecting ideas. More free activities will include writing journals and doing writing based on visual and other material supplied by the teacher. The importance of self-correction, self-editing, and revision will be emphasized. Apart from regular assignments, students will be given one writing project to complete by the end of the semester.</p> <p>The course will be a one-year course, and students are encouraged to enroll for the whole year, although students who have not taken the Spring semester course will be able to enroll for the second semester.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Review of first semester's writing project 2. Editing and revision 3. Comparison and contrast 4. Controlled practice 5. Free writing 6. Linking ideas 7. Project work 8. Writing from visual material 9. Controlled practice 10. Project work 11. Free writing 12. Review of semester's work 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Teacher will supply photocopied material		Attendance, participation in class activities and results of assignments.	

	英語エッセイ・ライティング a	担当者	鈴木 眞奈美
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The goal of this course is to give you an opportunity to know and understand yourself better through the process of English writing. You will write essays in various genres. This course also aims to enhance your English holistically. You are expected to make a good learning community through participation in this class.</p> <p>We will use e-mail as means of communication outside the classroom.</p> <p>In the spring semester, you will learn narrative and expository essays. You will write your personal history as a final paper at the end of the semester.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction/ Setting Goals/ Self-introduction 2. Japanese English Writers' Typical Writing Patterns/ Personal Essay (To know yourself) 3. Organization/ Expository Essay (Something you recommend) 4. Personal Essay/ Thank-you Letter 5. Cohesion/ Narrative Writing (the Golden Week) 6. Translation of your Favorite Japanese Poem or Song into English 7. How to Write Letters 8. E-mail Writing/ Peer Revision 9. The Test of Written English (TWE)'s Essay (TOEFL) 10. The Process of Writing Essays/ Brain-storming 11. Make an Outline of your Final Essay 12. Final Report of your Personal History/ Reflection on Your Achievement 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Handouts		Your weekly assignments, final paper, self-assessment, and class participation	

	英語エッセイ・ライティング b	担当者	鈴木 眞奈美
<p>In the fall semester, you will learn academic writing. You will write a proposal/summary of your thesis or your career plan as a final paper.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Review/ Introduction 2. Note-taking 3. Summary Writing 4. Summary Writing 5. Argumentative Essay 6. Argumentative Essay 7. Research Paper/Your Academic Interests 8. Library Research for Research Paper 9. Your Future Plan 10. Your Curriculum Vitae (CV) and Cover Letter 11. Make an Outline of your Final Paper 12. Final Report of your Proposal or Plan/ Reflection on your Achievement 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Handouts		Your weekly assignments, final paper, self-assessment, and class participation	

	翻訳 a	担当者	遠藤 朋之
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>T. S. Eliot の <i>Old Possum's Book of Practical Cats</i> を翻訳する。昨年度も扱った作品であるが、完訳に至らなかったため、今年度は、昨年度できなかった部分の完訳を目指す。ミュージカルの『キャッツ』の原典がこれである。</p> <p>翻訳とは、読者が知らない原典を日本語に移しかえる、という作業なので、英語を読み解く能力はもちろんのこと、もっとも大切なのは、日本語を駆使する能力である。</p> <p>翻訳にはさまざまなテクニック、トーンの出し方、主語の使い方、動詞の省略、語尾の使い方など、いろいろと学習する点が多いが、本講座では、とにかく実践あるのみ。訳していくだけである。</p> <p>毎回、3名に訳を提出してもらい、それを比較しながら、どういった訳が良いか、検討する。そしてそれを他の受講生が採点する、という方法をとる。さらに、その3つの訳を検討するレポーターを志願した学生にはエクストラの点数を加える。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1) The Naming of Cats 2) The Song of the Jellicles 3) Mungojerrie and Rumpelteazer 4) Old Deuteronomy 5) The Pokes and the Pollicles 6) Mr. Mistoffelees 7) Macavity: the Mystery Cat 8) Gus: the Theatre Cat 9) Bustopher Jones: the Cat about Town 10) Skimbleshanks: the Railway Cat 11) The Ad-dressing of Cats 12) Cat Morgan Introduces Himself 	
テキスト、参考文献		評価方法	
T. S. Eliot <i>Old Possum's Book of Practical Cats</i> (Faber & Faber)		毎回3人の学生に訳を提出してもらい、それを比較検討してから、他の受講している学生に、各々の訳に点数をつけてもらう。	

	翻訳 b	担当者	遠藤 朋之
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>20世紀初頭か中葉にかけてのモダニズムの詩人、e. e. cummings の童話、<i>Fairy Tales</i> を訳す。最初は、cummings の詩を取り扱い、この詩人がどのような詩人かを、大まかに把握する。それから <i>Fairy Tales</i> の訳へと移っていきたい。</p> <p>とにかく実践あるのみだ。評価方法は、春学期と同じである。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1) -in Just, Buffalo Bill's, l(a 2~4) The Old Man Who Said "Why" 5~7) The Elephant & The Butterfly 8~10) The House That Ate Mosquito Pie 11~12) The Little Girl Named I 	
テキスト、参考文献		評価方法	
e. e. cummings, <i>Fairy Tales</i> (Harcourt Brace & Co)		春学期と同様。	

	翻訳 a	担当者	北澤 滋久
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>予め指名している受講者のワープロ印字翻訳をビューアでスクリーンに映し出し、担当者が適宜解説・添削することにより、翻訳という作業の顛末を、実地に演習的に体得することがこの授業の目的である。従って受講者は、ある程度ワープロに親しんでいることが必須の条件であり、また欠席は許されない。</p>		<p>1 限目：授業概要、特にワープロ印字上の要諦を伝える。 2 限目：翻訳概論。 3～12 限目：実地演習。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p><i>Bitter & Sweet Love Stories</i>、金星堂。</p>		<p>日常の演習が、即試験である。それに学期末の課題作品翻訳のレポートにより評価する。</p>	

	翻訳 b	担当者	北澤 滋久
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期よりの継続である。前項参照。</p>		<p>春学期の項参照。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p><i>Bitter & Sweet Love Stories</i>、金星堂。</p>		<p>日常の演習が、即試験である。それに学期末の課題作品翻訳のレポートにより評価する。</p>	

	翻訳 a	担当者	高田 宣子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業では、さまざまな分野の英文あるいは和文の翻訳に関する問題点を明らかにし、翻訳の限界と可能性について実践的に探ります。</p> <p>翻訳では、原文を的確な英語あるいは日本語に置き換える際に、目的や状況などを考慮する必要があります。また、翻訳語の字数やリズムについても工夫が求められる場合もあります。</p> <p>授業では、主として文系英文および和文（新聞報道記事や雑誌記事、広告、字幕、歌詞、文芸作品）などの一部を取り上げながら、具体的に比較検討します。また、各学生の関心領域に沿った翻訳プレゼンテーションを行ってもらうことで、自分の翻訳した文章を、客観的に捉える訓練も行います。</p> <p>コトバの意味と音に関心のある学生を求めます。</p>		<p>第1回 ガイダンス 辞書について</p> <p>第2回 翻訳の難しさと面白さについて</p> <p>第3回 機械翻訳の可能性について</p> <p>第4回 翻訳の実例比較検討</p> <p>第5回 復習テスト</p> <p>第6～12回 翻訳プレゼンテーションとコメント交換</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント配布		コメント、プレゼンテーション、復習テストなど	

	翻訳 b	担当者	高田 宣子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>翻訳言語における性別、階級、地域差、時代、民族などを考慮しながら、翻訳する際の問題点をさらに検証します。</p> <p>授業では、各学生の関心分野から自由に翻訳題材を選び、各自の仮説に基づいたプレゼンテーションを行なってもらいます。また、発表内容について毎回ディスカッションを行います。</p> <p>なお、秋学期のみ履修する学生を考慮し、初回授業はガイダンスおよび前期に行った内容についての復習とします。また、履修者の人数および習熟度に合わせて授業内容を変更します。初回授業には必ず出席してください。</p>		<p>第1回前期テストの講評および後期授業のガイダンス</p> <p>第2回日英および英日翻訳の実例検討 その1</p> <p>第3回日英および英日翻訳の実例検討 その2</p> <p>第4～6回 プレゼンテーションおよびディスカッション</p> <p>第7回復習テスト</p> <p>第8～11回 プレゼンテーションおよびディスカッション</p> <p>第12回復習テスト</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント配布		コメント、プレゼンテーション、復習テストなど	

	翻訳 a	担当者	藤田 永祐
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>文学作品やエッセイなどを英文から日本語に翻訳することを学びます。正しい、自然な日本語にする工夫、研究、訓練をします。授業はグループ作業を取り入れます。率直に意見を取り交わして、磨きあうことが大切です。各グループで作成したものを、比較検討することで、さらに練り上げるという手順をとってみたいと思います。</p> <p>同時に個人作業の課題を設定して平行して進めていく予定です。</p>		<p>最初の授業時に翻訳していく際の心構え、辞書の使い方、授業の進め方などについて話します。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>プリントを配布する。参考文献は適宜指示する。</p>		<p>平常点、提出物、出席を総合評価する。</p>	

	翻訳 b	担当者	藤田 永祐
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>文学作品やエッセイなどを英文から日本語に翻訳することを学びます。正しい、自然な日本語にする工夫、研究、訓練をします。授業はグループ作業を取り入れます。率直に意見を取り交わして、磨きあうことが大切です。各グループで作成したものを、比較検討することで、さらに練り上げるという手順をとってみたいと思います。</p> <p>同時に個人作業の課題を設定して平行して進めていく予定です。</p>		<p>最初の授業時に翻訳していく際の心構え、辞書の使い方、授業の進め方などについて話します。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>プリントを配布する。参考文献は適宜指示する。</p>		<p>平常点、提出物、出席を総合評価する。</p>	

	カレッジ・グラマー a	担当者	鈴木 英一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的: 読み・書き・話し・聞くという英語による全ての言語活動の基礎となっている英語の文の仕組みとしての英文法をきちんと身に付けることを目的とする。</p> <p>講義概要: 英文法を学習する際に、トップ・ダウン方式で文の構造を理解するという姿勢が重要である。文全体から句、句から語というような方式をとりながら、春学期ではまず、英文法の基本的な事項のうち、文というものはどのようなものがあるかを考える。文は基本的な文、拡張的な文、派生的な文の三種類に分けられ、基本的な文は5文型によって説明し、拡張的な文は一つの文に二つ以上の節(主語+述語)を含む文であり、重文や複文として学習する。さらに、文の種類として、疑問文、感嘆文、命令文などを学習する。それを踏まえて、文を構成する要素として、名詞、形容詞、副詞などを扱う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 文:主部を欠く文,「主部 + 述部」,節・句・語 2. 主部:主部の要素と述部の要素 3. 文型:5文型, 5文型の拡張, 7文型 4. 述語動詞:述部, 述語動詞の種類, 等位叙述型, 補語 5. 述語動詞:自動詞型, 他動詞型, 他動詞型の述部 6. 文の種類:中心文型の文, 文の種類, 重文と複文 7. 文の種類:疑問文, 感嘆文, 命令文, 否定文 8. 名詞, 名詞の種類, 可算名詞の単数・複数形, 不可算名詞, 集合名詞, 名詞の複数形, 名詞の所有格 9. 代名詞, 代名詞の種類, 人称代名詞, 再帰代名詞, 指示代名詞, 疑問代名詞, 不定代名詞 10. 形容詞, 形容詞の用法, 形容詞の語順, 数詞 11. 冠詞, 不定冠詞, 定冠詞, 無冠詞の用法 12. 副詞, 副詞の種類, 副詞の用法, 副詞の位置 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト: 安井稔(1986) <i>A Shorter Guide to English Grammar</i> (開拓社) 参考書: 安井稔(1996)『英文法総覧(改訂版)』(開拓社)</p>		<p>出席状況, 授業における平常点, 期末試験の成績を総合して評価する。なお, 単位の認定には授業回数の2/3以上の出席が必要とされる。</p>	

	カレッジ・グラマー b	担当者	鈴木 英一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的:(春学期と同じ) 読み・書き・話し・聞くという英語による全ての言語活動の基礎となっている英語の文の仕組みとしての英文法をきちんと学習することを目的とする。</p> <p>講義概要:(春学期の続き) 秋学期ではまず、文を構成する要素のなかの助動詞, 関係代名詞, 関係副詞を学習する。次に, 時制を含まない節として, 不定詞・分詞・動名詞を学習する。不定詞と動詞のing分詞(いわゆる現在分詞)には名詞的用法・形容詞的用法・副詞的用法・動詞的用法の四つの用法があるということを学習する。また, 英語の文の構成に重要な, 時制, 比較表現, 否定表現, 強調表現, 仮定法の用法を学習する。さらに, 複文に関わる現象として時制の一致や話法について学習する。最後に, 強調・省略・挿入といった言語表現の情報構造に関わる構文を学習する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 助動詞, 助動詞として用いられる語 2. 不定詞, 分詞, 動名詞 3. 関係代名詞, 関係副詞 4. 時制:現在時制の用法, 過去時制の用法 5. 現在完了の用法, 過去完了の用法, 進行形の用法 6. 能動態と受動態 7. 呼応と時制の一致 8. 仮定法, 直説法と仮定法, to不定詞・前置詞・接続詞を用いた仮定表現 9. 話法, 直接話法と間接話法 10. 比較, 原級の用法, 比較級の用法, 最上級の用法 11. 否定, 部分否定と全体否定, 否定語の位置, 二重の否定 12. 文の主語と情報構造, 強調, 省略・挿入 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト: 安井稔(1986) <i>A Shorter Guide to English Grammar</i> (開拓社) 参考書: 安井稔(1996)『英文法総覧(改訂版)』(開拓社)</p>		<p>出席状況, 授業における平常点, 期末試験の成績を総合して評価する。なお, 単位の認定には授業回数の2/3以上の出席が必要とされる。</p>	

	カレッジ・グラマー a	担当者	府川 謹也
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>専修学校ではなく大学で英語を学ぶ英語学科の学生にとって恥ずかしくないきっちりとした英文法の知識を身につけることが当然の狙いである。そのためには「なぜこう言えて、ああ言えないのか？」と素朴な疑問を抱くことが肝要で、そこから始めて、次第に英語という言語の学術的研究にたいして理解を深め、表面に見える英語現象を手がかりにし、水面下に潜む言語の規則性を探っていく習慣を身につけていかねばならない。この授業では、テキストを基にした講義から、規則性を探るにあたっての考え方のヒントをつかんでもらいたいと思っている。同時に、その考え方を掴む実践編として、TOEIC や TOEFL に見られるような英文法と語彙の練習問題を毎回 40 分位の時間を割いて解いてもらい、答合わせと解説を行う。</p>		<p>テキストに沿って6章までを解説する。(およそ各トピックにつき2回の講義を充てる。)</p> <p>1章 基本文型—新しい視点から眺めて 2章 文の構造—文の多様性を探る 3章 動詞—文の中心語句を解明 4章 否定—否定の正しい意味解釈のために 5章 助動詞—文のニュアンスを表現する 6章 受動文—なぜ受動文は存在するのか</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
伊藤健三・他『大学生のための現代英文法』開拓社		試験と平常点によるが、受講者数によっては出欠も考慮する。	

	カレッジ・グラマー b	担当者	府川 謹也
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>専修学校ではなく大学で英語を学ぶ英語学科の学生にとって恥ずかしくないきっちりとした英文法の知識を身につけることが当然の狙いである。そのためには「なぜこう言えて、ああ言えないのか？」と素朴な疑問を抱くことが肝要で、そこから始めて、次第に英語という言語の学術的研究にたいして理解を深め、表面に見える英語現象を手がかりにし、水面下に潜む言語の規則性を探っていく習慣を身につけていかねばならない。この授業では、テキストを基にした講義から、規則性を探るにあたっての考え方のヒントをつかんでもらいたいと思っている。同時に、その考え方を掴む実践編として、TOEIC や TOEFL に見られるような英文法と語彙の練習問題を毎回 40 分位の時間を割いて解いてもらい、答合わせと解説を行う。</p>		<p>テキストに沿って7章から最後までを解説する。(およそ各トピックにつき2回の講義を充てる。)</p> <p>7章 準動詞—第2の「文」としての解釈 8章 形容詞—名詞修飾だけが形容詞の機能ではない 9章 名詞句と文構造の多様性—正確な文の解釈を求めて 10章 代用表現—合理的な表現手段について 11章 関係詞—基本から派生へ 12章 特殊構文—効果的なコミュニケーションのために</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
伊藤健三・他『大学生のための現代英文法』開拓社		試験と平常点によるが、受講者数によっては出欠も考慮する。	

	カレッジ・グラマー a	担当者	本田 謙介
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>私たちの頭の中にある（日本語の）文法知識を使って、英語の文法について考えていきたい。</p> <p>教師の講義と学生の発表が半々くらいで授業が進められる。</p>		<p>毎回与えられたトピックを学生が調べて発表することから授業ははじまる。それに対し教師がコメントし、さらに補足説明を行う。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業中に指示する。		出席、発表、試験による。	

	カレッジ・グラマー b	担当者	本田 謙介
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>私たちの頭の中にある（日本語の）文法知識を使って、英語の文法について考えていきたい。</p> <p>教師の講義と学生の発表が半々くらいで授業が進められる。</p>		<p>毎回与えられたトピックを学生が調べて発表することから授業ははじまる。それに対し教師がコメントし、さらに補足説明を行う。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業中に指示する。		出席、発表、試験による。	

	カレッジ・グラマー a	担当者	毛利 秀高
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>英語を正確に使えるようになることがこの授業の目的である。テキストには、アメリカの学生生活で使われる英語が各頁に記載されているので、文法の知識を習得するだけでなく、アメリカ人の、特にアメリカの学生の生活様式を知ることができるであろう。テキストの半分は練習問題である。居眠りをする暇はない。例文はすべて口語英語(話し言葉)であることは言うまでもない。春学期は名詞を中心に学ぶ。したがって冠詞、形容詞間の語順などを取り扱う。</p>		<p>I. 名詞と代名詞 II. 冠詞 III. 形容詞 IV. 前置詞</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Hayden, R. E., <i>Mastering American English</i> (Prentice Hall)		出席、試験	

	カレッジ・グラマー b	担当者	毛利 秀高
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的は春学期と同じ。 秋学期は動詞を中心に学習する。したがって動詞のイディオムや副詞、語順などを取り扱う。最後に論文の作成に役立つパンクチュエーション(句読法)を学習する。</p>		<p>I. 動詞とそのイディオム II. 副詞 III. 語順 IV. 句読法</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
同上		同上	

	Communicative English I a	担当者	D. McCann
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Students on this course can expect to be given every opportunity to improve their English speaking and listening abilities, with reading and writing activities supporting this aim. The main goal will be to enable students to put structures, grammar and vocabulary they have already studied to practical use, and to develop strategies to communicate at an appropriate level in real-life situations.</p> <p>A variety of authentic language-learning materials will be put to use, and students will be encouraged to draw on their own day-to-day social and academic activities and interests as material for language practice. Through the use of pairing and group-based communicative activities, class members will have the chance to assist in creating a stress-free environment in which they can explore the possibilities of using English to assist their own personal, academic and professional development.</p>		<p>Instruction will be mainly topic-based, with emphasis on coherent development through a process-centred methodology in which students themselves play an active role in decision-making and input to course content. At the outset of the course, students will prepare a personalized introduction card which will be put to use in communicative activities throughout the semester. In addition to these interpersonal communication activities, time will be set aside in each lesson for students to use and improve their presentation, debate and group discussion skills.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>Materials will be selected from authentic language sources, including newspapers, music and song, DVD and selected extracts from language teaching texts.</p>		<p>Assessment will be based on involvement, performance and attendance, with an end-of-term test designed to assess writing and speaking ability.</p>	

	Communicative English I b	担当者	D. McCann
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Students on this course can expect to be given every opportunity to improve their English speaking and listening abilities, with reading and writing activities supporting this aim. The main goal will be to enable students to put structures, grammar and vocabulary they have already studied to practical use, and to develop strategies to communicate at an appropriate level in real-life situations.</p> <p>A variety of authentic language-learning materials will be put to use, and students will be encouraged to draw on their own day-to-day social and academic activities and interests as material for language practice. Through the use of pairing and group-based communicative activities, class members will have the chance to assist in creating a stress-free environment in which they can explore the possibilities of using English to assist their own personal, academic and professional development.</p>		<p>Instruction will be mainly topic-based, with emphasis on coherent development through a process-centred methodology in which students themselves play an active role in decision-making and input to course content. At the outset of the course, students will prepare a personalized introduction card which will be put to use in communicative activities throughout the semester. In addition to these interpersonal communication activities, time will be set aside in each lesson for students to use and improve their presentation, debate and group discussion skills.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>Materials will be selected from authentic language sources, including newspapers, music and song, DVD and selected extracts from language teaching texts.</p>		<p>Assessment will be based on involvement, performance and attendance, with an end-of-term test designed to assess writing and speaking ability.</p>	

	Communicative English I a	担当者	E.J.Naoumi
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The emphasis of this course is on learning how to interact more effectively with other students in English. In the spring semester, students will get used to interacting with one another as well as with the instructor. A variety of topics will be introduced through listening activities to help students improve their listening skills as well as providing content for students to discuss in pairs or small groups. Students will also be given opportunities to improve their presentation skills. A variety of materials including movie clips will be used.</p>		<p>Week 1 – Introduction to the course Week 2 – Things in common Week 3 – Personalities Week 4 – Music Week 5 – Music Week 6 – Sport Week 7 – Sport Week 8 – Travel Week 9 – Cultural differences Week 10 – Taboos Week 11 – Presentation Week 12 – Presentation</p> <p>The topics may change according to student needs</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Materials will be provided by the instructor		Attendance, participation and final presentation	

	Communicative English I b	担当者	E.J.Naoumi
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Students, who have taken the spring semester class, will build on the skills obtained in the spring semester, but the emphasis will be on discussion and presentation techniques. New students used to interacting with other students and an instructor in English are welcome to join this class for this semester if the class number limit allows.</p>		<p>Week 1 – Welcome back Week 2 – The world of work Week 3 – The world of work Week 4 – Advertising Week 5 – Advertising Week 6 – News Week 7 – News Week 8 – News Week 9 – Social issues Week 10 – Social issues Week 11 – Presentation Week 12 – Presentation</p> <p>The topics may change according to student interests.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Materials will be provided by the instructor		Attendance, participation and final presentation	

	Communicative English I a	担当者	E. Carney
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This class aims to help students communicate their ideas with confidence and accuracy. This means we intend to work in a variety of styles: individual, paired, and small groups. Students are expected to show enthusiasm in making progress throughout the course. Where “perfection” may be a myth, “improvement” is a real possibility.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introductions and explanations. 2. First study and practice, a kind of experimental starter. 3. Outlines and ideas and the next study piece. 4. Not taken for granted: pronunciation, intonation, implying and inferring. 5. Quiz? Expressing and communicating. What helps? 6. See it, understand it, tell it. 7. Quiz? The value of live chatting and discussing against simply memorizing. 8. What is essential in being able to discuss or express in areas that one is really interested in? 9. Quiz? Some diversions in helping to get to grips with the problems of expressing well. 10. Quiz? Acting the situation to acquire good habits. 11. Revision and adjustments. 12. Quizzing, reports, checking progress. 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Prints, tapes, DVDs, cartoons, songs, anecdotes.		A final report will add to quiz results to make a final grade.	

	Communicative English I b	担当者	E. Carney
講義目的、講義概要		授業計画	
As above.		Similar to the above depending on class performance.	
テキスト、参考文献		評価方法	
As above.		As above.	

	Communicative English I a	担当者	K. Meehan
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The objective of this course is to have students develop the necessary skills, knowledge, and practice, to master oral communication. The course will put an emphasis on vocabulary building, speeches, pair-work and discussion. Students should be open to speak and work in small groups.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 2. Exchanging personal information 3. Personality Types 4. Appearances 5. Attitudes 6. Comparing experiences 7. Getting information 8. Events 9. Quiz 10. Movies 11. music 12. test 	
テキスト、参考文献		評価方法	
None		Grades will be based on attendance, class participation, and tests.	

	Communicative English I b	担当者	K. Meehan
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The objective of this course is to have students develop the necessary skills, knowledge, and practice, to master oral communication. The course will put an emphasis on vocabulary building on vocabulary, speeches, pair-work, and discussion. Students should be open to speak and work in small groups.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Summer vacation 2. Personal opinions 3. Japan 4. Preferences 5. Present day concerns 6. Generational conflicts 7. Quiz 8. Relationships 9. Unversation education 10. Future 11. Discussion 12. test 	
テキスト、参考文献		評価方法	
None		Grades will be based on attendance, class participation, and tests.	

	Communicative English I a	担当者	M.Del Vecchio
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The aim of this course is to further develop communication skills through conversation, debate and short presentations. Language items will be detailed and practiced so that students may successfully participate in pair and group discussions as confidence improves. The class level is lower-intermediate.</p> <p>Content will focus on current social and cross-cultural issues. Students will be expected to prepare for some of the topics and share their knowledge and opinions.</p> <p>It is hoped that students will enjoy taking an active role in this class.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 Introduction to the course 2 Growing Up 3 Friends 4 Obligations 5 Manners 6 Personality 7 Relationships 8 Work 9 Careers 10 Gender Roles 11 Leadership 12 Presentations 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Materials will be supplied by the teacher. Syllabus content may be changed.		The final grade will combine the following: attendance, class performance and short presentations.	

	Communicative English I b	担当者	M.Del Vecchio
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The aim of this course is to further develop communication skills through conversation, debate and short presentations. Language items will be detailed and practiced so that students may successfully participate in pair and group discussions as confidence improves. The class level is lower-intermediate.</p> <p>Content will focus on current social and cross-cultural issues. Students will be expected to prepare for some of the topics and share their knowledge and opinions.</p> <p>It is hoped that students will enjoy taking an active role in this class.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 Motivation 2 Hotlines and Charities 3 Discussion 4 Body language 5 Cosmetic Surgery 6 Discussion 7 Crime 8 Case study presentations 9 Ethics 10 AIDS 11 Discussion 12 Final task 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Materials will be supplied by the teacher. Syllabus content may be changed.		The final grade will combine the following: attendance, class performance and short presentations.	

	Communicative English I a	担当者	N. Hamilton
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The purpose and goal of this course is to further strengthen and consolidate students` abilities in English communication. We will discuss various topics, using various mediums such as music and DVDs. Enjoyment of English is the key expression which will Describe these classes. The atmosphere will be warm and welcoming.</p> <p>Students will get ample opportunities to communicate in English through classroom discussions, peer interaction and also through the medium of Presentations on topics selected either by the teacher or by the students themselves. Te emphasis will always be on English Communication and the enhancement of the students` abilities. Come along and lets enjoy social interaction in English!</p>		<p>During the year we will cover a wide range of topics chosen from the textbook and from other materials which will be provided.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
To be announced at the start of the semester		Students will be assessed according to the following criteria: Attendance, Participation, Homeworks/Reports and Presentations.	

	Communicative English I b	担当者	N.Hamilton
講義目的、講義概要		授業計画	
Same as the Spring semester.		Same as the Spring semester.	
テキスト、参考文献		評価方法	
To be announced at the start of the semester		Same as Spring semester.	

	Communicative English I a (水 2/水 3)	担当者	P. Apps
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The aims of this course are</p> <ul style="list-style-type: none"> To improve the students' knowledge of current English. To improve the students' critical thinking skills To improve the students' reading and speaking skills To improve Discussion and Presentation Skills <p>The topics studied in this course will be of current issues</p>		<p>The students will decide the sequence of the topics they would like to study.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>“Impact Values” by Richard Day, Junko Yamanaka, Joseph Schaules Published by Longman</p>		<p>1. Student Attendance 2. Student participation 3. Discussion test</p>	

	Communicative English I b (水 2/水 3)	担当者	P. Apps
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The aims of this course are</p> <ul style="list-style-type: none"> To improve the students' knowledge of current English. To improve the students' critical thinking skills To improve the students' reading and speaking skills To improve Discussion and Presentation Skills <p>The topics studied in this course will be of current issues</p>		<p>The students will decide the sequence of the topics they would like to study.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>“Impact Values” by Richard Day, Junko Yamanaka, Joseph Schaules Published by Longman</p>		<p>1. Student Attendance 2. Student participation 3. Discussion test</p>	

	Communicative English I a (月1/木1)	担当者	P.M.Horness
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This is an introductory course to communication. Students will get a chance to improve their fluency through many speaking exercises. The main goal of the course is for students to participate in a free-flowing conversation of approximately 15 minutes without using any Japanese. In addition, students will be able to build their vocabulary, work on pronunciation and review grammatical concepts.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 2. Suprasegmentals 3. Suprasegmentals 4. Simple past review 5. Fluency exercise 6. Past perfect/ Fluency exercise 7. Be going to versus will 8. Fluency exercise 9. Comparisons and superlatives 10. Conditionals 11. Conditionals 12. Instructor-led discussion <p>Subject to change based on class's needs.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
None		Attendance, participation, written summaries, and speaking exercises	

	Communicative English I b (月1/木1)	担当者	P.M.Horness
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This is the second half of the introductory course to communication. In this semester, students will get more of chance to voice their opinions in different discussions. Most of the discussion topics will involve aspects of the English language or learning English. In weeks 8-11, students will have a chance to decide particular weekly topics. Although there is no assigned text for this course, students will be required to research for the discussion topics. The main goal of this class is for students to develop and form opinions on selected topics of discussion. Students should be able to express their opinions in English coherently without relying on Japanese for clarification.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Origins of English 2. How are words formed 3. Loan words 4. Learning English 5. Learning languages 6. Culture comparisons 7. Culture comparisons 8. TBA 9. TBA 10. TBA 11. TBA 12. Instructor-led discussion <p>Subject to change based on class's needs.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
None		Attendance, participation, written summaries, and discussions	

	Communicative English I a	担当者	R. M. Payne
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course is meant to help intermediate level students improve their speaking and listening abilities.</p> <p>Class time will be divided between whole-class activities and group presentations (Students will be divided into groups and each group will prepare a presentation or activity for an assigned class period.)</p>		<p>1 – Introduction and explanation of class methods, goals, and rules.</p> <p>2 – Determination by students of group presentations and topics for the first term.</p> <p>3 – 12 Instructor prepared exercises followed by student group presentation.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
(none)		Grades will be based on attendance and participation in whole class activities (60%), and peer evaluations of group presentation/activity (40%)	

	Communicative English I b	担当者	R.M. Payne
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This is a continuation of Communicative English I a (see above.) Nevertheless, participation in/completion of the first semester of this course is NOT a prerequisite. That is, new students may be accepted into the class.</p>		<p>1 – Determination by students of group presentations and topics for the first term.</p> <p>2 – 12 Instructor prepared exercises followed by student group presentation.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
(none)		Grades will be based on attendance and participation in whole class activities (60%), and peer evaluations of group presentation/activity (40%)	

	Communicative English I a	担当者	R.Durham
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The purpose of this course is to place MODERN, <u>correct</u> English at the center —<u>NOT</u> Japanese English. Students are required to write and speak in COMPLETE sentences; and to explain, explain, explain.</p> <p>Students are encouraged to learn & <u>activate</u> INTERNATIONAL ways of communicating in friendly, outgoing, energetic ways. So MOTIVATION & positive, dynamic energy should be brought to each & every class.</p> <p>The topics listed here are tentative : they may be adjusted to better match student interests & abilities.</p> <p><u>Note</u> : You <u>must</u> attend <u>EVERY</u> class. “Late”=1/2 absence. Late assignments / presentations will receive a ZERO grade.</p>		<p>1: INTRODUCTIONS incl. name, occupation, place of work / study. Part-time jobs, Practice of Tokyo train lines. Name-cards & class seating style.</p> <p>2: Plans for Golden Week : use of future tense (especially POLITE versions), & the need to explain & elaborate. Re-writing exercises.</p> <p>3: “How was your Golden Week?” : producing, stimulating answers to “How was ___?” questions.</p> <p>4: Assessments, Mother’s Day Writing & practice.</p> <p>5: Speaking of hobbies, & explaining them to other people in dynamic English.</p> <p>6: Song-listening exercises. Review of hobbies.</p> <p>7: “What kind of ___ do you like?”+ pair practice. Assessments.</p> <p>8: Listening exercise. Reprise of “What kind of ___?” , with different topics.</p> <p>9: “How are you?” & “How’s it going?” Practice & pair-work.</p> <p>10: Song-listening activity. Conversation : “How often do you ___?” & practice.</p> <p>11: Assessments. “What’s new?” & “What’s up?”</p> <p>12: Talking about hopes & plans for Summer Break.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Many photocopies / Internet.		Your grade will depend on your PARTICIPATION in class; homework; assignments; presentations; test(s); ATTENDANCE.	

	Communicative English I b	担当者	R.Durham
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Focus: You will be encouraged to speak your opinions ACTIVELY in English ; to overcome shyness ; to EXPLAIN profusely ; to use eye contact & body language ; and to ENERGIZE! Go for it!</p> <p>Depending on student abilities & motivation, there’s the possibility of a class presentation on a selected topics.</p> <p>Special attention will be paid to making culturally-appropriate answers (in English) to a <u>variety</u> of international situations, conversations, & topics.</p> <p>The indicated topics may be altered to better suit the abilities and interests of students.</p> <p>Note : You must attend EVERY class. “Late”=1/2 absence. Late assignments / presentations will receive a ZERO grade. If you are absent for a test: 0%. Be responsible.</p>		<p>1: “How was your summer Break?” : writing & practice.</p> <p>2: Song-listening exercises.</p> <p>3: Researching & talking about Hallowe’en.</p> <p>4: Hallowe’en video & giving opinions there of.</p> <p>5: Finishing Hallowe’en video. ‘Would’ & ‘Will’ used in a Hallowe’en Party Situation.</p> <p>6: Possible presentation topics to be chosen.</p> <p>7: Street directions : asking & telling. Song-listening exercises.</p> <p>8: Pair practice : directions, Asking POLITE questions, & answering POLITELY.</p> <p>9: “Have you ever ___?”: answering appropriately. Assessments.</p> <p>10: Christmas : comparisons of Japan / other countries.</p> <p>11: Christmas video, & expressing opinions there of.</p> <p>12: Christmas activities & explanations / practice.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Photocopies & Internet research.		Your grade will depend on your PARTICIPATION in class; homework; assignments; presentations; test(s); ATTENDANCE.	

	Communicative English I a (月1/月3)	担当者	T. Fotos
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This class is for lower intermediate level learners.</p> <p>The goal is to improve the speaking and listening ability of those in the class. A willingness to try and to do one's best is all that is needed to bring up each student's English level. The cliché that practice makes perfect is true. Students must practice and make the effort to work in small groups to get used to speaking and listening.</p> <p>There will be a strong emphasis will be on real world, everyday situations using survival English.</p> <p>To make real progress, those who truly want to get better should plan to spend at least half an hour every day, outside or in addition to class time, working to improve their English skills.</p>		<p>Week 1 – Introduction and level test</p> <p>“ 2 – Self-introductions</p> <p>“ 3 – Subsequent lessons to be determined after textbook selection to be made in April.</p> <p>“ 4 - “</p> <p>“ 5 - “</p> <p>“ 6 - “</p> <p>“ 7 - “</p> <p>“ 8 - “</p> <p>“ 9 - “</p> <p>“ 10 - “</p> <p>“ 11 - “</p> <p>“ 12 - Final class of the semester with a one-to-one interview</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
To be decided after first or second class meeting. Handouts or prints might be used from time to time.		There will be continuous assessment of each student's progress, so attendance and active participation in the class are really important in deciding what grade a student is to receive.	

	Communicative English I b (月1/月3)	担当者	T. Fotos
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This is a continuation from the spring term or semester. The same general guidelines apply.</p>		<p>Week 1 - To follow the textbook contents</p> <p>“ 2 - “</p> <p>“ 3 - “</p> <p>“ 4 - “</p> <p>“ 5 - “</p> <p>“ 6 - “</p> <p>“ 7 - “</p> <p>“ 8 - “</p> <p>“ 9 - “</p> <p>“ 10 - “</p> <p>“ 11 - “</p> <p>“ 12 - Final lesson of the semester. Last interview and advice</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Same as spring semester.		Same as spring semester	

	Communicative English I a	担当者	T. Hill
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course is designed to help students develop critical thinking skills as they gain insight into American attitudes and values. Each class will be based on an authentic radio broadcast from National Public Radio (NPR). Students will develop essential listening skills, and this will be followed by critical thinking activities including discussion, debate, values clarification, survey, role play, case study, and interview. Students will be expected to actively participate in class activities and to write short papers on a number of the issues.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 2. Courtesy in Public: Cell Phone Use 1 3. Courtesy in Public: Cell Phone Use 2 4. Give Me My Place to Smoke 1 5. Give Me My Place to Smoke 2 6. Kids and the Media 1 7. Kids and the Media 2 8. What's Happening to Home? 1 9. What's Happening to Home? 2 10. Controversial advertising 1 11. Controversial advertising 2 12. Review 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>Consider The Issues Third Edition Carol Numrich Longman</p>		<p>Evaluation will be based on attendance, class participation, a number of written papers, and a final examination.</p>	

	Communicative English I b	担当者	T. Hill
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course is designed to help students develop critical thinking skills as they gain insight into American attitudes and values. Each class will be based on an authentic radio broadcast from National Public Radio (NPR). Students will develop essential listening skills, and this will be followed by critical thinking activities including discussion, debate, values clarification, survey, role play, case study, and interview. Students will be expected to actively participate in class activities and to write short papers on a number of the issues.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 2. A Contribution to Make the World a Better Place 1 3. A Contribution to Make the World a Better Place 2 4. Medicine by the Minute 1 5. Medicine by the Minute 2 6. What Constitutes a Family? 1 7. What Constitutes a Family? 2 8. Business Across Borders 1 9. Business Across Borders 2 10. Green Consumerism 1 11. Green Consumerism 2 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>Consider The Issues Third Edition Carol Numrich Longman</p>		<p>Evaluation will be based on attendance, class participation, a number of written papers, and a final examination</p>	

	Communicative English II a	担当者	C. Ikeguchi
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The overall aim of this course is teach students some important but often overlooked techniques in communication. In the class, the term communication will be used to refer to communication style, focusing on differences between that of the Japanese and non-Japanese.</p> <p>Classes in the spring term will explore situations that show differences in thinking behavior and how these differences are reflected in the way people speak. Students will analyze and discuss different culture-style conversations.</p> <p>Classes in the fall term will focus on various situations of virtue and polite manners. Students will analyze and discuss examples that illustrate these differences.</p> <p>The final goal of the course is to help improve fluency in the use of English language skills.</p>		<p>Spring Term:</p> <p>I. Orientation class objectives, method and evaluation</p> <p>II. How to avoid embarrassing conversation situations</p> <p>(1). Different Communication Styles</p> <p>(2) Sensitivity in conversations: does it help?</p> <p>(3) Be a Good Listener: a good advice?</p> <p>(4) Subtlety in Conversations: is it good?</p> <p>(5) Low-key expressions: do they help?</p> <p>(6) Frankness: when to and when not to?</p> <p>(7) Conversation Compliment: hot to across cultures</p> <p>III. Summary and Evaluation</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
To be announced on the first day of class.		Summative evaluation of class participation: discussion and reports, as well as term-end exams. Students are highly recommended to review each lesson and study beforehand.	

	Communicative English II b	担当者	C. Ikeguchi
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The overall aim of this course is teach students some important but often overlooked techniques in communication. In the class, the term communication will be used to refer to communication style, focusing on differences between that of the Japanese and non-Japanese.</p> <p>Classes in the spring term will explore situations that show differences in thinking behavior and how these differences are reflected in the way people speak. Students will analyze and discuss different culture-style conversations.</p> <p>Classes in the fall term will focus on various situations of virtue and polite manners. Students will analyze and discuss examples that illustrate these differences.</p> <p>The final goal of the course is to help improve fluency in the use of English language skills.</p>		<p>Fall Term:</p> <p>I. Orientation: class objectives, method and evaluation</p> <p>II. How to keep effective conversation situations</p> <p>(1) Japanese polite manners: what's the difference?</p> <p>(2) Greetings across cultures: first impressions!</p> <p>(3) Personal Achievements: modesty or virtue?</p> <p>(4) Expressions of Gratitude: how much is too much?</p> <p>(5) Complimenting: not at all times</p> <p>(6) Gifts and home visits: do they matter?</p> <p>(7) Saving face: a universal virtue</p> <p>III. Summary and Evaluation</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
To be announced on the first day of class.		Summative evaluation of class participation: discussion and reports, as well as term-end exams. Students are highly recommended to review each lesson and study beforehand.	

	Communicative English II a	担当者	D.L. Blanken
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course will present various topics, some chosen by the instructor, others chosen by students. Subjects can range from music (like a rap song), literature (a poem or short story), and art (painting or sketches), to events and issues (like Internet or media topics). Students will explain and discuss these: their presentations may entail listening to and looking at, possibly performing, topic-related things.</p> <p>Topics for discussion will be prepared in advance, often requiring prints and printouts from the students, and visual/aural materials from students or the instructor.</p> <p>You need to be proficient in oral English, interested in a variety of topics, punctual in your attendance, and able to hold your own in an English-only classroom.</p>		<p>Week 1: Introductions and assignment of topics Week 2: Sample presentation/discussion by teacher Week 3: Music (Mus): songs and their lyrics Week 4: Mus (2) Week 5: Mus (3) Week 6: Internet issues (Net): Web sites and topics Week 7: Net (2) Week 8: Net (3) Week 9: Literature (Lit): poems & stories Week 10: Lit (2) Week 11: Lit (3) Week 12: Lit (Oral/Written exam on an assigned poem)</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
		<p>Grades will be made from class performance (40%), examinations and one report per semester (40%) and from attendance (20%).</p>	

	Communicative English II b	担当者	D.L. Blanken
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course will present various topics, some chosen by the instructor, others chosen by students. Subjects can range from music (like a rap song), literature (a poem or short story), and art (painting or sketches), to events and issues (like Internet or media topics). Students will explain and discuss these: their presentations may entail listening to and looking at, possibly performing, topic-related things.</p> <p>Topics for discussion will be prepared in advance, often requiring prints and printouts from the students, and visual/aural materials from students or the instructor.</p> <p>You need to be proficient in oral English, interested in a variety of topics, punctual in your attendance, and able to hold your own in an English-only classroom.</p>		<p>Week 1: Media (Med): TV or newspaper topics Week 2: Med (2) Week 3: Med (3) Week 4: Med (4) Week 5: Art: paintings, sketches, graphics Week 6: Art (2) Week 7: Art (3) Week 8: Student topics (ST) Week 9: ST (2) Week 10: ST (3) Week 11: ST (4) Week 12: Report, oral exam, evaluation</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
		<p>Grades will be made from class performance (40%), examinations and one report per semester (40%) and from attendance (20%).</p>	

	Communicative English II a	担当者	D. McCann
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Students on this course can expect to be given every opportunity to improve their English speaking and listening abilities, with reading and writing activities supporting this aim. The main goal will be to enable students to put structures, grammar and vocabulary they have already studied to practical use, and to develop strategies to communicate at an appropriate level in real-life situations.</p> <p>A variety of authentic language-learning materials will be put to use, and students will be encouraged to draw on their own day-to-day social and academic activities and interests as material for language practice. Through the use of pairing and group-based communicative activities, class members will have the chance to assist in creating a stress-free environment in which they can explore the possibilities of using English to assist their own personal, academic and professional development.</p>		<p>Instruction will be mainly topic-based, with emphasis on coherent development through a process-centred methodology in which students themselves play an active role in decision-making and input to course content. At the outset of the course, students will prepare a personalized introduction card which will be put to use in communicative activities throughout the semester. In addition to these interpersonal communication activities, time will be set aside in each lesson for students to use and improve their presentation, debate and group discussion skills.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>Materials will be selected from authentic language sources, including newspapers, music and song, DVD and selected extracts from language teaching texts.</p>		<p>Assessment will be based on involvement, performance and attendance, with an end-of-term test designed to assess writing and speaking ability.</p>	

	Communicative English II b	担当者	D. McCann
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Students on this course can expect to be given every opportunity to improve their English speaking and listening abilities, with reading and writing activities supporting this aim. The main goal will be to enable students to put structures, grammar and vocabulary they have already studied to practical use, and to develop strategies to communicate at an appropriate level in real-life situations.</p> <p>A variety of authentic language-learning materials will be put to use, and students will be encouraged to draw on their own day-to-day social and academic activities and interests as material for language practice. Through the use of pairing and group-based communicative activities, class members will have the chance to assist in creating a stress-free environment in which they can explore the possibilities of using English to assist their own personal, academic and professional development.</p>		<p>Instruction will be mainly topic-based, with emphasis on coherent development through a process-centred methodology in which students themselves play an active role in decision-making and input to course content. At the outset of the course, students will prepare a personalized introduction card which will be put to use in communicative activities throughout the semester. In addition to these interpersonal communication activities, time will be set aside in each lesson for students to use and improve their presentation, debate and group discussion skills.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>Materials will be selected from authentic language sources, including newspapers, music and song, DVD and selected extracts from language teaching texts.</p>		<p>Assessment will be based on involvement, performance and attendance, with an end-of-term test designed to assess writing and speaking ability.</p>	

	Communicative English II a	担当者	K. Meehan
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The objective of the course is to develop students English through meaningful discussion. This class will integrate reading, listening practice, and vocabulary building into all topic discussions. The course's integrated approach encourages students to share and compare different points of view on a wide range of topical issues and guides them towards successful communication.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 2. Advertising 3. Animal rights 4. Beliefs 5. Discipline 6. Art and Artists 7. Fashion 8. Crime and punishment 9. Cultures 10. Family 11. Drink and drugs 12. Test 	
テキスト、参考文献		評価方法	
None		Grades will be based on attendance, class participation, and tests.	

	Communicative English II b	担当者	K. Meehan
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The objective of the course is to develop students English through meaningful discussion. This class will integrate reading, listening practice, and vocabulary building into all topic discussion. The course's integrated approach encourages students to share and compare different points of view on a wide range of topical issues and guides them towards successful communication.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Religions 2. Film and TV 3. Language 4. Poverty 5. War 6. Diet and nutrition 7. Green issues 8. Natural Disasters 9. Sexism 10. International Relations 11. Pax Americana 12. Test 	
テキスト、参考文献		評価方法	
None		Grades will be based on attendance, class participation, and tests.	

	Communicative English II a	担当者	M.Del Vecchio
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The aim of this course is to further develop communication skills through conversation, debate and short presentations. Language skills will be detailed and practiced so that students may successfully participate in pair and group discussions as confidence improves. The class level is expected to be intermediate.</p> <p>Content will focus on current social and cross-cultural issues. Students will be expected to do some research and share their knowledge and opinions.</p> <p>It is hoped that students will enjoy taking an active role in this class.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 Introduction to the course 2 Interviewing 3 Learning styles 4 Learning styles continued 5 Working cooperatively 6 Solving a dilemma 7 Solving a dilemma 8 News item 9 Describing visual art 10 Advertising 11 Advertising – case study 12 Free discussion 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Materials will be supplied by the teacher. Syllabus content may be changed.		The final grade will combine the following: attendance, class performance and short presentations.	

	Communicative English II b	担当者	M.Del Vecchio
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The aim of this course is to further develop communication skills through conversation, debate and short presentations. Language skills will be detailed and practiced so that students may successfully participate in pair and group discussions as confidence improves. The class level is expected to be intermediate.</p> <p>Content will focus on current social and cross-cultural issues. Students will be expected to do some research and share their knowledge and opinions.</p> <p>It is hoped that students will enjoy taking an active role in this class.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 Discussion 2 Ethical behavior 3 Dilemma time 4 Cosmetic surgery 5 Stereotyping 6 Gender roles 7 Marriage 8 News item 9 Education 10 AIDS 11 Discussion 12 Final task 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Materials will be supplied by the teacher. Syllabus content may be changed.		The final grade will combine the following: attendance, class performance and short presentations.	

	Communicative English II a	担当者	M.Hood
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The purpose of this course is to develop students abilities to function linguistically in a variety of contexts and engage others in increasingly complex topics.</p> <p>At the end of this term, students will be able to:</p> <p>Communicate in English about a variety of interesting cultural, political, and social topics;</p> <p>Express their own ideas about these topics;</p> <p>Engage other students to elicit their ideas on these topics.</p> <p>This course is designed to develop students' productive vocabulary, listening comprehension, and confidence in using English in a variety of situations.</p> <p>ATTENDANCE and PARTICIPATION are crucial to your success in this class. Students are expected to be ON TIME for class and use ENGLISH ONLY for discussion.</p>		<p>Each week, new topics will be introduced, key terms explained, and focused discussions performed in small groups. Students will make presentations and serve as active audience participants during the presentations of others. Topics will be chosen and developed by the students themselves.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Textbook will be determined at a later date. Materials will be available at mikehoodenglish.com		Grades will be determined based on participation, presentations, quizzes, and homework assignments.	

	Communicative English II b	担当者	M.Hood
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This term, we will continue practicing and developing the skills learned in the first term. Therefore, students are STRONGLY DISCOURAGED from enrolling in only the second term. Such students will be far behind their classmates and will find it very difficult to succeed.</p>		<p>Each week, new topics will be introduced, key terms explained, and focused discussions performed in small groups. Students will make presentations and serve as active audience participants during the presentations of others. Topics will be chosen and developed by the students themselves.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Textbook will be determined at a later date. Materials will be available at mikehoodenglish.com		Grades will be determined based on participation, presentations, and homework assignments.	

	Communicative English II a (月 1/火 2)	担当者	N.Hamilton
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Students attending this class will get the chance to practice and improve their ability in Communicative English. During the classes, we will discuss many different topics and everyone will be encouraged to express their opinions clearly and concisely.</p> <p>The atmosphere will be relaxed, warm, and friendly and it is hoped that this will encourage active participation both on a peer level and also generally within the classroom.</p> <p>There will be opportunities for presentations, and we will use various media forms to make the classes both interesting and enjoyable. These will include music and DVDs.</p>		<p>During the year we will cover a wide range of topics chosen from the textbook and from other materials which will be provided.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
To be announced at the beginning of the semester		Students will be assessed on the basis of Attendance, Participation, Reports, Homeworks and Presentations.	

	Communicative English II b (月 1/火 2)	担当者	N.Hamilton
講義目的、講義概要		授業計画	
Same as for the Spring semester		Same as for the Spring semester	
テキスト、参考文献		評価方法	
Same as for the Spring semester		Same as for the Spring semester	

	Communicative English II a	担当者	P. Apps
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The aims of this course are</p> <ul style="list-style-type: none"> • To improve the students' knowledge of current English. • To improve the students' critical thinking skills • To improve the students' reading and speaking skills • To improve discussion and presentation skills. <p>The topics studied in this course will be of current issues (Please note this will be an intermediate level course. Students will be expected to Participate in the class)</p>		<p>As there is no textbook for the year the sequence on discussions will be decided by the students and the teacher.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>No text for this class. The teacher will provide handouts for each class.</p>		<p>1. Student Attendance 2. Student participation 3. Discussion test</p>	

	Communicative English II b	担当者	P. Apps
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The aims of this course are</p> <ul style="list-style-type: none"> • To improve the students' knowledge of current English. • To improve the students' critical thinking skills • To improve the students' reading and speaking skills • To improve discussion and presentation skills. <p>The topics studied in this course will be of current issues (Please note this will be an intermediate level course. Students will be expected to Participate in the class)</p>		<p>As there is no textbook for the year the sequence on discussions will be decided by the students and the teacher.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>No text for this class. The teacher will provide handouts for each class.</p>		<p>1. Student Attendance 2. Student participation 3. Discussion test</p>	

	Communicative English II a	担当者	R. J. Burrows
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This is a context based course which seeks to:</p> <p>a) offer students an overview of British society, people & culture</p> <p>b) improve students analytical & critical abilities towards foreign & Japanese culture</p> <p>c) broaden students' communicative abilities via listening & conversation practice around a variety of topics & issues</p> <p>In addition to viewing & discussing UK culture video material, students will study related written material and grammar structures. In addition, students need to make a 5 minute presentation or submit an essay on any topic from British culture during the term.</p>		<p>UK Culture I</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Introductory Class 2. Introduction to Britain 3. British Pop 4. London 5. The Train 6. Heathrow Airport 7. William Shakespeare 8. Tea 9. Climbers 10. Sherlock Holmes 11. The Purple Violin 12. Review 	
テキスト、参考文献		評価方法	
A file or folder will be needed to keep photocopied handouts. An electronic dictionary is recommended		30 % Attendance & Punctuality, 30% In-Class Work, 40% Presentation/ Essay,	

	Communicative English II a	担当者	R. J. Burrows
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This is a context based course which seeks to:</p> <p>a) offer students an overview of British society, people & culture</p> <p>b) improve students analytical & critical abilities towards foreign & Japanese culture</p> <p>c) broaden students' communicative abilities via listening & conversation practice around a variety of topics & issues</p> <p>In addition to viewing & discussing UK culture video material, students will study related written material and grammar structures. In addition, students need to make a 5 minute presentation or submit an essay on any topic from British culture during the term.</p>		<p>UK Culture II</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Review & Preview 2. The Seven Wonders of Britain 3. Wales 4. BBC World Service 5. The Mini 6. The Village 7. Agatha Christie 8. The Sea 9. Taxi 10. Public School 11. Womad 12. Review 	
テキスト、参考文献		評価方法	
A file or folder will be needed to keep photocopied handouts. An electronic dictionary is recommended		30 % Attendance & Punctuality, 30% In-Class Work, 40% Presentation/ Essay,	

	Communicative English II a	担当者	R.Jones
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This class is for those students who are serious about discussing various issues in English. You should be quite confident in your English ability, but all students, who are prepared to try hard, are most welcome. Your English level should be pretty advanced. Interesting topics will be covered in the lessons, there will be a lot of fun, and plenty of opportunities to speak English. You do not need a textbook in the class because materials will be given to you. Be prepared, because you must do most of the talking! Topics of social and world interest will be discussed in the lessons. At the end of the course, if you have studied hard, you will have increased your English speaking, listening and vocabulary abilities a great deal. In addition, the lessons will contain cultural aspects so that you will be able to understand more fully the differences between the UK (and other Western countries) and Japanese thinking on the issues covered. Motto for this class: Always try your best and never give up!</p>		<p>Below is a list of topics that may be covered. How far we get through these topics depends on the progress and pace of the class. Also the order of the topics may change.</p> <p>Spring Semester Topics</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 Introduction to the course of studies. 2 Gender Issues. 3 Attitudes towards women. 4 Caring for kids. 5 Japanese work ethics. <p>Important note:</p> <p>The class will always start on time, so do not come late. Also, please attend all the lessons. If you miss a class, be sure to find out what work you missed especially as there could be homework to do.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>No textbook will be used in this class. Printed material will be given to the students, thus each student should buy a clear folder with many pages in order to keep the handouts in good order.</p>		<p>Your grade comes from: Class work, homework, vocabulary test and speeches: 50% End of term speaking tests: 40% Good attendance, trying hard in class, never late, speaking English: 10%</p>	

	Communicative English II b	担当者	R.Jones
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This class is for those students who are serious about discussing various issues in English. You should be quite confident in your English ability, but all students, who are prepared to try hard, are most welcome. Your English level should be pretty advanced. Interesting topics will be covered in the lessons, there will be a lot of fun, and plenty of opportunities to speak English. You do not need a textbook in the class because materials will be given to you. Be prepared, because you must do most of the talking! Topics of social and world interest will be discussed in the lessons. At the end of the course, if you have studied hard, you will have increased your English speaking, listening and vocabulary abilities a great deal. In addition, the lessons will contain cultural aspects so that you will be able to understand more fully the differences between the UK (and other Western countries) and Japanese thinking on the issues covered. Motto for this class: Always try your best and never give up!</p>		<p>Below is a list of topics that may be covered. How far we get through these topics depends on the progress and pace of the class. Also the order of the topics may change.</p> <p>Fall Semester Topics</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 Why war? 2 Sexual Harassment 3 Environmental Issues. 4 Cloning 5 Issues in relationships. <p>Important note:</p> <p>The class will always start on time, so do not come late. Also, please attend all the lessons. If you miss a class, be sure to find out what work you missed especially as there could be homework to do.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>No textbook will be used in this class. Printed material will be given to the students, thus each student should buy a clear folder with many pages in order to keep the handouts in good order.</p>		<p>Your grade comes from: Class work, homework, vocabulary test and speeches: 50% End of term speaking tests: 40% Good attendance, trying hard in class, never late, speaking English: 10%</p>	

	Communicative English II a	担当者	R.Durham
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The purpose of this course is to place MODERN, correct English at the center —NOT Japanese English. Students are required to write and speak in COMPLETE sentences; and to explain, explain, explain.</p> <p>Topic selection depends on a great deal on student motivation & interest. Therefore, the listed topics are tentative, and may be adjusted to meet student abilities & requests.</p> <p><u>Note</u> : You <u>must</u> attend <u>EVERY</u> class. “Late”=1/2 absence. Late assignments / presentations will receive a ZERO grade.</p>		<p>1: INTRODUCTIONS incl. name, occupation, place of work / study. Part-time jobs, Practice of Tokyo train lines. Name cards & class seating style.</p> <p>2: Plans for Golden Week : use of future tense (especially POLITE versions), & the need to explain & elaborate. Re-writing exercises.</p> <p>3: “How was your Golden Week?” : producing, stimulating answers to “How was ___?” questions.</p> <p>4: Assessments, Mother’s Day Writing & practice.</p> <p>5: Invitation for student-inspired topics. Song listening exercise.</p> <p>6: Asking & giving subway directions in English. Pair-practice.</p> <p>7: Learning to speak your opinions,& to elaborate. Song-listening activity.</p> <p>8: Making polite recommendations. Pair-conversations.</p> <p>9: Assessments. “What do you usually do ___?” Pair-practice.</p> <p>10: “Have you ever ___?” : culturally-appropriate answers. Audio exercise.</p> <p>11: Practice GUESSING. Pair-work. Audio activity.</p> <p>12: Pair practice. : plans & hopes for the Summer Break. Song-listening exercise.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Many photocopies / Internet.		Your grade will depend on your PARTICIPATION in class; homework; assignments; presentations; test(s); ATTENDANCE.	

	Communicative English II b	担当者	R.Durham
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course will emphasize active speaking of modern, dynamic English with culturally-appropriate topics & EMOTION.</p> <p>The topics indicated are tentative, & may be adjusted, depending on student abilities, motivation, requests,& interests.</p> <p>Students may be asked to make a presentation about a selected topics.</p> <p><u>Note</u> : You must attend EVERY class. “Late”=1/2 absence. Late assignments / presentations will receive a ZERO grade. If you are absent for a test: 0%. Be responsible.</p>		<p>1: “How was your summer Break?” : writing & practice. Audio-exercise.</p> <p>2: Student topics welcome. Song / audio activity.</p> <p>3: “How long have you ___?” , with pair practice. Audio exercise.</p> <p>4: Hallowe’en : customs & video. Speaking about your costume inspiration.</p> <p>5: Asking about & recommending good restaurants, hair stylists, repair places, etc.</p> <p>6: Assessments. More practices with recommendations.</p> <p>7: Speaking & elaborating, re: the Dokkyo University Festival. Audio activity.</p> <p>8:</p> <p>9: Practices & customs of Thanksgiving, including “What are you thankful for?”</p> <p>10: Assessments.</p> <p>11: Christmas video, &(possibly) presentations.</p> <p>12: Christmas activities & explanations / practice.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Photocopies & Internet research.		Your grade will depend on your PARTICIPATION in class; homework; assignments; presentations; test(s); ATTENDANCE.	

	Communicative English II a	担当者	T. Fotos
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This class is for intermediate level students.</p> <p>The idea is to improve each student`s speaking and listening. Active participation in the lessons and perhaps some outside of class practice will greatly assist in helping to reach the objective of better communicative English.</p> <p>Small group practice covering selected topics of current events from handouts or prints from magazines and newspapers will be discussed. Items covered in the textbook will also help students get better at everyday English. Clearly and diplomatically stating one`s own opinion or feelings about various topics is a desirable skill to develop.</p> <p>A presentation or short speech will be expected of each student, the topic will be up to the student to decide.</p>		<p>Week 1 Course introduction and level test if needed.</p> <p>“ 2 Student self-introductions and pronunciation practice.</p> <p>“ 3 The actual lesson will be from following the contents of the textbook and from handouts.</p> <p>“ 4 “</p> <p>“ 5 “</p> <p>“ 6 “</p> <p>“ 7 “</p> <p>“ 8 “</p> <p>“ 9 “</p> <p>“ 10 “</p> <p>“ 11 Presentations and review lesson.</p> <p>“ 12 Final lesson and last one-to-one interview.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>The textbook will be decided after the first lesson.</p> <p>There will be handouts covering various current topics.</p>		<p>Your grade will be a combination of attendance, active participation in the lessons, including making a sincere effort to improve your English speaking and listening.</p>	

	Communicative English II b	担当者	T.Fotos
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course is a continuation of the spring semester and the same general outline still applies.</p>		<p>Week 1 Introduction if necessary; talking about last summer: short student speeches</p> <p>“ 2 Actual lessons to be announced dependent upon the textbook and extra handout topics.</p> <p>“ 3 “</p> <p>“ 4 “</p> <p>“ 5 “</p> <p>“ 6 “</p> <p>“ 7 “</p> <p>“ 8 “</p> <p>“ 9 “</p> <p>“ 10 “</p> <p>“ 11 Last student presentations and review lesson</p> <p>“ 12 Final lesson with one-to-one interviews.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>Refer to the spring semester.</p>		<p>Refer to the spring semester.</p>	

	Discussion a	担当者	D.L.Blanken
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>In this course students will form groups each term to lead the talk in class about various topics that they choose, first from daily life – items like work experience and places to visit or tour. Later they will select either more challenging or more personal issues by means of brainstorming and on the basis of consensus, items like dating or social topics.</p> <p>Topics will be prepared in advance at a rate of one per two weeks as the leader groups rotate. The discussion format may vary: students may engage in simple debates, survey interpreting, opinion eliciting, and taking contrarian attitudes.</p> <p>You need to be proficient in spoken English, be interested in a variety of topics, very punctual in your attendance and able to hold your own in an English-only environment in the classroom.</p>		<p>Week 1: Introduction; how to have a discussion Week 2: Ways of handling a discussion topic Week 3: Group I: daily life topic, Part 1 Week 4: Group I, Part 2 Week 5: Group II: daily life topic, Part 1 Week 6: Group II, Part 2 Week 7: Critique of methods and procedures Week 8: Group III: more "meaty" topic, Part 1 Week 9: Group III, Part 2 Week 10: Group IV, more "meaty" topic, Part 1 Week 11: Group IV, Part 2 Week 12: Commentary on spring term</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
No textbook, but the instructor and leader groups will provide handouts and/or visual aids. Certain prints will concern methods and procedure		Grades will be compiled from performance each week (50%, including oral exams), work as the lead group (25%) and talks with the instructor (25%).	

	Discussion b	担当者	D.L.Blanken
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>In this course students will form groups each term to lead the talk in class about various topics that they choose, first from daily life – items like work experience and places to visit or tour. Later they will select either more challenging or more personal issues by means of brainstorming and on the basis of consensus, items like dating or social topics.</p> <p>Topics will be prepared in advance at a rate of one per two weeks as the leader groups rotate. The discussion format may vary: students may engage in simple debates, survey interpreting, opinion eliciting, and taking contrarian attitudes.</p> <p>You need to be proficient in spoken English, be interested in a variety of topics, very punctual in your attendance and able to hold your own in an English-only environment in the classroom.</p>		<p>Week 1: Regrouping of students and topics Week 2: Group I: free topic, Part 1 Week 3: Group I, Part 2 Week 4: Group II: free topic, Part 1 Week 5: Group II, Part 2 Week 6: Critique; new discussion modes Week 7: Group III: free topic, Part 1 Week 8: Group III, Part 2 Week 9: Group IV: free topic, Part 1 Week 10: Group IV, Part 2 Week 11: Oral exam: Class discussion (a) Week 12: Oral exam: Class discussion (b)</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
No textbook, but the instructor and leader groups will provide handouts and/or visual aids. Certain prints will concern methods and procedure.		Grades will be compiled from performance each week (50%, including oral exams), work as the lead group (25%) and talks with the instructor (25%).	

	Discussion a	担当者	N.H. Jost
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This class is for those students who have an advanced proficiency in spoken English. The class aims to provide a forum for students to discuss in a logical and reasoned manner the many issues that face us today. Topics for discussion will be student generated and will hopefully look at issues of concern and interest--topics related to global issues, national issues, environmental issues, cultural topics, and other related topics. It also aims to help students further develop their speaking and listening skills, and to aims to helps student understand what a discussion is. Thus, students considering this class should have 1) an advanced proficiency in English particularly in speaking and listening; 2) a deep interest in discussing topics are that both challenging and pertinent to the world in general; and 3) a keen interest in the ideas and opinions of others. Topics for discussion will be introduced a week in advance of class and students are required to prepare in advance.</p>		<p>Week 1: Class Introduction; Self Introductions</p> <p>Week 2: Discussion #1</p> <p>Week 3: Discussion # 2</p> <p>Week 4: Discussion # 3</p> <p>Week 5: Discussion # 4</p> <p>Week 6: Discussion # 5</p> <p>Week 7: Discussion # 6</p> <p>Week 8: Discussion # 7</p> <p>Week 9: Discussion # 8</p> <p>Week 10: Discussion # 9</p> <p>Week 11: Discussion # 10</p> <p>Week 12: Final Discussion for Evaluation</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Materials for this class will be provided by instructor.		Grades will be based on classroom participation and student presentations. And Attendance.	

	Discussion b	担当者	N.H. Jost
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This class is for those students who have an advanced proficiency in spoken English. The class aims to provide a forum for students to discuss in a logical and reasoned manner the many issues that face us today. Topics for discussion will be student generated and will hopefully look at issues of concern and interest--topics related to global issues, national issues, environmental issues, cultural topics, and other related topics. It also aims to help students further develop their speaking and listening skills, and to aims to helps student understand what a discussion is. Thus, students considering this class should have 1) an advanced proficiency in English particularly in speaking and listening; 2) a deep interest in discussing topics are that both challenging and pertinent to the world in general; and 3) a keen interest in the ideas and opinions of others. Topics for discussion will be introduced a week in advance of class and students are required to prepare in advance.</p>		<p>Week 1: Introduction to fall semester.</p> <p>Week 2: Discussion # 1</p> <p>Week 3: Discussion # 2</p> <p>Week 4: Discussion # 3</p> <p>Week 5: Discussion # 4</p> <p>Week 6: Discussion #5</p> <p>Week 7: Discussion # 6</p> <p>Week 8: Discussion # 7</p> <p>Week 9: Discussion # 8</p> <p>Week 10: Discussion # 9</p> <p>Week 11: Discussion # 10</p> <p>Week 12: Final Discussion for Evaluation</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Materials for this class will be provided by instructor.		Grades will be based on classroom participation and student presentations. And Attendance.	

	Discussion a	担当者	R.Durham
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The purpose of this course is to place MODERN, <u>correct</u> English at the center —<u>NOT</u> Japanese English. Students are required to write and speak in COMPLETE sentences; and to explain, explain, explain.</p> <p>Since this is a discussion class, students will be required to speak up 100% more than they have previously ; to explain profusely; and to back up (prove) their opinions, logically.</p> <p>INTERNATIONAL topics, especially, will be focused on. Your teacher hopes that your viewpoint will become more international, by discussion of topics of global interest.</p> <p>The indicated topics may be adjusted to better match student abilities and interests.</p> <p><u>Note</u> : You <u>must</u> attend <u>EVERY</u> class. “Late”=1/2 absence. Late assignments / presentations will receive a ZERO grade.</p>		<p>1: INTRODUCTIONS incl. name, occupation, place of work / study. Part-time jobs, Practice of Tokyo train lines. Name cards & class seating style.</p> <p>2: Plans for Golden Week : use of future tense (especially POLITE versions), & the need to explain & elaborate. Re-writing exercises.</p> <p>3: “How was your Golden Week?” : producing, stimulating answers to “How was ___?” questions.</p> <p>4: Assessments, Mother’s Day Writing & practice. Discussion and Conversation.</p> <p>5: Expressing opinions...and expressing them with “gusto” (passion)!</p> <p>6: Examination of News topics.</p> <p>7: Speaking about controversial issues.</p> <p>8: Assessments. Discussing likes / dislikes.</p> <p>9: Speaking of hobbies / interests.</p> <p>10: Practice discussing New stories & opinions there of.</p> <p>11:</p> <p>12: Discussion of plans for the Summer Break.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Many photocopies / Internet.		Your grade will depend on your PARTICIPATION in class; homework; assignments; presentations; test(s); ATTENDANCE.	

	Discussion b	担当者	R.Durham
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>To encourage students to learn how to express their opinions about a variety of INTERNATIONAL topics.</p> <p>You will be encouraged & exhorted to SPEAK, SPEAK, SPEAK, about a wide range of global topics. In addition, you’ll have opportunities to practice eye contact, ‘body language’, idioms, cultural adaptations, and other elements of speaking / discussion.</p> <p>The topics shown here may be altered to better suit student interests & abilities.</p> <p>Note : You must attend EVERY class. “Late”=1/2 absence. Late assignments / presentations will receive a ZERO grade. If you are absent for a test: 0%. Be responsible.</p>		<p>1: “How was your summer Break?” : writing & practice.</p> <p>2: Song-listening exercises.</p> <p>3: Researching & talking about Hallowe’en.</p> <p>4: Hallowe’en video & giving opinions there of.</p> <p>5: Finishing Hallowe’en video. ‘Would’ & ‘Will’ used in a Hallowe’en Party Situation.</p> <p>6: Possible presentation topics to be chosen.</p> <p>7: Street directions : asking & telling. Song-listening exercises.</p> <p>8: Pair practice : directions, Asking POLITE questions, & answering POLITELY.</p> <p>9: “Have you ever ___?”: answering appropriately. Assessments.</p> <p>10: Christmas : comparisons of Japan / other countries.</p> <p>11: Christmas video, & expressing opinions there of.</p> <p>12: Christmas activities & explanations / practice.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Photocopies & Internet research.		Your grade will depend on your PARTICIPATION in class; homework; assignments; presentations; test(s); ATTENDANCE.	

	Discussion a	担当者	W. J. Benfield
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course is designed to introduce students to a wide variety of British and American poetry. Students often correctly consider poetry a hard subject, and it is true that poetry differs from prose in its use of unusual syntax, specialized 'poetic' vocabulary and unusual combinations of words.</p> <p>However, in this course we will be looking mainly at British and American poetry from the 20th century written in a plainer style of English. We will look at the poems from two points of view. Firstly, we will look at the meaning that the poet is trying to express. Secondly, we will look at the way the poet has used the techniques of poetry – rhythm, rhyme, form, choice of words, etc. – to help express that meaning. The end result of the course should be an increased enjoyment of poetry and a greater awareness of how English can be used creatively.</p> <p>We will look at the poems of W. H. Auden, D. H. Lawrence, Sylvia Plath, Ted Hughes, Theodore Roethke, Richard Wilbur and many others.</p> <p>The first part of the course will be a little technical, concentrating on learning the techniques of poetry. As students become more familiar with this, the amount of time spent discussing the poetry will increase.</p> <p>The course will be a one-year course, and students are encouraged to enroll for the whole year, although students who have not taken the Spring semester course will be able to enroll for the second semester.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Course outline. 2. What is poetry? A look at some of the main elements of poetry. 3. Poem and discussion 4. Poem and discussion 5. Poem and discussion 6. Poem and discussion 7. Poem and discussion 8. Poem and discussion 9. Poem and discussion 10. Poem and discussion 11. Poem and discussion 12. Review of term's work 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Materials supplied by teacher		Attendance, participation in class activities and a final report	

	Discussion b	担当者	W. J. Benfield
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course is designed to introduce students to a wide variety of British and American poetry. Students often correctly consider poetry a hard subject, and it is true that poetry differs from prose in its use of unusual syntax, specialized 'poetic' vocabulary and unusual combinations of words.</p> <p>However, in this course we will be looking mainly at British and American poetry from the 20th century written in a plainer style of English. We will look at the poems from two points of view. Firstly, we will look at the meaning that the poet is trying to express. Secondly, we will look at the way the poet has used the techniques of poetry – rhythm, rhyme, form, choice of words, etc. – to help express that meaning. The end result of the course should be an increased enjoyment of poetry and a greater awareness of how English can be used creatively.</p> <p>We will look at the poems of W. H. Auden, D. H. Lawrence, Sylvia Plath, Ted Hughes, Theodore Roethke, Richard Wilbur and many others.</p> <p>The first part of the course will be a little technical, concentrating on learning the techniques of poetry. As students become more familiar with this, the amount of time spent discussing the poetry will increase.</p> <p>The course will be a one-year course, and students are encouraged to enroll for the whole year, although students who have not taken the Spring semester course will be able to enroll for the second semester.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Review of main features of poetry 2. Poem and discussion 3. Poem and discussion 4. Poem and discussion 5. Poem and discussion 6. Poem and discussion 7. Poem and discussion 8. Poem and discussion 9. Poem and discussion 10. Poem and discussion 11. Poem and discussion 12. Review of term's work 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Materials supplied by teacher		Attendance, participation in class activities and a final report	

	Public Speaking I a	担当者	A.R. Falvo
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>In the class we will focus on three messages in public speaking: the Visual Message, the Physical Message and the Story Message. We will video students with a camera and evaluate their performance in class. Students will be expected to use Power Point in making presentations.</p>		<p>Introduction: The Physical Message Posture and Eye Contact Informative Speech Gestures Layout Speech Voice Inflection Demonstration Introduction to the Story Message The Introduction Persuasive Speech The Body Transition and Sequencers</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
To be decided		Weekly participation in speeches and the email receipt of student speeches.	

	Public Speaking I b	担当者	A.R. Falvo
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>In the class we will focus on three messages in public speaking: the Visual Message, the Physical Message and the Story Message. We will video students with a camera and evaluate their performance in class. Students will be expected to use Power Point in making presentations.</p>		<p>Review of Term One Persuasive Speech: The Body The Conclusion Persuasive Speech: The Conclusion Introduction to the Visual Message Making Visual Aids Explaining Visual Aids Full Presentation of the Persuasive Speech with Visual Aids Power Point Introduction Video Taping Part One Video Taping Part Two Critique of Taping</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
To be decided		Weekly participation in speeches and the email receipt of student speeches.	

	Public Speaking I a	担当者	E. Carney
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義の目標 This class aims to give students a chance to prepare and deliver speeches with maximum effect. The use of language, the art of effective construction, and the use of all forms of communication when delivering a speech will be covered.</p> <p>講義概要 Students will work both inside and outside of class to prepare and hone their speeches ready for delivery to their group or to the class. We want to cover a wide area of aspects related to good speech making and class participation is a must.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction and explanation. 2. What should a speech be? 3. Some points on aims and relative ideas. 4. The confidence factor. 5. The importance of the small points (like pronunciation and intonation) that tend to get taken too much for granted. 6. Who are you talking to? 7. The power of addressing the individual in the crowd. 8. Negative gestures and habits. 9. Preparing a 'good' speech. 10. Delivery. 11. Feedback and correction. 12. Spring seminar test 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Various prints and other materials		Class performance and final report	

	Public Speaking I b	担当者	E. Carney
講義目的、講義概要		授業計画	
As above		<ol style="list-style-type: none"> 13. You, the student, say something. 14. Loving your subject. 15. Ad-libbing to bridge the gaps. 16. Humour and other weapons of mass communication. 17. Say it again, Sam. 18. How to bore everybody. 19. Speaking to machines, speaking to people. 20. Stressing your good technique. 21. Including the audience. 22. Revisions and assessment. 23. Tell it like it is. 24. Final 	
テキスト、参考文献		評価方法	
As above		Class performance and final report	

	Public Speaking I a	担当者	鍋倉 健悦
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>現代は、ケータイやパソコンにもその一因があるのである うか、コミュニケーション能力、とりわけ他者に向けての 直接的な自己表現能力に欠ける人々が多い時代になって きている。</p> <p>当講座の目的は、人前で話をする時、それをより効果的 にするための技術を身に付けることにある。そのため、本 講座では、言語コミュニケーション・非言語コミュニケー ションの理論を学んだ後、学生は、模擬面接やプレゼンテ ーションの訓練を積むことで、実践的なコミュニケーション 能力を高めていく。なお、毎回の授業はステップ・アッ プ形式なので、欠席すると非常に不利。3分の1以上を欠 席した場合、単位は認められない。</p>		<p>学生は、論理的で明確な話し方を身に付けるために、様々 なシチュエーションにおける話し方に、基本的理論から技 術の習得、そして応用実践、というステップで取り組んで いく。内容の委細については未定。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント使用		出席、平常の授業での評価	

	Public Speaking I b	担当者	鍋倉 健悦
講義目的、講義概要		授業計画	
同上		同上	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント使用		出席、平常の授業での評価	

	Public Speaking II a	担当者	P. McEvilly
講義目的、講義概要		授業計画	
The purpose of this course is to develop the students' public speaking skills. Students will write and give speeches throughout the year. We will cover a variety of presentation styles. Students will learn the effective use of eye contact, posture, gesture, and voice.		To be arranged.	
テキスト、参考文献		評価方法	
To be arranged.		Grading will be based on attendance, classrooms participation, and homework: 50% Speeches and tests: 50%	

	Public Speaking II b	担当者	P. McEvilly
講義目的、講義概要		授業計画	
The purpose of this course is to develop the students' public speaking skills. Students will write and give speeches throughout the year. We will cover a variety of presentation styles. Students will learn the effective use of eye contact, posture, gesture, and voice.		To be arranged.	
テキスト、参考文献		評価方法	
To be arranged.		Grading will be based on attendance, classrooms participation, and homework: 50% Speeches and tests: 50%	

	Debate I a	担当者	P.M.Horness
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This is an introductory course to debate. Students will have a chance to select topics for research and discussion. Although there is no assigned text, students will be required to do research for the discussion topics. Before a topic is debated, it will be researched and discussed thoroughly. The main goal to be accomplished is the students forming and expressing well formed ideas on specific topics. In addition, students will be expected to follow basic debate procedures, analyze and discuss arguments simultaneously.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 2. Discussion 3. Discussion 4. Debate 5. Discussion 6. Discussion 7. Debate 8. Discussion 9. Discussion 10. Debate 11. Topic review and debate 12. Topic review and debate <p>Subject to change based on class's needs.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
No textbook, but students should be familiar using the internet for research.		Attendance, participation, written summaries, and discussion exercises	

	Debate I b	担当者	P.M.Horness
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This is the second half to the introduction of debate. Students will have a chance to select topics for research and discussion. Although there is no assigned text, students will be required to do research for the discussion topics. In this half students will encounter several different types of debate formats. The types of debate format will be open for discussion due to the fact there are too many format styles to cover. In addition, individual and team debates will occur. The main goal to be accomplished is the students forming and expressing well formed ideas on specific topics.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction and review 2. Discussion 3. Discussion 4. Debate 5. Discussion 6. Discussion 7. Debate 8. Discussion 9. Discussion 10. Debate 11. Topic review and debate 12. Topic review and debate <p>Subject to change based on class's needs.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
No textbook, but students should be familiar using the internet for research.		Attendance, participation, written summaries, and debate exercises	

	Debate I a	担当者	R. J. Burrows
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This is a discussion course which seeks to:</p> <p>a) facilitate debate by studying controversial & challenging global topics</p> <p>b) expose students to new issues & unconventional views</p> <p>c) develop students' self-confidence & skills of self-expression</p> <p>We will use a variety of reading sources & selected audio texts to build students knowledge on a given topic before exploring different opinions in pair-work & group discussion activities.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introductory Class 2. American Cultural Supremacy 3. Anorexia 4. Modern Art 5. Drugs in Sport 6. What is Beauty? 7. Drugs Control 8. Fashion Statement 9. Fighting Aids 10. Food Safety 11. Global Trade 12. Lost Languages 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>'Ideas & Issues (Advanced)'</p> <p>Martin Hunt, Macmillan</p>		<p>30 % Attendance & Punctuality, 40% In-Class Work, 30% Assignment</p>	

	Debate I b	担当者	R. J. Burrows
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This is a discussion course which seeks to:</p> <p>a) facilitate debate by studying controversial & challenging global topics</p> <p>b) expose students to new issues & unconventional views</p> <p>c) develop students' self-confidence & skills of self-expression</p> <p>We will use a variety of reading sources & selected audio texts to build students knowledge on a given topic before exploring different opinions in pair-work & group discussion activities.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Making Money 2. Sexual Identity 3. Marriage 4. The Internet 5. National Stereotypes 6. Media Racism 7. Manga Images 8. Single Parents 9. Global Tourism 10. Fertility Treatment 11. Animal Transplants 12. Violent Yout 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>'Ideas & Issues (Advanced)'</p> <p>Martin Hunt, Macmillan</p>		<p>30 % Attendance & Punctuality, 40% In-Class Work, 30% Assignment</p>	

	Debate I a	担当者	柿田 秀樹
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>英語発話能力の養成を目的とした言語教育活動には現在多くの方法があるが、4技能（聞く、話す、読む、書く）のみならず「考える」という第5の技能を磨くディベートこそ英語発話能力向上の最も効果的な学習方法のひとつといえる。ディベートの実践によって養われる批判的思考能力は、コミュニケーションに不可欠な言説を構成するテキストの「行為遂行性 (performativity)」を向上させるからである。ディベート実践に不可欠な一連の作業を通じて思考を訓練し、批判的思考能力を高めて英語発話能力を向上させていくことを目標とする。</p> <p>本講義では英語で教育ディベートを遂行する。ディベートの命題としては社会的または政治的な問題を取り扱う予定である。学生は、まずレクチャーでディベートの実践に必要な議論の技術を学んだ後、ワークショップでリサーチ能力を養い、グループでのブレインストーミングなどを通じてディベートの準備を行う。そして、最終的にはディベートの実践を行う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Course Orientation: What is Argument and What is Debate? 2. Analysis and Structure of Argument 3. Evidence as Support 4. Warrant 5. Refutation 6. How to Research a Topic 7. Case Construction 8. Structural and Language Considerations 9. 1st Debate I 10. 1st Debate II 11. 1st Debate III 12. Review of the First Debate and Reflections 	
テキスト、参考文献		評価方法	
松本茂『頭を鍛えるディベート入門：発想と表現の技法』講談社ブルーバックス		総合的な評価はディベートのパフォーマンス（60%）、バロット（15%）、クラス内での積極的な参加度（15%）、出席（10%）、そして必要ならば、期末テストの成績を含めて総合的に判断する。	

	Debate I b	担当者	柿田 秀樹
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>秋学期に学習したディベートの理論およびワークショップに基づき、ディベート実践を反復する。このクラスで前期に教えた内容のみが評価の対象となる。それ以外の前提に基づいたディベートの方法は全く評価されないため、その点十分に留意すること。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Orientations 2. Preparation for the Second Debate 3. 2nd Debate I 4. 2nd Debate II 5. 2nd Debate III 6. Review of the Second Debate 7. Preparation for the Third Debate 8. Preparation for the Third Debate 9. 3rd Debate I 10. 3rd Debate II 11. 3rd Debate III 12. Course Summary 	
テキスト、参考文献		評価方法	
松本茂『頭を鍛えるディベート入門：発想と表現の技法』講談社ブルーバックス		総合的な評価はディベートのパフォーマンス（それぞれ30%—計60%）、バロット（15%）、クラス内での積極的な参加度（15%）、出席（10%）、そして必要ならば、期末テストの成績を含めて総合的に判断する。	

	Debate II a	担当者	N.H. Jost
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This class is designed with two basic goals in mind: 1) to help students develop debating skills--to understand issues; to articulate/defend their views on those issues; and, 2) to help students improve their overall language skills--speaking, listening, and critical thinking.</p> <p>Debate topics will be decided in advanced, and will include a variety of topics--challenging, yet enjoyable.</p> <p>Additionally, we will watch some of the famous debates in Western history evaluating them from a critical point of view, looking at debating style, techniques, reasoning and speaking skills and overall persuasiveness of the candidates.</p>		<p>Week 1: Class Introduction</p> <p>Week 2: Learning to debate. Expressing opinion</p> <p>Week 3: Developing Reasons; class debates</p> <p>Week 4: Supporting your opinion; class debates</p> <p>Week 5: Types of support; class debate</p> <p>Week 6: Organizing your opinions; class debate</p> <p>Week 7: Refutation; class debate</p> <p>Week 8: Types of refutation; class debate</p> <p>Week 9: Viewing actual debates; class debate</p> <p>Week 10: Class debates</p> <p>Week 11: Class debates</p> <p>Week 12: Class debates</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Materials will be provided by the instructor.		Grades are based on class participation, attendance, in-class debates, and tests.	

	Debate II b	担当者	N.H. Jost
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This class is designed with two basic goals in mind: 1) to help students develop debating skills--to understand issues; to articulate/defend their views on those issues; and, 2) to help students improve their overall language skills--speaking, listening, and critical thinking.</p> <p>Debate topics will be decided in advanced, and will include a variety of topics--challenging, yet enjoyable.</p> <p>Additionally, we will watch some of the famous debates in Western history evaluating them from a critical point of view, looking at debating style, techniques, reasoning and speaking skills and overall persuasiveness of the candidates.</p>		<p>Week 1: Overview of spring semester</p> <p>Week 2: Challenging Supports</p> <p>Week 3: Presidential Debates</p> <p>Week 4: Organizing your Refutation</p> <p>Week 5: Presidential Debates; Class debate</p> <p>Week 6: Debate formats</p> <p>Week 7: In class debate</p> <p>Week 8: In class debate</p> <p>Week 9: Presidential debates</p> <p>Week 10: In class debate</p> <p>Week 11: In class debate and final debate prep.</p> <p>Week 12: Final class debate</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Materials will be provided by the instructor.		Grades are based on class participation, attendance, in-class debates, and tests.	

	通訳 I a (月 2 / 月 4)	担当者	原口 友子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>高いリスニング力を持つ学生でも、最初は思うように言葉が出せず悔しそうな表情をする。英語のリスニングは英語を英語で理解するだけなので楽だが、通訳の場合、英語で理解した内容を日本語に変換する作業を瞬時に行わなければならない。その反射神経を鍛えるのが通訳 I の目標である。</p> <p>一回目の授業に必ず出席すること！（時間厳守！）</p> <p>1 年から 4 年までの優秀な学生が集まり切磋琢磨する独特な雰囲気がある。家でもトレーニングしなければ授業についてこれられないので、欠席には厳しい。</p>		<p>毎週、教科書に沿って、シャドウイング、メモ取り練習、逐次通訳などのトレーニングを積んでいく。</p> <p>毎週、テープの掘り起こしの宿題を課す。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
最初の授業で紹介する。		学期末テスト（英日、日英の逐次通訳）と平常点	

	通訳 I b (月 2 / 月 4)	担当者	原口 友子
講義目的、講義概要		授業計画	
同上		同上	
テキスト、参考文献		評価方法	
最初の授業で紹介する。		同上	

	通訳Ⅱa	担当者	原口 友子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>通訳Ⅰ受講後は、聞き取れた内容はすべて通訳できるようになる。次の段階として、リスニング力のアップと表現力の増強が必要。通訳Ⅰより教材も増え、家での勉強も増えるが、通訳ができるようになるためにはどんな学習が必要か、勉強法も習得してほしい。</p> <p>目標は、どれだけ多く聞き取れるか、どれだけ早くメモを取れるか、日本語についても英語に関しても幼稚な表現からいかに脱却できるか、などである。</p> <p>通訳Ⅰ以上に専門性の高い授業だが、2年から4年まで英語が大好きな学生が楽しく受講している。家でもトレーニングしなければ授業についてこれないので、欠席には厳しい。</p>		<p>通訳Ⅱでは、さまざまなインタビューやアナウンスメントを教材を使って、逐次通訳や同時通訳の訓練を積み重ねる。テープの掘り起こしの宿題を毎週課す。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
最初の授業で紹介する。		学期末テスト（英日、日英の逐次通訳、英日の同時通訳）と平常点	

	通訳Ⅱb	担当者	原口 友子
講義目的、講義概要		授業計画	
同上		同上	
テキスト、参考文献		評価方法	
同上		同上	

	英語ビジネス・コミュニケーション I a	担当者	海老澤 達郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>貿易立国日本にとっては、異文化諸国とのビジネス・コミュニケーションを円滑にし、国際ビジネスを成功させ、誤解から生ずる摩擦を起こさせないための手段として、国際語としての英語の重要性は極めて高い。</p> <p>本講義では英文貿易通信の基本をテキストを使用して、取引関係の樹立から成立・履行・求償・解決までを講義し、基本的なビジネスレターの書き方を指導する。また、Business English を国際語である英語を使用して、ビジネスを促進させるためのビジネス・コミュニケーションとしてとらえ、効果的なビジネスレターの書き方のポイントを、例を挙げて説明・指導すると同時に、英字新聞のビジネス欄の読み方をあわせて指導していきたい。</p> <p>就職活動に必要な英文履歴書とカバーレターの書き方も分かりやすく説明・指導する。最後に、英語学科の学生として、英語ビジネス・コミュニケーションの基本ぐらいは勉強して卒業してもらいたと思っている</p>		<ul style="list-style-type: none"> (1) Business English を学ぶにあたって (2) ビジネスレターの形式 (3) 効果的なビジネスレターを書くための10のポイント (4) 取引の申し込み (5) 取引の申し込みに対する応答 (6) 引合い (7) 引合いに対する応答 	
テキスト、参考文献		評価方法	
海老澤 達郎著『Practical English For Business Writing --実践英文ビジネス・ライティング』青山学院購買会		学期末の試験を中心にして、これにレポート及び授業への貢献度を参考にして総合的に評価する。	

	英語ビジネス・コミュニケーション I b	担当者	海老澤 達郎
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期と同じ		<ul style="list-style-type: none"> (1) 英文履歴書とカバーレターの書き方 (2) オファー (3) オファーに対する応答 (4) 信用状 (5) 海上保険 (6) 積出し (7) クレームと紛争の解決 	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期と同じ		学期末の試験を中心にして、これにレポート及び授業への貢献度を参考にして総合的に評価する。	

	英語ビジネス・コミュニケーション I a (水2)	担当者	杉山 晴信
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>時系列的な貿易取引の流れに沿って、各取引段階におけるビジネス通信文 (Business Correspondence) を読解し作成する技術を身につけるとともに、貿易実務に関する基礎知識を幅広く習得することがねらいです。</p> <p>具体的には、貿易取引の各段階ごとに (右記参照)、私が収集したビジネス通信文の現物 (固有名詞を架空のものに変更するなど、若干の調整を加えてある) の内容を詳細に検討し、さらに下記テキストを用いて、相当する単元(春学期は Unit1~11)における実務知識、通信文のスケルトン・プラン(skeleton plan)、および専門語彙(technical terms)を学ぶとともに、通信文の作成(和文英訳)と読解(英文和訳)の訓練を行います。また、毎月1回 (春学期は5月、6月、7月の最初の授業時)、テキストを出題範囲とする語彙力診断テスト(vocabulary check)を実施しますので、履修者は教室外でも自主的に語彙力増強に努めなければなりません。</p> <p>なお、右記の授業計画は、授業の進捗状況によって多少の変更があるかもしれません。</p> <p>*注意： 私の担当するもう1つの同一名称科目とは内容が異なります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 春学期の授業内容と授業計画を詳しく説明します。 2 「市況」に関して、実務知識を学ぶとともに、通信文の読解と作成の訓練を行います。 3 「取引先の発見」に関して、実務知識を学ぶとともに、通信文の読解と作成の訓練を行います。 4 「取引の申込み」に関して、実務知識を学ぶとともに、通信文の読解と作成の訓練を行います。 5 「信用照会」に関して、実務知識を学ぶとともに、通信文の読解と作成の訓練を行います。 6 「引合い」に関して、実務知識を学ぶとともに、通信文の読解と作成の訓練を行います。 7 「引合いに対する返事」に関して、実務知識を学ぶとともに、通信文の読解と作成の訓練を行います。 8 「オファー」に関して、実務知識を学ぶとともに、通信文の読解と作成の訓練を行います。 9 「カウンターオファー」に関して、実務知識を学ぶとともに、通信文の読解と作成の訓練を行います。 10 「注文」に関して、実務知識を学ぶとともに、通信文の読解と作成の訓練を行います。 11 「注文の受諾と謝絶」に関して、実務知識を学ぶとともに、通信文の読解と作成の訓練を行います。 12 春学期の授業の総復習を行います。 	
テキスト、参考文献		評価方法	
杉山晴信『ビジネス英語 21 アプローチ』(北星堂) 配布プリント		出席状況、授業貢献度、語彙力診断テストの得点など、平常点を第一の尺度とし、定期試験の結果を加味して決定します。	

	英語ビジネス・コミュニケーション I b (水2)	担当者	杉山 晴信
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>授業の目的と進め方は春学期と同じですが、秋学期に検討するビジネス通信文は、後半の単元 (Unit12~21) に相当する取引段階 (右記参照) のものになります。また、秋学期の語彙力診断テストは10月、11月、および12月のそれぞれ最初の授業の冒頭に実施する予定です。</p> <p>なお、右記の授業計画は、授業の進捗状況によって多少の変更があるかもしれません。</p> <p>*注意： 私の担当するもう1つの同一名称科目とは内容が異なります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 秋学期の授業内容と授業計画を詳しく説明します。 2 「成約」に関して、実務知識を学ぶとともに、通信文の読解と作成の訓練を行います。 3 「信用状の開設と訂正」に関して、実務知識を学ぶとともに、通信文の読解と作成の訓練を行います。 4 「海上保険」に関して、実務知識を学ぶとともに、通信文の読解と作成の訓練を行います。 5 「輸出手配」に関して、実務知識を学ぶとともに、通信文の読解と作成の訓練を行います。 6 「船積」に関して、実務知識を学ぶとともに、通信文の読解と作成の訓練を行います。 7 「輸入手配」に関して、実務知識を学ぶとともに、通信文の読解と作成の訓練を行います。 8 「決済」に関して、実務知識を学ぶとともに、通信文の読解と作成の訓練を行います。 9 「クレーム」に関して、実務知識を学ぶとともに、通信文の読解と作成の訓練を行います。 10 「クレーム調整」に関して、実務知識を学ぶとともに、通信文の読解と作成の訓練を行います。 11 「紹介・推薦・社交文」に関して、実務知識を学ぶとともに、通信文の読解と作成の訓練を行います。 12 秋学期の授業の総復習を行います。 	
テキスト、参考文献		評価方法	
杉山晴信『ビジネス英語 21 アプローチ』(北星堂) 配布プリント		出席状況、授業貢献度、語彙力診断テストの得点など、平常点を第一の尺度とし、定期試験の結果を加味して決定します。	

	英語ビジネス・コミュニケーション I a (木3)	担当者	杉山 晴信
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>国際商取引、特に貿易取引を学ぶために必要なことは、端的に言って、モノ・カネ・書類の流れを理解することに尽きます。この授業は、このうちの「書類」、すなわち各種の「貿易関係書類」および関連する英文ビジネス文書(Business Documentation)の読解と作成の要領を学びながら、貿易実務の基礎知識を習得することがねらいです。</p> <p>具体的には、工業製品(manufactured goods)の輸出入を想定して、貿易取引の各段階に登場する代表的な貿易関係書類と関連文書のサンプルを教材に用いて、各々の書類の意義と目的、作成者と提出先、記載事項、読解と作成の注意点など、書類に関する実務的な知識を学びながら貿易取引の流れを理解し、その後で当該書類を実際に読解あるいは作成する実習を行います。春学期は、成約にいたるまでの段階に関する代表的な英文の書類として、レター・オブ・インテント(letter of intent)、一般取引条件(general terms and conditions of business)、スポット売買契約書(spot sales contract)、長期売買契約書(long-term sales contract)、取扱説明書(instruction manual)等を扱います。</p> <p>なお、右記の授業計画は、授業の進捗状況によって多少の変更があるかもしれません。</p> <p>*注意： 私の担当するもう1つの同一名称科目とは内容が異なります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 春学期の授業内容と授業計画を詳しく説明します。 2 レター・オブ・インテントの意義と目的、作成上の注意点等を説明した後、実際のサンプルを検討します。 3 所与の状況設定に基づき、レター・オブ・インテントを作成する実習を行います。 4 スポット販売契約書(売主側作成)、スポット購買契約書(買主側作成)、および長期売買契約書(両当事者が作成)の意義と目的、作成上の注意点等を説明した後、実際のサンプルの「表面約款」を中心に検討します。 5 同上 6 所与の状況設定に基づき、スポット売買契約書を作成する実習を行います。 7 一般取引条件(いわゆる「裏面約款」)を取り決める意義と目的、作成上の注意点等を説明した後、主要な条件を中心に実際のサンプルを検討します。 8 同上 9 製品の取扱説明書を英語で作成する際の注意点を、製造物責任(Product Liability)の観点から検討します。 10 同上 11 同上 12 春学期の授業の総復習を行います。 	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントを当方で用意します。また、必要な資料も随時配布します。		出席状況、授業貢献度、提出物の提出状況など、平常点を第一の尺度とし、定期試験の結果を加味して決定します。	

	英語ビジネス・コミュニケーション I b (木3)	担当者	杉山 晴信
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>授業の目的と進め方は春学期と同じです。秋学期は、履行と決済の段階に関する代表的な英文の書類として、商業送り状(commercial invoice)、パッキング・リスト(packing list)、輸出申告書(export declaration)、船積指図書(shipping instructions)、保険証券(insurance policy)、輸入申告書(import declaration)、信用状(letter of credit)、船荷証券(bill of lading)、為替手形(bill of exchange)等を扱います。</p> <p>春学期と同様に、専門性の強い多くの英文文書を扱いますので、予備知識はまったく必要ありませんが、履修者にはコンスタントな出席と積極的な授業参加を強く要望いたします。</p> <p>なお、右の授業計画は、授業の進捗状況によって多少の変更があるかもしれません。</p> <p>*注意： 私の担当するもう1つの同一名称科目とは内容が異なります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 秋学期の授業内容と授業計画を詳しく説明します。 2 各種の船積書類(shipping documents)の意義と目的、作成上の注意点等を説明します。 3 各船積書類につき、実際のサンプルを検討した後、所与の状況設定に基づいて作成する実習を行います。 4 通関手続(customs clearance)について詳しく講義した後、輸出申告書と輸入申告書の意義と目的、作成上の注意点等を実際のサンプルを用いて説明します。 5 所与の状況設定に基づき、輸出申告書を作成する実習を行います。 6 所与の状況設定に基づき、輸入申告書を作成する実習を行います。 7 「信用状に基づく荷為替手形」による貿易代金の決済の仕組みについて詳しく講義します。 8 実際のサンプルを用いて、信用状、船荷証券、および為替手形の記載事項を読解する実習を行います。 9 同上 10 海上貨物保険について詳しく説明した後、保険証券の記載事項を読解する実習を行います。 11 同上 12 秋学期の授業の総復習を行います。 	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントを当方で用意します。また、必要な資料も随時配布します。		出席状況、授業貢献度、提出物の提出状況など、平常点を第一に尺度とし、定期試験の結果を加味して決定します。	

	英語ビジネス・コミュニケーション I a (月 1/月 2)	担当者	信 達郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>目的 ビジネス英語という英語はない。要は、ビジネスの現場で使われる英語 (English for business) である。企業に勤務して、痛感することは平均的な英語力の不足で、多忙な業務を通じて英語力伸ばすと言うことはきわめて困難である。やはり、英語力の基本は大学時代に学ぶ必要がある。このコースは、基本的に英語力をつけることをメインにし、最低限度の実務の内容を取り上げる科目である。ビジネスに関しても、自主的に興味を持ち、取り組んでもらう姿勢が求められる。</p> <p>講義概要 基本的に演習科目で、授業の進め方は、宿題と教科書、それにプリント (英文ビジネスコラム) の 3 蘇構成で、参加型の授業である。また、夏休み前の授業では、黒板を使っでの演習が多くなる。将来、企業に就職を希望し、ビジネスセンスをすこしでも養いたいと希望する学生を優先する。担当講師自身の、企業を含め長い英語圏での生活経験、それに昔、アメリカでの MBA 課程で学んだり、教えたりした経験を生かせればと思う。レベル的には、TOEIC の 650 点、英検の準 1 級を目標に定めたい。とにかく明るく、楽しいクラスにしたい。積極的な発言歓迎。なお、授業計画はあくまで取り上げる内容の参考で、進行具合などにより変更がありうる。</p>		<p>下記の授業計画はあくまで暫定的なもので進行状況により変更することがある。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ビジネス英語の特徴 2 プリント① (英文ビジネスコラム) 3 国際取引概略 I 4 プリント② 5 国際取引概略 II 6 プリント③ 7 引合 (inquiry) 8 プリント④ 9 オファー I (offer) 10 プリント⑤ 11 オファー II 12 プリント⑥ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
『マルチトピックのビジネス英語』信 達郎他、南雲堂フェニックス、『ビジネスライターが書ける英単語・例文辞典』、信 達郎著、南雲堂フェニックス		受講姿勢 25%、発表/リサーチレポート 25%。ペーパーテスト 50%。	

	英語ビジネス・コミュニケーション I b (月 1/月 2)	担当者	信 達郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>目的 ビジネス英語という英語はない。要は、ビジネスの現場で使われる英語 (English for business) である。企業に勤務して、痛感することは平均的な英語力の不足で、多忙な業務を通じて英語力伸ばすと言うことはきわめて困難である。やはり、英語力の基本は大学時代に学ぶ必要がある。このコースは、基本的に英語力をつけることをメインにし、最低限度の実務の内容を取り上げる科目である。ビジネスに関しても、自主的に興味を持ち、取り組んでもらう姿勢が求められる。</p> <p>講義概要 基本的に演習科目で、授業の進め方は、宿題と教科書、それにプリント (英文ビジネスコラム) の 3 蘇構成で、参加型の授業である。将来、企業に就職を希望し、ビジネスセンスをすこしでも養いたいと希望する学生を優先する。担当講師自身の、企業を含め長い英語圏での生活経験、それに昔、アメリカでの MBA 課程で学んだり、教えたりした経験を生かせればと思う。レベル的には、TOEIC の 650 点、英検の準 1 級を目標に定めたい。とにかく明るく、楽しいクラスにしたい。積極的な発言歓迎。なお、授業計画はあくまで取り上げる内容の参考で、進行具合などにより変更がありうる。</p>		<p>下記の授業計画はあくまで暫定的なもので進行状況により変更することがある。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 契約 1 (contract) 2 プリント⑦ 3 契約 II 4 プリント⑧ 5 クレーム I (claim) 6 プリント⑨ 7 クレーム II 8 プリント⑩ 9 企業内組織の英語 <p>授業と平行して、10 月下旬からはないしリサーチペーパーの作成を予定。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
『マルチトピックのビジネス英語』信 達郎他、南雲堂フェニックス、『ビジネスライターが書ける英単語・例文辞典』、信 達郎著、南雲堂フェニックス		受講姿勢 25%、発表/リサーチレポート 25%。ペーパーテスト 50%。	

	英語ビジネス・コミュニケーションⅡ a	担当者	杉山 晴信
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>主に貿易取引の当事者間でやりとりされる英語のビジネス通信文を検討しながら、貿易実務に関する一巡の手続き、制度、法令等を学びます。貿易や国際物流に興味のある人、貿易商社への就職を希望する人、日本貿易実務検定協会の貿易実務検定試験や日商ビジネス英語検定試験を目指す人、通関士国家試験の受験を検討している人などに有益な情報を提供できるように、貿易取引の全体にわたって満遍なく勉強することを狙いとしています。</p> <p>春学期には、貿易取引の流れを特に輸出者の視点から時系列的に6つのステージに区分して、右記のように、その前半（貿易マーケティングの段階、取引関係創設の段階、成約段階）を詳しく学習します。</p> <p>使用するテキストは英文ですが、履修者はあらかじめ所定の箇所を丹念に読んでくるものとし、授業はテキストの内容を補助プリントで敷衍する形で進めます。また、固有名詞の変更など若干の調整を加えた現物のビジネス文書（信用調査報告書、一般取引条件、注文書、売約書、インボイス、船荷証券、保険証券、輸出申告書等々）に実際に触れていただき、それらを読解したり、新規に文書を作成したりする実習の機会もできるだけ多くもうけるつもりです。なお、右記の授業計画は、授業の進捗状況によって多少の変更があるかもしれません。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 春学期の授業計画を説明するとともに、履修上の注意事項を伝達します。 2 テキスト Part 1 を読み、貿易の基本概念（比較優位、貿易関係機関、関税、貿易形態など）を学びます。 3 同上 4 テキスト Part 2 を読み、貿易実務の遂行手順を主に輸出者の視点から6つの段階に区分し、概観します。 5 テキスト Part 3 および Part 4 の第1章を読み、ビジネス・コミュニケーションが貿易取引の遂行と促進に果たしている役割を学びます。 6 テキスト Part 4 の第2章と第3章を読み、貿易マーケティングの段階（市場調査、販売戦略調査など）および取引関係創設の段階（取引先の発見、取引の申込み、信用調査など）について学びます。 7 同上 8 同上 9 テキスト Part 4 の第4章～第6章を読み、成約段階（一般取引条件の取決め、インコタームズの定型貿易条件、オファー、注文など）について学びます。 10 同上 11 同上 12 春学期の授業の総復習を行います。 	
テキスト、参考文献		評価方法	
伊東ほか『現代商業英語読本』（英潮社新社）配布プリント		出席状況や授業貢献度といった平常点を第一の尺度とし、定期試験の結果を加味して決定します。	

	英語ビジネス・コミュニケーションⅡ b	担当者	杉山 晴信
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>授業の目的と進め方は春学期と同じです。秋学期は、右記のように、輸出者の視点から時系列的に区分した貿易取引の6つのステージの後半（履行段階、決済段階、クレームおよびクレーム調整の段階）を詳しく学習します。</p> <p>なお、右記の授業計画は、授業の進捗状況によって多少変更があるかもしれません。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 秋学期の授業計画を説明するとともに、履修上の注意事項を伝達します。 2 テキスト Part 4 の第7章を読み、履行段階（船腹予約、輸出申告、輸出許可と輸出承認、各種の船積書類、船積手続きなど）について学びます。 3 同上 4 同上 5 同上 6 テキスト Part 4 の第8章を読み、決済段階（荷為替手形の取組み、為替リスクの回避方法など）について学びます。 7 同上 8 テキスト Part 4 の第9章を読み、海上貨物保険全般（保険者と被保険者、保険金と保険金額、保険料と保険料率、新旧協会貨物約款による各種の保険条件など）について学びます。 9 同上 10 テキスト Part 4 の第10章を読み、クレームおよびクレーム調整の段階（苦情とクレーム、クレームの種類と原因、商事仲裁など）について学びます。 11 同上 12 秋学期の授業の総復習を行います。 	
テキスト、参考文献		評価方法	
伊東ほか『現代商業英語読本』（英潮社新社）配布プリント		出席状況や授業貢献度といった平常点を第一の尺度とし、定期試験の結果を加味して決定します。	

	メディア英語 I a	担当者	W. J. Benfield
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The aim of the course is to develop the necessary receptive and productive skills to analyze and discuss current events and trends in world affairs. We will look at seven major current topics over the course of a year, devoting three classes to each one. (This may change according to the importance of the topic.) Initially, we will analyze each topic through articles drawn from a range of English-language publications or video clips. Further research into the topics will be done for homework, leading to group presentations done in class. We will also look at political cartoons, the language of news and the news process. There will be occasional quizzes on current events.</p> <p>The course will be a one-year course, and students are encouraged to enroll for the whole year, although students who have not taken the Spring semester course will be able to enroll for the second semester.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Course outline; a look at some common media vocabulary 2. Review of main news stories of recent months 3. Topic 1 4. Topic 1 (contd.) 5. Topic 1 (contd.) 6. Topic 2 7. Topic 2 (contd.) 8. Topic 2 (contd.) 9. Topic 3 10. Topic 3 (contd.) 11. Topic 3 (contd.) 12. Review of term's work 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Materials supplied by teacher		Attendance, participation in class activities and a final report	

	メディア英語 I b	担当者	W. J. Benfield
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The aim of the course is to develop the necessary receptive and productive skills to analyze and discuss current events and trends in world affairs. We will look at seven major current topics over the course of a year, devoting three classes to each one. (This may change according to the importance of the topic.) Initially, we will analyze each topic through articles drawn from a range of English-language publications or video clips. Further research into the topics will be done for homework, leading to group presentations done in class. We will also look at political cartoons, the language of news and the news process. There will be occasional quizzes on current events.</p> <p>The course will be a one-year course, and students are encouraged to enroll for the whole year, although students who have not taken the Spring semester course will be able to enroll for the second semester.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Review of main news stories of recent months 2. The news gathering process 3. Topic 1 4. Topic 1 (contd.) 5. Topic 1 (contd.) 6. Topic 2 7. Topic 2 (contd.) 8. Topic 2 (contd.) 9. Topic 3 10. Topic 3 (contd.) 11. Topic 3 (contd.) 12. Review of term's work 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Materials will be supplied by teacher		Attendance, participation in class activities and a final report	

	メディア英語 Ia	担当者	海老澤 達郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「アメリカの文化と国際理解について」をテーマにして一年間授業を進めていきたい。英字新聞の基本的な読み方（英字新聞を読む意義・英字新聞の特徴・Headlineの読み方・Leadの読み方など）を指導すると同時に、アメリカの主要な新聞・雑誌等を使用して、アメリカの権威ある評論家、学者、ベテラン記者が執筆した高い水準の記事を味読し、英字新聞を読む楽しさを指導していきたい。</p> <p>英文を精読・多読することによって現代英語の運用能力をもつきたいと思っている。また、アメリカの文化を勉強することによって、複眼的思考法が身につくよう指導していきたい。</p> <p>尚、詳細については第一回目の授業で説明する。</p>		<ul style="list-style-type: none"> (1) 英字新聞を読む意義について (2) アメリカの大衆文化について（その1） (3) アメリカの家庭について (4) アメリカの大学について (5) アメリカのスポーツについて (6) アメリカの国旗について (7) まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント使用		学期末の試験を中心にして、これに授業への貢献度を参考にして総合的に評価する。	

	メディア英語 Ib	担当者	海老澤 達郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「アメリカの文化と国際理解について」をテーマにして一年間授業を進めていきたい。英字新聞の基本的な読み方（英字新聞を読む意義・英字新聞の特徴・Headlineの読み方・Leadの読み方など）を指導すると同時に、アメリカの主要な新聞・雑誌等を使用して、アメリカの権威ある評論家、学者、ベテラン記者が執筆した高い水準の記事を味読し、英字新聞を読む楽しさを指導していきたい。</p> <p>英文を精読・多読することによって現代英語の運用能力をもつきたいと思っている。また、アメリカの文化を勉強することによって、複眼的思考法が身につくよう指導していきたい。</p> <p>尚、詳細については第一回目の授業で説明する。</p>		<ul style="list-style-type: none"> (1) アメリカの宗教について (2) アメリカの大衆文化について（その2） (3) アメリカのMBA（経営学修士）について (4) アメリカの銃問題について (5) アメリカの妊娠中絶問題について (6) アメリカの死刑制度問題について (7) まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント使用		学期末の試験を中心にして、これにレポート及び授業への貢献度を参考にして総合的に評価する。	

	メディア英語 I a (月3/木4)	担当者	岡田 誠一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>アメリカ国内でのテレビニュースの英語はかなり早い速度である。使われる単語は一音節の短いものが多く、文章は単文が多用される。また、ニュースに緊張感・臨場感を持たせるために、不完全文が使われる傾向がある。このような英語に慣れるため、この授業ではビデオやテープを用いて、アメリカのテレビニュースを聞き取る練習をする。</p> <p>何度も繰り返し聞くことにより、ニュースの内容をより多く把握できるようになることを、授業の目標とする。つまり、メディアで使われる英語に慣れること、英語を聞き取る力を養うこと、がこの授業の目的である。</p>		<p>テキストは 15 課から成り立っているが、I 回に 1 課終わらせ、春学期は 8 課まで進む予定。</p> <p>この他、新聞、ラジオの英語についても学んでいく。また、ヒヤリングの能力を向上させるため、映画のビデオも活用する計画である。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p><i>ABC World News 8</i> 金星堂 参考書は授業において適宜指示する。</p>		<p>出席状況、予習して授業に臨んだか否か、期末の試験、などにより評価が決定される。</p>	

	メディア英語 I b (月3/木4)	担当者	岡田 誠一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期と同じ</p>		<p>秋学期はテキストの 9 課から最後の課まで終わらせる予定。</p> <p>春学期同様、新聞、ラジオの英語についても学ぶ。また、映画のビデオも活用の予定。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>春学期と同じ</p>		<p>春学期と同じ</p>	

	メディア英語 I a	担当者	金子 節也
講義目的、講義概要		授業計画	
日米関係、ハイテク、日欧関係、アジア問題等の専門家・第一人者へのインタビューを中心に、日本の今後の進路と他国との協調共存を考える。テキストのほか、インターネット、英字新聞をはじめ、CNN, ABC, BBC などの英語放送やサブテキストを使って、テキストを renewal する。		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 日米関係 3. 同上 4. 同上 5. 同上 6. 日欧関係 7. 同上 8. 同上 9. 同上 10. アジア関係 11. 同上 12. 同上 	
テキスト、参考文献		評価方法	
I Too, Am a Bit of a Workaholic, but... (テキスト)、ほか		テストと出欠を含む平常点。	

	メディア英語 I b	担当者	金子 節也
講義目的、講義概要		授業計画	
同上		<ol style="list-style-type: none"> 1. 指導者たちの英語 (ブッシュ、ブレアーなど) 2. 同上 3. 同上 4. アジアの英語 (シンガポール、マレーシアなど) 5. 同上 6. 同上 7. 日本人の英語 (小泉首相、長谷川滋利選手など) 8. 同上 9. 同上 10. 共通語としての英語 11. 同上 12. 同上 	
テキスト、参考文献		評価方法	
同上		同上	

	メディア英語 I a	担当者	佐野 康子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本授業の目的は、英語のメディアを通じて現代社会を読み解く英語力を養成することにある。授業では、まず英字新聞、雑誌記事の構成などメディア英語の理解に必要な基本的な知識を学ぶ。その後、リーディング、リスニング、ディクテーション、グループ・ディスカッションなどの実践的な作業を行ってもらう。これらの作業を通じて、メディアで使用される英語に慣れ、メディアを通じて発信される情報を理解するのに必要な英語力の総合的な向上を目指す。</p> <p>指定テキストの他に英字新聞、雑誌記事、インターネット上の文書、またテレビのニュース報道を教材として使用する予定。教材のテーマとしては、現代社会問題を扱う。授業への学生の積極的な参加を促すため、出席ならびに授業への参加状況を重視する。</p> <p>尚、第一週目のオリエンテーションにて授業の詳細を説明する。</p>		<p>1. オリエンテーション</p> <p>2. ~3. 英字新聞、雑誌記事について</p> <p>4. ~12. テキスト (Unit 1~3) 他</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：Tom Power 他『TIMEとCNNで学ぶ総合英語』松柏社、2003年。</p>		<p>出席、授業への参加状況、学期末試験による。</p>	

	メディア英語 I b	担当者	佐野 康子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期と同じ。</p>		<p>1. オリエンテーション</p> <p>2. ~12. テキスト (Unit 4~6) 他</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>春学期と同じ。</p>		<p>春学期と同じ。</p>	

	メディア英語 II a	担当者	A.R. Falvo
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The focus of this course will be to raise the consciousness of students to current events in English through the use of the Internet, the media and the entertainment community in the English speaking world. Music, movies, and world events will all be analyzed both at the linguistic and the supra linguistic level. Students will be expected to make weekly presentations and interviews. By the end of the Spring term students should be able to use POWER POINT for at least one presentation PER TERM! The use of email to submit homework is COMPULSORY. Those who cannot nor will not need not apply to this class.</p>		<p>Introduction Route 66, Weekly Current Event The American RED Cross, Weekly Current Event The Boston Ballet, Weekly Current Event Comedy, Weekly Current Event Political Protest, Weekly Current Event The Yellow Pages, Weekly Current Event The Dangers of Fast Food, Weekly Current Event The JOYS of Italian Cooking, Weekly Current Event Healthy Life Styles, Weekly Current Event Supermarkets, Weekly Current Event Apples in the US Northwest, Weekly Current Event</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
To be determined		Weekly participation in class activities, written assignments submitted by email and other forms of constant evaluation	

	メディア英語 II b	担当者	A.R. Falvo
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The focus of this course will be to raise the consciousness of students to current events in English through the use of the Internet, the media and the entertainment community in the English speaking world. Music, movies, and world events will all be analyzed both at the linguistic and the supra linguistic level. Students will be expected to make weekly presentations and interviews. Students will use POWER POINT for at least one presentation this term. As in the Spring term, students will submit homework by email. Students will be filmed by video camera and will be responsible for one presentation this term in a group project.</p>		<p>Introduction Tennessee, Weekly Current Event The Special Olympics, Weekly Current Event Sports Shoes, Weekly Current Event Charities for Children, Weekly Current Event Health and Comedy, Weekly Current Event Broadway Musical, Weekly Current Event Country Western Singers, Weekly Current Event Space Exploration, Weekly Current Event Video Taping of Group Project Part One Video Taping of Group Project Part Two Critique of the Group Projects</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
To be determined		Weekly participation in class activities, written assignments submitted by email and other forms of constant evaluation	

	メディア英語Ⅱa	担当者	川島 浩美
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><講義の目的> 様々なメディアで記述・報道されている内容を参照・比較して、各トピックに関しての理解を深めていきます。 事実の把握と共に、書き手の視点を分析していく姿勢を身に付けることを目的とします。</p> <p><講義概要> ひとつのトピックにつき、複数の記事（必要に応じて番組）を数回に分けて扱います。それぞれの最終回では、学生からも情報を提供してもらい、それを授業で取り上げていきます。 記事等の概要を掴む作業を中心とし、目的・文献の種類による効率的な読み方などを必要に応じて解説していきます。</p>		<p>初回は、授業形式についての説明や、取り扱う雑誌等について解説します。 2回目以降、各トピックに関する情報を扱っていきます。取り上げるトピックは健康、最先端医療、科学技術、異文化問題、国際情勢など。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
各種雑誌(<i>Readers' Digest</i> , <i>The Economist</i> など)および新聞記事、BBC ニュースなど		授業への参加度とレポートによる総合評価 レポートは、比較的・批評的視点と構成を重視します。	

	メディア英語Ⅱb	担当者	川島 浩美
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期に同じ。		上記に同じ。取り扱うトピックについては、学生からの希望を含めます。	
テキスト、参考文献		評価方法	
各種雑誌(<i>Readers' Digest</i> , <i>The Economist</i> など)および新聞記事、BBC ニュースなど		授業への参加度とレポートによる総合評価 レポートは、比較的・批評的視点と構成を重視します。	

	シネマ英語 a	担当者	岡田 誠一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>映画を通してアメリカ文化とは何かを知り、同時に英語の読解力を養っていく、これがこの授業の目的である。今年度は映画製作、宣伝、アカデミー賞、映画館などについて学ぶ。</p> <p>テキストの他に映画に関する研究書からの抜粋も随時使う予定である。</p> <p>映画が好きなことが、この授業を受ける上での必須条件となる。</p> <p>年間、過去の名画を数本鑑賞の予定。</p> <p>毎回、必ず予習をして授業に臨んでもらいたい。</p>		<p>Monster-makers The 'Boo moment' Stunts, fires and explosions Fights and bullets Working models Flying Weather Making a movie Development Preproduction Casting</p> <p>などを中心に学んでいく。</p> <p>その他、原書からの抜粋も精読の予定である。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p><i>The Amazing History of Cinema</i> 成美堂</p> <p>参考文献は授業中に適宜指示する。</p>		<p>出席状況、予習をして授業に臨んだか否か、前後期の試験、などにより評価が決定される。</p>	

	シネマ英語 b	担当者	岡田 誠一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期と同じ</p>		<p>Set design The director Costume Production Make-up Continuity Post-production Publicity The Oscars Cinemas</p> <p>について学ぶ。春学期同様研究書からの抜粋も利用の予定。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>春学期と同じ</p>		<p>春学期と同じ</p>	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

	シネマ英語 b	担当者	高橋 雄一郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>コンピューターLL教室を使ったリスニングの練習が中心になる。</p> <p>一本の映画を最初から最後まで観るので、一回の授業では10分程度のセグメントを用いることになる。</p> <p>オーストラリアで1960年代までおこなわれていた、アボリジニの子供たちを親から引き離し、寄宿学校に入れて白人文化への同化を強要しようとした、いわゆる「ストールン・チルドレン」の問題を扱った <i>Rabbit Proof Fence</i> を教材として考えているが、現在ビデオが入手できていないので、変更になる可能性もある。</p> <p>変更の場合にも、同じように社会性の強い作品を採用する。リスニングと並行して、背景についての調査、文献の講読、英語によるディスカッションと作文も取り入れる。</p> <p>リスニングにおいて音声だけで聞き取れる部分は少ない。総合的な英語力に加えて背景の知識が必要なことを認識した上で受講して欲しい。</p>		<p>毎週10分程度のセグメントを学習する。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>教材の作品名と簡単な紹介は、9月中旬に教務課掲示板に掲示します。8月下旬まで在外研修で日本にいないので、申し訳ありませんが、それまで待ってください。</p>		<p>毎回、授業中におこなうリスニングの練習が中心となる。その他、いくつか日本語と英語による短い課題を提出してもらう予定。また、授業態度の積極性を加味する。</p>	

02年度以前	ドイツ語ⅢB [文章表現法]	担当者	田島 加奈子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>学生の日常生活をテーマにしたドイツ語の対話を参考にして練習し、実際に会話ができるよう、また、ドイツ語のテキストを読んで理解できるようにしたい。ドイツ語で表現するためにパートナー練習を通して会話の練習をするので積極的に参加してほしい。下記のテキストだけを読むのではなく他のテーマのテキストも取り入れたい。</p>		<p>1～2 今までの復習 2～4 祖父のタイムマシン 名詞の2格・序数 5～6 私の人生 動詞の三基本形 7～8 私はカバンをなくしました 形容詞の格変化 9～10 日本で一番美しい町 形容詞の比較級・最上級 11～12 ゴローは病気です 再帰動詞 (1)・非人称の表現</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
モデル2 問題発見のドイツ語 (三修社)		出席。口頭試験、筆記試験	

02年度以前	ドイツ語ⅢB [文章表現法]	担当者	田島 加奈子
講義目的、講義概要		授業計画	
同 上		<p>1～2 いっしょに行く気ある? z u不定句 (1) 2～4 日本でのヴィースマン氏 再帰動詞 (2) z u不定句 (2) 5～6 キャンパスからのレポート 受動文 7～8 私は本当に愛している女性と結婚するつもりです 関係代名詞・形容詞の名詞化 9～10 プリンターがこわれている 接続法Ⅱ式 外交的用法 11～12 何をしたいですか 接続法Ⅱ式 非現実の表現</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
同 上		同 上	

02年度以前	フランス語Ⅲ	担当者	近江屋 志穂
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業では、フランス語のテキストの講読を行います。手ごたえのあるフランス語の文章が読めるようになることを目標とします。</p> <p>また、テキストの講読を通して、グローバルな視点からフランスの文化を理解することを目指します。教材として用いる『Passages』は、フランス本国だけでなく、アジア、アフリカ、地中海、カリブ海なども視野に入れています。フランスの文化、歴史は、周辺のヨーロッパ諸国だけでなく、こうした地域の民族、宗教との葛藤と共存において形成されているのです。</p> <p>授業は訳読形式ですが、必要に応じて文法事項を復習します。また、音読や聞き取りの練習も行い、できるだけ総合的なフランス語力が身につけられるよう配慮したいと思います。</p> <p>8章からなる教材のテキストはそれぞれ独立していますので、受講者の皆さんの関心と理解度に応じて、選択的に講読していきたいと思います。</p>		<p>1 ガイダンス</p> <p>2～12 選択したテキストを講読します。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
『Passages – De France et d'ailleurs』、東京大学出版会		原則として、平常点（出席、予習）によって成績評価を行います。詳しくは受講者の人数によって決めます。	

02年度以前	フランス語Ⅲ	担当者	近江屋 志穂
講義目的、講義概要		授業計画	
同上。		1～12 春学期の方法に従い、テキストの講読を行います。	
テキスト、参考文献		評価方法	
同上。		春学期の方法に従います。	

02年度以前	スペイン語Ⅲ	担当者	北岸 団
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>スペイン語Ⅰ・Ⅱを一通り終了した者を対象とした授業です。</p> <p>この授業では、スペインで発行されているスペイン語学習者向け短編小説、「探偵ペペ・レイ」シリーズを読んで行きます。初級文法で得られた知識で十分楽しみながら読んでいけるレベルのものです。</p> <p>ただ、日本人向けに編集されているものではないので、初級文法では対応できない箇所（命令法、接続法過去など）がでてきますが、こうした点については必要に応じて文法的解説を加えていきます。</p> <p>初回授業でプリントを配布します。</p> <p>履修者は、次回授業までに特定された範囲まで下調べをし、授業時に発表（読み、訳出）することになります。</p>		<p>第1回 授業の進め方、プリント配布</p> <p>第2回以降 同プリント講読、発表</p> <p>最終回 試験</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント		試験と発表状況	

02年度以前	スペイン語Ⅲ	担当者	北岸 団
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>スペイン語Ⅰ・Ⅱを一通り終了した者を対象とした授業です。</p> <p>メキシコで発行されているメキシコの歴史を読んでいき、スペイン語で知識を得ることを目標とします。</p> <p>講読対象が歴史であるため、過去形（点過去、線過去、大過去など）が中心となります。</p> <p>必要に応じて、文法的解説と内容の解説を行います。</p> <p>初回授業でプリントを配布します。</p> <p>履修者は、次回授業までに特定された範囲まで下調べをし、授業時に発表（読み、訳出）することになります。</p>		<p>第1回 授業の進め方、プリント配布</p> <p>第2回以降 同プリント講読、発表</p> <p>最終回 試験</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント		試験と発表状況	

02年度以前	フランス語会話 I	担当者	L.Fontaine
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Conversation</p> <p>Ce cours a un double but: offrir aux étudiants l'occasion de parler en français et développer leur compréhension auditive.</p> <p>À chaque cours, les étudiants écouteront deux dialogues, répondront à des questions sur ces dialogues et prépareront ensuite, en groupes de deux ou trois, des scènes reliées à ces dialogues. Les étudiants joueront ensuite les scènes imaginées devant leurs camarades.</p>		<p>最初の授業で説明します。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p><u>Exercices d'oral en contexte</u>, Niveau intermédiaire Hachette Livre 2002</p>		<p>Evaluation: Il y aura un examen écrit et un examen oral en juillet et en janvier. L'assistance aux cours et la participation aux cours seront aussi prises en considération.</p>	

02年度以前	フランス語会話 I	担当者	L.Fontaine
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Conversation</p> <p>Ce cours a un double but: offrir aux étudiants l'occasion de parler en français et développer leur compréhension auditive.</p> <p>À chaque cours, les étudiants écouteront deux dialogues, répondront à des questions sur ces dialogues et prépareront ensuite, en groupes de deux ou trois des scènes reliées à ces dialogues. Les étudiants joueront ensuite les scènes imaginées devant leurs camarades.</p>		<p>最初の授業で説明します。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p><u>Exercices d'oral en contexte</u>, Niveau intermédiaire Hachette Livre 2002</p>		<p>Evaluation: Il y aura un examen écrit et un examen oral en juillet et en janvier. L'assistance aux cours et la participation aux cours seront aussi prises en considération.</p>	

02年度以前	スペイン語会話 I (総合)	担当者	J.Ferreras
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>日本語にないスペイン語の独特な「音」を一人一人にくりかえさせて、スペイン語らしい発音ができるようにするとともに聞き取り能力を養成する。</p> <p>スペイン語とともにボディーラングエジになれること。</p> <p>ビデオを用いながら会話、文化（世界遺産、生活、習慣など）を紹介。</p>		<p>季節ごとのスペイン語圏の国々の祝日、記念日、行事、慣習（イースター、学生の日、死者の日、など）をビデオや写真によって学ぶこと。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
本を使わず、その都度担当者が作成。		出席、授業への積極的な参加、小テストによる。	

02年度以前	スペイン語会話 I (総合)	担当者	J.Ferreras
講義目的、講義概要		授業計画	
同上		同上	
テキスト、参考文献		評価方法	
同上		同上	

	言語情報処理 I a	担当者	木村 恵
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[講義目的] コンピュータ・データベース化された大規模英語資料 (英語コーパス, 以下コーパス)について, その</p> <p>(1) 歴史と種類 (2) 言語学研究, SLA 研究, 言語教育への利用例 (3) 処理・分析方法 を学ぶことを目的とする.</p> <p>[講義概要] 毎回の授業の 1/3 を講義, 2/3 を実習に充てる. 受講者はコーパスについて学習することが初めてだという前提だが, インターネットの使用やテキストファイルの作成, ソフトウェアのインストールなど, 基本的なパソコンの操作を知っていることが望ましい.</p>		<p>25. オリエンテーション 26. コーパスとは (1) 27. コーパスとは (2) 28. コーパスとは (3) 29. コーパスの利用例 (1): 言語学研究 30. コーパスの利用例 (2): SLA 研究 31. コーパスの利用例 (3): 言語教育 32. コーパスの作成方法 (1) 33. コーパスの作成方法 (2) 34. コーパスの処理・分析方法 (1): キーワード抽出 35. コーパスの処理・分析方法 (2): 単語リスト作成 36. まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストは使用しない. 参考文献:『英語コーパス言語学—基礎と実践 (改訂新版)』 齊藤俊雄, 中村純作, 赤野一郎(編), 2005, 研究社.</p>		<p>試験は行わない. (1) 出席, (2)授業中の作業への積極的な参加・貢献度から総合的に判断する.</p>	

	言語情報処理 I b	担当者	木村 恵
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[講義目的] 春学期で学習したことを踏まえ, より深いコーパスの種類, 利用方法, 処理・分析方法の理解を得ることを目的とする. また, 後半は自分の興味に即した, コーパスを用いた研究を一つ行う.</p> <p>[講義概要] 英語母語話者の大規模コーパスの例として British National Corpus (BNC), 英語学習教材コーパスの例として中学・高校の検定教科書コーパス, 日本人英語学習者のコーパスの例として NICT JLE Corpus の 3 つの概要とその処理・分析方法を学ぶ. その後, 受講者それぞれの興味によって既存/自作のコーパスを用いた研究を行う. 重要なのは, コーパスそのものやその処理・分析方法が, どのような英語研究, 資料の作成に有効なのかを考え, 実践を試みること.</p>		<p>13. オリエンテーション 14. BNC (1) 15. BNC (2) 16. 教科書コーパス (1) 17. 教科書コーパス (2) 18. NICT JLE Corpus (1) 19. NICT JLE Corpus (2) 20. (個別に) 研究テーマ, 方法の検討 (1) 21. (個別に) 研究テーマ, 方法の検討 (2) 22. 研究発表 (1) 23. 研究発表 (2) 24. 研究発表 (3), まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストは使用しない. 参考文献:『英語コーパス言語学—基礎と実践 (改訂新版)』, 『日本人 1200 人の英語スピーキングコーパス』アルク.</p>		<p>試験は行わない. (1) 出席, (2)授業中の作業への積極的な参加・貢献度, (3) 研究, 発表から総合的に判断する.</p>	

	言語情報処理 I a	担当者	吉成 雄一郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義は英文データベース(以下コーパス)の構築 (テキスト処理の方法、データの蓄積, 検索, および統計的処理) とその分析を通じて、基本的な情報処理の概念を学ぶことを目的とする。英語とコンピュータの両方に関心があり、その関係を学んでみようとする学生向けの講義である。</p> <p>年間の講義の前半(言語情報処理 I a)は、Microsoft Excel(以下 Excel)の基本的機能および関数を中心とした利用方法を学ぶ。後期に Excel を使って言語処理を行うための準備である。コーパスの分析には専用のソフトウェアがいくつか開発されている。それらのツールは特定の処理には適しているものの、汎用性がなく、また自由な発想からの分析には向いていない。この講義ではそのようなツールを使うのではなく、あえて汎用性のある表計算ソフトウェアを使う。その理由は各自の創造力でより自由な処理, 研究が可能となるからである。同時に if 関数などをネストした関数式を考えることは、論理的な思考力を養う。さらに Excel の汎用性は言語処理に限るわけではないので、様々な場面で活用できるであろう。</p>		<p>1 講義のガイダンス：言語情報処理とは何か</p> <p>2 言語情報処理とコーパス・表計算一巡り</p> <p>3 計算(計算式、計算式のコピー、セルの相対参照、絶対参照等)</p> <p>4 Excel 関数(算術・統計関数を中心に)</p> <p>5 Excel 関数(文字列操作関数を中心に)</p> <p>6 Excel 関数(論理関数を中心に)</p> <p>7 Excel 関数のネスト</p> <p>8 データベース処理(並べ替えと集計・レコードの抽出および条件検索)</p> <p>9 データベース処理(クロス集計とピボットテーブル)</p> <p>10 データベース上のデータの蓄積方法</p> <p>11 自家製コーパスの構想を練る：データ収集の方法など</p> <p>12 演習</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト、参考文献は授業中に随時紹介する。また本講義用ホームページ (http://www.yuchan.com/~gengojoho/) を参照すること。</p>		<p>学期末試験および2回程度の小レポートおよび出席を加味して行う。</p>	

	言語情報処理 I b	担当者	吉成 雄一郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義は英文データベース(以下コーパス)の構築 (テキスト処理の方法、データの蓄積, 検索, および統計的処理) とその分析を通じて、基本的な情報処理の概念を学ぶことを目的とする。</p> <p>本講義の前半(言語情報処理 I b)は、前期に学んだ Excel の知識を活用して、学生一人一人が自分だけの「自家製コーパス」を作る。同時にコーパス言語学の基礎的な知識を得る。素材の集め方から、コーパスの構築の仕方、および Excel で KWIC Concordance を実現する手法、および統計的な処理方法を学ぶ。本講義の後半は、コーパス以外の言語分析を学ぶ。文体をコンピュータで分析する試みや語彙の使われ方をコンピュータで見るとどのようなことが分かるのかなどを実際に文献をコンピュータを使って分析しながら学んでいく。</p> <p>本講義はいくつかのケース・スタディを紹介し、コンピュータから見た英語の特徴を様々な角度から探っていく。最後に各自で作ったコーパスや集めた言語資料を使って、各自リサーチ課題を設定し、レポートにまとめる。本講義で構築した自分専用のコーパスは、講義終了後も生の言語レファレンスとして活用できる貴重な情報源となるだろう。</p>		<p>1 講義のガイダンス：コーパスとその応用</p> <p>2 Access 上にデータを格納</p> <p>3 Access のデータを引き出して Excel で分析</p> <p>4 コンコーダンスの利用(1)：コロケーションを調べる(MI-Score)。</p> <p>5 コンコーダンスラインの利用(2)：コロケーションを調べる(t-score)。</p> <p>6 品詞情報のタグ付け：各単語に品詞のタグをつけて、より精密な分析を試みる。また、自動タグ付けも試みる。</p> <p>7 タグ付けされたテキストの分析：品詞情報のタグ付けがされたテキストを分析する。</p> <p>8 最先端のコーパスの現状：体験アクセス</p> <p>9 「文体」をどうとらえるか。一文の長さ</p> <p>10 文の長さが意味するもの—標準偏差・変動係数</p> <p>11 語彙密度・K 特性値</p> <p>12 まとめと演習</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト、参考文献は授業中に随時紹介する。また本講義用ホームページ (http://www.yuchan.com/~gengojoho/) を参照すること。</p>		<p>学期末レポートおよび2回程度の小レポートおよび出席を加味して行う。</p>	

	言語情報処理Ⅱa	担当者	吉成 雄一郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義は、言語情報処理Ⅰよりもやや高度な情報処理技術および言語処理への応用を扱う。言語情報処理Ⅰで学んだ Excel とそれを利用した言語分析をさらに発展させていく。英語とコンピュータの両方に関心があり、深く学んでみようと考える学生向けの講義である。</p> <p>具体的には、Excel のマクロ言語である VBA(Visual Basic for Applications)を使ってプログラミングの基本をまず学習し、その後、その知識を使って言語分析ツールや e-ラーニング、また実用システムを構築できることを目指す。特に言語情報処理Ⅱa では VBA の基礎学習が主となるが、これは言語情報処理Ⅱb の準備でもある。特に英語の分析・教育・学習への応用を念頭に置いた講義内容とするが、修得したプログラミング技術は、自分のアイディア次第で様々な場面で応用ができるだろう。その意味で VBA の修得は講義終了後も貴重な知識として役立つだろう。</p> <p>* 言語情報処理Ⅱは言語情報処理Ⅰを履修済みであるか、Excel の基本が理解できていることが必要である。</p>		<p>1 講義のガイダンス・言語情報処理の基本概念と本講義の概要</p> <p>2 自動記録によるマクロの作成と実行</p> <p>3 VBE(Visual Basic Editor)の使い方と簡単なマクロ作成</p> <p>4 VBA の基本概念</p> <p>5 変数の使い方と計算</p> <p>6 セルの扱い方(選択・絶対参照・相対参照)</p> <p>7 条件による分岐(1) : If...Then...Else...End If ステートメント</p> <p>8 条件による分岐(2) : With ステートメント</p> <p>9 条件による分岐(3) : 複数の条件による分岐</p> <p>10 条件による分岐(4) : 条件が多い時の分岐</p> <p>11 Select Case ステートメント</p> <p>12 処理の繰り返し(1) : Do While...Loop</p> <p>13 処理の繰り返し(2) : Do ...Loop と Exit Do ステートメント</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>若山芳三郎著『学生のための Excel VBA』東京電機大学出版局 2004 年 本講義用サイト(http://www.yuchan.com/~gengojoho/)</p>		<p>学期末試験および2回程度の小レポートを加味して行う。</p>	

	言語情報処理Ⅱb	担当者	吉成 雄一郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義は、言語情報処理Ⅰよりもやや高度な情報処理技術および言語処理への応用を扱う。言語情報処理Ⅰで学んだ Excel とそれを利用した言語分析をさらに発展させていく。</p> <p>具体的には、Excel のマクロ言語である VBA(Visual Basic for Applications)を使ってプログラミングの基本をまず学習するが、特にⅡb では、始めにⅡa に引き続き VBA のプログラミング技法の修得に焦点を当てる。その後、言語に関連したマクロを作ってみる。たとえば言語分析ツールや e-ラーニング等、各自のアイディアでオリジナルのマクロを作ってそれをレポートとして発表してもらおう。</p> <p>言語情報処理Ⅱでは、コンピュータと言語との関わりを言語情報処理Ⅰよりもやや広い視野で捉えることとする。言語情報処理Ⅰでは主に言語分析のためにコンピュータを利用することを考えたが、言語情報処理Ⅱでは、それだけでなく英語教育への応用や文書作成支援などをコンピュータで実現する方法を考える。</p> <p>本講義の最終的な目的は、言語をコンピュータで情報処理するという「視点」を持つことである。</p>		<p>1 講義のガイダンス : Ⅱa で学んだことの復習</p> <p>2 処理の繰り返し(3) : For...Next ステートメント</p> <p>3 イベントプロシージャと Sub プロシージャ</p> <p>4 配列</p> <p>5 ユーザーインターフェース(1) : メッセージボックスの表示</p> <p>6 ユーザーインターフェース(2) : ユーザーフォームの作成(その1)</p> <p>7 ユーザーインターフェース(2) : ユーザーフォームの作成(その2)</p> <p>8 関数の利用</p> <p>9 ピボットテーブルによる集計・データベース</p> <p>10 プログラミング演習(1) : e-ラーニング・マクロを作ろう</p> <p>11 プログラミング演習(2) : 語彙リスト作成マクロを作ろう</p> <p>12 プログラミング演習(3) : 言語分析マクロを作ろう</p> <p>13 まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>若山芳三郎著『学生のための Excel VBA』東京電機大学出版局 2004 年 本講義用サイト(http://www.yuchan.com/~gengojoho/)</p>		<p>学期末レポートおよび2回程度の小レポートを加味して行う。</p>	

	統語論 a	担当者	鈴木 英一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的: 英語の文がどのような語順と構造をもち、それが英語の音と意味との関連づけにどのような役割を果たしているかを考えることを目的とし、まず、英語の構造の一般的特徴を考察し、生成文法の研究成果を踏まえ、英語の重要な構文の特徴を検討する。</p> <p>講義概要: まず、統語論が言語学の中で言語のどのような特徴をどのように説明するかを学習する。それを踏まえて、近年の言語研究とくに生成文法理論による統語研究の成果を踏まえて書かれた、さまざまな文に関する説明を取り上げる。具体的には、受動文、使役構文、転位文、存在文、疑問文、感嘆文、関係詞節、繰り上げ構文、否定文などに関する説明を学ぶ。この中で、英語の文の統語構造を説明する際にはどのようなことが必要になるかを考える。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 統語論とは何か 2. 文の基本的な特徴 3. 受動文：普遍性と多様性、統語分析と意味の問題 4. 使役構文：補部構造の二義性、補部の VP-shell 分析 5. 語順と転位文：転位文と後置文、R-転位文と移動制約 6. 存在文：there の特徴、意味上の主語、存在文の動詞 7. 疑問文：主語・助動詞の倒置、Wh 移動の条件 8. 感嘆文 9. 関係詞節：定関係詞節と不定関係詞節、自由関係詞節 10. 補文構造と繰り上げ構文 11. 述語構造：統語構造上の特徴、叙述規則 12. 否定：否定の作用域否定の作用域と焦点 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト： 斎藤武生・原口庄輔・鈴木英一(編)(1995)『英作文法への誘い』(開拓社) 参考書： 鈴木英一(1990)『統語論』(開拓社)。</p>		<p>出席状況、授業における平常点、期末試験の成績を総合して評価する。なお、単位の認定には授業回数の 2/3 以上の出席が必要とされる。</p>	

	統語論 b	担当者	鈴木 英一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的: 生成文法の目標と基本的な理論的枠組みを学習し、英語の統語構造に関する生成文法による分析を考察することによって、英語の統語論に関する知識を深める。</p> <p>講義概要: 春学期における統語論の基本的な知識を踏まえて、秋学期では、生成文法理論による統語研究の概要を学ぶ。特に、生成文法理論は人間の言語能力の解明を目指すという点において認知科学である点を理解する。次に、具体的に生成文法理論の基本的な概念を学ぶ。具体的な統語分析に関しては、文の構成要素、構成要素間の構造的な関係、指示要素の束縛関係について学ぶ。これを踏まえて、英語の基本的な文構造、名詞句の移動によって派生される文、Wh要素の移動によって派生される文、さらに、名詞句やWh要素の移動を制約する条件について考える。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Generative Approach to Syntax 2. Fundamental Concepts of Generative Syntax (1) 3. Fundamental Concepts of Generative Syntax (2) 4. Elements of Sentence 5. Phrase Structure of Sentence 6. Structural Relations of Sentence Elements 7. Binding Relations 8. Theory of Basic Sentence Structures 9. NP-Movements 10. Conditions on NP-Movements 11. Wh-Movements 12. Conditions on Wh-Movements 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト： Andrew Carnie (2002) <i>Syntax: A Generative Introduction</i>. Oxford: Blackwell. 参考書：長谷川欣佑(2004)『生成文法の方法』(研究社)</p>		<p>出席状況、授業における平常点、期末試験の成績を総合して評価する。なお、単位の認定には授業回数の 2/3 以上の出席が必要とされる。</p>	

	意味論 a	担当者	小早川 暁
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>意味論の基本概念を習得することと、それをを用いて、実際に言語データを分析できるようになることをめざす。分析の対象となる言語は、英語と日本語である。また、英語で書かれたテキストを丹念に読むことにより、読解力の向上を図り、同時に、日本語そのものに対する理解を深めることも目標としたい。</p> <p>下記のテキストの第1章から第3章の内容を講義する。</p> <p>第1章 Basic ideas in semantics (1頁から33頁)</p> <p>第2章 From reference ... (34頁から88頁)</p> <p>第3章 ... to sense (89頁から129頁)</p>		<p>1章あたり、4回の授業をあてる予定である。必要に応じて、テキストの内容を取捨選択、補足する。テキストには、多くの練習問題が付されているので、折に触れて、テストを実施する。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>Hurford, James R. and Brendan Heasley (1983) <i>Semantics: A Course Book.</i> Cambridge: Cambridge University Press.</p>		<p>出席状況、授業態度、テスト、学期末のレポート課題などにより総合的に評価する。</p>	

	意味論 b	担当者	小早川 暁
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>意味論の基本概念を習得することと、それをを用いて、実際に言語データを分析できるようになることをめざす。分析の対象となる言語は、英語と日本語である。また、英語で書かれたテキストを丹念に読むことにより、読解力の向上を図り、同時に、日本語そのものに対する理解を深めることも目標としたい。</p> <p>下記のテキストの第4章から第6章の内容を講義する。</p> <p>第4章 Logic (130頁から176頁)</p> <p>第5章 Word meaning (177頁から231頁)</p> <p>第6章 Interpersonal meaning (232頁から288頁)</p>		<p>1章あたり、4回の授業をあてる予定である。必要に応じて、テキストの内容を取捨選択、補足する。テキストには、多くの練習問題が付されているので、折に触れて、テストを実施する。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>Hurford, James R. and Brendan Heasley (1983) <i>Semantics: A Course Book.</i> Cambridge: Cambridge University Press.</p>		<p>出席状況、授業態度、テスト、学期末のレポート課題などにより総合的に評価する。</p>	

	音声・音韻論 a	担当者	大西 雅行
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>目的：音声言語の研究には、実際の音声を正確に観察、記述、機構を解明する分野と、言語体系に占める役割、機能、音構造を解明する分野がある。前者は音声学、後者は音韻論と、言語研究の中では分けてはいるが、両者とも研究対象は言語音である。本講義でも音声学と、音韻論とに分けて、扱う。</p> <p>概要：春学期は調音音声学、音響音声学、聴覚音声学の各分野からの研究を解説する。</p>		<p>Basic component of speech Phonation and articulation Source-filter theory Neuromuscular phase International phonetic alphabet Consonants I Consonants II Two types of co-articulation Vowels I Vowels II Prosodic features Stress Intonation, duration</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>P. Roach: English Phonetics and Phonology. A.S. Gimson: An Introduction to the Pronunciation of English. J.C. Catford: A Practical Introduction to Phonetics</p>		<p>期末のテストの得点</p>	

	音声・音韻論 b	担当者	大西 雅行
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>目的：音声言語の研究には、実際の音声を正確に観察、記述、機構を解明する分野と、言語体系に占める役割、機能、音構造を解明する分野がある。前者は音声学、後者は音韻論と、言語研究の中では分けてはいるが、両者とも研究対象は言語音である。本講義でも音声学と、音韻論とに分けて、扱う。</p> <p>概要：秋学期は生成音韻論、自律分節音韻論、韻律音韻論、語彙音韻論などを講義する。</p>		<p>The phoneme Distinctive features Phonological representation Phonological process Naturalness and strength Interaction between rules The abstractness of underlying representations The syllables Generative Phonology Autosegmental phonology Metrical phonology Lexical phonology</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>F. Katamba: An introduction to Phonology. R. Hogg & C.B. McCully: Metrical Phonology. C. Gussenhoven and H.Jacobs: Understanding Phonology.</p>		<p>期末のテストの得点</p>	

04 年度以前	英語史 a	担当者	毛利 秀高
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>アングロ・サクソン人がイングランドに登場したのは 5 世紀半ばのことである。それから今日まで、すなわち千五百年以上もの間、英語はどのように変化・発達したのであろうか。英語史はこのテーマで授業が進められる。授業ではできるだけ多くのビデオを使用してわかり易く興味ある講義にするつもりである。古英語(c450~1100)の章では、英語の最古の詩とされる「キャドモンの賛歌」(Caedmon's Hymn)をそのエピソードと共に紹介したい。</p>		<p>I. 英語が属している語族 (1) インド・ヨーロッパ語族 (2) ゲルマン諸語の特徴</p> <p>II. 古英語 (c450~1100) (1) ゲルマン人のブリテン島への侵入 (2) キリスト教の伝来 (3) 古英語の発音と文法 (4) ヴァイキングの来襲とその影響</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
フェルナン・モセ著『英語史概説』 (開文社)		出席、試験	

04 年度以前	英語史 b	担当者	毛利 秀高
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>中英語(1100~1500)の章では「カッコウの歌」 (Cuckoo Song)とチョーサーの『カンタベリー物語』の一節を鑑賞する。</p> <p>近代英語 (1500~現在) の章では近代英語の初期の代表作シェイクスピアの作品を断片的に読む。そして当時のスペリングや発音を学ぶ。さらにこの時代に進行中であった大母音推移の説明をする。また英語の新大陸への進出がある。近代英語期は語彙の増大が特徴的であった。秋学期はこのような事柄を取り扱う。</p>		<p>III. 中英語 (1100~1500) (1) ノルマン人によるイングランド征服・その影響 (2) 中英語の発音と文法 (3) Cuckoo Song (4) Chaucer, <i>Canterbury Tales</i> の一節</p> <p>IV 近代英語(1500~現代) (1) シェイクスピアの英語 (2) 大母音推移 (3) 英語の新大陸への進出 (4) 語彙の増大</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
同上		同上	

	英語学特殊講義 a	担当者	府川 謹也
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>前置詞 to の意味って何だろう。辞書を引くと「方向」「到達」「状態の変化」「動作の対象」「目的・結果」「限界」「結合・随伴」「比較・対照」「対応・関連」等さまざまな定義が載っている。では「方向」を表すのであれば、for とは違うのであろうか。He ran {to/for} the hills. では両方言えても、The ball rolled {to/*} for the wall. では両方に違いが出てくる。また、He threw the ball to Joe.だとジョーがボールを受け取ったと解釈するのがふつうのようだけど、本当にボールはジョーのところまで届いたのだろうか。もし届いたとするならば、He threw the ball to Joe, but the ball went wide and he couldn't catch it.とは言えないはずだけど……。真相は？さらに、「原因」(shout for joy)も「目的」(fight for peace)も同じ for を使う。多義性というのはイメージの連想なのだろうか？</p> <p>この講義では英語の前置詞の意味を、認知言語学、意味づけ論、関連性理論の見地から分析していく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 認知言語学の基本概念 2. 続き 3. 多義性の分析例 (at, in) 4. over 5. 続き 6. 日本語の空間辞 (に、で、から、まで、へ) の意味づけ論 7. 続き 8. 関連性理論について 9. with 10. with 11. by 12. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント		試験と平常点によるが、受講者数によっては出欠も考慮する。	

	英語学特殊講義 b	担当者	府川 謹也
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期に続き、英語のその他の前置詞の意味論的分析を試みる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに 2. to 3. 続き 4. for 5. 続き 6. 続き 7. through 8. 続き 9. 続き 10. その他の前置詞 11. 続き 12. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント		試験と平常点によるが、受講者数によっては出欠も考慮する。	

	英語学文献研究 a	担当者	小早川 暁
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ここでの主要な目的は、英語学（英語を対象とする言語学）に関する知識を単に増やすことではなく、英語学という知的営みに参加できるようになることである。先行研究の正確な理解に必要な読みの技術、単なる揚げ足取りでない問題点の指摘の仕方、有意義な問題設定の仕方、説得力のある議論の仕方、口頭発表の技術などを身につけることを目標とする。</p>		<p>下記のテキストの第4章“Verbs and Times”を一行一行丹念に読み進めながら講義する。なお、ここでいう「読み」とは、「情報として読む」ということではなく、「古典として読む」ということである。（この二通りの読みについては、内田義彦の『読書と社会科学』（岩波新書）を参照。）</p> <p>受講生が少ない場合には、学期の後半は、演習形式で行ないたい。受講生は、あらかじめ割り当てられた部分について、著者の主張のまとめ、問題点の指摘、代案などを中心に発表し、その後、全員で討論する。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>Vendler, Zeno (1967) <i>Linguistics in Philosophy</i>. Ithaca, New York: Cornell University Press.</p>		<p>出席状況、授業態度、テスト、学期末のレポート課題などにより総合的に評価する。</p>	

	英語学文献研究 b	担当者	小早川 暁
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ここでの主要な目的は、英語学（英語を対象とする言語学）に関する知識を単に増やすことではなく、英語学という知的営みに参加できるようになることである。先行研究の正確な理解に必要な読みの技術、単なる揚げ足取りでない問題点の指摘の仕方、有意義な問題設定の仕方、説得力のある議論の仕方、口頭発表の技術などを身につけることを目標とする。</p>		<p>下記のテキストの第5章“Facts and Events”を一行一行丹念に読み進めながら講義する。なお、ここでいう「読み」とは、「情報として読む」ということではなく、「古典として読む」ということである。（この二通りの読みについては、内田義彦の『読書と社会科学』（岩波新書）を参照。）</p> <p>受講生が少ない場合には、学期の後半は、演習形式で行ないたい。受講生は、あらかじめ割り当てられた部分について、著者の主張のまとめ、問題点の指摘、代案などを中心に発表し、その後、全員で討論する。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>Vendler, Zeno (1967) <i>Linguistics in Philosophy</i>. Ithaca, New York: Cornell University Press.</p>		<p>出席状況、授業態度、テスト、学期末のレポート課題などにより総合的に評価する。</p>	

	英語圏の小説 a	担当者	藤田 永祐
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ジェーン・オースティンは 19 世紀初期のイギリスの小説家ですが、代表作品『自負と偏見』の映画化されたものがこの春わが国で上映されたのをみても分かるように、英米では今現在広く親しまれている作家です。オースティンの小説は風俗小説と呼ばれていますが、風俗小説は 19 世紀 20 世紀のイギリス小説の主流をなして、その中心的地位にあるのがオースティンとってよいでしょう。わが国では広く愛読されているとはいえませんが、オースティンはイギリスとアメリカではよく読まれ、現代小説として高く評価され、数多く映画化されてきました。</p> <p>講義を親しみやすくするために映画の鑑賞をとりいれます。扱う作品は『高慢と偏見』『マンスフィールド・パーク』『説得』の 3 作品を予定しています。講義の内容も昨年度より分かりやすいものにしますが、それでも洗練された純文学作品ですから、人間とか人間性に興味がある人、語学力を向上させることに熱意を傾ける人でないと興味を持って学ぶことは難しいといえるかもしれません。</p>		<p>最初の授業で全体的な解説と説明をします。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>手作りのプリント 参考文献は授業中に指定する。</p>		<p>感想文、レポートなど</p>	

	英語圏の小説 b	担当者	北澤 滋久
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>昨年のジェイムズ・ジョイス論に続き、もうひとりのイギリス、モダニズムの巨匠、D. H. ロレンスの文学と思想を講義する。</p> <p>これが担当者の、文学研究人生の大学における最後の講義となろう。誤解の多い、複雑・多岐に及ぶ思考回路を持ったロレンスであるが、その彼が現代文明下に生きる我々に生涯をかけて切実に語りかけたところを、できるだけ易しく話すつもりでいる。</p> <p>心ある諸君の受講を期待している。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ロレンス概説 2. <i>The White Peacock</i> をめぐって 3. <i>Sons and Lovers</i> をめぐって 4. <i>The Rainbow</i> をめぐって 5. <i>Women in Love</i> をめぐって 6. <i>The Aaron's</i> と <i>Rod Kangaroo</i> をめぐって 7. <i>The Plumed Serpent</i> をめぐって 8. “The Ladybird” をめぐって 9. <i>The Man Who Died</i> をめぐって 10. <i>The Lady Chatterley's Love</i> をめぐって 11. ロレンスの宇宙観と死生観をめぐって 12. 質疑応答・総括：受講生の関心の赴くままに 	
参考文献		評価方法	
<p>北澤滋久著『D. H. ロレンス：その文学と人生』、墨水書房 北澤滋久著『D. H. ロレンス、生と死のファンタジイ：人と文明の再生をもとめて』、金星堂</p>		<p>出席率と、主には学期末の小論文提出により評価する。</p>	

	英語圏の詩 a	担当者	原 成吉
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>まず第一に、詩を楽しむこと。詩の言葉をとおしてアメリカの文化とその時代精神を理解し、異文化という鏡を使いながら「いまのわたしたち」を考える。</p> <p>アメリカ先住民の口承詩（うた）、ロック・ミュージックの歌詞、モダニストの作品、そして同時代の詩人の作品を紹介する。文学史的なアプローチではなく、“here and now”の視点から論じる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 アメリカの大地の声—Native American の歌を聴く 2 Rock の Lyrics 読む—Bob Dylan と Paul Simon のアメリカ 3 デモクラシーを歌う『草の葉』の詩人—Walt Whitman のアメリカ 4 ミクロコスモのなかのマクロコスモ—女性詩人 Emily Dickinson の世界 5 モダニズムの起源を探る— (1) Ezra Pound がみた東洋の詩学 6 (2) T. S. Eliot の “The Love Song of J. Alfred Prufrok” —詩に描かれた現代人の苦悩 7 (3) William Carlos Williams がみたアメリカの美学 8 (4) e. e. cummings の “typography”が創る「感じる」詩 9 ポストモダンの詩を読む (1) Allen Ginsberg の “A Supermarket in California” を読む 10 (2) Gary Snyder の “Ripples on the Surface” を読む 11 (3) Sylvia Plath の “Daddy” を読む 12 (4) Robert Creeley の “The Whip” を読む 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストはプリントを使用。参考文献亀井俊介・川本皓嗣編『アメリカ名詩選』（岩波文庫）</p>		<p>授業への参加度とレポート（ワープロで 4,000 字程度の詩人論、または作品論）で決める。</p>	

	英語圏の詩 b	担当者	白鳥 正孝
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義の目的 ワーズワス (W. Wordsworth 1770-1850) の『水仙』などの易しい英詩を導入にして、基本的な英詩を分析し、味わう力を養うと共に、やや古い英詩についても鑑賞し得る能力を身に付けることを目的とする。扱う題材は全てイギリス詩である。</p> <p>講義概要 初めは導入として、詩形や易しい詩、特にマザーグースについて講ずる。次いで現代詩を垣間見た後、ロマン派に焦点を当てる。そして最後にグレイ、ミルトン、シェークスピアの代表的な詩について管見する。なるべく video などの視聴覚教材を利用する</p> <p>参考文献 新井明著 『英詩鑑賞入門』 研究社 1987</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 詩形について 2. <マザーグース> I 3. <マザーグース> II (video 鑑賞) 4. <現代英詩アラカルト> T. Hughes(1992-1985), Seamus Heaney(1939-)など 5. <ロマン派の曙> W. Blake(1757-1827), video 鑑賞 (字幕なし、以下同じ) 6. <ロマン派の詩> I ワーズワス、video 鑑賞 7. <ロマン派の詩> II S.T. Coleridge(1772-1834)と G.G. Byron(1788-1824) 8. <ロマン派の詩> III P. B. Shelley(1792-1822)と J. Keats(1795-1821) 9. <ロマン派の詩> 総括 解説と video 鑑賞 10. Thomas Gray(1716-1771), “Elegy Written in a Country Churchyard”(1751)を読む。 Video 鑑賞 11. John Milton(1608-74) <i>Paradise Lost</i>(1667)のさわり、ソネット 23. Video 鑑賞 12. William Shakespeare(1564-1616), 解説と video 鑑賞 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>葉師川虹一他 編注『マザーグースと美しい英詩』北星堂 1987</p>		<p>テストを課す。数回の video は、字幕なしなので、100%の理解は求めないが、リスニング・テストとして努力具合を見、平常点とする。</p>	

	英語圏の演劇 a	担当者	児嶋 一男
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>英米の劇作品の台本(抜粋英文プリント)を読みながら、現代の英米文化や作品の時代の社会風潮が、どういうふう に演劇に示されているかについて考えてみましょう。テキスト(英文プリント)を毎回配布しますから、舞台上しゃべって違和感のない日本語に翻訳したものをノートに用意して、出席してください。その翻訳を本読みするパフォーマンスを、順番に一人3回ほど実施してもらい、教室でも舞台の雰囲気を出したいと思います。</p> <p>なるべく実際の上演を観られるものを取りあげます。また、英米や時代にかかわらず、有名な作品や話題の作品、歌舞伎なども取りあげます。実際に劇場に観に行き、芝居は楽しいライブ・パフォーマンスであることを知って下さい。</p> <p>遅刻はすべて欠席扱いとします。公欠扱いは一切ありません。授業回数の3分の1以上を欠席した場合、<u>理由の如何を問わず</u>、単位を認めません。</p>		<p>教室で読む戯曲作品の抜粋は、実際の上演舞台が観られる台本を選んでいきますから、上演スケジュールに合わせて授業を進めていきます。</p> <p>レポートに関する詳細を初回授業で説明します。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>英米の現代演劇の台本抜粋をプリントで配布します。参考文献は授業中に言及する予定です。</p>		<p>観劇レポート(800字)2編で70%。授業で30%。学期末定期試験はしない。レポート(必修)未提出者には単位を認めません。</p>	

	英語圏の演劇 b	担当者	児嶋 一男
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>英米の劇作品の台本(抜粋英文プリント)を読みながら、現代の英米文化や作品の時代の社会風潮が、どういうふう に演劇に示されているかについて考えてみましょう。テキスト(英文プリント)を毎回配布しますから、舞台上しゃべって違和感のない日本語に翻訳したものをノートに用意して、出席してください。その翻訳を本読みするパフォーマンスを、順番に一人3回ほど実施してもらい、教室でも舞台の雰囲気を出したいと思います。</p> <p>なるべく実際の上演を観られるものを取りあげます。また、英米や時代にかかわらず、有名な作品や話題の作品、歌舞伎なども取りあげます。実際に劇場に観に行き、芝居は楽しいライブ・パフォーマンスであることを知って下さい。</p> <p>遅刻はすべて欠席扱いとします。公欠扱いは一切ありません。授業回数の3分の1以上を欠席した場合、<u>理由の如何を問わず</u>、単位を認めません。</p>		<p>教室で読む戯曲作品の抜粋は、実際の上演舞台が観られる台本を選んでいきますから、上演スケジュールに合わせて授業を進めていきます。</p> <p>レポートに関する詳細を初回授業で説明します。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>英米の現代演劇の台本抜粋をプリントで配布します。参考文献は授業中に言及する予定です。</p>		<p>観劇レポート(800字)2編で70%。授業で30%。学期末定期試験はしない。レポート(必修)未提出者には単位を認めません。</p>	

	英語圏の社会と思想 a	担当者	福井 嘉彦
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>アングロ＝サクソンの文化がキリスト教化されていく過程の在り方を述べる。</p> <p>なお、授業時には、名簿の番号順に着席していただく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス(1)父性神と母性神 (2)ヘレニズムとヘブライズム 2. ローマン＝ブリテン：ケルト人とキリスト教 3. ローマ帝国のキリスト教化の過程：ドナティスト論争 4. イングランドのキリスト教化 5. デーン人とアルフレッド大王 6. カロリング王朝とイングランドのキリスト教 7. グレゴリウス7世の教会改革 8. イングランドの教会改革 9. 中世の異端 10. 地獄墮ちへの恐怖 11. 黒死病と農民一揆 12. 教皇権の栄光と下降 13. 中世末期：唯名論論争とイングランド宗教改革前史 <p>以上の各項を述べる予定。 ただし、若干の変化がありうる。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストはない。参考文献は必要とあれば授業中に示す。		出席の少ない者は不合格とする。 更に、出席合格者は試験の結果で評価する。	

	英語圏の社会と思想 b	担当者	福井 嘉彦
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期に準じる。		<ol style="list-style-type: none"> 1. ルター：我ここに立つ 2. ジュネーブの人カルヴァンとイングランド人 3. イングランドの宗教改革：ヘンリー8世 4. エドワード王のプロテスタント化とメアリー女王のカトリック教皇主義復興 5. エリザベス1世の宗教改革 6. ピューリタンの反撃と英国国教会の樹立 7. スチュワート王朝の国教会 8. 国王の処刑とピューリタニズム 9. ビルグリム＝ファーザーズ 10. 王政復古から名誉革命以降 11. 啓蒙主義時代から現代まで <p>以上の各項を述べる予定。 ただし、若干の変化がありうる。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期と同じ。		春学期に準じる。	

	英語圏の歴史 a	担当者	佐藤 唯行
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ユダヤ人と英国社会との最初の出会いから現代に至る英国史の文脈の中で、英国人との共生を目指しつづけたユダヤ人の歩みを辿る。彼等ユダヤ人の足跡に光を照射する事により、これまでの英国史研究（多数派英国人側に視点を置いた英国史研究）の中では、見落とされてきた英国社会の新たな特質を解明する。</p> <p>春学期は下記二冊の「テキスト」にそって授業を行う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 中世英国のユダヤ人社会 2. 諸侯・騎士・教会・都市とユダヤ人との関係 3. 中世英国ユダヤ人金融の潜在的機能とユダヤ人追放命令 4. 千年王国思想とユダヤ人再入国 5. 英国人地主貴族社会への同化 6. 19世紀末英国の移民排斥論のメカニズム 7. 英国ファシスト勢力との対決 8. 現代英国ユダヤ人社会 9. 現代アメリカユダヤ人の経済力の実像 10. アメリカ経済史の中のユダヤ人 11. ウォール街のユダヤ人、M & A アドバイザリー業務とヘッジファンド 12. アメリカ経済のユダヤ・パワー 	
テキスト、参考文献		評価方法	
『英国ユダヤ人』佐藤唯行(1995年)講談社選書 1600円、 『アメリカ・ユダヤ人の経済力』佐藤唯行(1999年)PHP新書 660円		評価は春・秋学期各1回の筆記試験によって決定する。出席はとりません。試験は自筆ノート、テキストのみ持ち込み可。	

	英語圏の歴史 b	担当者	佐藤 唯行
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>植民地時代から現代にいたるアメリカ合衆国史を通史的に展望する。政治史・経済史のみならず、女性史・社会史の研究成果も取り入れて講義を行う。</p> <p>秋学期のテーマは「アメリカ合衆国の通史」毎回、完全に文章化されたレジメを配布予定。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. アメリカ史の特質—封建性の欠除、広大な自由地の存在、セクションの多様性— 2. イギリス領北米植民地の建設 3. アメリカ独立革命 4. ジェファソン政権の内政と外交 5. 領土的膨張 6. 奴隷廃止と南北戦争 7. フロンティアの消滅、メカロポリスの形成 8. 第一次大戦への参戦、1920年代の都市と農村 9. ニューディールと第二次大戦 10. 「豊かな社会」とベビーブーム、ベトナム戦争 11. 「帝王的大統領制」の終末、マイノリティーの地位向上 12. 今日のアメリカ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
『アメリカ・ユダヤ人の経済力』佐藤唯行(1999年)PHP新書 660円		春学期と同じ	

英語圏のエリア・スタディーズ a		担当者	白鳥 正孝 他
講義目的、講義概要		授業計画	
テーマ：「近代とは何か---英語圏のエリアを中心に---」 <ul style="list-style-type: none"> ■ Versions of Modernity—mainly in the areas of English Speaking Peoples— ■ 地域研究とは、発端はアメリカから始まったとされる。例えば、先の第二次世界大戦でアメリカが日本と戦う為に、敵国情報を集めようとして、書かれたルース・ベネディクトの『菊と刀』は有名。その後、より客観的にあらゆる分野から特定の国や地域を包括的に研究しようというアプローチをいう。 ■ さて近代ですが、これは地理（例、地理上の発見：グローバリゼーションの端緒）、技術革新（印刷術、蒸気機関等）、他文学・思想・哲学・歴史等々の革新的展開を含めて非常に多義的です。これを英語学科の文学コミュニケーション担当の先生方が右の授業計画に示された角度から解き明かそうという試みです。 ■ 開講時に各回の講義概要を配布します。受講生は予習をして授業に臨んで下さい。10分以上の遅刻は欠席扱いになります。 		1. 4/12 白鳥正孝 「イギリス近代の春」I 2. 4/19 白鳥正孝 「イギリス近代の春」II 3. 4/26 福井嘉彦 「啓蒙主義時代とキリスト教」I 4. 5/10 福井嘉彦 「啓蒙主義時代とキリスト教」II 5. 5/17 佐藤唯行 「近代日本と在米ユダヤ人社会」 6. 5/24 佐藤唯行 「近代日本と被差別部落」 7. 5/31 上野直子 「カリブというトポス—西欧史の背中の臍として」 8. 6/7 上野直子 「移動するカリブ—国境を越える言葉たち」 9. 6/14 佐藤勉 「文学における Appropriation と Imagination」I 10. 6/21 佐藤勉 「文学における Appropriation と Imagination」II 11. 6/28 原成吉 「詩人アレン・ギンズバーグが見た現代アメリカ—Beat Generation とは何か？」 12. 7/5 原成吉 「ロック・ミュージックにみる”American Dream”—Paul Simon と Bruce Springsteen」	
テキスト、参考文献		評価方法	
各担当者が、原則として授業の前週までに指示する。		学期末試験による。欠席が4回を超えた場合には、単位を認定しない。	

英語圏のエリア・スタディーズ b		担当者	白鳥 正孝 他
講義目的、講義概要		授業計画	
上に同じ		1. 9/27 児嶋一男 「アイルランド人の血に受け継がれたトラウマ」 2. 10/4 児嶋一男 「アイルランドらしさという固定観念に挑む」 3. 10/11 北澤滋久 「モダニズムの予兆」 4. 10/18 北澤滋久 「モダニズムの思想と文学」 5. 10/25 藤田永祐 「近代社会とイギリス19世紀の小説」I 6. 11/1 藤田永祐 「近代社会と19世紀の小説」II 7. 11/8 高橋雄一郎 「リヴィング・ヒストリー・ミュージアム」 8. 11/15 高橋雄一郎 「メモリアル」 9. 11/29 前沢浩子 「イギリスのルネッサンス—シェイクスピア登場」 10. 12/6 前沢浩子 「イギリスのルネッサンス—ハムレット登場」 11. 12/13 片山亜紀 「ウルフが『自分だけの部屋』で言いたかったこと」 12. 12/20 片山亜紀 「ウルフの『三ギニー』をどう読むか」	
テキスト、参考文献		評価方法	
上に同じ		上に同じ	

	英語圏の文学・文化特殊講義 a	担当者	上野 直子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(講義目的) 本講義の第一の狙いは、文化や社会によって構築されたジェンダー・システムは書き換えが可能であること、多様な生と性のかたちを肯定するためにはその書き換えがぜひとも必要であることを示すことにある。</p> <p>(講義概要) 生物学的にメスであれば、女のジェンダー役割を全うし、男性を恋愛や性愛の対象とし、やがて母となる。生物学的にオスであれば、その反対。男のジェンダー役割を全うし、女性を恋愛や性愛の対象とし、やがて父となる。そういう生と性のありかたが、長いあいだ「自然」で「あたりまえ」のものとしてされてきた。規範であった。ここから逸脱する生と性のありかたは、まともでないと否定され、差別され、排除され、ときには迫害されてきた。しかし 60 年代後半のアメリカで、ゲイ解放運動の声が大きく響きはじめる。それまで声をあげることを恐れ、自らの生と性を公然とは肯定できなかったセクシャル・マイノリティーの状況が変わりはじめた。それから約半世紀、現実には偏見はまだ根強いものの、その一方で同性どうしの結婚ができる場所も出てきた。セクシュアリティの多様性の主張を可能にしてきた人々の勇気ある営為を追いながら、差別一般の問題も考えていきたい。(2005 年度の英語圏特殊講義 b と重なる部分もあるが、授業の構成と使用教材は同一ではない。)</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション (ジェンダー・セックス・セクシュアリティ、さまざまな愛と性のかたち) 2. 2003 年 11 月、マサチューセッツ・Gay Marriage へ 3~5. クローゼットの愛とその苦悩 6~8. ゲイ・リベレーション 9. 差異と分裂・ひとつではないセクシャル・マイノリティー 10. セクシュアリティの多様性と二元化された性 11. わたしたちは何がコワイのか。 12. 二元化されたセックスはジェンダー効果か。 <p>(ほぼ上記のように進めますが、より詳しい授業計画は開講時に配布します。またシステム上可能であれば、2006 年 4 月 1 日までに講義支援システムに掲示します。掲示ができなければ、その旨を掲示板にて告知します。)</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業に使用する資料はプリントを用意する。参考文献については講義支援システムに掲示する。		出席 (コメントペーパー)・小テスト・レポートを総合的に評価する。受講生の人数によっては意見交換を行い、議論への参加度も評価の対象とする。	

	英語圏の文学・文化特殊講義 b	担当者	片山 亜紀
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的</p> <p>フェミニズム (女性解放運動) は、あるときは突出した個人によって、あるときは集団の運動として、そしてまたあるときは文学の創造力に牽引されながら世界各地で継承されています。本講義の目的は、イギリスのフェミニズムを中心としつつ、アメリカでの展開にも触れながら、脈々と続いて来たフェミニズムのうねりを実感してもらうことにあります。</p> <p>講義概要</p> <p>中世から現代まで、フェミニズムがどのように生まれ、19 世紀の「第一波フェミニズム」と呼ばれる大きな「波」に至ったのか、そしてその後 20 世紀後半の「第二波フェミニズム」「第三波フェミニズム」と呼ばれる展開を迎えたのかを、比較的なじみのある文学作品、歴史上の人物、事象などにできるだけ言及しつつ概観します。</p> <p>基本的に講義形式で授業を進めますが、コメントペーパーによりなるべく相互方向的にしたいと考えています。またテキストの抜粋を読んでくるといった課題が適宜出されます。</p>		<p>毎回の授業計画はまだ確定していませんが (第一回目の授業でアナウンスします)、次のような問いを扱う予定です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ シェイクスピアが女性であったとしても、同じように名作を書いていたのだろうか ・ 『フランケンシュタイン』のメッセージとは ・ ナイチンゲールは「白衣の天使」か ・ なぜ女性の参政権運動は実現が遅れたのか ・ なぜイギリスの作家ヴァージニア・ウルフは、「女性があるものを書くなら年収 500 ポンドと個室が必要だ」と言ったのか ・ フェミニズムはセクシュアリティの問題をどう捉えてきたのか ・ なぜ中絶の権利は第二波フェミニズムの焦点になったのか ・ フェミニズムはどこへ向かおうとしているのか ・ 英米のフェミニズムは、私たちの日常とどんな関連をもつのか 	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント配布 参考文献は授業内で紹介します		授業への参加、提出物、学期末レポートを総合的に評価します。ただし欠席が 3 回を超えた場合は成績評価の対象になりません。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

	英語圏の文学・文化特殊講義 b	担当者	高橋 雄一郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(パフォーマンス研究入門)</p> <p>パフォーマンス研究は近年欧米で注目を集めている学際的で、インター・カルチュラルな研究領域であり、個人や集団により反復される行為（パフォーマンス）が、文化の組成やアイデンティティの構築にかかわっているとの認識の下に、権力の所在を顕在化し、支配の構造にメスを入れようとする。研究対象は、舞台芸術に限らず、日常生活や儀礼、スポーツなどのイベント、国家によって執り行われる儀式など幅広い。</p> <p>この授業では参加者にパフォーマンス研究に興味を持ってもらうことを第一の狙いとし、既に興味のある人には、さらに深い研究のための指針を提供したい。</p> <p>テキストはこの分野の第一人者である Richard Schechner による <i>Performance Studies: An Introduction</i> (Routledge, 2002)を用いる。原本は図書館の指定図書にしてあるので、最初の授業の前に、各自 Chapter 2 をコピーし、22ページの最後のパラグラフまで予習してくること。また、ブレヒトの演劇理論についても、簡単に調べてきて欲しい。</p> <p>なお、昨年度春学期の授業とは重複する部分が多いので、重複履修は認められない。</p>		毎週、教科書に記載されている項目を1つないし2つ学習する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
高橋雄一郎『身体化する知』（せりか書房）を是非読んで欲しい。その他の参考文献は図書館の指定図書にあるか、授業中にプリントなどで配布する。		授業中の発表と学期末提出の課題が中心となる。なお単位取得には毎回、予習した上で授業に出席し、議論に参加することが前提となる。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

	英語圏の文学・文化文献研究 b	担当者	原 成吉
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>このクラスは、卒論を書く人や大学院での文学研究を目指す人のためのものです。さまざまな文学批評を精読しながら、MLA 論文の書き方をマスターできるようにするのがこのクラスの狙いです。</p> <p>秋学期は、アメリカ文学における Ecocriticism に焦点を当て、さまざまな作家に関する批評を取りあげます。授業は、プレゼンテーションと質疑応答の形で進め、学期の終わりには作品論を書いてもらいます。</p> <p>受講者は、TOEIC 700 点以上の英語力を持っていることが望ましい。</p>		最初のクラスで12回分の担当を決めます。	
テキスト、参考文献		評価方法	
J. Scott Bryson, ed. <i>Ecopoetry: A Critical Introduction</i> . Salt Lake City: The University of Utah Press, 2002.		授業への参加度とレポート。	

	異文化間コミュニケーション論 a	担当者	工藤 和宏
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>グローバル化時代を生きる私たちにとって、「異文化間コミュニケーション」は不可避な現象であると広く捉えられているようです。しかし、異文化間コミュニケーションとは一体何を意味するのでしょうか。異なる文化間のコミュニケーションという字面通りのことなのでしょうか。あるいは、異文化間コミュニケーションという何か特別な知的・身体的営為なののでしょうか。そもそもコミュニケーションとは何でしょうか。文化や異文化とは何でしょうか。学問としての異文化間コミュニケーション論が目指すものは何でしょうか。大学生が異文化間コミュニケーション論を学ぶことの意義はどこにあるのでしょうか。本講義では、講義担当者や受講生による語り、異文化 [疑似] 体験、異文化間コミュニケーション論の英文テキストの解体という作業を通して、これらの問いについての考察を進めると共に、受講生の問題意識を触発してみたいと思います。</p> <p>講義中に意見を求めますので、英文テキストの指定箇所を事前に読み、疑問点を明らかにしてから毎回の講義に出席してください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 導入 2. Culture and communication (pp. 1-7) 3. Intercultural communication (pp.8-16) 4. Verbal messages (pp.17-23) 5. Verbal messages (pp.23-31) 6. Verbal messages (pp.32-36) 7. Nonverbal communication (pp.37-45) 8. Nonverbal communication (pp.45-58) 9. Nonverbal communication (pp.58-67) 10. Becoming more effective (pp.68-76) 11. Becoming more effective (pp.76-83) 12. まとめ <p><参考書> 池田理知子、クレーマー・E・M (2000)『異文化コミュニケーション・入門』有斐閣。 石井敏、遠山淳、松本茂、久米昭元、平井一弘、御堂岡潔 (編) (1997)『異文化コミュニケーション・ハンドブック—基礎知識から応用・実践まで』有斐閣。 末田清子、福田浩子 (2003)『コミュニケーション学—その展望と視点』松柏社。 *その他の文献は授業中に紹介します。</p>	
テキスト		評価方法	
サマーバー・L・A ほか著、石井敏 解注 (2002)『現代英文テキスト 異文化との出会い』研究社。		多数の受講者が見込まれるので、英語による学期末試験のみにて評価します。	

	異文化間コミュニケーション論 b	担当者	工藤 和宏
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>グローバル化時代を生きる私たちにとって、「異文化間コミュニケーション」は不可避な現象であると広く捉えられているようです。しかし、異文化間コミュニケーションとは一体何を意味するのでしょうか。異なる文化間のコミュニケーションという字面通りのことなのでしょうか。あるいは、異文化間コミュニケーションという何か特別な知的・身体的営為なののでしょうか。そもそもコミュニケーションとは何でしょうか。文化や異文化とは何でしょうか。学問としての異文化間コミュニケーション論が目指すものは何でしょうか。大学生が異文化間コミュニケーション論を学ぶことの意義はどこにあるのでしょうか。本講義では、講義担当者や受講生による語り、異文化 [疑似] 体験、異文化間コミュニケーション論の英文テキストの解体という作業を通して、これらの問いについての考察を進めると共に、受講生の問題意識を触発してみたいと思います。</p> <p>講義中に意見を求めますので、英文テキストの指定箇所を事前に読み、疑問点を明らかにしてから毎回の講義に出席してください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 導入 2. Introduction: Defining concepts (pp. 2-5) 3. Identity: People like me (pp. 6-10) 4. Identity: Artefacts of culture (pp. 10-15) 5. Identity card (pp. 16-20) 6. Otherisation: Communication is about not presuming (pp. 21-25) 7. Otherisation: Cultural dealing (pp. 25-30) 8. Otherisation: Power and discourse (pp. 30-35) 9. Representation: Cultural refugee (pp. 36-41) 10. Representation: Complex images (pp. 41-47) and Disciplines for intercultural communication (pp. 48-49) 11. ビデオ視聴 “Struggle and Success: The African American Experience in Japan” 12. まとめ <p><参考書> 稲賀繁美 (2000)『異文化理解の倫理にむけて』名古屋大学出版会。 異文化間教育学会 (2005)『異文化間教育 22—特集 異文化間教育研究と「日本人性」』アカデミア出版会。 戴エイカ (1999)『多文化主義とディアスポラ—Voices from San Francisco』明石書店。 本橋哲也 (2002)『カルチュラル・スタディーズへの招待』大修館書店。*その他の文献は授業中に紹介します。</p>	
テキスト		評価方法	
Holliday, A., Hyde M., & Kullman, J. (2004). <i>Intercultural communication: An advanced resource book</i> . London: Routledge. (コピーを配布します。)		多数の受講者が見込まれるので、英語による学期末試験のみにて評価します。	

	異文化間コミュニケーション論 a	担当者	鍋倉 健悦
講義目的、講義概要		授業計画	
異文化間コミュニケーション研究の重要性を理解していくことが当講座の目的。このため文化とコミュニケーションを広範囲な視点から見ていきたい。その大まかな内容は、文化と価値観、文化と言語行動、文化と非言語行動のかかわりについてである。		<ol style="list-style-type: none"> 1. 異文化コミュニケーションから何を学ぶか 2. 異文化コミュニケーションと心理世界 3. 異文化コミュニケーションの難しさ 4. 異文化コミュニケーションの歴史 5. 異文化コミュニケーションの重要性 6. 異文化コミュニケーション研究のスタート 7. 異文化コミュニケーションの背景 8. 異文化コミュニケーションの現状 9. 異文化コミュニケーションの体験 10. 異文化コミュニケーションと国際英語の時代 11. 文化とグローバル化 12. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
「異文化間コミュニケーションへの招待」北樹出版 「異文化コミュニケーション入門」丸善ライブラリー		毎回の授業内容に関するターム・ペーパーによるので、欠席すると大変不利	

	異文化間コミュニケーション論 b	担当者	鍋倉 健悦
講義目的、講義概要		授業計画	
同上		<ol style="list-style-type: none"> 1. 外観の重要性 2. 表情とジェスチャーが伝えるもの 3. 心理的時間 4. 空間は語る 5. 周辺言語 6. 言語とは何か 7. ことばの不思議 8. ことばの壁を乗り越えて 9. 多言語社会と英語のグローバル化 10. 言語と価値観 11. カルチャー・ショック 12. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
「異文化間コミュニケーションへの招待」北樹出版 「異文化コミュニケーション入門」丸善ライブラリー		毎回の授業内容に関するターム・ペーパーによるので、欠席すると大変不利	

	マス・コミュニケーション論 a	担当者	佐々木 輝美
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><講義の目標>マス・コミュニケーションに関する基本用語、概念などを説明することができ、かつそれらの用語を使って具体的なマス・コミュニケーション現象を分析できるようになることを目標とする。</p> <p><講義概要>本講義への導入として、先ずコミュニケーションの基礎について説明する。次の数週間で、マス・コミュニケーションのモデルおよび効果について解説し、マス・コミュニケーションの全体像を捉えてもらう。最後はマスコミと教育の問題を扱う予定。</p>		<p>およそ以下のようなテーマを順に解説していく。</p> <p>(1) 導入マス・コミュニケーションとは</p> <p>(2) コミュニケーションについての基礎知識①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プロセスの概念について ・意味はどこに存在するか？ <p>(3) コミュニケーションについての基礎知識②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メディアの利用と満足 <p>(4) マス・コミュニケーションのモデルについて①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・モデルの長所と短所 <p>(5) マス・コミュニケーションのモデルについて②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションの要素 <p>(6) ビデオ視聴&解説</p> <p>(7) マスコミ効果概念について①効果とは</p> <p>(8) マスコミ効果概念について②順機能と逆機能</p> <p>(9) ビデオ視聴&解説</p> <p>(10) マス・コミュニケーションと教育①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『セサミストリート』はなぜ成功したか <p>(11) マス・コミュニケーションと教育②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育効果を上げる手法とは <p>(12) 前期のまとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストの代わりにプリントを配布します。</p> <p>参考文献：岡崎篤朗他編著『マス・コミュニケーション効果研究の展開（新版）』北樹出版 1996</p>		<p>定期試験による。出席は参考程度。</p>	

	マス・コミュニケーション論 b	担当者	佐々木 輝美
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><講義の目標>マス・コミ影響研究に関する基本用語、概念などを説明することができ、かつそれらの用語を使って具体的なマス・コミュニケーション現象を分析できるようになることを目標とする。</p> <p><講義概要>マス・コミュニケーションの「影響研究」を中心に講義を行う予定。前半では、具体的なモデルを挙げながら影響研究の歴史的な流れを説明する。後半は、具体的な問題として、「メディア暴力の青少年への影響」を取り上げ、影響のメカニズムや対応策について説明していく。</p>		<p>およそ以下のようなテーマを順に解説していく。</p> <p>(1) マスコミの影響研究について①弾丸理論</p> <p>(2) マスコミの影響研究について②限定効果モデル</p> <p>(3) マスコミの影響研究について③適度効果モデルから強力効果モデルへ</p> <p>(4) メディア暴力研究について①研究の背景</p> <p>(5) メディア暴力研究について②カタルシス理論</p> <p>(6) メディア暴力研究について③観察学習理論</p> <p>(7) メディア暴力研究について④脱感作理論</p> <p>(8) メディア暴力研究について⑤カルティベーション理論</p> <p>(9) ビデオ視聴&解説</p> <p>(10) メディア暴力についての4理論のまとめ (暴力番組の類型化の必要性)</p> <p>(11) メディア暴力への対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・送り手側の責任と受け手側の気付き <p>(12) メディア・リテラシー教育&後期のまとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストとして、佐々木輝美『メディアと暴力』勁草(けいそう)書房 1996、を使用します。</p> <p>・参考文献：H. J. アイゼンク他著 岩脇三良訳『性暴力メディア』新曜社 1982</p>		<p>定期試験による。出席は参考程度。</p>	

	スピーチ・コミュニケーション論 a	担当者	板場 良久
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>①目的：このクラスでは、「文化とは作るものだ」という認識を深めるためのスピーチ・コミュニケーション論を学びます。</p> <p>②内容：グループ活動が中心となるので、活動に参加できる学生を対象としています。</p> <p>③活動：音楽や映像を使った「文化活動」としての英語プレゼンテーションについても学びます。(例えば、英語CM制作など。)</p> <p>④定義：スピーチ・コミュニケーションとは単なる音声表現のことではありません。スピーチ・コミュニケーションとは、スピーチという発話を社会的な人間関係の中に投じることによってさらに次の発話の可能性が生み出されていく「生きたプロセス」すなわち「発話の公共的連鎖」です。発話としてのスピーチとは、政治演説や祝辞のようなものから、メディアで表現されたメッセージ、あるいは何気ない一言や会議での発言、意味ありげな仕草や沈黙さえも発話として機能しますので、これらもスピーチの一種と定義できます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 概略説明 2. 英語プレゼンテーションについて (1) 3. 英語プレゼンテーションについて (2) 4. 実例分析 (1) 5. 英語プレゼンテーションについて (3) 6. 英語プレゼンテーションについて (4) 7. 実例分析 (2) 8. 英語プレゼンテーションの実践と審査 (1) 9. 英語プレゼンテーションの実践と審査 (2) 10. 英語プレゼンテーションの実践と審査 (3) 11. 英語プレゼンテーションの実践と審査 (4) 12. まとめ (研究グループ数によっては若干の変更の可能性もあります) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント配布予定		①クイズ (不定期1回、20%)、②グループ・プレゼンテーション (発表と審査80%)。	

	スピーチ・コミュニケーション論 b	担当者	板場 良久
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>①目的：このクラスでは、公共的なメッセージを批判的に分析することで、思慮深い判断のできるようになることを目指します。私たちが発話をする際に常に立ちはだかる社会的制約や条件づけ。私たちは人に影響を与えたいと思い必死に発話の技術(スキル)を磨こうとします。しかし同時に、私たちは社会的制約の影響下にあるため、むしろ思考は影響され、条件づけられてしまっています。この状態をどのように見抜けばいいのでしょうか？ この講義では、こうした社会的制約や条件づけの作用のメカニズムを暴き、皆さんがそれに立ち向かえるきっかけ作りをしたいと思います。</p> <p>②内容：グループ活動が中心となるので、活動に参加できる学生を対象としています。</p> <p>③活動：様々なメディアを使った「文化批評」としてのプレゼンテーションを研究グループ単位で行っていただきます。</p> <p>④定義：基本概念・定義については、上記「a」の記述を参照ください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 概略説明：スピーチは「作品」ではない、という主張の意味について考えよう。 2. 上手・下手の枠組みからの脱却：スピーチ分析における自分の位置を見直そう。 3. 個人から主体へ、そして…。自分たちの行為主体性を取り戻そう 4. 個人主義批判の実例：SMAP「世界に1つだけの花」の分析を例に 5. フェミニズム：女性という主体の問題 6. フェミニスト批評の実例 7. 様々な英語スピーチを批判的に分析しよう (1) 8. 様々な英語スピーチを批判的に分析しよう (2) 9. グループ発表 (批評) とその講評 10. グループ発表 (批評) とその講評 11. グループ発表 (批評) とその講評 12. グループ発表 (批評) とその講評 <p>(研究グループ数によっては若干の変更の可能性もあります)</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント配布予定		①クイズ (不定期1回、20%)、②グループ・プレゼンテーション (発表と審査80%)。	

	スピーチ・コミュニケーション論 a	担当者	柿田 秀樹
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的 現代のコミュニケーション論の様々な方向性を概観する。権力概念を中心としたコミュニケーション論を基に、文化テキストを解説することを学ぶ。</p> <p>講義概要 取り上げられるトピックは我々のコミュニケーションを規定している権力の磁場を構成している。現代コミュニケーションの問題の中心は権力関係にある。そこで、メディアやレトリック等のスピーチ・コミュニケーション研究にとって重要な理論的概念を『現代コミュニケーション学』（有斐閣）を通じて講義する。コミュニケーションの分析にとって重要な権力概念を、<今>に生きる自らの問題として把握し批評する視点を学習する。</p>		<p>1 オリエンテーション：スピーチ・コミュニケーション研究の視点</p> <p>2 時計時間の支配</p> <p>3 空間と権力</p> <p>4 アイデンティティの問い</p> <p>5 レトリックと権力</p> <p>6 家庭内コミュニケーション</p> <p>7 ジェンダーとコミュニケーション</p> <p>8 テクノロジーとコミュニケーション</p> <p>9 メディアのレトリック</p> <p>10 多文化主義とコミュニケーション</p> <p>11 グローバル化と日本社会</p> <p>12 前期総括</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
池田理知子編『現代コミュニケーション学』有斐閣		評価は定期試験又はレポート、不定期に課す課題、及び授業への参加度等による総合評価。	

	スピーチ・コミュニケーション論 b	担当者	柿田 秀樹
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的 講義の目的は諸レトリック理論家の思想を学生が理解／実践できるようになることである。講義における学生の目標は以下の2点である。第一に口承、文学、さらには電子メディアを媒介した表象のレトリックを分析する為の多種多様な学術的前提を理解すること。第二にそれら前提に基づいた特定の理論を批評実践に応用できるようになることである。</p> <p>講義概要 本講義は様々なレトリック分析と批評理論を理解するための専門科目である。スピーチ・コミュニケーション論 b では、20世紀のレトリック批評への諸アプローチを紹介する。これらの批評理論研究を通じて、現代のレトリックが実践される複雑な社会・文化状況を改めて識別することが促される。スピーチ・コミュニケーション論 a と継続性のある講義なので、すべての学生がスピーチ・コミュニケーション論 a の講義で学習したことを既に理解していることを前提に講義を進めていく。</p>		<p>1 オリエンテーション／フェルディナン・ド・ソシュールと記号論</p> <p>2 フェルディナン・ド・ソシュールと記号論</p> <p>3 ルードリッヒ・ヴィトゲンシュタインと言語ゲーム／J. L. オースティンと発話行為理論</p> <p>4 ケネス・パークとレトリック</p> <p>5 スチュアート・ホールとカルチュラルスタディーズ</p> <p>6 スチュアート・ホールとカルチュラルスタディーズ</p> <p>7 スチュアート・ホールとカルチュラルスタディーズ</p> <p>8 ミシェル・フーコーと表象</p> <p>9 ミシェル・フーコーと表象</p> <p>10 ミシェル・フーコーと表象</p> <p>11 エドワード・サイードとオリエンタリズム</p> <p>12 エドワード・サイードとオリエンタリズム</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
立川健二・山田広昭『現代言語論--ソシュール フロイト ウィトゲンシュタイン』新曜社 土田土則・神郡悦子・伊藤直哉『現代文学理論--テキスト・読み・世界』新曜社		評価は定期試験又はレポート、不定期に課す課題、及び授業への参加度等による総合評価。	

	コミュニケーション論特殊講義 a	担当者	町田 喜義
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>学習目標：日本語、ビジネス、歴史、地理、芸術などの観点から「日本人のコミュニケーション行動」を説明できる。</p> <p>概要：カナダの日本語教育の枠組みを利用して、日本の社会・文化を構成する諸変数の連鎖を取り扱う。講義、グループワーク、プレゼンテーションなどで構成する。</p> <p>※詳細は開講時に明示する。</p>		<p>① プロローグ</p> <p>② カナダの異文化教育の試み</p> <p>③ 日本語の特徴①</p> <p>④ 同上②</p> <p>⑤ 日・英語比較考察</p> <p>⑥ 同上②</p> <p>⑦ 歴史的事象</p> <p>⑧ 同上②</p> <p>⑨ ビジネスの慣行</p> <p>⑩ 同上②</p> <p>⑪ 地理、芸術を再確認する</p> <p>⑫ エピローグ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
ハンドアウトを配付する。		出席、個人レポート、グループレポート、プレゼンテーション、定期試験	

	コミュニケーション論特殊講義 b	担当者	町田 喜義
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>学習目標：「日本人のコミュニケーション行動」の深層を理解し、自己のコミュニケーション行動に役立てる。</p> <p>概要：カナダ・アメリカ比較、日本・韓国比較を中心的テーマとしながら、日本人の対外接触（異文化間コミュニケーションともいう）を考察する。講義、グループワーク、プレゼンテーションなどで構成する。</p> <p>※詳細は開講時に明示する。</p>		<p>① プロローグ</p> <p>② 前期の復習</p> <p>③ カナダ・アメリカ比較①</p> <p>④ 同上②</p> <p>⑤ 日・韓比較</p> <p>⑥ 同上②</p> <p>⑦ 異文化間コミュニケーション各論①</p> <p>⑧ 同上②</p> <p>⑨ 同上③</p> <p>⑩ 同上④</p> <p>⑪ 同上⑤</p> <p>⑫ エピローグ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
ハンドアウトを配付する。		出席、個人レポート、グループレポート、プレゼンテーション、定期試験	

	コミュニケーション論文献研究 a	担当者	板場 良久
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>このクラスで読むテキストは「文化コミュニケーション研究シリーズ」として出版されたジョン・フィスク（元ウィスコンシン大学教授）が執筆したものです。これは比較的新しいコミュニケーション研究を紹介したもので、文化と記号とコミュニケーションの研究に興味のある学生にとって参考になるテキストです。ここに書かれていることを読み、理解し、研究に応用できるようになることが、このクラスの主目的です。</p> <p>授業は、受講生がコミュニケーション研究の方法や視点や理論を学びつつ、研究班に分かれて班ごとの簡単な研究成果を発表し、他の受講生や担当教員とディスカッションをしながら深めていくという形態で進行していく予定です。</p> <p>将来、「メッセージのプロ」としてマスコミ業界で仕事をしたい学生や（異文化）コミュニケーション研究の分野で留学や進学を目指す学生には特にお勧めですが、様々なメッセージをより深く「解釈」できるようになりたい学生一般を想定したクラスにする予定です。</p>		<p><u>記号論的なコミュニケーション研究</u></p> <p>I. 序論 1. 講義概要 2. Introduction</p> <p>II. 本論 3. Communication Theory 4. Other Models 5. Communication, Meaning, and Signs 6. Codes 7. Signification 8. Semiotic Methods and Applications 9. Structuralist Theory and Applications 10. Empirical Methods 11. Ideology and Meanings</p> <p>II. 結論 12. Conclusion</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
John Fiske, <i>Introduction to Communication Studies</i> , 2nd edition (Routledge, 1990).		①グループ研究発表（発表と審査 25%）、②クイズ（50%）、③出席状況（25%）。	

	コミュニケーション論文献研究 b	担当者	板場 良久
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>このクラスでは、批評文化論とコミュニケーション研究の分野で有名なエッセイを3本、テキストとして読む予定です。例えば、私たちは写真を撮るときに「はい、チーズ」（英語では Say “Cheese.”）などと言いますが、そのような習慣がいかにも生まれ定着してきたのでしょうか？そしてその歴史はどのような問題をはらんでいるのでしょうか？「チーズ」と言うことで、知らぬ間にどのような社会的利害関係が維持されているのでしょうか？もちろん「チーズ」と言うことが悪いものではありません。むしろ「チーズ」と言う習慣を歴史的・政治経済的なものとして認識すること自体が大切です。また、私たちは統計的なデータを見ると客観的で信頼ができると思ってしまうかもしれませんが、しかし、統計は往々にして政治的でもあります。もちろん統計が悪いものではありません。それをどう読み、そしていかにその政治性に気づけるかが問われるのです。このクラスでは、こうしたことに気づくための手段として有用なエッセイを読みながら、コミュニケーションの分析力を身につけることを目指します。</p>		<p><u>批判的分析としてのコミュニケーション研究</u></p> <p>I. 序論 1. 講義概要 2. 記号論から批判的分析へ</p> <p>II. Essay 1: “Critical Rhetoric” 3. 理解 4. 検討 5. 応用</p> <p>III. Essay 2: “Why We Say ‘Cheese’ ” 6. 理解 7. 検討 8. 応用</p> <p>IV. Essay 3: “The Statistical War on Equality” 9. 理解 10. 検討 11. 応用</p> <p>v. 結論 12. Conclusion</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
エッセイのコピーを初回のクラスで配布しますが、それ以前に欲しい学生には夏休み前に渡すことも可能です。参考文献は必要に応じて適宜紹介します。		①クイズ（不定期1回、20%）、②グループ研究発表（発表と審査 60%）、③出席状況（20%）。	

	国際社会論 a	担当者	金子 芳樹
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>国際社会で起こっている様々な問題を理解し、自らの「国際政治を見る眼」を養うことを目的とする。そのために、国際政治の基礎的な知識と分析枠組みの習得のみならず、他の学問分野（経済学、社会学、歴史学など）にも視野を広め、国際関係のダイナミクスを体系的に把握する力の育成に努める。</p> <p>講義では、現在、世界各地で起きている幾つかの問題を取り上げ、具体的かつ多角的に分析・解説し、国際関係論の基礎的理論の解説を織り交ぜながら国際関係の包括的理解を促す。今年の講義では、近年、変化の激しい中東、ヨーロッパ、東アジアの国際政治・経済をそれぞれシリーズとして取り上げ、各々の特徴を浮き彫りにする。</p> <p>なお、授業はプレゼンテーション・ソフトを用いて行い、ビデオ資料も適宜使用する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 概論：国際社会の捉え方 2. 中東の国際関係(1) 宗教と民族 3. 中東の国際関係(2) イスラムと政治 4. 中東の国際関係(3) パレスチナ問題の構造と展開 5. 中東の国際関係(4) 石油をめぐる国際関係 6. 中東の国際関係(5) 中東のテロと 9.11 事件 7. ヨーロッパの国際関係(1) 社会主義体制とその崩壊(1) 8. ヨーロッパの国際関係(2) 社会主義体制とその崩壊(2) 9. ヨーロッパの国際関係(3) 冷戦後の改革と EU の展開 10. 東アジアの国際関係(1) 朝鮮半島をめぐる対立と協調 11. 東アジアの国際関係(2) 北朝鮮の政治体制 12. 東アジアの国際関係(3) 中国の発展と地域の安定 (テーマについては若干の変更があり得る。また、国際政治情勢の変化が起こった場合は適宜取り上げる) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
長谷川雄一・高杉忠明編著『新版 現代の国際政治』（ミネルヴァ書房、2002年）ほか、適宜指摘する。		学期末試験の成績を中心に評価を行う。	

	国際社会論 b	担当者	竹田 いさみ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>現代の国際社会を理解するために、理論・モデル・基本概念の解説を行います。国際問題を「料理」に例えれば、食材（国際問題）をどのように料理（分析）するかが鍵となります。同じ食材でも西洋料理、中華料理、日本料理では味覚が異なります。分析方法が異なれば、国際問題の見方も多様化します。</p> <p>国際社会を見る眼を養うこと——これが目標です。国際社会の変化に着目し、歴史を現代に引き寄せます。情報のフローと共にストックを重視し、表面的な現象に振り回されるのではなく、その下に潜む「構造」に関心を払います。授業の前半は、CNN や BBC の海外ニュースを紹介し、説明を行います。後半は、テキストを解説します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 国際社会を見る眼——木・林・森 2. リアリズムとリベラリズム（6頁） リアリズムの前提（8） 3. 19世紀の勢力均衡（10）登録確認 ヨーロッパの原点（19～20） 4. 国際政治の基本システム（15～16） 5. 利害調整、状況・制度・組織（21～27） 権力+正統性=権威（47～48） 6. 国内政治と国際政治の相違（49～50） 7～8. 国際社会論<ホブズ、カント、 グロチウス>（52～53） 9. 現実主義・相互依存・従属論（59） 10. 従属論（158～159） 11. 多国間主義（171～172） 12. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
『グローバル社会論資料集』		中間テストと期末テスト等の実施を予定。	

	国際社会論 a	担当者	竹田 いさみ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>現代の国際社会を理解するために、理論・モデル・基本概念の解説を行います。国際問題を「料理」に例えれば、食材（国際問題）をどのように料理（分析）するかが鍵となります。同じ食材でも西洋料理、中華料理、日本料理では味覚が異なります。分析方法が異なれば、国際問題の見方も多様化します。</p> <p>国際社会を見る眼を養うこと——これが目標です。国際社会の変化に着目し、歴史を現代に引き寄せます。情報のフローと共にストックを重視し、表面的な現象に振り回されるのではなく、その下に潜む「構造」に関心を払います。</p> <p>授業の前半は、CNNやBBCの海外ニュースを紹介し、説明を行います。後半は、テキストを解説します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 国際社会を見る眼——木・林・森 2. 国際政治の基本システム（15） 3. 国際政治の基本システム（15～16） リアリズムとリベラリズム（6）登録確認 4. 利害調整、状況・制度・組織（21～27） 権力+正統性=権威（47～48） 5. 国内政治と国際政治の相違（49～50） 6. 国内政治と国際政治の相違（50） 検証ヨーロッパ（10～11、19～20） 7～8. 国際社会論（52～53） ＜ホッブス、カント、グロチウス＞ 9. 現実主義・相互依存・従属論（59） 10. 従属論（158～161） 11. 多国間主義（171～172） 12. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
『グローバル社会論資料集』		中間テストと期末テスト等の実施を予定。	

	国際社会論 b	担当者	永野 隆行
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義では、現実の国際政治を理解するうえで不可欠な、「国際政治を見る眼」を養うことを目指している。具体的には、国際政治の三つの分析枠組み、主要なアプローチ（視点）、国際政治の秩序と規範の問題などを解説していく。したがって、本講義は時事問題の解説ではないことを理解したうえで出席して欲しい。</p> <p>とはいうものの、こうした種類の講義は、学生諸君にとってとっつきにくくなってしまいがちなので、できるだけ現実の問題に当てはめて説明したり、映像資料などを積極的に利用したりして、いろいろと工夫を試みたい。</p> <p>なお、本講義はパワーポイントを利用するが、授業に集中してもらうために、スライド資料は配布しない。スクリーンに投影されるスライドを各自でノートに書き込んでもらうことになる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション （第1～2週） ～国際政治の理論とは何か？ 2. 国際政治の「三つの分析枠組み」 （第3～4週） ～国際関係、国家、個人 3. 国際政治のアプローチ①リアリズム （第5～6週） ～ビデオ放映と講義 4. 国際政治のアプローチ②理想主義 （第8～9週） ～ビデオ放映と講義 5. 国際政治のアプローチ③コンストラクティビズム （第10～11週） ～ビデオ放映と講義 6. 国際政治における秩序と規範 （第12週） ～英国学派の国際関係論 <p>*第7週に中間試験を行う予定。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは特に指定しない。参考文献は、第一回目の授業で紹介する。		中間試験と期末試験による評価。出欠はとらない。	

	国際関係史 a	担当者	永野 隆行
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義の目的は、20 世紀国際政治の歴史の全体像を把握し、それを 21 世紀国際政治の理解に役立てることである。国際政治の現象の理解に必要なのは、理論（的枠組み）と歴史（的背景）である。「国際社会論」が前者を提供し、本講義「国際関係史」が後者を学生諸君に提供することになる。</p> <p>本講義では、第二次世界大戦後の歴史を主として冷戦という観点から振り返っていくが、時間の許す限り、「ナショナリズムの勃興と脱植民地化」、「核兵器」、「経済的繁栄と政治」、「冷戦と日本の戦後」などのテーマ別に約 50 年間の歴史を捉えなおしてみたい。</p> <p>なお、本講義はパワーポイントを利用するが、授業に集中してもらうために、スライド資料は配布しない。スクリーンに投影されるスライドを各自でノートに書き込んでもらうことになる。</p> <p>本講義では、受講者に戦後国際政治史に関する基礎知識があることを前提としていないが、毎回の授業の理解度を深めるためには、予習と復習を怠らないようにして欲しい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. インTRODakション（第1～3週） ～第二次世界大戦前後の国際関係の変化 2. 冷戦①（第4～5週） ～冷戦とは何であったのか？ 3. 冷戦②（第6～7週） ～冷戦の開始 4. 冷戦③（第8～10週） ～冷戦の展開 5. 冷戦④（第11～12週） ～ベトナム戦争 <p>* 第7～8週に中間試験を行う予定。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
第一回目の授業時に紹介する。		中間試験と学期末の試験による評価。出欠はとらない。	

	国際関係史 b	担当者	永野 隆行
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義では、第二次世界大戦後のアジア・太平洋地域の国際関係の歴史を、オーストラリアの視点から学んでいく。ただし、オーストラリアが戦後アジア・太平洋地域の国際関係に単に受動的に関わってきた歴史を描くのではなく、オーストラリアが主体的にどうやって関わろうとしてきたのかを考えながら、講義を進めたい。たしかにオーストラリアは大きな国力を持っておらず、同国が国際関係に主体的に関わろうとしても、国際関係の全体的構造や秩序の転換をもたらすことはできなかった。しかし、オーストラリアは限られた国力のもとで、国際関係における自らの立場や役割を常に意識しながら、国益の保持を目指してきたのである。こうした姿勢は、国力がありながらも、変動する国際関係で戸惑うばかりの日本外交にとって大いに参考となるであろう。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. インTRODakション（第1週） ～アジア太平洋における日本の重要なパートナーである「オーストラリア」を学ぶ意義 2. 20 世紀初頭の戦争とオーストラリア（第2～5週） ～日本とオーストラリアの「戦争の記憶」 3. 対日脅威の高まりとアジア国際関係への関心（第6～9週） ～日本のアジア進出と英豪対立・対米接近 4. 第二次世界大戦後のオーストラリアとアジアの安全保障（第10～12週） ～大国依存の安全保障から、自立した対アジア安全保障コミットメントへ <p>* 第7～8週に中間試験を行う予定。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
森健編『オーストラリア入門』東京大学出版会、1998年。		中間試験と学期末の試験による評価。出欠はとらない。	

	国際開発協力論 a	担当者	竹田 いさみ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>発展途上国の問題を9・11テロ事件が発生する以前と、それ以後に分類して考えます。</p> <p>9・11テロ事件以前では、内戦、地域紛争、国連PKOと和平構築、難民や移民への対応、地域協力などが、先進国と途上国の関係で大きな問題でした。授業の前半ではオーストラリアの対アジア関係を手掛かりに、途上国問題を国際協力の視点から考えます。</p> <p>授業の後半では、9・11テロ事件に象徴される国際テロ問題を扱います。テロは先進国と途上国の双方で起きますが、授業では途上国との関連で国際テロを取り上げます。</p> <p>とりわけ国際テロ組織アルカイダに着目します。オサマ・ビンラディンの家庭環境、テロリストへの変貌、聖戦「ジハード」の論理——これらの疑問を解いていきます。</p>		<p><9・11テロ以前></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ミドルパワーの役割 (序、1章) 2. アジア太平洋の地域協力 APEC ケアンズ・グループ (6章3節) 3. 東チモール内戦・和平プロセス (6章4) 4. カンボジア内戦とエバンス提案 (6章3) 5. ベトナム難民 (6章2) 6. アジア系移民 (6章2～3) <p><9・11テロ以後></p> <ol style="list-style-type: none"> 7. 国際テロの時代と「アルカイダ」(序、1章) 8. 変化するアルカイダ (1章) 9. 聖戦「ジハード」の分類学 (1章) 10. 聖戦「ジハード」の分類学 (1章) 11. 東南アジアへの進出と活用法 (2章) 12. 拠点のグローバル化 (2章) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
竹田いさみ『物語オーストラリアの歴史』(中公新書、2000年)、同『国際テロネットワーク』(講談社現代新書、2006年)の2冊。		中間テストと期末レポートを実施します。	

	国際開発協力論 b	担当者	佐野 康子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義の目的は、学生自身が国際協力のあり方、国際協力推進のために何をどうすればいいのか、また国際協力にどのように関わっていけるのかを考えるきっかけを与えることにある。</p> <p>講義の前半部分では、国際協力、開発援助とは何か、国際協力の枠組がどのように変化してきたのか、開発援助の手法・評価方法など開発援助の基礎について学ぶ。その後、講義の後半部分では、国という枠組を超えての対応が必要不可欠である地球規模の課題を取り上げ、問題の背景、現状、国際協力の実態を分析する。本授業を通じて、学生と共に国際協力の展望を考えていきたい。</p> <p>尚、第一週目の授業にて、授業の詳細を説明する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション：国際協力、開発援助とは何か。 2. 国際協力の歴史 3. 国際協力枠組の変遷 4. 開発援助の手法、評価 5. 多国間援助 6. 二国間援助 7. 中間試験 8. 地球規模の課題 (1) 貧困削減 9. 地球規模の課題 (2) 平和構築 10. 地球規模の課題 (3) 持続可能な開発 11. 地球規模の課題 (4) 良き統治 12. 今後の国際協力のあり方 	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストの指定はないが、授業中に参考文献を紹介する。		出席、中間試験、学期末に提出してもらったレポートによる総合評価とする。	

	国際関係論特殊講義 a	担当者	石川 幸子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(講義目的) “グローバル化”する現代社会において、NGOが国際協力において果たす役割は益々大きくなると共に、その活動内容も多様化している。本講義では、国際協力に関与するNGOの現状と課題を理解し、健全で効果的な国際協力に貢献するNGOのあり方を考えることを目的とする。</p> <p>(講義概要) 総論として国際的に活動するNGOの変遷、今日的課題等、NGOの全体像を把握した後、“国際協力とNGO”をテーマとした各論を学ぶ。特に、国際社会の現状を反映した「人間の安全保障」の概念とNGO活動との関連に焦点を当て、平和構築分野での日本のNGO活動を中心に考察する。 国際協力実務者（講師）としての立場から、なるべく現場の状況を反映した講義になるよう工夫したい。</p> <p>(受講生への要望) 国際協力に関心のある学生の選択が望ましい。NGO活動のみならず、国際機関やODA（政府開発援助）に関心を持つ者の受講も有益であろう。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義全般の説明。NGO活動とは何か 2. 世界情勢の変化とNGO 3. NGO活動の歴史と変遷 4. 国際協力におけるNGOの役割 5. 他のアクターとNGO（1）国際機関 6. 他のアクターとNGO（2）政府機関・企業 7. 「人間の安全保障」とNGO活動 8. 緊急人道支援活動とNGO 9. 平和構築支援とNGO 10. カンボジアの事例を考える 11. NGOの基盤強化 12. まとめー国際協力NGOのあり方 	
テキスト、参考文献		評価方法	
「国際協力 NGO」(今田克司・原田勝広編著 日本評論社) 「シリーズ NPO-NPO/NGO と国際協力」(西川潤・佐藤幸男編著 ミネルヴァ書房)		レポート、及び試験。 出席等のポイントも考慮する。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

	国際関係論特殊講義 a (春学期開講)	担当者	金子 芳樹
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>グローバリゼーションの進展は、さまざまな国や地域で暮らす人々の文化や社会のあり方、そして国際関係に変化を及ぼしている。日本で韓流ブームが起こり、上海で F1 グランプリが開催され、インド洋津波で世界中から集まっていた観光客が犠牲となる。クロスカルチャーの時代、そしてそれが各地域の文化や社会のあり方に相互に影響を及ぼし合う時代である。</p> <p>ただし、このような傾向は近年のグローバリゼーションによって初めてもたらされたものではない。特に東西文化の結節点であるアジア太平洋地域においては、中世以来、世界のさまざまな文化のフュージョン（融合）が起こっていた。また、同地域における 1980 年代以降の高度経済成長は、文化的クロスオーバーをいっそう促進するとともに、その分野の産業化を促してきたのである。</p> <p>本講義では、このような点に着目し、アジア太平洋地域の文化、社会、産業、および国際関係とその変化を、クロスカルチャー、マルチエスニックといった観点から分析・解説する。本講義は、3つのシリーズ（歴史、文化と社会、産業と社会）から構成される。</p>		<p>1. イントロダクション：文化・社会・産業・国際関係</p> <p><歴史></p> <p>2. アジアにおける植民統治と西洋化</p> <p>3. 植民地統治 - 台湾、朝鮮半島、中国</p> <p>4. 太平洋戦争と日本軍政</p> <p>5. ナショナリズムと独立運動</p> <p><文化と社会></p> <p>6. マルチエスニック社会の形成と構造</p> <p>7. イスラム・ネットワーク</p> <p>8. 華人・華僑ネットワーク</p> <p>9. ポップカルチャーのアジア環流</p> <p><経済と産業></p> <p>10. 中国の経済発展と国際政治経済</p> <p>11. 日系企業の海外進出 - 実情と問題点</p> <p>12. グローバル化の中のツーリズム産業 (初回の授業でより詳細な授業計画を配布する)</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
共通テキストは特に指定しない。授業ごとに参考文献を紹介する。		学期末試験の成績を中心に評価を行う。	

	国際関係論特殊講義 b (春学期開講)	担当者	金子 芳樹
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>2005 年度まで開講していた金子担当の「国際開発協力論 b」の内容を、本年度については「国際関係論特殊講義 b」として春学期に開講する。</p> <p>本講義では、開発途上国における貧困と開発の実態を明らかにしたうえで、それら途上国に対する国際協力の現状と課題について検討する。</p> <p>講義は4つのシリーズから構成される。第1の「開発途上国の貧困」では、貧困の要因を多面的に捉え、第2の「開発途上国の開発」では、途上国が独立以来歩んできた発展の過程を後付ける。第3の「日本の開発援助」では、日本の ODA を具体例としながら先進国による開発援助の歴史と実態ならびにその問題点を検討し、最後の「開発協力の新展開」では、グローバル化時代の新たなトレンドを探りつつ、近年注目される NGO と開発との関係について考察する。なお、授業はプレゼンテーション・ソフトを用いて行い、ビデオ資料も適宜使用する。</p>		<p>1. イントロダクション：開発と国際協力とは？</p> <p><開発途上国の貧困></p> <p>2. 歴史的要因：植民地支配の影響</p> <p>3. 政治的要因：政治的不安定と開発独裁</p> <p>4. 社会・文化的要因</p> <p><開発途上国の開発></p> <p>5. 経済開発の基本的パターン</p> <p>6. 途上国とグローバリゼーション</p> <p><日本の開発援助></p> <p>7. ODA の仕組みとトレンド</p> <p>8. 日本の ODA の歴史的展開と特徴</p> <p>9. 新たなテーマと課題</p> <p><開発援助の新展開></p> <p>10. グローバル化時代の国際協力：環境と開発</p> <p>11. NGO の機能と役割</p> <p>12. 開発と NGO：ケーススタディ (初回の授業でより詳細な授業計画を配布する)</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
共通テキストは特に指定しない。授業ごとに参考文献を紹介する。		学期末試験の成績を中心に評価を行う。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

	国際関係論特殊講義 b	担当者	竹田 いさみ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>世界を見渡すと、実にさまざまなイスラム過激派やテロ組織が存在することに驚かされます。「アルカイダ」と呼ばれるテロ組織を取り上げて、国際的なネットワークを解明します。</p> <p>春学期の「国際開発協力論 a」で扱ったテロ問題を、さらに掘り下げることになります。春学期に行った授業の要点を確認しつつ、テロ組織の実態を解明していきます。</p> <p>授業ではアルカイダと並んで、東南アジアのテロ組織にも注目します。テロリストは航空機で自由に移動し、ホテルやマンションに住み、テロ計画を立案するなど、豊富な資金に支えられてきました。資金源と資金ルートに迫ります。授業では、CNN や BBC ニュース、ビデオ映像を適宜取り上げる予定。</p> <p>今年から2年生(3,4学期生)も受講できます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 国際テロ組織「アルカイダ」 (1章1～3) 2. テロの資金源 (4章1～3) 3. テロの資金源、登録確認 4. テロ資金の管理 (4章4) —金・ダイヤモンド・ハワラ 5. オサマ・ビンラディンの「聖戦」 (1章4～5) 6. アルカイダ系テロ組織 —分類とネットワーク (3章1) 7. 広域テロ組織「ジェマー・イスラミア」(3章2) 8. 広域テロ組織「ジェマー・イスラミア」(3章2) 9. 東南アジアのテロ組織 (3章3～5) 10. 東南アジアのテロ組織 (3章3～5) 11. 国際テロと向き合う(終章) 12. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
竹田いさみ『国際テロネットワーク』 (講談社現代新書、2006年)。		中間テストと期末レポートを実施します。	

	国際関係論文献研究 a	担当者	阿部 純一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>英語文献を通じて、米ソ冷戦期からポスト冷戦の現在にかけて生じてきた国際関係の構造変化を検討する。</p> <p>米ソ冷戦が終結して十余年を経過した現在、政治・経済・軍事のあらゆる点でアメリカが突出した状況が定着しつつある。アメリカにおける国際関係論の主要関心事として、アメリカの卓越した地位、あるいはアメリカを中心とした国際秩序をいかに維持していくかという視点がある。</p> <p>民主主義、市場経済・自由貿易の拡大、大量破壊兵器の拡散防止といったアメリカの外交目標も、端的に言えばアメリカのリーダーシップを維持するためのものといえる。国際関係の中心的アクターであるアメリカの役割、政策に焦点を当て、マクロの視点から国際関係の動態を捉えた最新の文献をもとに議論する。</p>			
テキスト、参考文献		評価方法	
アメリカの外交専門誌記事、政府機関・シンクタンクのレポートなどをコピーし配布。		成績は「授業への貢献」が評価の基準となる。授業への出席は最低条件。	

	国際関係論文献研究 b	担当者	阿部 純一
講義目的、講義概要		授業計画	
(国際関係論文献研究 a に同じ)			
テキスト、参考文献		評価方法	

	国際関係論文献研究 a	担当者	竹田 いさみ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業では、以下の3つの目標が設定されています。</p> <p>第1の目標は、英語圏の国際関係を、国際テロ組織アルカイダが関与したテロ問題に注目して討論することです。</p> <p>第2の目標は、英語の運用能力を高めることです。</p> <p>第3の目標としては、この授業は参加型であり、全員が積極的に発言する状況が生まれることです。</p> <p>テキストとしては、テロ問題に関して米国の特別調査委員会が作成した委員会レポートを扱う予定です。</p> <p>基本的に授業は、すべて英語で行います。とりわけ授業では、英語によるプレゼンテーション能力の開発に、力点が置かれています。</p> <p>出席した受講生のみが、評価の対象となります。</p>		<p>受講生の人数が確定した段階で、プレゼンテーションのテーマを決め、発表者を順次決めていきます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 テーマごとのプレゼンテーションと討論 3 同上 4 同上 5 同上 6 同上 7 同上 8 同上 9 同上 10 同上 11 同上 12 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<i>The 9/11 Commission Report, Authorized Edition, 2004.</i>		出席状況、授業への貢献度、プレゼンテーションの準備などで評価します。	

	国際関係論文献研究 b	担当者	竹田 いさみ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業では、以下の3つの目標が設定されています。</p> <p>第1の目標は、英語圏の国際関係を、国際テロ組織アルカイダが関与したテロ問題に注目して討論することです。</p> <p>第2の目標は、英語の運用能力を高めることです。</p> <p>第3の目標としては、この授業は参加型であり、全員が積極的に発言する状況が生まれることです。</p> <p>テキストとしては、テロ問題に関して米国の特別調査委員会が作成した委員会レポートを扱う予定です。</p> <p>基本的に授業は、すべて英語で行います。とりわけ授業では、英語によるプレゼンテーション能力の開発に、力点が置かれています。</p> <p>出席した受講生のみが、評価の対象となります。</p>		<p>受講生の人数が確定した段階で、プレゼンテーションのテーマを決め、発表者を順次決めていきます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 テーマごとのプレゼンテーションと討論 3 同上 4 同上 5 同上 6 同上 7 同上 8 同上 9 同上 10 同上 11 同上 12 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<i>The 9/11 Commission Report, Authorized Edition, 2004.</i>		出席状況、授業への貢献度、プレゼンテーションの準備などで評価します。	

	特別セミナー (CAEL)	担当者	J.Stephenson
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>In this class, you will study English intensively using a computer program called ぎゅっと E. As this class requires a lot of study and personal discipline, only students who are serious about improving their English should register.</p> <p>In addition to working through the ぎゅっと E program on your own, you must also do the following:</p> <ul style="list-style-type: none"> - Introduce yourself to your teacher and classmates (by email); - Create and submit your own learning plan; - Keep a record of what you learn each week in a journal and complete 2 self-evaluations; - Prepare for and complete quizzes. <p>Before registering for this course, you should find out more about ぎゅっと E at: <http://gyuto-e.jp/hkGE_hp/index2.htm></p> <p>There is a demo version of ぎゅっと E at: <http://ecall-system.jp/gyuto-e/trial-h/start.do></p> <p>Type in the user name (guest) and password (demo). Feel free to email the instructor at jodie@dokkyo.ac.jp if you have any questions.</p>		<p>This schedule may change. You will receive more detailed information in the first week of the semester.</p> <p>Week:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Course outline and introductions 2. Submit your study plan, start personal study 3. Personal study 4. Personal study 5. Quiz, personal study 6. Personal study, self-evaluation 1 7. Personal study 8. Personal study 9. Personal study 10. Personal study 11. Quiz, personal study, 12. Personal study, self-evaluation 2 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>You do not need to buy a textbook for this class; however, there is a fee to use the Gyu-to E program.</p>		<p>This grading system may change. You will receive more information during the first week of the semester. Self - introduction 10% Quizzes 30% Study plan 20% Journals 30% Self-evaluations 10%</p>	

	特別セミナー (CAEL)	担当者	J.Stephenson
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>In this class, you will study English intensively using a computer program called ぎゅっと E. As this class requires a lot of study and personal discipline, only students who are serious about improving their English should register.</p> <p>In addition to working through the ぎゅっと E program on your own, you must also do the following:</p> <ul style="list-style-type: none"> - Introduce yourself to your teacher and classmates (by email); - Create and submit your own learning plan; - Keep a record of what you learn each week in a journal and complete 2 self-evaluations; - Prepare for and complete quizzes. <p>Before registering for this course, you should find out more about ぎゅっと E at: <http://gyuto-e.jp/hkGE_hp/index2.htm></p> <p>You can try a demo version of ぎゅっと E at: <http://ecall-system.jp/gyuto-e/trial-h/start.do></p> <p>Type in the user name (guest) and password (demo). Feel free to email the instructor at jodie@dokkyo.ac.jp if you have any questions.</p>		<p>This schedule may change. You will receive more detailed information in the first week of the semester.</p> <p>Week:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Course outline and introductions 2. Submit your study plan, start personal study 3. Personal study 4. Personal study 5. Quiz, personal study 6. Personal study, self-evaluation 1 7. Personal study 8. Personal study 9. Personal study 10. Personal study 11. Quiz, personal study 12. Personal study, self-evaluation 2 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>You do not need to buy a textbook for this class; however, there is a fee to use the Gyu-to E program.</p>		<p>This grading system may change. You will receive more information during the first week of the semester. Self - introduction 10% Quizzes 30% Study plan 20% Journals 30% Self-evaluations 10%</p>	

2006年度

外国語学部共通科目シラバス

(2003年度以降入学生用)

【2002年度以前入学生用】の外国語学部共通科目は
『全学共通授業科目シラバス』に掲載しています

学則別表 (2003年度以降入学者)

科目群	科目	単位
外国語学部共通科目	総合講座	2
	情報科学概論a	2
	情報科学概論b	2
	情報科学各論	2
	経済原論a	2
	経済原論b	2
	社会心理学a	2
	社会心理学b	2

○ 本表は、2003年度入学者から適用する。

外国語学部共通科目（2003年度以降入学生用）

※ほとんどの科目はオンライン抽選が行われます。
各学科の「授業時間割表」で抽選方法や定員などを確認してください。

目次

時間割 コード	科目名	担当教員	開講期	曜時	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
07690	総合講座	青山 愛香	春	水3	2	1	経・法	1
07691	総合講座	木村 佐千子	秋	水3	2	1	経・法	1
00220	情報科学概論a	呉 浩東	春	金1	2	1	経・法	2
00221	情報科学概論b	呉 浩東	秋	金1	2	1	経・法	2
	情報科学各論(入門)	各担当教員			2	1	経・法	3
00138		長崎 等	春	月1				
00058		金子 憲一	春	月4				
00068		金子 憲一	春	月5				
00074		田中 雅英	春	火1				
00093		田中 雅英	春	火2				
00208		内田 俊郎	春	木4				
00253		松山 恵美子	春	金2				
	情報科学各論(初級—表計算入門)	各担当教員			2	1	経・法	4
00044		金子 憲一	春	月3				
00109		田中 雅英	春	火3				
09040		二宮 哲	春	水1				
00184		内田 俊郎	春	木2				
00255		松山 恵美子	春	金3				
00141		長崎 等	秋	月1				
00070		金子 憲一	秋	月5				
00076		田中 雅英	秋	火1				
00019		呉 浩東	秋	水2				
00193		内田 俊郎	秋	木2				
09037		内田 俊郎	秋	木3				
00231		松山 恵美子	秋	金2				
00201	情報科学各論(初級—プレゼンテーション)	金井 満	春	火2	2	1	経・法	5
00202	情報科学各論(初級—プレゼンテーション)	金井 満	秋	火2	2	1	経・法	5
	情報科学各論(初級—HTML入門)	各担当教員			2	1	経・法	6
00021		呉 浩東	春	水2				
00195		内田 俊郎	春	木3				
00060		金子 憲一	秋	月4				
00096		田中 雅英	秋	火2				
00131		二宮 哲	秋	水1				
00210		内田 俊郎	秋	木4				
00239	情報科学各論(中級—表計算応用1)	松山 恵美子	秋	金3	2	1	経・法	7
09305	情報科学各論(中級—表計算応用1)	松山 恵美子	春	金4	2	1	経・法	7
09308	情報科学各論(中級—表計算応用2)	松山 恵美子	秋	金4	2	1	経・法	8
00048	情報科学各論(中級—HTML応用1)	金子 憲一	秋	月3	2	1		9
00111	情報科学各論(中級—HTML応用1)	田中 雅英	秋	火3	2	1		10
00156	情報科学各論(中級—データベース1)	長崎 等	春	月2	2	1		11
00158	情報科学各論(中級—データベース2)	長崎 等	秋	月2	2	1		11
00172	情報科学各論(中級—プログラミング論1)	呉 浩東	春	月2	2	2	言	12
00191	情報科学各論(中級—プログラミング論2)	呉 浩東	秋	月2	2	2	言	12
00087	経済原論a	野村 容康	春	火1	2	1	経・法	13
00088	経済原論b	野村 容康	秋	火1	2	1	経・法	13
00055	社会心理学a	田口 雅徳	春	火4	2	1		14
00056	社会心理学b	田口 雅徳	秋	火4	2	1		14

03年度以降	総合講座	担当者	青山 愛香 (コーディネータ)
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期は、「都市と藝術」と題して、ヨーロッパならびにアジアを代表する都市と、その都市を中心に展開した藝術について考察します。</p> <p>9名の講師がオムニバス形式で、幅広い時代の芸術作品を紹介します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 青山愛香 (本学専任講師) はじめに 2 青山愛香「ニュルンベルク」 3 諏訪功 (一橋大学名誉教授)「ウィーン①」 4 増谷英樹 (本学特任教授)「ウィーン②」 5 加藤磨珠枝 (東京藝術大学非常勤講師)「ローマ」 6 K. O. パイスヴェンガー (本学助教授)「ドレスデン①」 7 酒井府 (本学名誉教授)「ミュンヘン①」 8 片山まび (大阪市立東洋陶磁美術館)「東アジアの都市」 9 I. アルブレヒト (本学教授)「ドナウ河流域の都市」 10 酒井府 「ミュンヘン②」 11 佐藤直樹 (国立西洋美術館主任研究官)「ドレスデン②」 12 青山愛香 まとめ <p>※ 講師の都合により日程に変更がある場合があります</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業中に指示する。		学期末試験に平常点を加味した総合評価	

03年度以降	総合講座	担当者	木村 佐千子 (コーディネータ)
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ーヨーロッパの都市や地域と音楽ー</p> <p>この総合講座では、各回に1つのヨーロッパの都市や地域に焦点をあて、その都市や地域の概容を知っていただくと同時に、その地にまつわる音楽に親しんでいただきたいと思います。</p> <p>この講座は、オムニバス形式で行われます。各回の担当者が、とりあげる都市や地域とその地にまつわる音楽について、映像資料や録音資料、生演奏を用いて、なるべく分かりやすくお話しします。担当者の専門によって、都市論が中心になったり、文学や民俗に重点が置かれたり、音楽史的なことを中心にお話ししたり、変化に富む講義内容となる予定です。それにより、受講者のみなさんの視野が広がるよう願っています。</p> <p>注意事項：授業中に音楽をお聴かせしますので、絶対に静粛を守ってください。私語等で他の受講者の迷惑となる学生には、退室を指示することがあります。もちろん、質問等での発言は歓迎です。積極的な参加を期待します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 本学ドイツ語学科専任講師 木村佐千子 「ヴェネツィア」 2 ヴァイオリン奏者 (本学卒業生) 樋口ゆみ 「ヨーロッパのヴァイオリン音楽」(お話と演奏) (小講堂で実施する予定) 3 木村佐千子 「ヴィーン」 4 本学ドイツ語学科助教授 Kirsten Beißwenger 「ドレスデン」 5 本学ドイツ語学科教授 渡部重美 「ヴァイマル」 6 渡部重美 「ベルリン」 7 本学フランス語学科非常勤講師 松橋麻利 「パリ」 8 本学ドイツ語学科教授 下川浩 「デュッセルドルフとハンブルク ～ハイネ＝シューマン没後150年に寄せて」 9 木村佐千子 「スペイン」 10 東京藝術大学名誉教授 角倉一朗 「ライブツィヒ」 11 東京音楽大学教授 岡田敦子 「ペテルブルク～ロシアにおける西洋音楽の導入と、西洋音楽のロシア化」(お話とピアノ演奏) (小講堂で実施する予定) 12 木村佐千子「ロンドン」 <p>※各回のタイトルは、大雑把な内容をお伝えするための仮のものです。 ※内容や担当者は変更となる場合があります。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考文献は授業中に適宜紹介します。		学期末試験の結果に平常点を加味した総合評価。各回の終わりに意見・感想を記してもらいます。	

03 年度以降	情報科学概論 a	担当者	呉 浩東
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>高度化情報社会に生きる個人として、情報とそのシステムに関する基本的な素養を修得することは、必要不可欠になっている。単にコンピュータの操作技術を習熟するというのではなく、その基礎となる原理を理解することにより、情報やそのシステムをより有用な道具として使いこなす能力を身に付けることができる。これは、情報が多大で多様な価値をもつ情報社会に生きる個人としてもっとも重要な能力である。</p> <p>本講義では、(1) 情報に関する基本的な概念、(2) コミュニケーションにおける情報とその処理に関する基礎的な素養、(3) 情報システムに関する基礎的な素養、(4) 情報社会に関する基礎的な理解などを修得の目標とする。</p> <p>本講義はまず、人間とコンピュータとの関わり、情報とコンピュータシステムとの関係を概説し、コンピュータのハードウェアとソフトウェア、コンピュータの動作概要などを解説する。次に、情報の符号化、コンピュータ内のデータ表現、プログラム構造、アルゴリズムについて学ぶ。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 講義の概要と目標 2 情報とは何か 情報の性質、情報の形態、情報の発達 3 コンピュータの歴史と特徴 計算機械の変遷とコンピュータの世代論 4 数の体系と基数変換 2進数と16進数、基数変換、2進数の演算 5 コンピュータの論理回路とデータ表現 6 コンピュータの構成要素(1) 中央処理装置(CPU)とメインメモリ 7 コンピュータの構成要素(2) 2次記憶装置と周辺措置 8 コンピュータ・ソフトウェアの概略 ソフトウェアの役割、体系と種類 9 オペレーティングシステム(OS) OSの基礎概念、OSの役割と原理 10 コンピュータ言語 コンピュータ言語の分類と目的 11 基本データ構造 配列構造、木構造、リスト構造、スタック構造 12 アルゴリズム 	
テキスト、参考文献		評価方法	
山田啓一 『情報科学』 西日本法規出版		レポート、出席状況と筆記試験の結果を併せて評価する。	

03 年度以降	情報科学概論 b	担当者	呉 浩東
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>高度化情報社会に生きる個人として、情報とそのシステムに関する基本的な素養を修得することは、必要不可欠になっている。単にコンピュータの操作技術を習熟するというのではなく、その基礎となる原理を理解することにより、情報やそのシステムをより有用な道具として使いこなす能力を身に付けることができる。これは、情報が多大で多様な価値をもつ情報社会に生きる個人としてもっとも重要な能力である。</p> <p>本講義では、(1) 情報に関する基本的な概念、(2) コミュニケーションにおける情報とその処理に関する基礎的な素養、(3) 情報システムに関する基礎的な素養、(4) 情報社会に関する基礎的な理解などを修得の目標とする。</p> <p>本講義では、近年急速に発展しているインターネット、データ通信、データベース技術などに重点を置き、コンピュータ活用技術に関するさまざまな知識を概説し、数回の演習も実施する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 ファイルの構造 ファイルの種類と構造 2 データベース データベースの概要、データベースの種類 3 データベース管理システム(DBMS) DBMSの目的と構成 4 データベースの設計 データベース構築の手順、データの正規化 5 コンピュータ・ネットワーク ネットワークの種類、LANの構成とアクセス方式 6 インターネット インターネットの仕組み、通信規約TCP/IP、DNS 7 インターネットサービス World Wide Web、情報検索、電子メールなど 8 インターネットと社会 セキュリティ、暗号システム、電子認証 9 マルチメディアの利用 画像処理、音声処理、応用システム 10 情報検索 情報検索の方法と演習 11 言語処理における情報技術(演習) 12 ソフトウェア開発手順 システム分析と設計、プログラム開発と保守 	
テキスト、参考文献		評価方法	
山田啓一 『情報科学』 西日本法規出版 随時必要な資料を指示する。		レポート、出席状況と筆記試験の結果を併せて評価する。	

03年度以降	情報科学各論(入門)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>現在、膨大な情報の中から「自らに必要なもの」を探し出し、「効率的かつ効果的」に活用する場合の中心となるのはコンピュータである。この科目では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用、およびコンピュータネットワークについて学んでいく。とくに大学生活(広くは社会生活)で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータ活用法を習得することを目的とする。</p> <p>コンピュータ初心者を対象に、1人で1台のパーソナルコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。内容は、日本語および英文ワープロ、コンピュータネットワーク(通信)、情報倫理についてである。</p> <p>注意</p> <p>実習を中心とした授業なので、欠席や遅刻は厳禁とする。止むを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻すこと。</p> <p>情報科学各論(初級・中級)科目群のいずれかをすでに履修済みの場合は、本科目を履修してはならない。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンスとコンピュータの基本操作 2 ウィンドウズ入門—ウィンドウ操作とアプリケーション 3 日本語入力とタイピング 4 インターネット—ブラウザ・メール・検索 5 情報倫理 6 ワードプロセッサとは 7 文書の作成(1) 8 文書の作成(2) 9 文書の作成(3) 10 文書への画像の挿入 11 レポートの作成 12 総合演習 	
テキスト、参考文献		評価方法	
『学生のためのコンピュータ活用Ⅰ』		授業中に指示する課題の作成と平常点で総合評価する。出席は重視する。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降	情報科学各論(初級－表計算入門)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業は、コンピュータ初心者向け授業「情報科学各論(入門)」「コンピュータ入門」の直上に位置する初級科目である。コンピュータについての基礎知識と基本操作を習得した人たちが、その活用に向けて一歩踏み出すために設けられている。社会生活に必要な情報の活用法を学習し、より幅広いリテラシーを得ることを目標とする。</p> <p>この授業では、表計算ソフト(MS-Excel)の基本操作を学ぶ。数値データ・文字データの処理方法およびコンピュータネットワークを利用した情報の収集とそのデータの整理・加工の方法を学習する。さらにそのデータをまとめ効果的に発表する手段を習得する。</p> <p>注意</p> <p>実習を中心とした授業なので、欠席や遅刻は厳禁とする。止むを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻すこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習 2 表の作成(文字の入力)、グラフの作成 3 表の編集、グラフの装飾、印刷 4 計算式の利用 5 ネットワークからのデータの収集・整理 6 関数の利用(1) 7 関数の利用(2) 8 関数の利用(3) 9 プレゼンテーション(1)－作成 (MS-POWERPOINTとは) 10 プレゼンテーション(2)－作成(データの活用・まとめ) 11 プレゼンテーション(3)－発表 12 総合演習 	
テキスト、参考文献		評価方法	
『学生のためのコンピュータ活用Ⅱ』		授業中に指示する課題の作成と平常点で総合評価する。出席は重視する。	

03年度以降	情報科学各論(初級－表計算入門)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業は、コンピュータ初心者向け授業「情報科学各論(入門)」「コンピュータ入門」の直上に位置する初級科目である。コンピュータについての基礎知識と基本操作を習得した人たちが、その活用に向けて一歩踏み出すために設けられている。社会生活に必要な情報の活用法を学習し、より幅広いリテラシーを得ることを目標とする。</p> <p>この授業では、表計算ソフト(MS-Excel)の基本操作を学ぶ。数値データ・文字データの処理方法およびコンピュータネットワークを利用した情報の収集とそのデータの整理・加工の方法を学習する。さらにそのデータをまとめ効果的に発表する手段を習得する。</p> <p>注意</p> <p>実習を中心とした授業なので、欠席や遅刻は厳禁とする。止むを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻すこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習 2 表の作成(文字の入力)、グラフの作成 3 表の編集、グラフの装飾、印刷 4 計算式の利用 5 ネットワークからのデータの収集・整理 6 関数の利用(1) 7 関数の利用(2) 8 関数の利用(3) 9 プレゼンテーション(1)－作成 (MS-POWERPOINTとは) 10 プレゼンテーション(2)－作成(データの活用・まとめ) 11 プレゼンテーション(3)－発表 12 総合演習 	
テキスト、参考文献		評価方法	
『学生のためのコンピュータ活用Ⅱ』		授業中に指示する課題の作成と平常点で総合評価する。出席は重視する。	

03年度以降	情報科学各論（初級－プレゼンテーション）	担当者	金井 満
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業は、コンピュータ初心者向け授業「コンピュータ入門」の直上に位置する初級科目です。コンピュータの基本操作を習得した人たちが、その活用に向けて、一步踏み出すために設けられているものです。</p> <p>講義概要：</p> <p>この授業では、プレゼンテーション用ソフトウェアであるPowerpointを使って文字情報だけではなく、画像・音声・動画など様々な方法で自分の持っている情報をわかりやすく相手に伝え、理解してもらうための手法を学びます。</p> <p>ソフト自体はワープロが使える人であればそれほど難しいものではないので、実際にプレゼンテーションを行う経験も積んでもらいたいと思います。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習 2. Powerpoint の基本操作 1 3. Powerpoint の基本操作 2 4. Powerpoint の基本操作 3 5. 効果的なスライドとは 6. プレゼンテーションの注意点 7. プレゼンテーションの練習 8. 個人プレゼンテーションの準備 9. 個人プレゼンテーション 10. 個人プレゼンテーション 11. 個人プレゼンテーション 12. 総括 	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業で指示します。		授業内での個人プレゼンテーション。	

03年度以降	情報科学各論（初級－プレゼンテーション）	担当者	金井 満
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業は、コンピュータ初心者向け授業「コンピュータ入門」の直上に位置する初級科目です。コンピュータの基本操作を習得した人たちが、その活用に向けて、一步踏み出すために設けられているものです。</p> <p>講義概要：</p> <p>この授業では、プレゼンテーション用ソフトウェアであるPowerpointを使って文字情報だけではなく、画像・音声・動画など様々な方法で自分の持っている情報をわかりやすく相手に伝え、理解してもらうための手法を学びます。</p> <p>ソフト自体はワープロが使える人であればそれほど難しいものではないので、実際にプレゼンテーションを行う経験も積んでもらいたいと思います。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習 2. Powerpoint の基本操作 1 3. Powerpoint の基本操作 2 4. Powerpoint の基本操作 3 5. 効果的なスライドとは 6. プレゼンテーションの注意点 7. プレゼンテーションの練習 8. 個人プレゼンテーションの準備 9. 個人プレゼンテーション 10. 個人プレゼンテーション 11. 個人プレゼンテーション 12. 総括 	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業で指示します。		授業内での個人プレゼンテーション。	

03年度以降	情報科学各論(初級－HTML 入門)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業は、コンピュータ初心者向け授業「情報科学各論(入門)」「コンピュータ入門」の直上に位置する初級科目である。コンピュータについての基礎知識と基本操作を習得した人たちが、その活用に向けて一歩踏み出すために設けられている。社会生活に必要な情報の活用法を学習し、より幅広いリテラシーを得ることを目標とする。</p> <p>この授業ではまず、コンピュータとコンピュータネットワークの基本構成、ファイルの種類やフォルダの構造といったコンピュータに関する基礎知識を復習する。その上で、インターネットサービスの一つである WWW(World Wide Web)における情報の構成単位である「ページ」の構造と、それを記述する「HTML」(Hyper-Text Markup Language)を学ぶ。また、簡単な自分自身のホームページの試作もする。</p> <p>注意</p> <p>実習を中心とした授業なので、欠席や遅刻は厳禁とする。止むを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻すこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習 2 WWW と LAN 3 情報の単位と情報通信 4 ハイパーテキストと HTML 5 インターネットと情報倫理 6 ページの構造と HTML 7 ホームページの作成－テキスト 8 ホームページの作成－イメージ 9 ホームページの作成－リンク 10 ホームページの作成－テーブル・その他 11 ホームページの作成－完成 12 ファイルの転送とページの更新 	
テキスト、参考文献		評価方法	
『学生のためのコンピュータ活用Ⅱ』		授業中に指示する課題の作成と平常点で総合評価する。出席は重視する。	

03年度以降	情報科学各論(初級－HTML 入門)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業は、コンピュータ初心者向け授業「情報科学各論(入門)」「コンピュータ入門」の直上に位置する初級科目である。コンピュータについての基礎知識と基本操作を習得した人たちが、その活用に向けて一歩踏み出すために設けられている。社会生活に必要な情報の活用法を学習し、より幅広いリテラシーを得ることを目標とする。</p> <p>この授業ではまず、コンピュータとコンピュータネットワークの基本構成、ファイルの種類やフォルダの構造といったコンピュータに関する基礎知識を復習する。その上で、インターネットサービスの一つである WWW(World Wide Web)における情報の構成単位である「ページ」の構造と、それを記述する「HTML」(Hyper-Text Markup Language)を学ぶ。また、簡単な自分自身のホームページの試作もする。</p> <p>注意</p> <p>実習を中心とした授業なので、欠席や遅刻は厳禁とする。止むを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻すこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習 2 WWW と LAN 3 情報の単位と情報通信 4 ハイパーテキストと HTML 5 インターネットと情報倫理 6 ページの構造と HTML 7 ホームページの作成－テキスト 8 ホームページの作成－イメージ 9 ホームページの作成－リンク 10 ホームページの作成－テーブル・その他 11 ホームページの作成－完成 12 ファイルの転送とページの更新 	
テキスト、参考文献		評価方法	
『学生のためのコンピュータ活用Ⅱ』		授業中に指示する課題の作成と平常点で総合評価する。出席は重視する。	

03年度以降	情報科学各論（中級一表計算応用1）	担当者	松山恵美子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義は表計算ソフト（MS-Excel）の基礎をマスターした学生を対象として行うものとする。</p> <p>Excel の機能のひとつに「マクロ」機能がある。Excel でデータを処理する過程において、計算式、関数、書式設定、コピーなど、同じ一連の操作を繰り返す必要がある場合、その処理内容を記録させることで、次回からボタンをクリックするだけで、即時に実行することが可能となる。</p> <p>簡単な「マクロ」を作成しながら、マクロ機能で自動的に作成される VBA（Visual Basic for Application）プログラムの基礎を理解することを目標とする。</p> <p>初回の授業に、必ず出席すること。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンスと Excel の復習 2 マクロ機能とは 3 関数と計算式を使ったマクロの作成（1） 4 関数と計算式を使ったマクロの作成（2） 5 マクロ用ボタンとマクロの連携 6 第1回目課題作成 7 VBA の利用—簡単なゲームの作成（1） 8 VBA の利用—簡単なゲームの作成（2） 9 第2回目課題作成 10 最終課題作成（1） 11 最終課題作成（2） 12 最終課題作成（3） 	
テキスト、参考文献		評価方法	
第1回目の授業で指示する。		平常点 50%（出席および課題提出）、定期試験 50%で総合評価をおこなう。	

03年度以降	情報科学各論（中級一表計算応用1）	担当者	松山恵美子
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期と同様。		春学期と同様。	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期と同様。		春学期と同様。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降	情報科学各論（中級一表計算応用2）	担当者	松山恵美子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義は情報科学各論（中級一表計算応用1）の単位を取得した学生を対象として行うものとする。</p> <p>情報科学各論（中級一表計算応用1）で学習した記録マクロから、VBA（Visual Basic for Application）をもう一歩踏み込んで理解することを目的とする。</p> <p>最終的には、情報科学各論（中級一表計算応用1）で作成したマクロをプログラミングすることで、汎用性のあるものへと完成させていく。</p> <p>初回の授業に、必ず出席すること。</p>		<p>1 ガイダンスと Excel マクロ機能の復習</p> <p>2 VBA とは（1）</p> <p>3 プログラミングの技法（1）</p> <p>4 プログラミングの技法（2）</p> <p>5 マクロ用ボタンとの連携</p> <p>6 第1回目課題作成</p> <p>7 プログラミングの技法（3）</p> <p>8 プログラミングの技法（4）</p> <p>9 第2回目課題作成</p> <p>13 最終課題作成（1）</p> <p>14 最終課題作成（2）</p> <p>12 最終課題作成（3）</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
第1回目の授業で指示する。		平常点 50%（出席および課題提出）、定期試験 50%で総合評価をおこなう。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降（秋）	情報科学各論（中級－HTML応用1）	担当者	金子 憲一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義の目的</p> <p>この授業は、コンピュータ初級の授業「HTML入門」の次に位置する中級科目である。コンピュータの基礎知識やネットワーク構成、及び「HTMLを用いたホームページ作成技術を習得した人（FTPの理解を含む）を対象」に、一方向の情報発信ではなく、インタラクティブなページ作成を通じて、コンピュータの深い理解とコミュニケーション技術を得ることを目標とする。</p> <p>講義の概要</p> <p>この授業ではまず、ファイルの種類、フォルダ構造などのコンピュータの基礎知識やネットワーク構成、及びHTML、FTPなどの復習を行う。次にJavaScriptやCGIプログラムを利用して、メッセージの表示や画像の変化、カウンタ、掲示板の設置等を行う。作成の成果は、受講生相互で批評・検討する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンスとイントロダクション 2 HTMLとFTPの復習（1） 3 HTMLとFTPの復習（2） 4 インタラクティブなページ（HTMLとCGI） 5 JavaScript（1） 6 JavaScript（2） 7 JavaScript（3） 8 JavaScript（4） 9 CGIの利用（1） 10 CGIの利用（2） 11 CGIの利用（3） 12 鑑賞・報告会 	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業中に指示、紹介する。プリントの配布（Web上も含む）も行う。		授業中に作成する課題と平常点（課題の途中経過を含む）で総合評価する。出席は重視する。最低限のルールやマナー（禁飲食等）を守れない場合は、即時失格とする。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降	情報科学各論（中級－HTML応用1）	担当者	田中 雅英
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業は情報科学各論(初級)「HTML入門」に続く中級コースである。HTML入門を受講済みあるいは同等の知識を有する学生を対象に、単にHTML言語の更なる発展を目指すのではなく、CGIやJavaScriptにまで範囲を広げる。もちろん単にホームページ作成ということを目指とするのではなく、その過程においてコンピュータやネットワークの理解を含め、その積極的な利用方法の理解にまで話を進める。基本的には、一方向の情報発信ではなく、インタラクティブな双方向のコミュニケーションを図ることにより、情報処理としての広範囲な知識の整理を図りたい。</p> <p>なお、この授業計画はあくまで一つの目安であり、途中での変更も十分にありえる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンスと復習 2. Webページのネットへのアップロード等 3. プログラミングの考え方 4. JavaScript1 5. JavaScript2 6. JavaScript3 7. JavaScript4 8. CGI 9. 情報の収集 1 10. 情報の収集 2 11. 応用 12. その他 	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業中に適宜指示する。		授業中に指示する課題と平常点で評価する。	

03 年度以降	情報科学各論（中級－データベース 1）	担当者	長崎 等
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義は表計算ソフトウェア（Excel）の基礎をマスターした学生を対象として、Excel を利用してデータベースの基礎概念及び利用方法について学習する。</p> <p>高度情報化社会といわれる現代においては、昔と違い膨大な量の情報がうずまいている。そういった情報の中からいかに的確な情報を取り出すかというのが大きな課題である。その方法論的な答えの一つとしてデータベースがある。</p> <p>データベースの基本的な考え方や利用の仕方について、比較的なじみのある表計算ソフトウェアを利用して実習を行い、学習するのが本講義の目的である。</p> <p><受講者への要望> 情報科学各論（初級－表計算入門）を既修、またはそれと同等程度の知識があることが望ましい。第 1 回目の授業には必ず出席すること。 遅刻は厳禁とします。また実習を主体とする科目なので休まずに出席すること。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンスとコンピュータ利用の復習 2 表計算の復習（1） 3 表計算の復習（2）及びデータベースの基本概念について 4 並べ替え 5 集計 6 レコードの抽出 7 条件検索 1 8 条件検索 2 9 データベース関数 10 クロス集計とピボットテーブル 11 まとめ 12 実習試験 	
テキスト、参考文献		評価方法	
1 回目の授業で指示します。		出席及びレポート課題、さらに実習試験によって評価します。	

03 年度以降	情報科学各論（中級－データベース 2）	担当者	長崎 等
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義は「データベース 1」を履修済みの学生を対象として、Access を利用してデータベースの概念や設計方法について学習する。</p> <p>Access の基本的な使い方やデータベースの概念を学習した後に、データベースをデザインし実際に作成をおこなってもらう。そういった演習を通じてデータベースの概念や設計に対する理解を深める。</p> <p><受講者への要望> 情報科学各論（中級）「データベース 1」を既修、またはそれと同等程度の知識があることが望ましい。第 1 回目の授業には必ず出席すること。遅刻は厳禁とします。またコンピュータの実習を主体とする科目なので休まずに出席すること。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 データベースの概念と機能 2 Access の基本操作 3 テーブル 4 テーブルと結合 5 クエリ（1） 6 クエリ（2） 7 テーブル設計 1 （ハイレベルエンティティ分析） 8 テーブル設計 2 （関係データ分析） 9 テーブル設計 3 （テーブル作成） 10 クエリ設計 1 （外部スキーマの設計） 11 クエリ設計 1 （クエリの作成） 12 プレゼンテーション 	
テキスト、参考文献		評価方法	
『30H で理解できるアクセス 2003』，実教出版 『図解雑学データベース』，ナツメ出版		出席及びレポート課題によって評価します。	

03 年度以降	情報科学各論(中級ープログラミング論 1)	担当者	呉 浩東
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>コンピュータで問題解決のプログラムを作成することを「プログラミング」と呼ぶ。本講義では、プログラムの経験のない初心者から、プログラミングの基礎、すなわちプログラムをどう作成するか、プログラミング言語はどのような構造を持つか、どのような手順で行うか、データをどのような形にして扱うかについて解説と実習によって明らかにする。履修者にプログラミングのノウハウや方法を身につけることに目指す。</p> <p>初めにコンピュータの構成要素やプログラミング言語について概説します。続いて、プログラミング言語の一つである Visual Basic.NET を用いてプログラミングの設計手順や方法、プログラミング言語の構造、プログラムの仕組みなどについて学習する。いくつかのプログラムの設計について講義および実習を行う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 授業のガイダンスとコンピュータ構成の概説 2 プログラミング言語の発展史 3 開発ツールとしての Visual Basic.NET の基本 Visual Basic の画面構成、プログラム開発の流れ 4 Visual Basic の基本操作 フォーム、コントロール、プロパティ設定 5 簡単なプログラムの作成 基本的なプログラミングの手順、プログラムの動作の確認する 6 イベント駆動型プログラム 7 文字の表示と計算プログラム 変数定義、演算、関数、メソッドの使い方 8 選択構造をもつプログラム (1) 条件選択構造、プログラムの設計とコーディング 9 選択構造をもつプログラム (2) 多重選択、複数の選択のあるプログラムの設計 10 繰り返しあるプログラムの作成 (1) 回数指定による繰り返し、For~Next 文 11 繰り返しあるプログラムの作成 (2) 条件指定による繰り返し 12 総合練習 総合問題、まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<ol style="list-style-type: none"> (1) 最初の講義で指示する。 (2) 随時必要な資料を指示する。 		定期試験と、レポートの提出および出席状況を加味して評価する。	

03 年度以降	情報科学各論(中級ープログラミング論 2)	担当者	呉 浩東
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講義は、上記「プログラミング論 1」既習または基礎的なプログラムの作成知識を理解していることが前提にし、より発展的なプログラミングの知識を学べ、実際に各種のプログラムの作成練習を繰り返しプログラミングの技能を身に付くことを目的とする。</p> <p>ここでは、Visual Basic.NET というプログラミング言語を使って、Windows 環境でさまざまな機能を生かすためにプログラムの作成の考え方をはじめ、文系の方に役立つ文字列の処理、図形・画像の処理、ファイル操作などに学ぶ。さらに、問題解決のアルゴリズムについて紹介し、実用なプログラムの設計法まで述べる。プログラミングを学ぶにあたって実践が非常に重要であるので、実習の比重が大きく設定されている。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 プログラムの構造化 Sub プロシージャ、Function プロシージャ 2 配列とコントロール配列 配列変数の宣言、配列の使い方 3 文字列の処理プログラム (1) 簡単な翻訳プログラムの作成 4 文字列の処理プログラム (2) 文字列の照合と置き換え 5 図形の描画 さまざまな図形を描画するプログラムの作成 6 文字列の表示 7 画像の描画 画像の呼び出し方、画像の移動とコピー 8 ファイル操作 (1) シーケンシャルアクセス：データの読み書き 9 ファイル操作 (2) ランダムファイルとランダムアクセス 10 応用的なテクニック アルゴリズム：探索とソート 11 再帰というプログラミング手法 12 総合練習 総合問題、まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
随時必要な資料を指示する。		定期試験と、レポートの提出および出席状況を加味して評価する。	

03年度以降	経済原論 a	担当者	野村 容康
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義概要 経済学を初めて学ぶ学生を対象に、現代経済学の基礎的な理論について概説する。前期は、家計と企業に代表される個別経済主体の行動分析に焦点を当て(ミクロ経済分析)、後期は、一国経済全体の視点から国民所得決定の理論、財政・金融政策等について議論する(マクロ経済分析)。</p> <p>講義目的 身の回りの様々な経済現象がどのように経済理論によって説明されるかを自分なりに考察できるようにするため、まずは経済学の基礎的な「文法」と「用語」を習得することが本講義の目的である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 経済学の目的と方法 2. 家計の行動① 3. 家計の行動② 4. 家計の行動③ 5. 企業の行動① 6. 企業の行動② 7. 企業の行動③ 8. 不完全競争の理論 9. 市場の理論① 10. 市場の理論② 11. 厚生経済学の基本定理 12. 市場の失敗 	
テキスト、参考文献		評価方法	
特に指定しない。参考文献については、初回の講義にて指示する。		原則として試験の成績で評価する。出席を考慮する場合もある。	

03年度以降	経済原論 b	担当者	野村 容康
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義概要 経済学を初めて学ぶ学生を対象に、現代経済学の基礎的な理論について概説する。前期は、家計と企業に代表される個別経済主体の行動分析に焦点を当て(ミクロ経済分析)、後期は、一国経済全体の視点から国民所得決定の理論、財政・金融政策等について議論する(マクロ経済分析)。</p> <p>講義目的 身の回りの様々な経済現象がどのように経済理論によって説明されるかを自分なりに考察できるようにするため、まずは経済学の基礎的な「文法」と「用語」を習得することが本講義の目的である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. マクロ経済学の体系 2. 国民所得の諸概念 3. 消費と貯蓄の理論 4. 投資の理論 5. 国民所得決定の理論 6. 生産物市場の分析 7. 金融市場の分析 8. IS-LM 分析 9. インフレとデフレ 10. 財政赤字と日本経済 11. 開放マクロ経済 12. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
特に指定しない。参考文献については、初回の講義にて指示する。		原則として試験の成績で評価する。出席を考慮する場合もある。	

03年度以降	社会心理学 a	担当者	田口 雅徳
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>個人の行動や認知過程は少なからず、個人をとりまく他者、環境、文化などに影響される。社会心理学は、こうした社会に生きる個人の認知や行動を研究する学問分野といえる。本講義では、近年の社会心理学の研究動向を踏まえながら、1. 他者認知、2. 自己認知、3. 自己呈示と自己開示、4. 社会的行動と集団の影響、5. 対人コミュニケーションなどのテーマについて論じていきたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業ガイダンス 2. 社会心理学とは？ 3. 他者認知：印象形成 4. 他者認知：印象の記憶 5. 他者認知：性格の認知 6. 他者認知：第1印象の影響力 7. 自己認知：自己意識 8. 自己認知：自覚理論と没個性化 9. 自己認知：自己知識 10. 自己認知：自己評価 11. 自己認知：他者理解と自己理解 12. まとめ 	
テキスト、参考文献			
<p>テキストはとくに使用しない。必要な資料は授業において配布する。参考文献は授業の中で紹介する。</p>		<p>出席と授業での発表、試験により総合的に評価する</p>	

03年度以降	社会心理学 b	担当者	田口 雅徳
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義の目的と概要は春学期を参照のこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 春学期のまとめと秋学期のガイダンス 2. 対人魅力① 3. 対人魅力② 4. 自己呈示と魅力 5. 対人援助① 6. 対人援助② 7. 他者への攻撃① 8. 他者への攻撃② 9. コミュニケーションの心理① 10. コミュニケーションの心理② 11. コミュニケーションの心理③ 12. コミュニケーションの心理④ 	
テキスト、参考文献			
<p>テキストはとくに使用しない。必要な資料は授業において配布する。参考文献は授業の中で紹介する。</p>		<p>出席と授業での発表、試験により総合的に評価する</p>	

シラバス 英語学科

2006年4月1日発行

獨協大学教務部

〒340-0042 埼玉県草加市学園町1-1

電話 048-946-1664

※この冊子は、再生紙を使用しています。



DOKKYO UNIVERSITY